2025 年度　自己点検・評価
教学改善シート

- 神学部・神学研究科
- 文学部・文学研究科
- 社会学部・社会学研究科
- 法学部・法学研究科
- 経済学部・経済学研究科
- 商学部・商学研究科
- 総合政策学部・総合政策研究科
- 人間福祉学部・人間福祉研究科
- 教育学部・教育学研究科
- 国際学部・国際学研究科
- 理学部
- 工学部
- 生命環境学部
- 建築学部
- 理工学研究科
- 言語コミュニケーション文化研究科
- 司法研究科
- 経営戦略研究科

提出日：2025 年 12 月 17 日
神学部

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜神学部＞教学改善シート

学部における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
神学部では、ディプロマ・ポリシーに基づき「神学を学ぶための基礎力」と一般的基礎学力、聖書・教理等の基礎知識の修得を重視しているが、神学基礎テスト合格率や専門基礎科目の成績にはばらつきがあり、一部学生の基礎力補強が引き続き課題である。またフィールドワーク型科目や学部独自の国際交流科目を通して、実践的・国際的学びを展開しているが、受講者数の安定確保と予算・受け入れ体制の整備、成果の可視化が十分とは言えない。さらに授業外学修時間やコンピテンシーの伸長については、さらなる向上を目指した丁寧な学習支援が必要である。今後の重点課題として、①教育課程の体系化とプログラム間の連関を示す概念図のさらなる活用、②フィールドワークや国際交流科目の継続的運営のための財政・人員基盤の強化、③実践科目関連設備・備品の充実と学生控室等の学修環境整備、を掲げて教学改善に取り組む。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
修学支援については、精神的な問題を抱える学生が増加しているため、総合支援センターとのさらなる連携が必要である。学生への継続的な IT サポートも求められる。成績不振の学生に対しては現在、学生担当と教務担当が AA 面談を実施しているが、これは次学期開始以降に行うため、学生は前学期の振り返りを行わないまま次学期を迎えている。前学期の成績不振の原因と対策を考えた上で次学期を始めることができるよう支援する仕組みが必要である。学修行動に関する調査はオンライン実施に移行したことで回答率が低下した。回答率を向上させるため、内容、方法、実施時期の再検討が望まれる。就業支援については、現在、1 年次のみの進路支援プログラムを必修授業内で実施しているが、2 年次以降のキャリアセンターとの連携強化が求められる。奨学金は、現在、貸与型が中心であるが、給付型奨学金の拡充が望まれる。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
関西学院創立のミッションはキリスト教伝道者の育成である。神学部は日本基督教団の認可神学校であり、伝道者を育成し教会、学校、病院、福祉施設等の現場に伝道者・クリスチャンワーカーを送り出すことが課題である。そのため「学部特色入学試験」において、キリスト教主義高等学校の生徒、また一般の高校の生徒に加え、社会人や外国人留学生、帰国生徒も対象とし、日本基督教団に所属する教会との関係を重んじながらも、教派の枠を超えて多様な背景・価値観を持つ者を積極的に受け入れていきたい。一方で神学部は総合大学の一学部として、一般入試においては偏差値、学部ランキング、また入学者の学力レベルを下落させることなく収容定員を満たしていくことが大きな課題であり、この点においては全学の入試施策と連携していきたい。志願者の安定的な確保のため、指定校・協定校の見直しをしつつ、キリスト教主義高等学校との関係を強めることも課題である。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
学生の学習環境および教員の教育研究環境については、利便性等の状況を適宜確認し、必要な改善を図っていく。 国際化としては、学部・大学院のいずれにも海外からの留学生の入学者があり、日々の国際交流の機会になっている。また、毎年「Mission in Dialogue A/B」及び「Theology in Dialogue」の授業では、海外の学生との国際交流を図っている。ただし、特に「Mission in Dialogue A/B」の授業では、海外からの学生を酷暑の夏に受け入れているが、貸し切りバスをチャーターして移動するための予算がないため、健康面で参加者の負担が心配である。2024 年度に提出した中期計画においても上記チャーター代の予算が認められなかったため、今後の課題であり続ける。 社会連携/社会貢献等については、授業面ではディアコニア・プログラムの授業を中心に現場の講師を迎え様々なフィールドワークを実施しており、これらの継続と学生の養成が、将来的な社会連携につながっていくと考える。また、一般公開の「神学セミナー」の開催、RCC 公開講座の担当、大学の公開講座の担当、また、学生及び教員を地域の学校や教会の要請に応じて派遣していることは社会貢献につながっていると考える。ただし、小規模な学部であるため、日々の学業や職務の妨げにならない調整が課題である。	

1. 神学部の理念、目的、各種方針

神学部の理念	変更の有無
神学部は、「キリスト教の伝道に従事すべく選ばれた者を鍛錬する」（関西学院創立時制定の「憲法」第二款「目的」）ことを理念とする。	有・(無)
神学部の目的	変更の有無
神学部は、「キリスト教の伝道に従事すべく選ばれた者を鍛錬する」ことを理念とし、神学研究の発展に努め、伝道者の育成ならびに広くキリスト教の思想および文化の理解を求めて、キリスト教神学の基礎と専門領域双方において教育を行う。	有・(無)
学位授与方針（DP）	変更の有無
Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において神学部のディプロマ・ポリシー（DP）を以下のとおり定める。 1. 神学を学ぶための基礎力を修得している 2. 大学生に相応しい基礎力を修得している 3. 旧約・新約聖書、キリスト教の歴史、教理、実践の基本的知識を修得している 4. キリスト教文化、諸宗教について基本的知識を修得している 5. 大学生に相応しいコミュニケーションができる 6. 伝道者コースの学生はキリスト教伝道者としての知識を修得している 7. 伝道者コースの学生はキリスト教伝道者に相応しい技能をもっている 8. 伝道者コースの学生はキリスト教伝道者に相応しい関心をもっている 9. 旧約・新約聖書、キリスト教の歴史、教理、実践、思想・文化、諸宗教のいずれかについて発展的知識を修得している 10. キリスト教神学についてのレポートあるいは論文を執筆することができる 11. キリスト教を広く様々な問題のなかで捉える関心、問題意識をもっている 12. 神学の領域を超えて汎用的な知識、技能、関心をもっている 13. 現代社会の中でキリスト教に関して専門的知識を基に必要な技能を用いて積極的に考えることができる	有・(無)
教育課程の編成・実施方針（CP）	変更の有無
大学生に相応した基礎力の修得（キリスト教教育科目群／言語教育科目群／基礎教育科目群） ＊神学部で学ぶための基礎知識を修得している ＊キリスト教、人権問題、メソジストの伝統と神学部について基本的な知識を修得している ＊英語の基礎力を修得している ＊独語の基礎力を修得している ＊ワープロ、表計算、提案用PCソフトを用いることができる ＊レポート・論文を書くための基礎力を修得している ＊プレゼンテーションをすることができる ＊文献講読の基礎力を修得している キリスト教神学を学ぶための基礎的知識、技能、関心の修得（専門基礎科目群） ＊旧約聖書について基本的知識を修得している ＊新約聖書について基本的知識を修得している ＊キリスト教の歴史について基本的知識を修得している ＊キリスト教の教理について基本的知識を修得している ＊キリスト教の礼拝、祈祷、教育、福祉等の実践について基本的知識を修得している ＊宗教一般について基本的知識を修得している ＊キリスト教芸術について基本的知識を修得している ＊キリスト教思想について基本的知識を修得している ＊キリスト教の古典語について基本的知識を修得している ＊英語あるいは独語で専門的な文献を読解できる ＊ディスカッションを通したコミュニケーションができる ＊英語による基本的なコミュニケーションができる キリスト教伝道者としての基礎力の修得（キリスト教伝道者コース） ＊キリスト教の礼拝、祈祷、教育、福祉等の実践について発展的知識を修得している ＊世界や社会におけるキリスト教の状況、有り様についての知識を修得している ＊新約聖書を読むためのギリシャ語の基礎知識を修得している ＊キリスト教またはその精神を実践する専門職につくための基本的技能を身につけている ＊現代社会におけるキリスト教宣教について問題意識をもつ ＊キリスト教の福音に基づいて生の意味や規範等を広く他者に伝えようという関心をもつ ＊宗教的教養を身につけ、対話能力をもつ キリスト教神学に関する発展的知識、技能、関心の修得（専門専攻科目群） ＊旧約聖書について発展的な知識を修得している ＊新約聖書について発展的な知識を修得している ＊キリスト教の歴史について発展的な知識を修得している ＊キリスト教の教理について発展的な知識を修得している ＊キリスト教芸術について発展的な知識を修得している ＊宗教一般について発展的な知識を修得している ＊キリスト教の思想や文化について発展的な知識を修得している ＊キリスト教神学について発展的な知識を得る方法を用いて分析・考察を行うことができる ＊神学研究の成果を、レポート、論文として執筆することができる ＊キリスト教神学を専門的に研究するための知識・技能を修得している	有・(無)

＊人間相互の個性・多様性、文化の国際性を尊重し、良好な人間関係を形成することに関心をもつ
＊人権問題、環境問題、生命倫理、福祉等の国際的・現代的な問題について関心をもつ

”Mastery for Service”を実践するための基礎的・発展的知識、技能の修得
＊キリスト教の福祉（ディアコニア）について基本的な知識と技能を修得している
＊キリスト教の福祉（ディアコニア）について発展的な知識と技能を修得している

神学の領域を超えて汎用的な知識、技能、関心の修得（自由履修科目群）
＊専門的な学問領域の枠を超えた広汎な教養および柔軟な思考方法・思考力を身につける

学生の受け入れ方針（AP）	変更の有無

【関西学院大学（学士課程）】

Ⅰ. 関西学院大学アドミッション・ポリシー
　世界を視野におさめ、他者（ひと）への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service（奉仕のための練達）”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。
　関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。
　そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多元的に評価することを基本的な方針としています。

Ⅱ. 各学部のアドミッション・ポリシー
神学部アドミッション・ポリシー
　神学部では、キリスト教が人類の歴史の中で生み出してきた思想や文化的財などについて専門領域ならびに学際的領域での学びを深め、その精神に基づいて社会に奉仕することができるよう、教育することを目標としています。そこで、高等学校までの基礎的な学習を土台にして、ボランティアや課外活動、あるいは社会人としての経験などから培った多様な能力をもつ者を幅広く受け入れています。そのため、以下の項目を募集方針の要素として、筆記を中心とする一般選抜入学試験と、面接（口頭試問含む）を採り入れた各種入学試験によって、高等学校における基礎学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。
　神学部に入学を望む者に期待することは、以下のとおりです。
　1. キリスト教の生み出した思想、文化的財などの学際的な領域に興味をもっている
　2. キリスト教について幅広く関心をもっている
　3. 世界の歴史や日本の歴史について知識がある
　4. 日本語、英語について一定水準の能力がある
　5. 「倫理」あるいは「数学」あるいは「地理」について知識がある

　キリスト教伝道者コースに入学を許可される者は、上記 1～5 に加えて、以下のとおりです。
　6. 将来クリスチャンワーカーを含めた伝道者となる意志をもっている
　7. バプテスマ（洗礼）を受けた者である
　8. 聖書、キリスト教について一定量の知識がある
　9. 聖書、キリスト教について調べることができる

＜略＞

有・(無)

Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー
1. 一般選抜
　一般選抜は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。
　一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。
　全学部日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学（記述式）」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学部日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述」による入学試験も実施しています。
　学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語（記述式含む）」「国語（記述式含む）」を必須とし、「日本史」「世界史」「数学（記述式）」を選択科目とし筆記試験を実施します。また、一部の日程では「日本史」「世界史」「数学（記述式）」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については学部個別日程において「英語（記述式含む）」「国語（記述式含む）」の 2 科目による筆記試験を行っています。
　理系入学試験においては全学部日程を 2 種類実施しています。本学で学ぶために必要な「英語」「数学（記述式）」を必須とし、理科（記述式）「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。
　一般入学試験として、英数日程、共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）の3方式を実施しています。英数日程は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」と「数学（記述式）」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」または「数学（記述式）」に、大学入学共通テストの教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。

　大学入学共通テストを利用する入学試験は、「一般入学試験とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入学共通テストで実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入学共通テストの得点のみで合否判定を行います。
　1 月出願においては、総合政策学部3科目英数型を除く文系学部は「外国語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を 3 科目型、5 科目型の方式で実施します。また「外国語」「国語」「数学」「地理歴史・公民」「理科」を必須とする 7 科目型を実施します。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。また、3 月出願においては、文系学部は「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。
　また、大学入学共通テストを利用する入学試験（1 月出願 3 科目型（英語資格・検定試験利用））、大学入学共通テストを利用する入学試験（1 月出願 5 科目型（英語資格・検定試験利用）は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の 4 技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語資格・検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入学共通テストの教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2. グローバル入学試験

グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業におけるインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）に積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に 3 つのカテゴリーで実施する入学試験です。

① 国際的な活躍を志す者を対象とした入学試験

＜文系学部＞

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、英語能力に加え、留学経験、模擬国連での活動など、自ら国際的な活動に取り組んだ実績を有し、国際的課題解決のための提案・実践に意欲を有するとともに、その国際的な活動で培った力を関西学院大学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）に挑戦することでさらに発展させ、国際社会で活躍できる力を身に付けることを志す者を求めています。

第 1 次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。

第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

＜略＞

② インターナショナル・バカロレア入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP（ディプロマ・プログラム）の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有するとともに、入学後は、本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）を通して、国際社会で活躍する能力を身に付けることを志す者を求めています。

第 1 次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。

第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

③ 帰国生徒入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、家庭の事情等により海外に長期間滞在し、海外の教育を受けた者で、日本での生活や短期間の留学では身に付けることのできない主体性や価値観、多角的視点、困難を乗り越えた経験などを持ち、それらを本学での学生生活や学びに生かそうとする者を求めています。多様な背景を持つ学生が集い刺激し合うことで、キャンパスが活性化する教育的効果も望んでいます。さらに、帰国生徒が他の学生と相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長することにも期待します。

第 1 次審査では、筆記審査を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価します。

第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、自己推薦書、志望理由書、学校長推薦書等の提出書類による書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

① 院内推薦入学

1）関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

2）関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

② 継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等学校の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

③ 提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

④ 系属校推薦入学

＜略＞

⑤ 協定校推薦入学

1）キリスト教学校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

2）グローバル枠

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21 世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

3）グローバル＋キリスト教校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、21 世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑥ 指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接（口頭試問含む）によって総合的に評価し受け入れるための

制度です。出願書類と面接（口頭試問含む）において、一定水準以上の「知識・技能」、各学部で学ぶために必要な「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」が備わっているか等を評価し、入学後の勉学における明確な志向および意欲の評価に重点を置き総合的に審査しています。

神学部

関西学院大学神学部において勉学することに強い意欲をもつ、成績優秀な生徒を推薦によって求め、総合大学の特色を生かし、豊かな人格を培い、幅広い一般諸学の教養と深い神学的素養とを身に付けさせ、社会に仕える者を育成することを目的とします。

審査に際しては、志願提出書類と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

＜略＞

⑦ 指定校推薦編入学

関西学院大学指定校推薦編入学制度では、指定校学校長の責任に基づいて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」等の能力や資質を有すると判断され推薦された学生を、各学部が書類審査・面接等を通して総合的に評価し、編入生として受け入れます。

神学部

指定校推薦編入学制度では、関西学院短期大学に特有のキリスト教主義に基づく保育者育成教育を受け、上述のとおり推薦された学生のうち、将来において伝道者あるいはクリスチャンワーカーとして社会に貢献することを志してキリスト教神学の理解をさらに深めることを願う者を、書類審査、面接（口頭試問含む）等を通して総合的に評価し、編入生として受け入れます。

＜略＞

4. 探究評価型入学試験

Society5.0 の到来や人工知能（AI）の台頭、急速なグローバル化の進展等、予測困難な社会の変化に適応するため、自己の在り方生き方を考えながら、物事の本質を様々な角度から探り見究め続けることが必要です。本学では「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を捉えたうえで、社会に主体的に関わり新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする気概を持つ者からの挑戦を求めています。

これらの背景から、本入学試験では、関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき探究学習を通して身に付けたそれらの力を多面的・総合的に評価します。これまで主体的に取り組んできた探究活動を「新たなデータを収集して知見を明らかにしようとする事を通した探究活動」、「国内外の学校・様々な機関と協働を通した探究活動」、「特定の社会課題等に関する学術的考察を通した探究活動」に区分し、書類審査や面接（口頭試問含む）、プレゼンテーション審査等の多様な審査方法をもって、探究活動の過程を重視した評価を行います。

主体的に取り組んできた探究活動での経験を、本学入学後に学部での学びや研究をはじめ、様々なプログラム等に積極的に参加して活かしていくことを期待しています。

5. UNHCR 難民高等教育プログラムによる推薦入学

「UNHCR 難民高等教育プログラムによる推薦入学」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連 UNHCR 協会との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。

日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。

こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。

国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連 UNHCR 協会の推薦に基づき、面接（口頭試問含む）を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

6. スポーツ選抜入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後に学業とスポーツ活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化とスポーツ活動の一層の振興に寄与することを目指しています。

第 1 次審査では、書類審査にてスポーツ活動における実績を評価するとともに、筆記審査にて、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を評価します。

第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）等により、志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

7. 外国人留学生入学試験

本学は、米国南メソジスト監督教会の宣教師、W. R. ランバスによって創設されました。開学当初から多くの外国人教員が教鞭をとっていたこともあり、外国人留学生を古くから受け入れ、日本の大学の中では国際色豊かな大学としてその学風を育んできました。

この入学試験制度は外国人留学生を対象とし、さまざまな国からの留学生を受け入れることにより、大学の国際性を一層高め、ひいてはキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待した、いわゆる「多元的入試」の一環として実施されます。

出願時の提出書類に基づき審査を実施し、本学で学ぶにあたって必要な日本語力および、基礎学力を有しているかを審査した後、各学部が面接審査（口頭試問を含む）・筆記試験等を実施し、志願する学部で学ぶ意欲や人間性などを中心に評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し、選抜します。

8.学部特色入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシー、また、各学部が定めるアドミッション・ポリシーに基づき、各学部が求める多様な能力、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性をもった学生を求めています。

神学部

関西学院大学神学部は、1889 年の関西学院創立と同時に設置された、最も古い伝統ある学部です。神学部はその設立時からキリスト教の伝道者育成を主要な目的として掲げています。1952 年に新制大学の一学部として開設されてからも、学術的な質を高めつつ、高度な専門性を持つ伝道者・クリスチャンワーカーの育成に力を注いで来ました。世界の動向を視野に入れ、21 世紀における日本と世界のキリスト教宣教を担うためには、将来の伝道者・クリスチャンワーカーがしっかりしたキリスト教に関する専門的な知識を身につけるとともに、社会の諸現象への深い洞察力を持ち、他の諸分野と学問的な対話をする力を養う必要があります。

神学部では、このような趣旨に基づき、学力審査では十分にはかることのできなかった多彩な能力を評価するため学部特色入試を行います。この学部特色入試では、自分自身の考えを表現し、対話する能力を評価するとともに、キリスト教信仰に根ざして伝道者・クリスチャンワーカーとなろうとする志、社会での経験や異文化との出会い、自分らしい思考や資格を重んじています。高校生、社会人、外国人留学生や帰国生徒などの枠を越えて、広く志願者を募っています。

入学者選抜に際しては上述の趣旨にのっとって総合的に判断しますが、提出された書類・調査書及び講義・リポート課題によっておもにキリスト教理解を中心とした「知識・技能」と志望動機とを評価し、面接（口頭試問含む）によっておもに「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を評価します。

＜略＞

学生支援に関する方針	変更の有無
少人数教育の利点を生かし、学生各自のニーズをきめ細かく抽出し、能力や特性に応じた支援を以下の通り行う。 1）個別ケースごとに支援を検討する。 2）必要に応じて学内関連機関（総合支援センター・保健館など）との連携において情報共有し、本人との面談を実施、場合によっては保証人への連絡および面談の実施などを通じて支援を行う。 3）当該学生のプライバシーの保護を尊重したうえで、学部長室委員会や教授会において学生の動向報告として情報を共有し、支援の内容をはじめ、広く学生への対応に関しても意見交換を行う。 4）全学で定める方針がある場合にはそれに従い、上記に則って学生への支援を模索する。 修学支援 入学前・初年次教育 大学での勉学に円滑に移行することを意図し、基礎学力を見直すための入学前教育を実施する。入学予定者に対して、全学的枠組みによる通信教育（「英語」「国語」の2科目）、もしくは学部独自の「読書」の課題を課す。また各種入試合格者に対しては1日入学前体験として、プレスチューデント・プログラムを対面にて開催し、「神学入門」等をテーマに講義する。全入学生を対象には、履修など教務関連・奨学金など学生生活における注意事項や説明等を行う「新入生オリエンテーション」を実施する。履修指導において、各種プログラムの案内や神学部・大学での学びについて確認するとともに、学生生活に関する問い合わせを受ける機会を設ける。また、在学生（2年生以上）も学生スタッフとして参加し、新入生との繋がりを構築する。 その他、初年次教育としていわゆる基礎ゼミである1年次の「基礎演習」において、学内のキャリアセンタースタッフ、学生カウンセラーなどと連携したプログラムを展開。神学部での学びと社会との接点を考える「ライフデザインセミナー」、あるいは自身をみつめ、友人とのつながりを構築するきっかけとする「心理適性テスト」やワークショップを実施する。また大学図書館スタッフの協力を得て、大学図書館および各種データベースの利用法を学習するプログラムも実施し、卒業後の進路を見越した大学での学びを促す。 途中退学防止（アカデミック・アドバイザー制度） 全学年を通して中途退学防止の施策を実施する。学期毎のGPAが著しく低い、また修得単位数が標準を大きく下回る学生に対し、通知の上面談（教務担当教員ならびに学生担当教員および事務担当者）を行い、以降の履修計画を検討する際のサポートをしている。履修上のことだけでなく、進路や生活上の悩みなどを直接ヒアリングすることにより、修学を継続するに適切な教育面・制度面でのアドバイスができるよう、相談態勢を整える。 TA・LAの活用 神学研究科の大学院生から2名のTA（ティーチング・アシスタント）を採用し、「英語」や「新約聖書ギリシャ語」などの語学（古典語を含む）、あるいは「キリスト教の歴史（宗教改革以降）」などの入門科目に配置。授業担当者とも相談の上、授業内講義の補足説明や授業中に実施した小テストの採点、配慮が必要な学生への対応補助などを行う。また授業としてフィールド・ワークを実施する場合、その付き添い、補助なども担当する場合がある。 1年次の「基礎演習」には、別途トレーニング（全学研修，学部集中講義）を受けた上級生（2年次以上）がラーニング・アシスタント（LA）として、授業の内外において研究発表やディスカッション、PCの活用、文献の探し方やリポートの書き方等をサポートする。 障がい学生に対する支援 全学で定める方針に従い、個別ケースに応じた対応・支援を模索する。 生活支援 長期授業欠席学生 アカデミック・アドバイザーの副学部長教務担当、副学部長学生担当を中心に、1・2年生の基礎演習や語学科目、3年生以上の演習科目を中心に学生の授業への出席状況を定期的に確認。欠席が目立つ場合は呼び出しのうえ面談をおこなって状況を把握するようにつとめ、必要な場合は保証人への連絡もおこなうなど、細やかな対応を行う。本人の希望によっては学内の自立支援コーディネーター、学生カウンセラー、医師・看護師とも連携の上、対応を図る。それらの情報は継続的に記録し、学部長室委員会ならびに教授会でも情報を共有、対応について懇談する。 各種ハラスメント 全学で定める方針に従い、授業内またはガイダンスなどにおいて周知・指導を行いつつ、個別ケースに応じた対応を模索する。 進路支援 低年次の演習科目およびそれに準ずる科目において、キャリア教育・支援プログラムを実施する。企業の最新の動向を把握すべく、キャリアセンターにも意見を聴取し、キャリア形成のための自覚を促す。「研究演習」に所属する学生に対しては各ゼミを通じて各種セミナーへの参加を勧める。希望のある学生については面談を行い、キャリアセンターと情報を共有する。とりわけ、伝道者コースで日本基督教団の牧師・教師を志す学生に対しては、学部独自の説明会を実施するほか、教会の紹介などを行う。 神学生の出席教会の牧師とは、年一回懇談会をもち、情報の共有につとめる。	有・無
教員像	変更の有無
1．優れた神学研究者であること 2．高い人権意識を有していること 3．福音主義の教職者である事が望ましい	有・無
教員組織の編制方針	変更の有無
神学部教員組織編制方針 1．神学部の専任教員は、原則として神学関係の分野において博士学位を有し、また継続的かつ発展的に研究を行う者とする。 2．伝道者養成という学部設立の理念・目的を達成するため、教員は福音主義の教職者を中心とする。しかし、分野・業績・教歴などを勘案して、信徒の教員を採用することを妨げない。 3．聖書学（旧約・新約）、歴史神学・キリスト教文化、組織神学、実践神学の各分野に、適切な人員を配置する。 4．年齢構成、ジェンダー・バランスを考慮した編制を行う。	有・無

2. 神学部のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
DPに定める資質・能力の獲得状況	あなたはこの授業を通して卒業までに求められる資質・能力を向上できたと思いますか。(「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」) の回答割合(%)	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Kwansei コンピテンシー獲得状況	知識・能力・資質の程度 全項目 (「大変身についた」～「全く身についていない」の5段階評価) (2018～2022 年度) 当該年度卒業生と次年度 1 年生との調査による伸び (2023～2027 年度) 当該年度卒業生とその 1 年生時との調査による伸び 「IR 新入生調査」「IR 卒業時調査」	(2022 年度以前) 5段階評価のうち、上位2つ (「大変身についた」「やや身についた」)の回答割合(%)の平均の差 (2022 年度以降のデータの変更点年度以降) ➡入学時と卒業時のアンケート調査においてコンピテンシーの 10 要素の総合得点(50 点満点)を確認して、学部ごとにその差の平均を算出する。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
汎用的能力の獲得状況	入学後の能力変化(表外※参照) (「大きく増えた」～「大きく減った」の5段階評価 「IR 上級生調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「大きく増えた」、B「増えた」) の回答割合(%) ➡2022 年度の調査見直しにより、当該項目は調査項目から削除。(Kwansei コンピテンシーとの重複)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
授業外学修時間	授業外時間に、授業課題や準備時間、復習をする時間(一週当たりの平均) 「IR1年生調査、IR 上級生調査」 ➡【2022 年度データの変更点】 2022 年度実施分から調査名称を「学生調査」に変更。	一週あたり 6 時間以上の割合 ➡【2022 年度データの変更点】 学生調査の変更により、2022 年度以降は「一週あたり 5 時間以上」の割合に変更。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業目的・到達目標の達成度	あなたは、シラバスに示された授業の目的や、到達目標を達成できると思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業満足度	あなたは、全体としてこの授業に満足していますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
留学等派遣数	協定校への派遣学生数 「国際連携機構資料」	大学間協定に基づく派遣日本人学生数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
TOEIC/TOEFL 等の英語運用能力	TOEFL 換算得点目標の達成人数 ＜参考(学部別目標値)＞ ■国際:TOEFL 換算 550 点 ■文・総政:TOEFL 換算 540 点 ■その他:TOEFL 換算 520 点 「言語教育研究センター資料」	左記「TOEFL 換算得点」目標の達成人数(人)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
学生生活満足度	大学生活を振り返って、学生生活は満足したものでしたか。 (「満足」～「不満」の5段階評価) 「IR 卒業1年目調査」	5 段階評価のうち、上位2つ (A「満足」、B「どちらかといえば満足」)の回答割合(%) ＊2018 年度調査までは、A「とても満足」、B「満足」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
就職率	就職率 「キャリアセンター統計資料」	就職者数(自営含まず)／就職希望者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
大学院進学率	大学院進学率 「キャリアセンター統計資料」	大学院進学者数/学部卒業者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(※)「知識・技能・能力の獲得状況」の「知識・技能・能力」とは、一般的な教養、論理的思考力、専門分野や学科の知識、グローバルな問題の理解、多様性を尊重する力、主体的に行動する力、リーダーシップ力、人間関係を構築する力、対立する価値を調整する力、地域社会が直面する問題を理解する能力、国民が直面する問題を理解する能力、困難を乗り越える粘り強さ、文章表現の能力、外国語の運用能力、生涯にわたって学び続ける能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、数理的な能力、コンピュータの操作能力、誠実さと品位、時間を効果的に利用する能力、卒業後に就職するための準備の程度、を指す。

(2)学部独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
神学部国際プログラム参加者数	神学部プログラムである「Mission in Dialogue A・B」及び「Theology in Dialogue」の参加者数及び本学神学部生の割合	本学学生数／参加者数 (参加者数の目標値:10 名) (本学部生割合の目標値:30%)	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
ディアコニア・プログラム修了者数	ディアコニア・プログラム(神学部独自プログラム)の卒業者に対する割合。	(毎年度の)プログラム修了者数／(毎年度の)卒業者数 (目標値:卒業者数を 30 名として修了者数 3 名、すなわち 10%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
入試難易度 (偏差値)	ベネッセの進研模試のデータにおける合格可能性 60%以上となる偏差値 入学センター		非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
同系列学部勝敗	ベネッセの進研模試のデータにおける同系列学部合格者の競合大学(同志社、立命館、関西)との入学比率 経営企画部	本学と相手校の両方に合格していずれかに入学した受験生のうち、本学に入学した者の比率 本学入学者数／(本学入学者数＋併願校入学者)(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC 年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
ダブルチャレンジ修了者数	当該年度の卒業生のうち、ダブルチャレンジ制度のアウェイチャレンジの単位を取得して卒業した学生数 IR 室	①インターナショナルプログラム②ハンズオン・ラーニング・プログラム③副専攻プログラムのいずれかで単位取得し卒業した学生数 ※学部毎は延べ人数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」～「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5段階評価のうち「満足」と回答した比率(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
スクールモットーの浸透度	スクールモットー“Mastery for Service”を意識する程度は (「意識している」～「意識していない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	4 段階評価のうち、 A「意識している」または B「ある程度意識している」 と回答した割合(%) ＊2018 年度調査までは A「常に行動の規範としている」または B「頻繁に意識している」と回答した比率 ＊2020 年度調査までは 5 段階評価のうち、A「常に行動の規範としている」または B「ときどき意識している」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 6 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	設問 6 項目の「そう思う」「どちらかちいえばそう思う」と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

提出日：2025 年 12 月 17 日
神学研究科

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜神学研究科＞教学改善シート

研究科における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
CPE（臨床牧会訓練）、キリスト教社会実習、教会実習（夏期教会派遣、日本基督教団四国教区教会派遣）、神学セミナーなどの実践的なプログラムが研究科のコースワークを補足することを目的として提供されている。現状ではコースワークと実践的プログラムとの連携が十分に明確とは言い難い。研究科が提供するコースワークやプログラムにおいて受講生のあいだでは、知識・能力・資質の全ての面で「大変身についている」と「やや身についている」との評価で分かれている一つの原因がそこにあるとも考えられる。実践プログラムの活動をコースワークの単位取得と直接結びつける、あるいは実践プログラムの単位化といった仕方で、伝道者となることを志す受講生の教育プログラムが有機的に機能する方法を探ることが現時点での課題となっている。また研究指導に対する受講生の現状の満足度は高い。しかし成果物としての修士論文の質に注目すると、より研究が深められることが期待される。中間発表の時期と内容を再評価し、論文執筆に対する受講生の意識をさらに高める方策を探ることが現時点での課題となっている。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
修学支援に関しては、各種実習の費用は交通費等についてある程度の支援が行われている。しかし実習先によって個人の負担額に不平等感がある。参加する受講生の増加が現状における課題であるが、そのために実習費（CPE 実習費、キリスト教社会実習費）等の支援が拡充されることが今後の課題となる。進路支援に関しては、教会担任教師志望学生研修会を研究科の受講生に対しても開くなどして、進路指導がより充実する方法を探ることが現時点での課題となっている。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
関西学院大学神学部は日本基督教団の認可神学校であり、学部を含め 6 年間の神学教育を一貫したものと捉えている。また、博士前期課程まで修了している場合、日本基督教団の教師検定試験における試験科目が少なくて済むという現実的なメリットもある。しかし近年、18 歳人口の減少、また日本におけるキリスト教、教会の衰えもあり、徐々に神学部から神学研究科志願者が減少傾向にあることに危機感を抱いている。社会人を含め学外からの神学研究科志願者を確保すると同時に、学部学生に対して進学への意識を高める必要があると感じている。入学後の学力を担保するためには大学院入試を易化させるわけにもいかないのが現状である。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
上述の志願者確保と関連して、日本基督教団以外の教派との連携を模索すべき時期に来ていると認識している。 国際化という面では、協定を有している韓国監理教神学大学との関係をますます深めつつ、他の海外の神学大学、神学研究機関とも協力関係を築いていきたい。 社会連携、社会貢献という側面からは、将来の研究者、教員への道を開く意味も含め、神学研究・神学教育に関連する各種学会との連携を強化していきたい。神学研究科の教育を通して、教会、各種キリスト教主義学校、病院、福祉施設等の現場にて奉仕する人物を輩出することが神学研究科としての社会貢献であり、また関西学院創立のミッションを遂行することであると考えている。	

1. 神学研究科の理念、目的、各種方針

神学研究科の理念	変更の有無
神学研究科は、「キリスト教の伝道に従事すべく選ばれた者を鍛錬する」（関西学院創立時制定の「憲法」第二款「目的」）ことを基に、高度な神学研究ならびに神学教育を行い、神学の普及に努める。	有・(無)
神学研究科の目的	**変更の有無**
神学研究科は、関西学院創立時の基本理念を継承し、神学における専門研究者の育成とキリスト教会やキリスト教主義学校教育、社会福祉や社会活動などの領域において指導的な役割を果たすことができる、高度な専門的知識を具えた職業人を育成することを目的とする。併せて、幅広くキリスト教に関する知見を具え、多元化社会において深い見識の下、具体的な社会や世界の問題を発見し、これと取り組み、解決できる人材を育成することをも目的とする。	有・(無)
学位授与方針（DP）	**変更の有無**
【博士課程前期課程】 博士課程前期課程の教育目標を下記の通り定め、本課程に2年（4学期）以上在学して所定の単位を修得し、かつ研究指導を受けた上、修士論文を提出して、その審査および所定の試験に合格した者に修士の学位を授与する。 1. 神学において専門的な知識を修得し、思索を深めている 2. 各自の専門領域において、優れた特色ある研究を行う能力を有している 3. キリスト教の本質にふれつつ、幅広くキリスト教に関する知見を養い、多元化社会において深い見識をそなえ、具体的な社会や世界の問題を発見し、これに対してキリスト教的な立場から取り組み、解決できる力量を身につけている 4. キリスト教伝道者コースにおいては、礼拝の指導者、説教者、牧会者として宣教の現場で直ちに活躍しうる力量を身につけている。 5. 修士論文を執筆できる能力を有している 【博士課程後期課程】 博士課程後期課程の教育目標を下記の通り定め、本課程に3年（6学期）以上在学して所定の研究指導を受けた上、キャンディデート・ステータス取得後に博士論文を提出して、その審査および所定の試験に合格した者に博士（課程博士）の学位を授与する。 1. 神学の様々な分野における専門的学識を有している 2. 神学の専門家として社会と教会とに貢献できる能力を有している 3. 博士論文を執筆できる能力を有している なお、学位申請論文の審査は、専門分野での最新の知見を摂取したうえで独創的な視点で、高度な分析手法と優れた考察力などによって論文が作成され、国内外の学界や社会へ著しく知的貢献が大きいものとなっているかどうか等を基準に学位授与の可否の判定がなされる。	有・(無)
教育課程の編成・実施方針（CP）	**変更の有無**
神学研究科では、神学を専攻領域とし、その中に、4 つの研究分野（聖書分野、歴史・文化分野、組織分野、実践分野）を設けている。学生各自が研究主題を選び、指導教員との学問的、人格的な触れ合いによって、それを深め、学位（修士、博士）を取得できるよう、研究と教育を行っている。 【博士課程前期課程】 神学の専門的知識の獲得を目指し、4つの研究分野の領域において以下の教育を行うためそれぞれの科目を配置する。 1. それぞれの研究分野における専門的知識等の修得を目指し「特殊講義」を配置する 2. 聖書を原典で読む能力の涵養のために「原典講読」を配置する 3. 神学の専門的知識に加えて言語力の向上を目指して「外国語専門書講読」を配置する 4. 教会をはじめとした現場での実習を伴う科目を配置する 5. 伝道者コースにおいては、宣教に携わる能力の涵養のため、牧会、説教、礼拝、教会経営について「演習科目」を配置する 6. 研究能力の涵養と、修士論文の執筆の指導のため「研究演習」を配置する 【博士課程後期課程】 1. 博士論文の執筆の指導のため、「研究演習」を配置する 2. 専門的学識を深めるため4つの研究分野において「特殊研究」を配置する	有・(無)
学生の受け入れ方針（AP）	**変更の有無**
博士課程前期課程 キリスト教伝道者コースにおいては、所属教会からの推薦を得られ、かつ幅広い神学的知識と思索力を有し、多様な宣教の現場で活動する高い志を持つ者、キリスト教思想・文化コースにおいては、受洗の有無を問わず、幅広い神学的知識と思索力を有し、キリスト教が人類の歴史の中で生み出してきた思想や文化的財などの学際的領域に興味を持つ者を受け入れる。 博士課程後期課程 キリスト教神学に関連する研究に対して授与された修士学位に相応しい知識（語学能力を含む）と研究能力を備えており、神学の様々な分野における専門的な学識知識と思索を深め、優れた特色ある研究を行うことができる者を受け入れる。	有・(無)

学生支援に関する方針	変更の有無
少人数教育の利点を生かし、学生各自のニーズをきめ細かく抽出し、能力や特性に応じた支援を以下の通り行う。 1)研究演習単位で個別ケースごとに必要な支援を検討する。 2)必要に応じて学内関連機関(総合支援センター・保健館など)との連携において情報共有し、本人との面談を実施、場合によっては保証人への連絡および面談の実施、本人との面談実施などを通じて支援を行う。 3)当該学生のプライバシーの保護を尊重したうえで、学部長室委員会や研究科委員会において学生の動向報告として情報を共有し、支援の内容をはじめ、広く学生への対応に関しても意見交換を行う。 4)全学で定める方針がある場合にはそれに従い、上記に則って学生への支援を模索する。 修学支援 学籍異動を希望する院生については教員(指導教員、場合によっては研究科副委員長)、事務担当者が面談を行う。 学費援助などの経済的支援、研究補助などを目的とした奨学金を神学研究科独自で実施する。留年者の状況把握については、学部長室委員会ならびに研究科委員会でも情報共有がなされ、対応について懇談を行い、当該院生への指導については原則、指導教員が行う。 障がい学生に対する支援 全学で定める方針に従い、個別ケースに応じた対応・支援を模索する。 生活支援 希望する院生に対し、教員(指導教員、場合によっては研究科副委員長)、場合によっては事務担当者も含めて面談を行う。必要に応じて学内の自立支援コーディネーター、学生カウンセラー、医師・看護師とも連携の上、学修を継続する方法を模索する。 各種ハラスメント 全学で定める方針に従い、授業内またはガイダンスなどにおいて周知・指導を行いつつ、個別ケースに応じた対応を模索する。 進路支援 インターンシップ 「臨床牧会実習」(夏期集中の正課科目)は、医療機関(病院)での実習科目である。患者、その家族との係わりを通じて牧会者としての自己理解を深め、その役割を明確にするとともに、そのニーズがどこにあるのかに気づき、牧会方法について思索していくことを目的に実施している。 「キリスト教社会実習」(各学期開講の正課科目)は、社会の様々な問題(滞日外国人、セクシャリティ、HIV等)にキリスト教的視点から考察を行い、さらにキリスト教団体やキリスト教福祉事業においてこれらの課題に直接携わっているクリスチャンワーカーの働きに参加し、理論と実践の両面から現実の社会問題を捉え直す機会を与えることで、将来の牧会のあり方を考える機会を提供することを目的としている。また正課ではないが、夏期派遣のプログラムも実施する。これは、全国各地の協力教会(日本基督教団)での奉仕を通じて現場を体験することを目的としている。	有・(無)
教員像	変更の有無
1. 競争力の高い優れた神学研究者であること 2. 高い人権意識を有していること 3. 福音主義の教職者である事が望ましい	有・(無)
教員組織の編制方針	変更の有無
神学研究科教員組織編制方針 1. 神学研究科の専任教員は、神学関係の分野において博士学位を有し、また継続的かつ発展的に研究を行う者とする。 2. 伝道者養成という学部設立のミッションを達成するため、教員は福音主義の教職者を中心とする。しかし、神学研究の専門性の観点から、分野・業績・教歴などを勘案して、信徒の教員を採用することを妨げない。 3. 神学教育について豊かな経験を有する者とする。 4. 聖書学(旧約・新約)、歴史神学・キリスト教文化、組織神学、実践神学の各分野に、適切な人員を配置する。	有・(無)

2. 神学研究科のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学位授与数 (M・D・P)	修士、博士、修士(専門職)の学位授与数 (※乙号除く) 「大学基礎データ」	授与する学位数が多いほど○ (人)	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M D	M D
就職・進路決定率 (M)	就職・進路決定率 「キャリアセンター統計資料」	(就職+起業・自営+就労継続) /(修了者ー進学者)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
博士後期課程への進学者数 (M)	進学者数 「キャリアセンター統計資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
日本学術振興会 特別研究員数(新規) (D)	特別研究員のうち、当該年度の新規採用者 「研究推進社会連携機構資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表			
研究者輩出数(D) (将来)			現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

(2)研究科独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
伝道者輩出者数	年度における伝道者(教会教職者)輩出-数。なお、修了後、複数年間にわたる資格取得準備などの期間を考慮し、既修了生も含めた人数とする	伝道者輩出数=(毎年度) 3 名以上。	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
学会発表者数	年度における学会(学内の研究会を含む)発表者数。	学会(学内の研究会を含む)発表者数=(毎年度)延べ3名以上。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
修了後の進路の満足度	修了後の進路の満足度 (「とても納得している」～「あまり納得していない」の5段階評価) 修了時調査	5 段階評価のうち、 A「とても納得している」または B「ある程度納得している」 と回答した比率(%)					
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定7項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く7項目対して A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」 と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
					非公表		

(4)認証評価に関するKPI

KPI	定義	基準	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
収容定員充足率	当該年度 5 月 1 日時点の収容定員に対する在籍学生数の割合 大学基礎データ表2	在籍学生数/収容定員(%) ※認証評価上(大学基準協会)は、 (M)0.50 以上 (D)0.33 以上 を適切性の目安としている。		非公表	非公表		

提出日：2025 年12月24日
文学部

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜文学部＞教学改善シート

学部における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
教育課程については、現在の文学部カリキュラムに沿った適切な教育方法を配置していると考えているが、授業スケジュールの変更に伴い、各授業回の適切な授業運用のための検討と実現を目指す。また、文学部の入試制度改革に連動させながら、最適時期の専修分属と専門性の高い教育の実現を目指したカリキュラム改革についても継続的に検討する。その際、授業外学修時間の確保についても慎重に検討を進める。学生の学習成果については、毎学期に実施している学修行動と授業に関する調査や在学時および卒業時学生調査のデータ結果等を参照し、授業環境の組織的な改善と授業担当者による授業内容や方法の改善を行っているが、文学部構成員全体で普遍的に必要な教育・研究と学生や社会が求める教育・研究についての議論は継続的に検討することが必要だと考えている。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
文学部執行部の教員により、成績不振の学生を対象に「アカデミック・アドバイザー面談」を行っている。ここでは、学生より直接修学上、生活上、進路上の困難を聞き取った上で以下の対応を行っている。修学支援については、1～2年生の段階で、修得済単位と未修得必修単位等について個別の成績表と履修心得を学生本人と突き合わせ、今後の履修計画について詳しく相談に乗っている。しかし、成績不振であっても来談しない学生も一定数存在するため、面談への参加率を上げることが課題となっている。生活支援については修学の問題の基礎に著しい生活上の困難を抱える学生を対象に、心理的支援も含めた専門部門である「学生支援相談室」の紹介を行っている。進路支援については、面談した本人の今後や卒業後の目標について明確にすると共に、そのための計画的な修学計画について学生と検討している。ただし、就職活動の早期化がさらに進む昨今、「キャリアセンター」との連携を行う余地もあろう。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
学生募集に関しては、広報メディアによるもの、高校に出向いて行うものが考えられる。広報メディアによるものとしては、教員の専門内容に関わる高校生向けの動画作成を行い、適宜配信を行っている一方、文学部を高校生に魅力的に紹介するような動画は公開していない。高校出張については、高校側の依頼があった場合にのみ派遣している。文学部紹介動画の作成と、戦略的な高校訪問が課題となっている。入学者選抜については、総合型選抜における指定校推薦入試での専修ごとの希望者の偏りを是正すべく、依頼枠の調整を行っているが、実際の出願は思い通りにならない現状がある。また目下、総合型選抜においては指定校推薦入試以外での出願はそれほど多くはない。今後、指定校入試で出願数が少なくなる可能性も見据え、特に学部特色入試での出願者を増やす仕組みを検討する必要がある。一般入試では専修間の倍率、難易度の格差があり、何らかの改善が求められる。定員管理については例年、定着率検討委員会での慎重な検討を経て合格者を出しており、ここ数年は、おおむね入学者目標値に近い数で推移している。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
学生の学習環境の充実に向けて、文学部では 2024 年に文学部校舎の地下スペースを「アカデミック・コモンズ」としてリニューアルし、さらに Ｆ 号館正面玄関左側にキャレルデスクを設置した。これらが学生から高い評価を得ているので、新学生サービスセンターの計画なども踏まえつつ、同様の学習スペースの新設を検討していくことが望まれる。教員の研究環境については、文学部では大学研究叢書の推薦順位を従来は主に教員の就任年月日の早い順につけてきたが、この方法だと若手教員の推薦順位が繰り下がる。若手教員による書籍出版についても積極的に支援できるよう、新たな推薦方法の導入を検討する必要がある。教員の教育環境の整備として、「学部教育推進費」の活用方法を検討し、たとえば「フレックスアワーズ」に実施するフィールドワーク・学外実習に係る担当教員の交通費等の予算執行の仕組み等を継続的に整備していくことが求められる。また現在文学部は独自に6つの短期留学プログラムを展開しているが、さらに国際化を推進するために、それらに加えて新たなプログラムを開発していくことが望まれる。文学部における教育・研究活動については、これまでも社会に向けて積極的に公表してきたが、特に教育活動に関しては、様々な媒体を通じて広く社会に発信していくことが求められる。	

1. 文学部の理念、目的、各種方針

文学部の理念	変更の有無
文学部が教育研究活動の中心に据える理念は次の二点に集約される。 1. スクールモットーである“Mastery for Service”に則ったキリスト教主義教育 2. 人間存在とその営みや文化を探求する人文学の修得による全人的陶冶	有・(無)

文学部の目的	変更の有無
人間存在とその営為を、さまざまな方向からの検討を通じて明らかにする専門的能力を涵養するとともに、キリスト教主義教育を通して豊かな人間性を育み、現代社会を理解するための幅広い視点と教養の獲得を重視して教育研究を進める。それにより、包括的で幅広い教養と高度で専門的な知識をあわせ持ち、深い洞察力を身につけた人間を育成する。 以下に学科ごとの目的を掲げるとともに、さらに三学科に共通する目標を示す。 文化歴史学科 文化歴史学科は、真・善・美の理想を求めて空間と時間の中を生きる人間の基礎的構造及び歴史について、教育研究を行う。 総合心理科学科 総合心理科学科は、現代社会に生きる人間の心理的諸相について、認知・行動・発達の観点から、その病理を含めて、教育研究を行う。 文学言語学科 文学言語学科は、言葉を持ち文化を形成する人間の営為について、文学と言語の両面から教育研究を行う。 共通の目標 1）基礎的能力を育み幅広い教養の獲得をめざす教育研究 基礎・基本を重視した教育を通じて、主体的に課題を設定しこれを解決できる能力を養成するとともに、人文学的素養に立脚した真の知性と品格をそなえた人間の育成をめざす。 2） 学際性に富む教育研究 広範で多様な学問領域にふれることを通じて均整のとれた柔軟な思考能力を涵養するとともに、文化全体を見渡す視野と方法を身につけ創造的に考え自ら行動することのできる能力を養成する。 3） 自らが得た知の社会への発信を重視する教育研究 豊かな人間性と幅広い教養を持ち、よき住民、市民として地域社会や国家はもとより、国際社会においても重要な貢献をなし得る能力を養成する。同様に、よき社会人、職業人として各界に積極的な貢献をなし得る能力を養成する。 4）他者との関わりを大切にして自己実現の端緒を掴ませる教育研究 自分の周囲には自身とは異なる発想や考えを持った人がいることに改めて気付かせ、他者と粘り強く対話し、真の意味でのコミュニケーションを図ることを通じて己の人間的成長の端緒を掴ませていく。 5）深い専門的知識の獲得と高度な思考能力の育成との接続をめざす教育研究 高度専門職及び研究職の養成（大学院教育）も視野に入れて、その基盤となる学問的知識及び技能を体系的に獲得させるとともに、それを基にした思考能力によって社会に寄与しうる新たな知の発見に向かう人間を育てる。	有・(無)

学位授与方針（DP）	変更の有無
Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において文学部のディプロマ・ポリシー（DP）を以下のとおり定める。 文学部は、「建学の精神に則ったキリスト教主義教育」および「人文学の修得による全人的陶冶」を中心的な理念とし、広範で多様な学問領域の中での基礎・基本を重視した教育を通じて以下の能力を身につけた学生に対して学士（文学）の学位を授与する。 1. 基礎・基本を重視した教育を通じて得られる、人文学的素養に立脚した真の知性と品格をそなえ、主体的に課題を設定しこれを解決できる能力。 2. 広範で多様な学問領域に触れることで得られる文化全体を見渡す視野と方法に基づき、均整のとれた柔軟な思考能力及び、より創造的に考え自ら行動することのできる能力。 3. 豊かな人間性と幅広い教養を持ち、よき市民として地域社会や国家はもとより、国際社会においても重要な貢献をなし得る能力。同様に、よき社会人、職業人として、各界に積極的な貢献をなし得る能力。 4. 高度専門職及び研究職の基盤となる強固な学問的知識及び技能に基づき、学問的な立場から社会に貢献できる能力。 3学科それぞれの学位授与の方針は以下のとおりである。 1. 文化歴史学科 ①哲学倫理学・美学芸術学・地理学地域文化学・日本史学・アジア史学・西洋史学の基礎的知識のもとに、人間存在の思想的・芸術的・空間的・歴史的側面及びそれに関わる活動について主体的に課題を発見し、適切に問題を設定する能力と、幅広い観点から対象を洞察し、問題を合理的に解決する能力を身につけていること、②文化や歴史に関わる広範で多様な学問領域に触れることを通じて、広い視野と均整のとれた柔軟な思考能力を身につけていること、である。 2. 総合心理科学科 ①心理科学の基礎的知識のもとに、人間存在の心理的・行動的側面及びそれに関わる活動について主体的に課題を発見し、適切に問題を設定する能力と、幅広い観点から対象を洞察し、問題を合理的に解決する能力を身につけていること、②心理科学の諸分野に関わる広範で多様な学問領域に触れることを通じて、広い視野と均整のとれた柔軟な思考能力を身につけていること、である。 3. 文学言語学科 ①日本文学日本語学・英米文学英語学・フランス文学フランス語学・ドイツ文学ドイツ語学の基礎的知識のもとに、人間存在の文学的・言語的側面及びそれに関わる活動について主体的に課題を発見し、適切に問題を設定する能力と、幅広い観点から対象を洞察し、問題を合理的に解決する能力を身につけていること、②文学や言語学に関わる広範で多様な学問領域に触れることを通じて、広い視野と均整のとれた柔軟な思考能力を身につけていること、である。	有・(無)

教育課程の編成・実施方針（CP）	変更の有無
4年間のカリキュラムを通じて、以下のような教育を行う。 文学部の教育理念と目的に沿って設定された様々な授業科目の中から、各学科・専修の求める専門性に従った履修体系と学生の主体的な関心に基づいて科目を履修し、必要とされる単位数を修得することが学士（文学）学位授与の要件となる。特に文学部では学修の集大成として卒業論文の作成が義務づけられている。 3学科それぞれの年次毎のカリキュラムの理念は以下の通りである。 1. 文化歴史学科 第1学年度では、大学における学修の基礎を身につけ、学科に関連する諸領域への関心を深める。 第2学年度では、学科・専修の提供する概論等の専門講義科目から将来の専門に関わる科目に重点をおいた学修を導く。さらに、資料・史料の読解・調査やテクス	有・(無)

トの解釈などを目的とする研究科目の提供を通じ、自ら読み解き理解することのできる基礎的学力を養成する。
第3学年度では、所属する専修が提供する演習科目、研究科目、特殊講義科目、文化歴史学科他専修が提供する学科科目等を通じて、専門的な研究能力の養成を行う。
第4学年度では、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、専修諸分野のそれぞれにおいて、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い卒業研究を完成させる。

2. 総合心理科学科
第1学年度では、大学における学修の基礎を身につけ、学科に関連する諸領域への関心を深める。
第2学年度では、学科・専修の提供する専門講義科目に重点をおいた学修を導くとともに、心理科学に関する専門用語の習得や英文読解力を養う研究科目、心理科学の研究方法を身につけるための実験実習科目の提供を通じて基礎的知識や技術を養成する。
第3学年度では、専修が提供する演習科目、研究科目、実験実習科目、専門講義科目を通じて、専門的な研究能力の養成を行う。
第4学年度では、それまでに身につけた専門知識や能力をもとに、各研究分野において学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い卒業研究を完成させる。

3. 文学言語学科
第1学年度では、大学における学修の基礎を身につけ、学科に関連する諸領域への関心を深めるとともに関連する言語の修得につとめる。
第2学年度では、学科・専修の提供する専門講義科目に重点をおいた学修を導くとともに、文献資料の読解や作品・テクストの解釈などを目的とする研究科目を通じて、自ら読み解き理解していくことのできる基礎的学力を養成する。
第3学年度では、所属する専修が提供する演習科目、研究科目、専門言語科目、特殊講義科目、文学言語学科他専修が提供する学科科目等を通じて、専門的な研究能力の養成を行う。
第4学年度では、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、専修諸分野のそれぞれにおいて、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い卒業研究を完成させる。

学生の受け入れ方針（AP）	変更の有無

【関西学院大学（学士課程）】

Ⅰ. 関西学院大学アドミッション・ポリシー
　世界を視野におさめ、他者（ひと）への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service（奉仕のための練達）”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。
　関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。
　そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多元的に評価することを基本的な方針としています。

Ⅱ. 各学部のアドミッション・ポリシー
文学部アドミッション・ポリシー
　文学部は、建学の精神に則ったキリスト教主義教育ならびに人文学の修得を通じて、全人的陶冶を行うことを教育理念としています。多様な領域にまたがる人文学の教育・研究のために、文学部は文化歴史学科、総合心理科学科、文学言語学科の3学科で構成され、さらに11の専修に区分されていますが、どの専修に所属しても学生それぞれの関心に従って基礎的な科目群から専門的な科目群まで幅広く履修できるよう柔軟なカリキュラムを組んでいます。また最終的な到達目標として卒業論文の作成が必修とされています。4年間の勉学を通して、主体的に学び、自ら問題を見出し追究していく姿勢が重要です。高等学校の学習においても、基本的な科目全般にわたって基礎学力を充実させるとともに、幅広く客観的な視野と、先入観や画一的なものの見方に囚われない柔軟な思考力、さらには自らが興味関心を持ったテーマに対して粘り強く取り組んでいく姿勢を培っておくことが求められます。このような総合的な知的基盤を備え、かつ自らの見出した研究課題に積極的に取り組んでいかれる資質に富んだ者を、一般入学試験・各種入学試験それぞれの特徴を生かして、本学部の学生として受け入れることを基本方針としています。

Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー
1.　一般選抜入学試験
　一般選抜は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。
　一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。
　全学部日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学（記述式）」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学部日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述」による入学試験も実施しています。
　学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語（記述式含む）」「国語（記述式含む）」を必須とし、「日本史」「世界史」「数学（記述式）」を選択科目とし筆記試験を実施します。また、一部の日程では「日本史」「世界史」「数学（記述式）」に加えて「地理」を選択科目に加えています。
　理系入学試験においては全学部日程を 2 種類実施しています。本学で学ぶために必要な「英語」「数学（記述式）」を必須とし、理科（記述式）「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。
　一般入学試験として、英数日程、共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）の3方式を実施しています。英数日程は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」と「数学（記述式）」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」または「数学（記述式）」に、大学入学共通テストの教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。

　大学入学共通テストを利用する入学試験は、「一般入学試験とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入学共通テストで実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入学共通テストの得点のみで合否判定を行います。
　1 月出願においては、「外国語」「国語」「数学」「地理歴史・公民」「理科」「情報」を各学部の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。また、3 月出願においても高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。
　また、大学入学共通テストを利用する入学試験（1 月出願　3 科目型（英語資格・検定試験利用）は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の 4 技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語資格・検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入学共通テストの教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2.　グローバル入学試験
　グローバル入学試験は、入学後、本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）に積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に 3 つのカテゴリーで実施する入学試験です。
　① 国際的な活躍を志す者を対象とした入学試験
　＜文系学部＞
　　関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、英語能力に加え、留学経験、模擬国連での活動など、自ら国際的な活動に取り組んだ実績を有し、国際的課題解決のための提案・実践に意欲を有するとともに、その国際的な活動で培った力を本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）に挑戦

（有）・無

することでさらに発展させ、国際社会で活躍できる力を身に付けることを志す者を求めています。
第 1 次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

② インターナショナル・バカロレア入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP（ディプロマ・プログラム）の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有するとともに、入学後は、本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）を通して、国際社会で活躍する能力を身に付けることを志す者を求めています。
第 1 次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

③ 帰国生徒入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、家庭の事情等により海外に長期間滞在し、海外の教育を受けた者で、日本での生活や短期間の留学では身に付けることのできない主体性や価値観、多角的視点、困難を乗り越えた経験などを持ち、それらを本学での学生生活や学びに生かそうとする者を求めています。多様な背景を持つ学生が集い刺激し合うことで、キャンパスが活性化する教育的効果も望んでいます。さらに、帰国生徒が他の学生と相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長することにも期待します。
第 1 次審査では、筆記審査を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価します。
第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、自己推薦書、志望理由書、学校長推薦書等の提出書類による書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

① 院内推薦入学

1）関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

2）関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

② 継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等学校の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

③ 提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

④ 系属校推薦入学

関西学院大学系属校推薦入学は、科学技術に強い興味・関心・意欲を持ち、グローバルな観点に立って国際社会での活躍を目指す生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑤ 協定校推薦入学

1）キリスト教学校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

2）グローバル枠

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21 世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

3）グローバル＋キリスト教校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、21 世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑥ 指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接（口頭試問含む）によって総合的に評価し受け入れるための制度です。出願書類と面接（口頭試問含む）において、一定水準以上の「知識・技能」、各学部で学ぶために必要な「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」が備わっているか等を評価し、入学後の勉学における明確な志向および意欲の評価に重点を置き総合的に審査しています。

文学部

関西学院大学文学部において勉学することに強い意欲をもつ個性ゆたかな生徒を、推薦によって入学を許可することによって入学後の修学への準備期間を確保し、入学後に文学部においてその才能をさらに伸ばすとともに、本学部独自の学風を振興し、広く社会に寄与し得る人材を育成することを目的とします。審査では志

願提出書類、面接における口頭試問を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。 4. 探究評価型入学試験 Society5.0 の到来や人工知能（AI）の台頭、急速なグローバル化の進展等、予測困難な社会の変化に適応するため、自己の在り方生き方を考えながら、物事の本質を様々な角度から探り見究め続けることが必要です。本学では「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を捉えたうえで、社会に主体的に関わり新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする気概を持つ者からの挑戦を求めています。 これらの背景から、本入学試験では、関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき探究学習を通して身に付けたそれらの力を多面的・総合的に評価します。これまで主体的に取り組んできた探究活動を「新たなデータを収集して知見を明らかにしようとする事を通した探究活動」、「国内外の学校・様々な機関と協働を通した探究活動」、「特定の社会課題等に関する学術的考察を通した探究活動」に区分し、書類審査や面接（口頭試問含む）、プレゼンテーション審査等の多様な審査方法をもって、探究活動の過程を重視した評価を行います。 主体的に取り組んできた探究活動での経験を、本学入学後に学部での学びや研究をはじめ、様々なプログラム等に積極的に参加して活かしていくことを期待しています。 5. UNHCR 難民高等教育プログラムによる推薦入学 「UNHCR 難民高等教育プログラムによる推薦入学」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連 UNHCR 協会との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。 日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。 こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。 国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連 UNHCR 協会の推薦に基づき、面接（口頭試問含む）を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。 6. スポーツ選抜入学試験 関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後に学業とスポーツ活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化とスポーツ活動の一層の振興に寄与することを目指しています。 第 1 次審査では、書類審査にてスポーツ活動における実績を評価するとともに、筆記審査にて、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を評価します。 第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）等により、志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。 7. 外国人留学生入学試験 本学は、米国南メソジスト監督教会の宣教師、W. R. ランバスによって創設されました。開学当初から多くの外国人教員が教鞭をとっていたこともあり、外国人留学生を古くから受け入れ、日本の大学の中では国際色豊かな大学としてその学風を育んできました。 この入学試験制度は外国人留学生を対象とし、さまざまな国からの留学生を受け入れることにより、大学の国際性を一層高め、ひいてはキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待した、いわゆる「多元的入試」の一環として実施されます。 出願時の提出書類に基づき審査を実施し、本学で学ぶにあたって必要な日本語力および、基礎学力を有しているかを審査した後、各学部が面接審査（口頭試問を含む）・筆記試験等を実施し、志願する学部で学ぶ意欲や人間性などを中心に評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し、選抜します。 8. 学部特色入学試験 関西学院大学のアドミッション・ポリシー、また、各学部が定めるアドミッション・ポリシーに基づき、各学部が求める多様な能力、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性をもった学生を求めています。 文学部 関西学院大学文学部は、本学のスクールモットーである“Mastery for Service（奉仕のための練達）”の精神を踏まえ、人間の本質を追究するために深い学識と広い視野を養う学びの場です。文化や歴史、心理、文学や言語の教育研究を通じて、人間存在の営みの本質や現代的・普遍的な課題を追究します。 本学部では、このような考えに基づいて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」「人間性」を多面的・多元的に評価し、本学部で学ぶにふさわしい意欲あふれる人を求めて、学部特色入学試験を実施します。この入学試験では、英語4技能の検定試験のスコアから一般学力試験と同等レベルの知識や技能を有すると認められる人、本学部での入学後の学びに関係する検定試験の定めた水準以上に達している人を対象に、論述・小論文形式での筆記審査、面接（口頭試問含む）を行います。	
学生支援に関する方針	変更の有無
（定めなし）	有・無
教員像	変更の有無
（定めなし）	有・無
教員組織の編制方針	変更の有無
人事委員会の機能を重視する。また現状を再検討し、課題があればそれを解決することに努め、年齢構成と男女比のバランスがとれた自由闊達で活気ある教員組織をめざす。	有・無

2. 文学部のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
DPに定める資質・能力の獲得状況	あなたはこの授業を通して卒業までに求められる資質・能力を向上できたと思いますか。(「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」) の回答割合(%)	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Kwansei コンピテンシー獲得状況	知識・能力・資質の程度 全項目 (「大変身についた」～「全く身についていない」の5段階評価) (2018～2022 年度) 当該年度卒業生と次年度 1 年生との調査による伸び (2023～2027 年度) 当該年度卒業生とその 1 年生時との調査による伸び 「IR 新入生調査」「IR 卒業時調査」	5段階評価のうち、上位2つ (「大変身についた」「やや身についた」)の回答割合(%)の平均の差 (2022 年度以降のデータの変更点 年度以降) ➡入学時と卒業時のアンケート調査においてコンピテンシーの 10 要素の総合得点(50 点満点)を確認して、学部ごとにその差の平均を算出する。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
汎用的能力の獲得状況	入学後の能力変化(表外※参照) (「大きく増えた」～「大きく減った」の5段階評価 「IR 上級生調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「大きく増えた」、B「増えた」) の回答割合(%) ➡2022 年度の調査見直しにより、当該項目は調査項目から削除。 (Kwansei コンピテンシーとの重複)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
授業外学修時間	授業外時間に、授業課題や準備時間、復習をする時間(一週当たりの平均) 「IR1年生調査、IR 上級生調査」 ➡【2022 年度データの変更点】 2022 年度実施分から調査名称を「学生調査」に変更。	一週あたり 6 時間以上の割合 ➡【2022 年度データの変更点】 学生調査の変更により、2022 年度以降は「一週あたり 5 時間以上」の割合に変更。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業目的・到達目標の達成度	あなたは、シラバスに示された授業の目的や、到達目標を達成できると思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業満足度	あなたは、全体としてこの授業に満足していますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
留学等派遣数	協定校への派遣学生数 「国際連携機構資料」	大学間協定に基づく派遣日本人学生数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
TOEIC/TOEFL 等の英語運用能力	TOEFL 換算得点目標の達成人数 ＜参考(学部別目標値)＞ ■国際:TOEFL 換算 550 点 ■文・総政:TOEFL 換算 540 点 ■その他:TOEFL 換算 520 点 「言語教育研究センター資料」	左記「TOEFL 換算得点」目標の達成人数(人)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
学生生活満足度	大学生活を振り返って、学生生活は満足したものでしたか。 (「満足」～「不満」の5段階評価) 「IR 卒業1年目調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「満足」、B「どちらかといえば満足」)の回答割合(%) ＊2018 年度調査までは、A「とても満足」、B「満足」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
就職率	就職率 「キャリアセンター統計資料」	就職者数(自営含まず)／就職希望者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
大学院進学率	大学院進学率 「キャリアセンター統計資料」	大学院進学者数/学部卒業者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(※)「知識・技能・能力の獲得状況」の「知識・技能・能力」とは、一般的な教養、論理的思考力、専門分野や学科の知識、グローバルな問題の理解、多様性を尊重する力、主体的に行動する力、リーダーシップ力、人間関係を構築する力、対立する価値を調整する力、地域社会が直面する問題を理解する能力、国民が直面する問題を理解する能力、困難を乗り越える粘り強さ、文章表現の能力、外国語の運用能力、生涯にわたって学び続ける能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、数理的な能力、コンピュータの操作能力、誠実さと品位、時間を効果的に利用する能力、卒業後に就職するための準備の程度、を指す。

(2)学部独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
ライティング・センター活用率	ライティング・センター活用率	ライティング・センター活用者数／文学部学生数	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
文学部内副専攻制の登録率	文学部内副専攻制の登録率	文学部内副専攻制登録者数／文学部学生数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
入試難易度 (偏差値)	ベネッセの進研模試のデータにおける合格可能性 60%以上となる偏差値 入学センター		非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
同系列学部勝敗	ベネッセの進研模試のデータにおける同系列学部合格者の競合大学(同志社、立命館、関西)との入学比率 経営企画部	本学と相手校の両方に合格していずれかに入学した受験生のうち、本学に入学した者の比率 本学入学者数／(本学入学者数＋併願校入学者)(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC 年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
ダブルチャレンジ修了者数	当該年度の卒業生のうち、ダブルチャレンジ制度のアウェイチャレンジの単位を取得して卒業した学生数 IR 室	①インターナショナルプログラム②ハンズオン・ラーニング・プログラム③副専攻プログラムのいずれかで単位取得し卒業した学生数 ※学部毎は延べ人数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」～「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5段階評価のうち「満足」と回答した比率(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
スクールモットーの浸透度	スクールモットー“Mastery for Service”を意識する程度は (「意識している」～「意識していない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	4 段階評価のうち、 A「意識している」または B「ある程度意識している」 と回答した割合(%) ＊2018 年度調査までは A「常に行動の規範としている」または B「頻繁に意識している」と回答した比率 ＊2020 年度調査までは 5 段階評価のうち、A「常に行動の規範としている」または B「ときどき意識している」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 6 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	設問 6 項目の「そう思う」「どちらかちいえばそう思う」と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

提出日：2025 年12月24日
文学研究科

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜文学研究科＞教学改善シート

研究科における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
研究科内の各領域内では適切に指導が実施され、一定の成果をあげている。一方、研究科全体としては、共通のディプロマ・ポリシーを掲げているにもかかわらず、大学院生に共通の知的基盤を形成するための取り組みは未実施の状態である。また、大学院生の研究成果・業績についても、各領域内においては教員・学生間で共有されているものの、研究科全体として大学院生の成果・業績を（外部に）継続的に公開する取り組みは実施されていない。加えて、領域を超えての（特に院生間の）成果共有もなされておらず、院生が将来的に大学教員として研究成果を学生に伝えるという可能性を考慮すると、自身の研究の意義及び成果を専門外の他者と共有する機会が必要と考えられる。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
奨学金制度に関しては、博士前期課程に所属する大学院生を対象としたベーツ支給奨学金制度の改善に取り組み、より良い制度への改善の努力を実施している。一方、領域によって大学院生の数が異なっているが、領域を超えた院生間の交流の機会がほとんどなく、（院生数が少ない領域において）研究に対する意欲の維持が困難となる可能性が生じているため、対策が必要と考えられる。進路支援に関しても、執行部の教員に対しては院生の進路の現状に関して説明を受ける機会（キャリアセンター主催）があるが、それを全教員と共有する機会が不足している。関連して、各領域において専門的な知識に関する指導は十分に行われている一方、大学教員を目指す場合、何をどのように進めていくことが必要なのかに関する具体的な指導の機会がまだ十分ではないと分析している。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
学生募集に関しては、過去に実施された大学院入試の問題をホームページ上で公開するとともに、それに関する各領域への問い合わせ連絡先を掲載し、本学研究科への進学を検討している学生の利便性を向上させる取り組みを実施している。また、春学期・秋学期それぞれにおいて大学院進学説明会・個別相談会を実施し、教員のみならず院生からの研究・生活に関する詳細な情報提供を実施している。一方、本学研究科の各教員がどのような研究を実施し、どのような分野の指導が可能であるか、および指導を受けた院生がどのような進路に進んでいるかに関する情報を包括的に提供する機会（ウェブや紙媒体）が十分ではなく、入学希望者数を増加させるためにはその点に関する工夫が必要と考えられる。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
学生の学習環境の充実に向けて、文学部では 2024 年に文学部校舎の地下スペースを「アカデミック・コモンズ」としてリニューアルし、さらに F 号館正面玄関左側にキャレルデスクを設置した。これらが高い評価を得ているので、新学生サービスセンターの計画なども踏まえつつ、同様の学習スペースの新設を検討していくことが望まれる。教員の研究環境については、文学部では大学研究叢書の推薦順位を従来は主に教員の就任年月日の早い順につけてきたが、この方法だと若手教員の推薦順位が繰り下がる。若手教員による書籍出版についても積極的に支援できるよう、新たな推薦方法の導入を検討する必要がある。また国際化を推し進めるために、大学院生の海外での研究活動に対する支援の強化を検討することが望まれる。なお（1や3と重なるが）大学院生の研究成果・業績を継続的に社会に公開する取り組みや、教員による大学院での指導内容について社会に公開する方法についても検討していく必要がある。	

1. 文学研究科の理念、目的、各種方針

文学研究科の理念	変更の有無
文学研究科がその理念の中心に掲げるのは、人文科学の深い学識に裏付けられた人格の陶冶と、卓抜した水準における学術研究を通じた社会への貢献である。	有・(無)

文学研究科の目的	変更の有無
人文科学の深い学識に裏付けられた人間形成と、卓抜した水準における学術研究を通じた社会への貢献を目的とする。そのためには、人文科学の領域において、現代の高度な学問の進展に応じた研究を推進し、人格を陶冶するとともに、その研究の成果を学界、教育界、一般社会に還元することが必要である。具体的には、それぞれの学術領域に大きな貢献をなしうる専門的研究者を養成すること、高い専門性を活かして実社会の様々な場所で活躍することのできる高度専門職業人を養成すること、そして知識基盤社会を支える高度で知的な素養のある人間を育成すること、のそれぞれを重視する。 以下に専攻ごとの目的を掲げるとともに、さらに三専攻に共通する目標を示す。 文化歴史学専攻 文化歴史学専攻は、真・善・美の理想を求めて空間と時間の中を生きる人間の基礎的構造及び歴史について、高度な教育研究を行う。 総合心理科学専攻 総合心理科学専攻は、現代社会に生きる人間の心理的諸相について、認知・行動・発達の観点から、その病理を含めて、高度な教育研究を行う。 文学言語学専攻 文学言語学専攻は、言葉を持ち文化を形成する人間の営為について、文学と言語の両面から高度な教育研究を行う。 共通の目標 前期課程では、研究者養成の第一段階として、後期課程との連携も視野に入れた研究教育を行うとともに、高い学識と豊かな創造性を携えて社会に貢献できる人間を育成する。後期課程では、高度な研究を継承かつ推進していく博士号を持つ優れた研究者を養成する。	有・(無)

学位授与方針（DP）	変更の有無
文学研究科のディプロマ・ポリシー（DP）を以下のとおり定める。 文学研究科は、人文科学の基礎領域及び応用実践領域での研究者・高度専門職業人と、知識基盤社会を支える高度で知的な素養を有する人材の養成を目的としている。その目的に照らし、博士課程前期課程においては、高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。博士課程後期課程においては、前期課程で得た知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。 本研究科は、以下の専攻分野において、それぞれ次の方針に基づき学位を授与する。 1. 文化歴史学専攻 (1)修士（哲学） 博士前期課程において、哲学倫理学に関する高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。 (2)修士（美学） 博士前期課程において、美学に関する高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。 (3)修士（芸術学） 博士前期課程において、芸術学に関する高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。 (4)修士（歴史学） 博士前期課程において、日本史学・アジア史学・西洋史学に関する高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。 (5)修士（地理学） 博士前期課程において、地理学地域文化学に関する高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。 (6)博士（哲学） 博士課程後期課程において、前期課程で得た哲学倫理学に関する知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。 (7)博士（美学） 博士課程後期課程において、前期課程で得た美学に関する知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。 (8)博士（芸術学） 博士課程後期課程において、前期課程で得た芸術学に関する知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。 (9)博士（歴史学） 博士課程後期課程において、前期課程で得た日本史学・アジア史学・西洋史学に関する知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。 (10)博士（地理学） 博士課程後期課程において、前期課程で得た地理学地域文化学に関する知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。 2. 総合心理科学専攻 (1)修士（心理科学） 博士前期課程において、心理科学に関する高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。 (2)修士（学校教育学） 博士前期課程において、学校教育学に関する高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。 (3)博士（心理学） 博士課程後期課程において、前期課程で得た心理科学に関する知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた心理学の研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。	有・(無)

（4）博士（教育心理学）博士課程後期課程において、前期課程で得た学校教育学に関する知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた教育心理学の研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。 3. 文学言語学専攻 （1）修士（文学） 博士前期課程において、日本文学・英米文学・フランス文学・ドイツ文学に関する高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。 （2）修士（言語学） 博士前期課程において、日本語学・英語学・フランス語学・ドイツ語学に関する高度な専門的知識を備え、柔軟な思考能力ならびに優れた技能を身につけた学生に対し、学位を授与する。 （3）博士（文学） 博士課程後期課程において、前期課程で得た日本文学・英米文学・フランス文学・ドイツ文学に関する知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。 （4）博士（言語学） 博士課程後期課程において、前期課程で得た日本語学・英語学・フランス語学・ドイツ語学に関する知的素養を継承しつつ、現代の高度な学問の進展に応じた研究をさらに推進し、その成果を社会に発信していく能力を身につけた学生に対し、学位を授与する。	
教育課程の編成・実施方針（CP）	変更の有無
博士課程前期課程及び後期課程のカリキュラムを通じて、以下のような教育を行う。 文学研究科では、人文科学の持つ総合性と多様性を取り込んで、学位授与に至るまで充実した研究活動が展開できるカリキュラム編成をとっている。博士課程前期課程では 3 専攻 12 領域の多彩な専門領域を設け、必修科目の研究演習に加えて資料研究・特殊講義・特殊実験・臨床実践・文献研究といった各専攻と各領域の特性を活かした選択科目を提供し、それらを体系的かつ横断的に学ぶことによって専門分野の研究能力を高めるとともに学知の広がりを目指している。博士課程後期課程ではさらなる主体的・創造的な研究能力の深化と発展に向けて、3 専攻 11 領域体制のもと、各領域とも研究演習を経て博士論文作成演習に進むカリキュラムを設けている。 各学位に関するそれぞれの年次毎のカリキュラムの理念は以下の通りである。 1. 文化歴史学専攻 （1）修士（哲学） 博士課程前期課程の第 1 学年度では、大学院における学修・研究の基礎を定着させるとともに、哲学倫理学の諸領域の研究演習、特殊講義、文献研究などの科目を通じて、関連文献の読解や哲学的思考などの能力を鍛え、当該領域の専門的な研究能力を養成する。 博士課程前期課程の第 2 学年度では、第 1 学年度に引き続き、当該領域の専門的な研究能力を高めるとともに、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い修士論文を完成させる。 （2）修士（美学） 博士課程前期課程の第 1 学年度では、大学院における学修・研究の基礎を定着させるとともに、美学芸術学の諸領域の研究演習、特殊講義、資料研究などの科目を通じて、関連文献の読解や芸術作品の解釈などの能力を鍛え、当該領域の専門的な研究能力を養成する。 博士課程前期課程の第 2 学年度では、第 1 学年度に引き続き、当該領域の専門的な研究能力を高めるとともに、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い修士論文を完成させる。 （3）修士（芸術学） 博士課程前期課程の第 1 学年度では、大学院における学修・研究の基礎を定着させるとともに、美学芸術学の諸領域の研究演習、特殊講義、資料研究などの科目を通じて、関連文献の読解や芸術作品の解釈などの能力を鍛え、当該領域の専門的な研究能力を養成する。 博士課程前期課程の第 2 学年度では、第 1 学年度に引き続き、当該領域の専門的な研究能力を高めるとともに、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い修士論文を完成させる。 （4）修士（歴史学） 博士課程前期課程の第 1 学年度では、大学院における学修・研究の基礎を定着させるとともに、日本史学・アジア史学・西洋史学の諸領域の研究演習、特殊講義、文献研究、古文書学などの科目を通じて、資料・史料の読解などの能力を鍛え、当該領域の専門的な研究能力を養成する。 博士課程前期課程の第 2 学年度では、第 1 学年度に引き続き、当該領域の専門的な研究能力を高めるとともに、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い修士論文を完成させる。 （5）修士（地理学） 博士課程前期課程の第 1 学年度では、大学院における学修・研究の基礎を定着させるとともに、地理学地域文化学の諸領域の研究演習、特殊講義、文献研究などの科目を通じて、資料・史料の読解や実地調査の実践などの能力を鍛え、当該領域の専門的な研究能力を養成する。 博士課程前期課程の第 2 学年度では、第 1 学年度に引き続き、当該領域の専門的な研究能力を高めるとともに、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い修士論文を完成させる。 （6）博士（哲学） 博士課程後期課程第 1 学年度においては、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。 博士課程後期課程第 2 学年度においては、第 1 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。 博士課程後期課程第 3 学年度においては、第 2 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高めるとともに、博士論文作成演習を通じて博士論文執筆に向けた準備を進め、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い博士論文を完成させる。 （7）博士（美学） 博士課程後期課程第 1 学年度においては、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。 博士課程後期課程第 2 学年度においては、第 1 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。 博士課程後期課程第 3 学年度においては、第 2 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高めるとともに、博士論文作成演習を通じて博士論文執筆に向けた準備を進め、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い博士論文を完成させる。 （8）博士（芸術学） 博士課程後期課程第 1 学年度においては、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。 博士課程後期課程第 2 学年度においては、第 1 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。	有・(無)

博士課程後期課程第 3 学年度においては、第 2 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高めるとともに、博士論文作成演習を通じて博士論文執筆に向けた準備を進め、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い博士論文を完成させる。

(9)博士(歴史学)

博士課程後期課程第 1 学年度においては、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。

博士課程後期課程第 2 学年度においては、第 1 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。

博士課程後期課程第 3 学年度においては、第 2 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高めるとともに、博士論文作成演習を通じて博士論文執筆に向けた準備を進め、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い博士論文を完成させる。

(10)博士(地理学)

博士課程後期課程第 1 学年度においては、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。

博士課程後期課程第 2 学年度においては、第 1 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。

博士課程後期課程第 3 学年度においては、第 2 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高めるとともに、博士論文作成演習を通じて博士論文執筆に向けた準備を進め、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い博士論文を完成させる。

2. 総合心理科学専攻

(1)修士(心理科学)

博士課程前期課程の第 1 学年度では、大学院における学修・研究の基礎を定着させるとともに、心理科学の諸領域の研究演習、特殊講義、特殊研究、特殊実験、統計基礎理論、行動科学研究法、心理科学実践などの科目を通じて、関連文献の読解や関連事項の実験などの能力を鍛え、当該領域の専門的な研究能力を養成する。

博士課程前期課程の第 2 学年度では、第 1 学年度に引き続き、当該領域の専門的な研究能力を高めるとともに、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い修士論文を完成させる。

(2)修士(学校教育学)

博士課程前期課程の第 1 学年度では、大学院における学修・研究の基礎を定着させるとともに、学校教育学の諸領域の研究演習、特殊講義などの科目を通じて、関連文献の読解などの能力を鍛え、当該領域の専門的な研究能力を養成する。

博士課程前期課程の第 2 学年度では、第 1 学年度に引き続き、当該領域の専門的な研究能力を高めるとともに、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い修士論文を完成させる。

(3)博士(心理学)

博士課程後期課程第 1 学年度においては、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。

博士課程後期課程第 2 学年度においては、第 1 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。

博士課程後期課程第 3 学年度においては、第 2 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高めるとともに、博士論文作成演習を通じて博士論文執筆に向けた準備を進め、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い博士論文を完成させる。

(4)博士(教育心理学)

博士課程後期課程第 1 学年度においては、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。

博士課程後期課程第 2 学年度においては、第 1 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。

博士課程後期課程第 3 学年度においては、第 2 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高めるとともに、博士論文作成演習を通じて博士論文執筆に向けた準備を進め、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い博士論文を完成させる。

3. 文学言語学専攻

(1)修士(文学)

博士課程前期課程の第 1 学年度では、大学院における学修・研究の基礎を定着させるとともに、日本文学・英米文学・フランス文学・ドイツ文学の諸領域の研究演習、特殊講義、文献研究などの科目を通じて、関連文献の読解や文学テクストの解釈などの能力を鍛え、当該領域の専門的な研究能力を養成する。

博士課程前期課程の第 2 学年度では、第 1 学年度に引き続き、当該領域の専門的な研究能力を高めるとともに、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い修士論文を完成させる。

(2)修士(言語学)

博士課程前期課程の第 1 学年度では、大学院における学修・研究の基礎を定着させるとともに、日本語学・英語学・フランス語学・ドイツ語学の諸領域の研究演習、特殊講義、文献研究などの科目を通じて、関連文献の読解や言語事象の分析などの能力を鍛え、当該領域の専門的な研究能力を養成する。

博士課程前期課程の第 2 学年度では、第 1 学年度に引き続き、当該領域の専門的な研究能力を高めるとともに、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い修士論文を完成させる。

(3)博士(文学)

博士課程後期課程第 1 学年度においては、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。

博士課程後期課程第 2 学年度においては、第 1 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。

博士課程後期課程第 3 学年度においては、第 2 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高めるとともに、博士論文作成演習を通じて博士論文執筆に向けた準備を進め、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い博士論文を完成させる。

(4)博士(言語学)

博士課程後期課程第 1 学年度においては、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。

博士課程後期課程第 2 学年度においては、第 1 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修することを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高める。

博士課程後期課程第 3 学年度においては、第 2 学年度に引き続き、研究演習や特別研究、さらには博士課程前期課程授業科目の中から選択科目を履修す

ることを通じて、当該領域における専門的な研究能力をさらに高めるとともに、博士論文作成演習を通じて博士論文執筆に向けた準備を進め、それまでに身につけた専門知識や研究能力を十分に展開し、当該領域において、学生各自が個別に設定したテーマと目標に従い博士論文を完成させる。	
学生の受け入れ方針（AP）	変更の有無
博士課程前期課程 前期課程においては、豊かな人間性と幅広い教養をそなえた高度専門職を養成し、さらに研究者養成の第一段階として高度な専門的知識を教授するとともに創造的な研究のための柔軟な思考能力と優れた技能を育成します。 そのために学部での学修の成果が一定の水準以上に達していることを入学試験が課す問題で証明することができ、そこから転じてさらなる研究に向かう強い意欲と計画性とを提示することができる者を求めます。 博士課程後期課程 後期課程においては、高度な研究の継承とそれを創造的に推進する博士学位をもつ優れた研究者を養成します。人文科学の領域において、現代の高度な学問の進展に応じた研究を推進し、その研究の成果を学界、教育界、一般社会に還元することを重視しています。こうした方針に基づいて修士論文を中心とする前期課程における学修の成果の裡に、自らの選んだ専門領域に関して幅広く研鑽を積んだ証と従来の研究に対峙しうる独創的な発想の萌芽的形態が見られる者、加えて後期課程入学後学位申請論文提出までのけっして短くはない期間を自立した粘り強い姿勢で研究対象と取り組んでいかれる者を求めます。	有・(無)
学生支援に関する方針	変更の有無
（定めなし）	有・(無)
教員像	変更の有無
（定めなし）	有・(無)
教員組織の編制方針	変更の有無
人事委員会の機能を重視する。また現状を再検討し、課題があればそれを解決することに努め、年齢構成と男女比のバランスがとれた自由闊達で活気ある教員組織をめざす。	有・(無)

2. 文学研究科のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学位授与数 (M・D・P)	修士、博士、修士(専門職)の学位授与数 (※乙号除く) 「大学基礎データ」	授与する学位数が多いほど〇 (人)	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M D	M D
就職・進路決定率 (M)	就職・進路決定率 「キャリアセンター統計資料」	(就職+起業・自営+就労継続) /(修了者ー進学者)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
博士後期課程への進学者数 (M)	進学者数 「キャリアセンター統計資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
日本学術振興会 特別研究員数(新規) (D)	特別研究員のうち、当該年度の新規採用者 「研究推進社会連携機構資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
研究者輩出数(D) (将来)			現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

(2)研究科独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
文学研究科学生研究支援金の申請者数	院生に対する研究支援金制度(学会発表の旅費補助・研究発表ポスター作成費補助・論文の外国語校閲料補助など)への申請人数	申請者数が多いほど〇 (人数)	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
学会での院生による発表件数	国内・国外で開催された学術学会での大学院生による発表件数(口頭発表・ポスター発表の合計)	発表件数が多いほど〇 (件数)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
修了後の進路の満足度	修了後の進路の満足度 (「とても納得している」～「あまり納得していない」の5段階評価) 修了時調査	5 段階評価のうち、 A「とても納得している」または B「ある程度納得している」 と回答した比率(%)					
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表			
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定7項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く7項目対して A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」 と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

(4)認証評価に関する KPI

KPI	定義	基準	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
収容定員充足率	当該年度 5 月 1 日時点の収容定員に対する在籍学生数の割合 大学基礎データ表2	在籍学生数/収容定員(%) ※認証評価上(大学基準協会)は、 (M)0.50 以上 (D)0.33 以上 を適切性の目安としている。		非公表	非公表		

提出日：2025 年12月12日
社会学部

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜社会学部＞教学改善シート

学部における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
1）研究演習の運営方法（1クラスあたりの学生数など） 2）専攻分野や各研究演習のテーマに関する学生の理解の促進 3）研究演習にむけた準備科目のさらなる機能化	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
1）アカデミック・アドバイザー制度の運用改善 2）学生の個別事情の多様化をふまえた総合支援センターとの連携 3）各種奨学金への応募に関する学部内手続きのあり方の検討 4）企業等のインターンシップ早期化による授業運営への影響	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
1）一般入試の志願者層の地域的多様性のさらなる向上、学部の特色や魅力の発信強化 2）入試方式ごとの定員配分の検討、優秀な外国人留学生の受け入れ促進 3）指定校推薦制度の運用に関する再検討、入学者の地域的多様性のさらなる向上	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
1）海外への留学生派遣のさらなる促進	

1. 社会学部の理念、目的、各種方針

社会学部の理念	変更の有無
社会学部は、「真理はあなたたちを自由にする」（ヨハネによる福音書 8 章 32 節）という聖句を基本精神~~社会学~~とし、社会学・メディア学・社会心理学・文化学の研究と教育を通して、自由で自律的な個人から成る、多様で持続可能な共生社会の実現に寄与することを基本理念とする。	有
社会学部の目的	**変更の有無**
社会学部は、社会学・メディア学・社会心理学・文化学の学術研究を推進するとともに、学士課程教育を通して、自由で自律的な態度、多様で持続可能な共生社会の実現を目指す意欲、幅広くかつ系統的な学術的知識と批判的思考力、実践的な汎用的技能を身につけ、グローバル化した現代社会で活躍できる人物の養成を目的とする。	有
学位授与方針（DP）	**変更の有無**
「Kwansei コンピテンシー」の獲得を念頭において社会学部のディプロマ・ポリシーを以下のとおり定める。 1.［態度・関心］ 建学の精神にもとづく態度と社会・文化・人間への関心 ①自らが修得する知識・技能を、自己のみならず社会をよりよくするために用い、それにもとづいて、共生社会の実現に貢献しようとする基本的な態度を身につけている（スクールモットーである“Mastery for Service” の態度）。 ② 現代社会やそこに生きる人間、そして異なる文化に深い関心をもち、他者との共生について生涯にわたって学び、考え続けていく意欲をもっている。 2.［知識・思考］ 社会学を核とする幅広くかつ系統的な知識と思考力 ① 社会学を核とする学問の系統的で幅広い知識を身につけ、現代社会やそこに生きる人間について考察し、グローバル化に伴う諸課題とその解決に向けた諸実践について理解している。 ② 社会学的な視点と思考力（社会学的想像力）を身につけ、論理的かつ実証的で批判的な思考や判断ができる。 ③ 社会調査の実践的な意義を理解し、社会調査についての基本的な知識を身につけている。 3.［技能・表現］ 実践的なジェネリック・スキル（汎用的技能） ① 生涯にわたって学習するための技能（ICT を用いた情報収集・分析・評価の能力、論理的・批判的な思考能力、数量的スキル、表現・伝達能力など）を身につけている。 ② 日本語および一つ以上の外国語によって、他者の表現を的確に理解（読み・聞き）し、自己の考えをわかりやすく~~表現~~伝達（書き・話す）するためのコミュニケーション・スキルを身につけている。 ③ 社会調査についての基礎的な技能を身につけている。 4.［統合的能力］ 総合的学習成果としての課題解決能力 上記1～3の学習成果を総合的に活用して、自ら課題を発見し、その課題を学術的に分析・解決する能力を身につけている。	有
教育課程の編成・実施方針（CP）	**変更の有無**
社会学部は、学位授与の方針（ディプロマポリシー）にもとづいて、Ⅰ群科目（必修科目）、Ⅱ群科目（クラス登録科目）、Ⅲ群科目（選択必修科目）およびⅣ群科目（自由選択科目）を系統的に配置する。 Ⅰ群科目（必修科目） 「キリスト教科目」（キリスト教学A・B） 建学の精神にもとづく態度を身につける科目（DP-1①） 「言語教育科目（必修）」 諸言語によるコミュニケーション・スキルを身につける科目（DP-3②） 「演習科目」（基礎演習 A・B、研究入門演習、研究演習、卒業研究演習） 「卒業論文」 社会・文化・人間への関心と生涯にわたる学習意欲を養う（DP-1②）とともに、継続的かつ主体的に学習するための汎用的技能を身につけ（DP-3①）、最終的に学士課程教育の集大成として、自ら課題を発見し、その課題を学術的に分析・解決する能力を身につける（DP-4）科目 「リサーチ・メソッド入門科目」（社会調査入門（概論）、社会調査入門（企画）、社会調査入門（集計）） 社会調査の基礎的知識を学び、そのプロセスや意義を理解する能力を身につける科目（DP-2③、DP-3③） Ⅱ群科目（クラス登録科目） 「入門科目」（社会学研究入門、メディア学研究入門、社会心理学研究入門、文化学研究入門） 社会学、メディア学、社会心理学、文化学に関する基礎的な知識と基本的な考え方を身につける科目（DP-2①②） 「リサーチ・メソッド基礎科目」（データ分析（基礎）、質的研究法） 定量・定性的な方法を用いてデータを分析し、社会現象に関する結論を導き、結果を解釈する能力を身につける科目（DP-2③、DP-3③） Ⅲ群科目（選択必修科目） 「リサーチ・メソッド発展科目」（データ分析（応用）、社会調査実習） リサーチ・メソッド入門科目・基礎科目で学んだ知識を基盤に、社会調査を企画・実施する実践的能力と、高度なデータ分析技能を修得し、社会現象を多面的に読み解く能力を身につける科目（DP-2③、DP-3③） 「専攻科目」「専門基礎科目」 社会学・メディア学・社会心理学・文化学を中心に、幅広くかつ系統的な学術的知識を身につける科目（DP-2①②） Ⅳ群（自由選択科目） 学生が各自の必要と興味に応じて自由に履修し、学習成果を補完あるいは拡張するための科目 専攻横断プログラム（社会調査エキスパート、ソーシャル・データサイエンス、文化コーディネート、Global Program in Sociology、インクルージョン・スタディーズ、ジェンダー・スタディーズ） 所定の科目群から自らの関心にもとづき履修し、現代社会やそこに生きる人間について考察するとともに、グローバル化に伴う諸課題とその解決に向けた諸実践について理解するためのプログラム（DP-1①、DP-2①②③、DP-3③）	有

		ディプロマ・ポリシーに対する関与の程度								
		1		2			3			4
		①	②	①	②	③	①	②	③	
Ⅰ群科目	キリスト教科目	◎	○							
	言語教育科目(必修)							◎		
	演習科目	○	◎	○	○		◎			◎
	卒業論文									
	リサーチ・メソッド入門科目			◎	◎	◎	○		◎	
Ⅱ群科目	入門科目			◎	◎	◎	○		◎	
	リサーチ・メソッド基礎科目					◎			◎	
Ⅲ群科目	リサーチ・メソッド発展科目					◎			◎	
	専攻科目			◎	◎					
	専門基礎科目			◎	◎					
Ⅳ群科目	言語教育科目(選択)							○		
	スポーツ科学・健康科学科目	○								
	情報科学科目						○			
	AI活用人材育成科目						○			
	グローバルスタディーズ科目		○					○		
	ライフデザイン科目		○							
	基盤・学際科目	○		○						
	教職教科等関連科目		○	○			○			

学生の受け入れ方針(AP)	変更の有無
【関西学院大学(学士課程)】 Ⅰ. 関西学院大学アドミッション・ポリシー 　世界を視野におさめ、他者(ひと)への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service(奉仕のための練達)”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。 　関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。 　そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多元的に評価することを基本的な方針としています。 Ⅱ. 各学部のアドミッション・ポリシー 社会学部アドミッション・ポリシー 　社会学部は、学士課程教育で培っていこうとする能力に応じて、以下の条件を満たしている者に広く門戸を開いています。 [態度・関心] ① 関西学院大学および社会学部の教育理念・教育内容を理解し、それに基もとづいて人間的に成長しようとする意志をもっていること。 ② 社会・文化・人間について、そして現代社会のさまざまな現象や問題について基本的な関心をもち、社会学・メディア学・社会心理学・文化学を学ぶ意欲と見通しをもっていること。 [知識・思考] ① 高等学校で学ぶ基本的学科目について、優れた学力水準にあること。社会学・メディア学・社会心理学・文化学を学ぶうえで、その基礎となる、歴史(日本史・世界史)、地理、政治・経済、現代社会に関する基本的な知識を身につけていること。 ② 論理的かつ実証的な思考や判断の基礎となる、日本語(国語)、数学についても、十分な能力を身につけていること。 [技能・表現] ① 自分で情報を集め、自分で考え、それを表現したという経験をもっていること。 ② 相手の考えを理解するとともに、自分の考えを表現するために必要な、日本語および英語(あるいは他の外国語)の基礎的な運用能力を身につけていること。 入学試験は、教科・科目に関する筆記試験を行う一般選抜入試と、面接(口頭試問含む)等を採り入れた各種入学試験を行います。アドミッション・ポリシーが求める各要素(「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」)は、それぞれの入学試験において、重み付けを行い評価します。 Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー 1. 一般選抜入学試験 　一般選抜入学試験は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。 　一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。 　全学部日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学部日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述」による入学試験も実施しています。 　学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語(記述式含む)」「国語(記述式含む)」を必須とし、「日本史」「世界史」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。なお文学部・法学部では「日本史」「世界史」「数学(記述式)」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については学部個別日程において「英語(記述式含む)」「国語(記述式含む)」の 2 科目による筆記試験を行っています。 　理系入学試験においては全学部日程を 2 日間実施、入試制度も 2 種類実施しています。総合型および数学・理科重視型においては、本学で学ぶために必要な「英語」「数学(記述式)」を必須とし、理科(記述式)「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。 　一般入学試験共通テスト併用／英数日程は、英語・数学型、共通テスト併用型・英語、共通テスト併用型・数学の3方式を実施しています。英語・数学型は、関西学院大学の「英語(記述式含む)」と「数学(記述式)」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。共通テスト併用型・英語、共通テスト併用型・数学は、関西学院大学の「英語(記述式含む)」または「数学(記述式)」に、大学入学共通テストの教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総	有

合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。

大学入学共通テストを利用する入学試験は、「一般入試とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入学共通テストで実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入学共通テストの得点のみで合否判定を行います。

1 月出願においては、総合政策学部3科目英数型を除く文系学部は「外国語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を 3 科目型、5 科目型の方式で実施します。また「外国語」「国語」「数学」「地理歴史・公民」「理科」を必須とする 7 科目型を実施します。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。

また、3 月出願においては、文系学部は「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。

また、大学入学共通テストを利用する入学試験(1 月出願 3 科目型(英語資格・検定試験利用))、大学入学共通テストを利用する入学試験(1 月出願 5 科目型(英語資格・検定試験利用)は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の 4 技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語資格・検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入学共通テストの教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2. グローバル入学試験

グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業におけるインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)に積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に 3 つのカテゴリーで実施する入学試験です。

① 国際的な活躍を志す者を対象とした入学試験

＜文系学部＞

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、英語能力に加え、留学経験、模擬国連での活動など、自ら国際的な活動に取り組んだ実績を有し、国際的課題解決のための提案・実践に意欲を有するとともに、その国際的な活動で培った力を関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)に挑戦することでさらに発展させ、国際社会で活躍できる力を身に付けることを志す者を求めています。

第 1 次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。

第 2 次審査では、学部毎に実施する面接(口頭試問含む)により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

＜理系学部＞

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、自然科学に関する科目について一定の学力を有した上で、英語能力や高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験、自然科学分野における特記すべき国際交流経験、国際科学技術コンテストに出場した経験のいずれかを有し、国際的に活躍する科学者や技術者になることを志す者を求めています。

第 1 次審査では、調査書等の書類に基づき「主体性」を中心に書類審査を行います。さらに入学後に必要な数学、理科の基礎知識を問う筆記試験にて「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果と合わせて総合的に評価します。

第 2 次審査では、学部毎に実施する面接(口頭試問含む)により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを総合的に評価します。

② インターナショナル・バカロレア入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP(ディプロマ・プログラム)の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有するとともに、入学後は、本学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)を通して、国際社会で活躍する能力を身に付けることを志す者を求めています。

第 1 次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。

第 2 次審査では、学部毎に実施する面接(口頭試問含む)により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

③ 帰国生徒入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、家庭の事情等により海外に長期間滞在し、海外の教育を受けた者で、日本での生活や短期間の留学では身に付けることのできない主体性や価値観、多角的視点、困難を乗り越えた経験などを持ち、それらを本学での学生生活や学びに生かそうとする者を求めています。多様な背景を持つ学生が集い刺激し合うことで、キャンパスが活性化する教育的効果も望んでいます。さらに、帰国生徒が他の学生と相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長することにも期待します。

第 1 次審査では、筆記審査を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価します。

第 2 次審査では、学部毎に実施する面接(口頭試問含む)により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、自己推薦書、志望理由書、学校長推薦書等の提出書類による書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

① 院内推薦入学

1)関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

2)関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

② 継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等学校の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

③ 提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

④ 系属校推薦入学
⑤ 協定校推薦入学
1)キリスト教学校枠
　関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
　審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
2)グローバル枠
　関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21 世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
　審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
3)グローバル＋キリスト教校枠
　関西学院大学協定校推薦入学は、21 世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。
　審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
⑥ 指定校推薦入学
　指定校推薦入学は一定の学力を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接（口頭試問含む）によって総合的に評価し受け入れるための制度です。出願書類と面接（口頭試問含む）において、一定水準以上の「知識・技能」、各学部で学ぶために必要な「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」が備わっているか等を評価し、入学後の勉学における明確な志向および意欲の評価に重点を置き総合的に審査しています。
　社会学部
　関西学院大学社会学部において勉学することに強い意欲をもつ成績優秀な生徒を、広く国内外から推薦によって求め、建学の精神に基づく将来性ある人物を育成することを目的とします。
　審査では、志願提出書類、面接（口頭試問含む）を通じて、「態度・関心」「知識・思考」「技能・表現」を多面的・多元的に評価します。

4. 探究評価型入学試験
　関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を発見し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を持ち、多様な人々と協働して学ぶことが出来る者を求めています。
　第1次審査では、探究活動の成果物含む提出書類を審査し、主体性や協働性、課題発見・解決能力、また、本学で学ぶにふさわしい「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価します。
　第2次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）や探究活動に関するプレゼンテーション等で探究活動のプロセスや自己の成長、入学後の志望学部での学びの意欲や学びの計画などを評価します。

5. UNHCR難民高等教育プログラムによる推薦入学
　「UNHCR難民高等教育プログラムによる推薦入学」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連UNHCR協会との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。
　日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。
　こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。
　国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連UNHCR協会の推薦に基づき、面接（口頭試問含む）を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

6. スポーツ選抜入学試験
　関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後に学業とスポーツ活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化とスポーツ活動の一層の振興に寄与することを目指しています。
　第1次審査では、書類審査にてスポーツ活動における実績を評価するとともに、筆記審査にて、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を評価します。
　第2次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）等により、志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

7. 外国人留学生入学試験
　本学は、米国南メソジスト監督教会の宣教師、W. R. ランバスによって創設されました。開学当初から多くの外国人教員が教鞭をとっていたこともあり、外国人留学生を古くから受け入れ、日本の大学の中では国際色豊かな大学としてその学風を育んできました。
　この入学試験制度は外国人留学生を対象とし、さまざまな国からの留学生を受け入れることにより、大学の国際性を一層高め、ひいてはキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待した、いわゆる「多元的入試」の一環として実施されます。
　出願時の提出書類に基づき審査を実施し、本学で学ぶにあたって必要な日本語力および、基礎学力を有しているかを審査した後、各学部が面接審査（口頭試問を含む）・筆記試験等を実施し、志願する学部で学ぶ意欲や人間性などを中心に評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し、選抜します。

学生支援に関する方針	変更の有無
社会学部は、修学、生活および進路にかかわる問題をかかえる学生に対して、学生支援委員会、研究演習担当教員および事務室が連携して、支援を行う。 修学支援 アカデミック・アドバイザー制度により、単位修得が一定単位数に満たない学生を対象に個別的相談と教育的指導を行う。留年者および休・退学者についての状況を把握し、必要な支援を行う。障がい学生については、総合支援センターと連携しながら、授業および試験などについて、必要な措置をとる。 生活支援 学生生活上の問題について支援を必要とする学生を対象に、学生支援委員会と事務室が連携し、それぞれの状況に応じた相談・指導・支援を行う（学生相談室の案内を含む）。とくに経済的問題については、各種奨学金の案内を行う。	有・無

進路支援 キャリアセンターが実施するキャリアガイダンス、各種支援セミナーの告知を行う。最終学年次には、就職未決定の学生を把握しキャリアセンターにおける求人紹介や進路支援面談に結び付けるため、研究演習を通じて進路決定状況調査を実施する。	
教員像	変更の有無
キリスト教主義教育にもとづいた関西学院大学の理念と目的、そして社会学部の理念と目的を十分に理解し、必要とされる専門領域できわめて優れた研究能力と研究業績を有すると同時に、学士課程教育に対する強い熱意と、学生指導における高い能力・資質そして実績を有する者。	有・無
教員組織の編制方針	変更の有無
1. 教員は、任用基準にしたがって、助教・専任講師・准教授・教授に区分される。 2. 教員は、それぞれの専門分野にしたがって、教育課程上の区分である「専攻分野」で開講される「研究演習（ゼミ）」の担当者として配置され、「専攻分野」の運営に責任を負う。 3. 「英語」、「第2外国語」、「基礎演習」、「社会学入門」、「リサーチ・メソッド科目」、および「FD」については、運営のための部会を組織し、各コンビーナーがこれを統括する。 4. 各「専攻分野」および「英語」、「第2外国語」、「基礎演習」、「社会学入門」、「リサーチ・メソッド科目」、および「FD」の各コンビーナーは、「カリキュラム検討委員会」を組織し、学部の教育全体に責任をもち、副学部長（教務担当）がこれを統括する。 5. 学部の運営に求められる機能（入試制度、広報、学生支援など）にしたがって、各種委員会を組織し、各コンビーナーがこれを統括するとともに、学部長および学部長室委員会（学部執行部）が全体を統括し、最終的な学部の意思は教授会が決定する。 参考：カリキュラム検討委員会規程など	有・無

2. 社会学部のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
DPに定める資質・能力の獲得状況	あなたはこの授業を通して卒業までに求められる資質・能力を向上できたと思いますか。(「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」) の回答割合(%)	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Kwansei コンピテンシー獲得状況	知識・能力・資質の程度 全項目 (「大変身についた」～「全く身についていない」の5段階評価) (2018～2022 年度) 当該年度卒業生と次年度 1 年生との調査による伸び (2023～2027 年度) 当該年度卒業生とその 1 年生時との調査による伸び 「IR 新入生調査」「IR 卒業時調査」	5段階評価のうち、上位2つ (「大変身についた」「やや身についた」)の回答割合(%)の平均の差 (2022 年度以降のデータの変更点 年度以降) ➡入学時と卒業時のアンケート調査においてコンピテンシーの 10 要素の総合得点(50 点満点)を確認して、学部ごとにその差の平均を算出する。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
汎用的能力の獲得状況	入学後の能力変化(表外※参照) (「大きく増えた」～「大きく減った」の5段階評価 「IR 上級生調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「大きく増えた」、B「増えた」) の回答割合(%) ➡2022 年度の調査見直しにより、当該項目は調査項目から削除。 (Kwansei コンピテンシーとの重複)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
授業外学修時間	授業外時間に、授業課題や準備時間、復習をする時間(一週当たりの平均) 「IR1年生調査、IR 上級生調査」 ➡【2022 年度データの変更点】 2022 年度実施分から調査名称を「学生調査」に変更。	一週あたり 6 時間以上の割合 ➡【2022 年度データの変更点】 学生調査の変更により、2022 年度以降は「一週あたり 5 時間以上」の割合に変更。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業目的・到達目標の達成度	あなたは、シラバスに示された授業の目的や、到達目標を達成できると思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業満足度	あなたは、全体としてこの授業に満足していますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
留学等派遣数	協定校への派遣学生数 「国際連携機構資料」	大学間協定に基づく派遣日本人学生数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
TOEIC/TOEFL 等の英語運用能力	SGUの取組みで確認している TOEFL 換算得点目標の達成人数 ＜参考(学部別目標値)＞ ■国際:TOEFL 換算 550 点 ■文・総政:TOEFL 換算 540 点 ■その他:TOEFL 換算 520 点 「SGU に関する調査」	左記「TOEFL 換算得点」目標の達成人数(人)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
学生生活満足度	大学生活を振り返って、学生生活は満足したものでしたか。 (「満足」～「不満」の5段階評価) 「IR 卒業1年目調査」	5 段階評価のうち、上位2つ (A「満足」、B「そこそこ満足」) の回答割合(%) ＊2018 年度調査までは、A「とても満足」、B「満足」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
就職率	就職率 「キャリアセンター統計資料」	就職者数(自営含まず)／就職希望者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
大学院進学率	大学院進学率 「キャリアセンター統計資料」	大学院進学者数/学部卒業者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(※)「知識・技能・能力の獲得状況」の「知識・技能・能力」とは、一般的な教養、論理的思考力、専門分野や学科の知識、グローバルな問題の理解、多様性を尊重する力、主体的に行動する力、リーダーシップ力、人間関係を構築する力、対立する価値を調整する力、地域社会が直面する問題を理解する能力、国民が直面する問題を理解する能力、困難を乗り越える粘り強さ、文章表現の能力、外国語の運用能力、生涯にわたって学び続ける能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、数理的な能力、コンピュータの操作能力、誠実さと品位、時間を効果的に利用する能力、卒業後に就職するための準備の程度、を指す。

(2)学部独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
①「教育内容(ゼミ)」に関する満足度	「ゼミや演習などの教育内容」における満足度評価 「IR 上級生調査」	5段階評価のうち、 「とても満足」「満足」合計 80% なお、「実験や実習などの教育内容」「教員と話をする機会」「大学の教職員に将来のキャリアの相談をした」も適宜参照する。	非公表	非公表	非公表	非公表	―
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			―	―	―	―	―
②卒業生の進路データ	A:現役卒業生における就職率 B:現役卒業生における有名企業 400 社就職者比率 ※2023 年度よりB:卒業生における有名企業 400 社就職者比率に変更する	A:84%目標(2025 年度実績) B:25%目標(2025 年度実績) なお、社会学部の教育内容(専攻領域や社会調査士資格・認定心理士資格等の取得など)と関連性の高い就職先への就職者数についても留意する	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
入試難易度 (偏差値)	ベネッセの進研模試のデータにおける合格可能性 60%以上となる偏差値 (次年度偏差値予想を記載) 入学センター		非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
同系列学部勝敗	ベネッセの進研模試のデータにおける同系列学部合格者の競合大学(同志社、立命館、関西)との入学比率 (当該年度結果を記載) 総合企画部	本学と相手校の両方に合格していずれかに入学した受験生のうち、本学に入学した者の比率 本学入学者数/(本学入学者数+併願校入学者)(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC 年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
ダブルチャレンジ派遣者数	当該年度の卒業生のうち、ダブルチャレンジ制度のアウェイチャレンジの単位を取得して卒業した学生数 グローバル化推進本部	①インターナショナルプログラム②ハンズオン・ラーニング・プログラム③副専攻プログラムのいずれかで単位取得し卒業した学生数 ※学部毎は延べ人数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」~「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5段階評価のうち「満足」と回答した比率(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
スクールモットーの浸透度	スクールモットー“Mastery for Service”を普段意識する程度は (「常に行動の規範としている」~「全く意識しない」の 5 段階評価) IR 卒業生調査	5段階評価のうち、 A「常に行動の規範としている」またはB「ときどき意識している」 と回答した割合(%) ＊2018 年度調査までは A「常に行動の規範としている」または B「頻繁に意識している」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 7 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」~「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	設問 7 項目の「そう思う」「どちらかちいえばそう思う」と回答した割合の平均値 ➡2022 年度までは「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く6項目対する平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

提出日：2025 年 12 月12日

社会学研究科

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜社会学研究科＞教学改善シート

研究科における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
1） 授業評価アンケートの実質化 2） 外国語授業の運営方法	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
1） 多様な学生の存在を前提とした教育のための情報共有や研修	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
1） 留学生選抜の充実	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
なし	

1. 社会学研究科の理念、目的、各種方針

社会学研究科の理念	変更の有無
社会学研究科は、社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学の専門的かつ先端的研究の推進、専門的研究能力と技能の教育・育成、研究成果の社会への還元を通して、自由で自律的な個人から成る、開かれたよりよい社会の実現に寄与することを基本理念とする。	無
社会学研究科の目的	**変更の有無**
社会学研究科は、社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学の先端的研究を推進するとともに、博士課程前期課程では、社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学の専門的知識と技能を身につけ、適切な研究テーマと課題の設定、および論理的かつオリジナルな分析を行なう能力と技能を身につけることによって、自らの専門性を通して、幅広く社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。さらに博士課程後期課程では、社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学の専門的研究に従事することによって、専門分野の研究の発展に寄与し、社会に貢献できる人物を養成することを目的とする。	無
学位授与方針（DP）	**変更の有無**
博士課程前期課程 1. [態度・関心]社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学という専門性の見地から、さまざまな社会現象や社会問題を説明・理解しようとする強い意志と態度を身につけ、専門性にもとづいて、幅広く社会に貢献しようとする強い意欲を身につけている。 2. [知識・思考]社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学という専門性の見地から、現実社会を分析していくための専門的知識と専門的思考力、社会調査についての専門的知識を身につけるとともに、高度に専門分化した知識をより大きな文脈のなかに位置づけ、関連づけるために必要な幅広い知識と柔軟な思考力を身につけている。 3. [技能・表現]ジェネリック・スキル（ICT を用いた情報収集・分析・評価の能力、論理的・批判的な思考能力、数量的スキル、表現・伝達能力など）を、社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学という専門性のレベルで活用する力を身につけているとともに、同様のレベルで、日本語および一つ以上の外国語によってコミュニケートするためのスキルを身につけている。さらに、社会調査についての専門的な技能を身につけている。 4. [統合的能力]上記の1～3の学習成果を総合的に活用して、適切な研究テーマと課題を自ら設定し、先行研究にもとづいて、論理的・実証的な分析を行い、オリジナルな仮説的結論を提示する能力と技能を身につけている。 博士課程後期課程 1. [態度・関心]自らの専門的研究を発展させ、社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学の研究に従事していこうとする強い意志と態度を身につけ、専門的研究を通して社会に貢献しようとする強い意欲を身につけている。 2. [知識・思考]自らの専門的研究を発展させていくために必要な専門的知識と専門的思考力を身につけるとともに、自らの専門的研究を他の関連する専門的研究の文脈のなかに位置づけ、関連づけるために必要な幅広い知識と柔軟な思考力を身につけている。 3. [技能・表現]ジェネリック・スキルを、自らの専門的研究を発展させるという見地から活用する力を身につけているとともに、同様の見地から、日本語および一つ以上の外国語によってコミュニケートするためのスキルを身につけている。 4. [統合的能力]上記の1～3の学習成果を総合的に活用して、当該の専門分野における研究を確実に前進させる、優れた研究業績を発表する能力と技能を身につけている。	無
教育課程の編成・実施方針（CP）	**変更の有無**
社会学研究科は、学位授与の方針（ディプロマポリシー）にもとづいて、以下の科目を体系的に配置する。 「研究演習」（指導教員・副指導教員） 社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学という専門性にもとづいた態度・関心、知識・思考を身につけるとともに、適切な研究テーマと課題を自ら設定し、論理的・実証的な分析を行い、オリジナルな仮説的結論を提示する能力と技能を身につけるための科目（DP-1、2、4）。 ・理論講義 特定の領域・方法に偏ることなく社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学における発想の基礎を幅広く習得し、柔軟な思考力を身につけるための科目（DP-2）。 ・特殊講義／特殊研究 より専門的で、領域や方法に焦点をあてた知識や技能を身につけるための科目（DP-2、3） ・社会調査関連科目 社会調査に関する知識・技能・分析方法を身につけるための科目（DP-2、3） ・文献講読／文献研究 社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学に関する英語並びに諸言語の文献を読みこなす能力を身につけるための科目 ・「修士論文作成合同演習 A・B」（研究科委員長、副委員長、任期制教員） 修士論文完成を研究科全体で支援するため、着実な文献渉猟に基づく先行研究の展望、データや分析結果の提示方法など学術論文執筆の基礎力を身につけるための科目（DP-4） ・「博士論文作成合同演習 A・B」（研究科委員長、副委員長、任期制教員） 博士論文完成を研究科全体で支援するため、専門領域外の読み手・聞き手にも説得力ある議論を展開することを目標に、独創的な理論構築と緻密な方法論の提示など学術論文執筆の応用力を身につけるための科目（DP-4） 博士課程前期課程の実施方針 ・指導教員・副指導教員の「社会学研究演習 A・B」または「社会心理学研究演習 A・B」または「文化人類学・民俗学研究演習 A・B」を1年次・2年次ともに必修科目とする。これにより、専任教員2名の指導の下、適切な研究テーマと課題を設定し、修士論文の準備・作成を進める。 ・「社会学文献講読（英）A・B」または「社会心理学文献講読（英）A・B」または「文化人類学・民俗学文献講読（英）A・B」を必修科目とし、主に1年次に履修する。これにより、各分野の英語論文を自分の力で読解するためのスキルを修得する。 ・「社会学理論講義 A・B」または「社会心理学講義 A・B」または「文化人類学・民俗学講義 A・B」を選択必修科目とし、主に1年次に履修する。これにより、特定の方法・領域に偏ることなく社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学の発想の基礎を修得する。 ・「修士論文作成合同演習 A・B」において、1年次（聴講）では研究テーマ・研究計画の報告を、2年次（履修）では修士論文の進捗状況についての報告を行い、研究科教員、大学院生、研究員からのコメントを受けて、修士論文の作成を進める。本演習での報告機会を修士論文作成のためのマイルストーンとするとともに、他分野・他学年の院生の報告に接することで研究に必要な発想や技法を修得する。 ・これ以外に、「その他指導教員が履修を指導する科目」として、学生の研究関心に従って、上記のように配置された研究科開講科目を自由に組み合わせて履修することができ、オリジナルな研究の進展に資することとする。 博士課程後期課程の実施方針 ・指導教員の「社会学研究演習 A・B」または「社会心理学研究演習 A・B」または「文化人類学・民俗学研究演習 A・B」を1・2・3年次ともに必修科目とする。これにより、専任教員2名の指導の下、適切な研究テーマと課題を設定し、博士論文の準備・作成を進める（後期課程においては副指導教員の研究演習は選択科目とする）。 ・「社会学文献研究（英）A・B」または「社会心理学文献研究（英）A・B」または「文化人類学・民俗学文献研究（英）A・B」を必修科目とする。これにより、より各分野の英語論文を自分の力で読解するためのスキルを修得する。 ・「博士論文作成合同演習 A・B」において、博士論文の進捗状況について報告を行う。1年次（聴講）では博士論文の構想を、2年次（履修）では博士論文全体の構想と現在準備中の論文・学会発表などについての報告を行う。これにより、2年次までに「博士論文キャンディデート」の授与をめざす。	無

3年次(聴講)では博士論文全体の構想と現在準備中の論文・学会発表などについての報告、および博士論文の概要についての報告を行い、博士論文の完成・提出をめざす。このように、本演習での報告機会を博士論文作成のためのマイルストーンとするとともに、研究科教員、大学院生、研究員からのコメント、他分野・他学年の院生の報告に接することで、博士論文に求められる説得力や応用力を修得する。 ・これ以外に、「その他指導教員が履修を指導する科目」として、学生の研究関心に従って、上記のように配置された研究科開講科目を自由に組み合わせて履修することができ、高度な専門性を踏まえたオリジナルな研究の進展に資することとする。	
学生の受け入れ方針(AP)	変更の有無
社会学研究科は、博士課程教育で培っていこうとする能力に応じて、以下の条件を満たしている者に広く門戸を開いている。 博士課程前期課程 1. [態度・関心]さまざまな社会現象や社会問題に強い関心をもち、社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学という専門性の見地から、それらにアプローチすることを学習しようとする意欲と見通しをもっている。 2. [知識・思考]社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学に関する基礎的レベルの知識と思考力をもち、論理的かつ実証的な思考や判断ができる。 3. [技能・表現]社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学に関する基礎的レベルで、ジェネリック・スキルを活用でき、同様のレベルで、日本語および一つ以上の外国語によって、コミュニケートするためのスキルを身につけている。 4. [統合的能力]上記1～3の学習成果を総合的に活用して、社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学に関する基礎的レベルで、自ら課題を発見し、その課題を分析し解決することができる。 博士課程後期課程 1. [態度・関心]社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学に関する専門的研究に着手しようとする強い意欲と態度をもち、それを展開させていくための十分な見通しをもっている。 2. [知識・思考]社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学に関する専門的研究に着手し、それを展開させていくために必要な専門的知識と専門的思考力を身につけているとともに、高度に専門分化した知識をより大きな文脈のなかに位置づけ、関連づけるために必要な幅広い知識と柔軟な思考力を身につけている。 3. [技能・表現]社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学に関する専門的研究に着手し、それを展開させていくために必要なレベルで、ジェネリック・スキルを身につけているとともに、同様のレベルで、日本語および一つ以上の外国語によってコミュニケートするためのスキルを身につけている。 4. [統合的能力]上記の1～3の学習成果を総合的に活用して、社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学に関する専門的レベルで、適切な研究テーマと課題を自ら設定し、先行研究にもとづいて、論理的・実証的な分析を行い、オリジナルな仮説的結論を提示する能力と技能を身につけている。	無
学生支援に関する方針	変更の有無
社会学研究科は、修学、生活および進路にかかわる問題をかかえる大学院生に対して、研究科副委員長、研究科委員長補佐、指導教員、副指導教員および事務室が連携して、支援を行う。 修学支援 指導教員および副指導教員を中心に、履修および単位修得に関する個別的相談と教育的指導を行う。大学院生サポートプログラムによって、各種の修学支援を行う。留年者および休・退学者についての状況を把握し、必要な支援を行う。障がい学生については、総合支援センターと連携しながら、授業などについて、必要な措置をとる。 生活支援 学生生活上の問題について支援を必要とする大学院生を対象に、研究科副委員長、指導教員、副指導教員および事務室が連携し、 それぞれの状況に応じた相談・指導・支援を行う(学生相談室の案内を含む)。とくに経済的問題については、各種奨学金の案内を行う。 進路支援 キャリアセンターが実施するキャリアガイダンス、各種支援セミナーの告知を行う。大学院生サポートプログラムセミナーを通して、就職活動の仕方や研究 職を目指すために必要な心得・技能などについてガイダンスを行う。	有・無
教員像	変更の有無
キリスト教主義教育にもとづいた関西学院大学の理念と目的、そして社会学研究科の理念と目的を十分に理解し、必要とされる専門領域できわめて優れた研究能力と研究業績を有すると同時に、博士課程(前期課程および後期課程)教育に対する強い熱意と、大学院生指導における高い能力・資質そして実績を有する者。	有・無
教員組織の編制方針	変更の有無
1. 教員は、大学院指導教員の任用基準にもとづいて、博士課程前期課程および後期課程に配置される。 2. 教員は、専門分野(社会学、社会心理学、文化人類学・民俗学)、また教育課程に関わる区分(「セオリー／モデル」「フィールド／メソッド」「リサーチ／データ／プレゼンテーション」の3つの系)にしたがって、それぞれの運営に責任を持つ。 3. 研究科の運営に求められる機能(入試制度、FD、その他諸問題)にしたがって、各種委員会を組織するとともに、研究科委員長および副委員長がこれを統括し、最終的な研究科の意思は研究科委員会で決定する。	有・無

2. 社会学研究科のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学位授与数 (M・D・P)	修士、博士、修士(専門職)の学位授与数 (※乙号除く) 「大学基礎データ」	授与する学位数が多いほど○ (人)	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M D	M D	M D
就職・進路決定率 (M)	就職・進路決定率 「キャリアセンター統計資料」	(就職+自営+就労継続)/(修了者ー進学者)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
博士後期課程への進学者数 (M)	進学者数 「キャリアセンター統計資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
日本学術振興会 特別研究員数(新規) (D)	特別研究員のうち、当該年度の新規採用者 「研究推進社会連携機構資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
研究者輩出数(D) (将来)	2006 年 3 月以降の後期課程修了・退学・除籍者のうち、に大学の専任研究職として就職した者(社会学研究科調べによる参考値)		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(2)研究科独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
前期課程志願者数(M)	当該年度の前期課程志願者の総数		非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
前期課程入学者数(M)	当該年度の前期課程入学者の総数		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」～「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5 段階評価のうち「満足」と回答した比率(%)					
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 7 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く7項目対して A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」 と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

(4)認証評価に関するKPI

KPI	定義	基準	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
収容定員充足率	当該年度 5 月 1 日時点の収容定員に対する在籍学生数の割合 大学基礎データ表2	在籍学生数/収容定員(%) ※認証評価上(大学基準協会)は、 (M)0.50i 以上 (D)0.33 以上 を適切性の目安としている。		非公表	非公表		

提出日：2026 年 3 月 13 日

法学部

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜法学部＞教学改善シート

学部における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
○コース制の学修成果の測定 現カリキュラムは5つのコースを設けており、「学生が身に付けたい力」「興味・関心」に応じて選択できるように設計している。現カリキュラムの設計時に、コース制の到達目標を測るための指標や方法等が明確に示されていない。2024年度に実施した学生アンケート（2年生から4年生を対象）はわずか90人の回答であり、コース制を見直すうえで有効な手段とはいえない。コース制の学修成果や成否を判断するには、新たに検討する必要がある。 ○オーバーサイズクラスへの対応 法学部開講科目は原則、「対面授業」「履修人数の制限なし」で開講している。これは直接的なコミュニケーションの提供や、学生の希望通りの履修が担保できている一方、毎年度、オーバーサイズクラスの授業が発生しており、教室の収容定員では収まらない授業が発生している。履修者が多い授業では 1,000 人を超えており、教員の負担や授業の質の低下につながる恐れがある。一部科目によるオンライン授業の推進や履修制限を検討する余地がある。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
○アカデミック・アドバイザー面談の質保証 春・秋の学期冒頭、主に1、2年生の成績不振者を対象に呼び出し、教職員で面談を実施している。2025 年度においては面談時に問いかける内容や手順、留意点などをまとめたガイドラインは学部独自で作成し、面談者に共有したうえで実施しているものの、依然として過去に呼び出したことのある学生を中心に、面談の呼びかけをしても拒否される割合は高止まりしており（2025 年度面談者数 136 名、面談率 58.0%、前年度比 6.4%減）、面談を経て成績や生活状況が改善した学生に対し、好転の要因を探るべく依頼を開始したアンケートの回収率も 20.3%（回答数／実施者数）と低迷している。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
志願者数は 2 年連続で増加しているものの、関関同立内で法学部に同時合格した受験生のうち、関学法学部を選んだ割合は減少傾向にある。具体的には、同志社 2.3%、立命館 20.1%、関西大学 44.9%と、多くの受験生が他大学を選択しており、関学法学部は関関同立内で最下位となっている。さらに、河合塾の入試難易度予想ランキングでは、関学の法律学科が偏差値 55.0、政治学科が 52.5 とされ、同志社（62.5）、立命館（57.5）、関西大学（57.5）と比較しても最下位である。 こうした状況を改善し、関学法学部の人気を回復するためには、第一志望で志願する学生を増やすことが不可欠である。また、一般入試比率を 50%で安定させるためにも、より戦略的な広報活動の強化が求められる。	

4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
○グローバル演習の拡充 法学部では、国際的な学びを推進するために、アメリカ・台湾・イギリス・中国への留学プログラムを展開し、毎年約 50 名の学生を派遣している。しかし、現状では特定の教員に業務負担が集中しており、留学先の地域にも偏りが見られる。このような状況は、プログラムの持続可能性や学生の多様なニーズへの対応に課題を残している。今後は、新たな留学プログラム先の開発を進めることで、地域の多様化を図り、教員負担を分散させるとともに、法学部の国際化への貢献をさらに強化する必要がある。 ○フィールドワーク演習の拡充 国内における実践的な学びの機会として、研究演習以外では PBL（課題解決型学習）を取り入れた授業として「国内フィールドワーク演習」が開講されている。現在は 2 コマのみの開講であり、受講者数に制限があるため、学生の希望に十分応えられていない状況である。こうした制約は、実践的な学びを求める学生にとって機会損失となっている。今後は、開講枠の拡大や新たなプログラムの導入を検討し、より多くの学生がフィールドワークを通じて課題解決能力を養える環境を整備することが求められる。	

1. 法学部の理念、目的、各種方針

法学部の理念	変更の有無
関西学院法学部では教育理念に「ソーシャル・アプローチ」を掲げている。 「ソーシャル・アプローチ」とは、H. F. ウッズウォース初代法文学部長の言葉である。 その内容は、次の三点に要約することができる。 第一に、日本における法学教育が官僚養成という目的を帯びていたことに対して、民間の自由な精神に基づく教育・研究を目指すこと。 第二に、資格試験の準備教育や狭い意味での法解釈学に止まらず、広く深い社会的視野と教養を重視した教育・研究であること。 第三に、建学の精神にのっとり、社会への貢献、社会的弱者に目を向けさせる視点を重視した教育・研究であること。 すなわち、民間における自由の精神、広く深い社会的視野と教養、社会貢献（奉仕）の精神という三つである。	有・(無)
法学部の目的	**変更の有無**
関西学院大学法学部は、キリスト教主義教育とソーシャル・アプローチの理念のもとに、良識を基礎に、幅広い社会的視野から論理的に物事を考察し、社会現象について深く洞察する力を育み、もって Mastery for Service を体現する市民を育成することを目的とする。 ＜法律学科＞ 本学科は、広く深い社会的視野と教養に根ざした法学の研究と教育を通じ、法の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富んだ有能にして心温かい市民を育成することを目的とする。 ＜政治学科＞ 本学科は、広く深い社会的視野と教養に根ざした政治学の研究と教育を通じ、政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富んだ有能にして心温かい市民を育成することを目的とする。	有・(無) ※DP以下も変更なし
学位授与方針（DP）	**変更の有無**
Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において関西学院大学法学部のディプロマ・ポリシーを以下のとおり定める。 関西学院大学法学部は、本学部設立以来の伝統である市民社会における自由な精神に則り、広く深い社会的視野と教養、及び社会貢献（奉仕）の精神の視点を重視するという「ソーシャル・アプローチ」の理念に基づき、法学・政治学の教育をつうじ社会に広く貢献できる人材を育成することを目的としてディプロマ・ポリシーを定める。所定の年限在学し所定の単位を修得し、下記の知識や能力あるいは技能などを習得したと認められる本学部生に、学士号を授与する。 ＜法律学科＞ 1.〔関心・意欲〕法学の視座から市民社会における自由の精神や基本的人権の重要性を理解し、社会に貢献しようとする関心と意欲を有する。 2.〔知識・理解〕広い社会的視野と教養を有し、法学の専門的知識を修得している。 3.〔技能・表現〕グローバル化する市民生活に不可欠な実践的学習能力とスキルおよびコミュニケーション能力を有する。 4.〔思考・判断〕課題発見・解決のための総合的思考力と判断力とともに、法的思考（リーガル・マインド）を身につけている。 ＜政治学科＞ 1.〔関心・意欲〕政治学の視座から市民社会における自由の精神や基本的人権の重要性を理解し、社会に貢献しようとする関心と意欲を有する。 2.〔知識・理解〕広い社会的視野と教養を有し、政治学の専門的知識を修得している。 3.〔技能・表現〕グローバル化する市民生活に不可欠な実践的学習能力とスキルおよびコミュニケーション能力を有する。 4.〔思考・判断〕課題発見・解決のための総合的思考力と判断力とともに、市民社会的思考（シヴィック・マインド）を身につけている。	有・無
教育課程の編成・実施方針（CP）	**変更の有無**
関西学院大学法学部は、ディプロマ・ポリシーに明記されている人材養成目標を達成するために、下記の重点項目を含むカリキュラムを編成し、これを実施する。 ＜法律学科＞ 1. 市民社会における自由な精神、人権や社会奉仕の重要性を主体的に深く理解するとともに、広い学際的、国際的な視野を深めることのできる科目 2. 法律学の専門的知識をコースごとに系統的に修得する科目 3. 複数の言語によるコミュニケーション能力を習得し、多文化理解を促すことを目的とする科目 4. 基礎的な学修技能を修得することができる科目 5. 以上の科目により習得した知識や能力を活用して課題発見や解決策を考察・討議する、主に少人数での双方向的な演習科目 ＜政治学科＞ 1. 市民社会における自由な精神、人権や社会奉仕の重要性を主体的に深く理解するとともに、広い学際的、国際的な視野を深めることのできる科目 2. 政治学の専門的知識をコースごとに系統的に修得する科目 3. 複数の言語によるコミュニケーション能力を習得し、多文化理解を促すことを目的とする科目 4. 基礎的な学修技能を修得することができる科目 5. 以上の科目により習得した知識や能力を活用して課題発見や解決策を考察・討議する、主に少人数での双方向的な演習科目	有・無
学生の受け入れ方針（AP）	**変更の有無**
【関西学院大学（学士課程）】（2023年度入学生） Ⅰ. 関西学院大学アドミッション・ポリシー 世界を視野におさめ、他者（ひと）への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。 関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。 そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多元的に評価することを基本的な方針としています。 Ⅱ. 法学部アドミッション・ポリシー 関西学院大学法学部は、ソーシャル・アプローチの理念に基づき、広く深い社会的視野と教養に根ざした法学・政治学の研究と教育を通じ、法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富んだ有能にして心温かい市民を育成することを目的としています。この目的を達成するために、（1）科学的な思考方法の習得、（2）広範な知識と社会的視野の獲得、（3）正しい価値観と豊かな人間性の形成、（4）人権感覚の陶冶、（5）国際的・地球的な視野の確保という教育目標を定め、①学生の多様な進路希望の実現に資する、高い社会的評価の得られる力の習得、②少人数教育による学生間・教員学生間での刺激に満ちた人格形成という実施目標を置いています。法学部は、こうした目的と目標に十分に応えることのできる学生として、基本とされる教科を着実に学習しているだけでなく、時代や場所を問わず、様々に生起する社会問題や社会現象に幅広く関心の持てる学生を受け入れることを方針としています。 入学試験ではこうした方針に基づいて、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接（口頭試問含む）を採り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。	有・無

Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー

1. 一般選抜入学試験

一般選抜入学試験は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。

一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。

全学日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述」による入学試験も実施しています。

学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語(記述式含む)」を必須とし、「国語(記述式含む)」「日本史」「世界史」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。なお文学部・法学部では「国語(記述式含む)」「日本史」「世界史」「数学(記述式)」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については学部個別日程において「英語」「国語」の2科目による筆記試験を行っています。教育学部については初等教育学コースの主体性評価方式の入試において、高等学校における生徒会活動、学校行事、課外活動等でのリーダーシップを、調査書と提出書類を合わせて評価する入学試験を実施します。

理系入学試験においては全学日程を2日間実施、入試制度も2種類実施しています。総合型および数学・理科重視型においては、本学で学ぶために必要な「英語」「数学(記述式)」を必須とし、理科(記述式)「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。

一般入学試験関学独自方式日程は、英語・数学型、関学英語併用型、関学数学併用型の3方式を実施しています。英語・数学型は、関西学院大学独自の「英語(記述式含む)」と「数学(記述式)」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。関学英語併用型・関学数学併用型は、関西学院大学独自の「英語(記述式含む)」または「数学(記述式)」に、大学入学共通テストの教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。

大学入学共通テストを利用する入学試験は、「一般入試とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入学共通テストで実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入学共通テストの得点のみで合否判定を行います。

1月出願においては、総合政策学部3科目英数型を除く文系学部は「外国語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を3科目型、5科目型の方式で実施しています。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え科目数を設定し、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。

3月出願においては、文系学部は「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。

また、大学入学共通テストを利用する入学試験(1月出願　英語検定試験活用型)は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入学共通テストの教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2. グローバル入学試験

グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業におけるインターナショナル・プログラムに積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に3つのカテゴリーで実施する入学試験です。

① 国際貢献活動を志す者のための入学試験

国際貢献活動を志す者のための入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において国際社会で活躍する能力を身に付けることを志し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、もしくは国際交流体験による異文化社会における経験を有する者で、国際的課題に関し興味をもち課題解決のための提案に意欲を有する者を対象とした入学試験です。

出願資格として、英語検定試験においてCEFR B1程度以上を有する生徒、海外における留学経験を有する生徒、模擬国連等に取り組み問題解決能力を育んだ生徒、英語弁論大会、英語エッセイコンテスト等において入賞した経験を持つ英語コミュニケーション能力を有する生徒を対象に設定し、調査書など提出された書類とあわせて、「主体性」を中心とした書類審査を行っています。

また、英語を題材とした論述試験、日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査では志望する学部の面接(口頭試問含む)により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

② インターナショナル・バカロレア入学試験

インターナショナル・バカロレア入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において、国際社会で活躍する能力を身につけることを志す者で、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP(ディプロマ・プログラム)の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有する者を受け入れるための入学試験です。出願時においてフルディプロマを取得済みの者でスコアが32ポイント以上の者、もしくは取得見込でIB PREDICTED SCOREが出願時に32ポイント以上であるものは英語論述審査が免除となります。

また日本の一条校において上記のスコアを有する者は日本語小論文が免除となります。これに満たない者については、英語を題材とした論述試験・日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する一次審査を行います。二次審査においては学部の面接(口頭試問含む)により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

③ 帰国生徒入学試験

国際化時代に伴い、海外において勤務する日本人の数は多数にのぼっています。また、外国文化摂取のために長期留学する者も増加しています。この現象に伴う帰国生徒の教育問題は高い関心事となっています。しかし、海外での教育条件や生活環境などの違いによって大学に進学できる能力を有しながらも、日本の大学入試制度に対応できないために、正当に評価されていないという問題が指摘されてきました。これに対して、本学では、全国の大学に先駆けて1964年に帰国生徒の受け入れについての規程を制定し、その先進性で評価されています。

この入学試験は、帰国生徒の海外での経験を評価して受け入れるためであると同時に、多様な学生を受け入れることによってキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待し、いわゆる「多元的入試」の一環として行っています。諸外国で勉学してきた帰国生徒が海外での貴重な経験と知識を生かし、学内での相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長していくことを期待しています。

筆記試験を実施する学部については、英語、日本語に関する知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価を行い、面接(口頭試問含む)において海外での体験において培った主体性・多様性・協働性や、本学で学ぶ意欲について評価を行います。

3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、自己推薦書、志望理由書、学校長推薦書等の提出書類による書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

① 院内推薦入学

1)関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

2)関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

② 継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等部の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

③ 提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、各校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

④ 協定校推薦入学

1)キリスト教学校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

2)グローバル枠

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

3)グローバル＋キリスト教校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑤指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接（口頭試問含む）によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

法学部

関西学院大学法学部で法律学・政治学を学ぶことに強い意欲をもち、かつそれにふさわしい能力を有する生徒を推薦に基づき入学させることによって、関西学院建学の精神を基盤として社会に対して深い洞察力を備えた人材を育成することを目的とします。

審査では志願提出書類、面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑥指定校推薦編入学

関西学院大学指定校推薦編入学制度では、指定校学校長の責任に基づいて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」等の能力や資質を有すると判断され推薦された学生を、各学部が書類審査・面接等を通して総合的に評価し、編入生として受け入れます。

4. 探究評価型入学試験

関西学院のスクールモットーは“Mastery for Service”。 これは、第4代院長C.J.L.ベーツ宣教師が学生たちに与えた言葉で、「奉仕のための練達」と訳されています。わかりやすく言えば、「人々に奉仕できる、社会に役立つ知識と人間性を、自らの主体性を持って磨き上げよ」ということです。関西学院大学では、その教育目的を具現化できる、意欲に満ちた受験生を求めています。

特に、本学で学ぶにふさわしい知識・技能、思考力・判断力・表現力を有しているだけでなく、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を持ち、多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけた学生を求めています。

一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーション・口頭試問を行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的、多元的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。

出願資格として、英語検定試験スコアCEFR A2レベル以上を有する者と設定しています。

5. UNHCR難民高等教育プログラムによる推薦入学

「UNHCR難民高等教育プログラムによる推薦入学」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連UNHCR協会との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。

日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。

こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。

国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連UNHCR協会の推薦に基づき、面接（口頭試問含む）を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

6. スポーツ選抜入学試験

この選抜入学試験制度は、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後は学業と課外活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化と課外活動の一層の振興に寄与することを目指すものです。

提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を筆記試験により評価を行います。一次合格者に対する二次審査は面接（口頭試問含む）を実施し志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

7. 外国人留学生入学試験

本学は、米国南メソジスト監督教会の宣教師、W．R．ランバスによって創設されました。開学当初から多くの外国人教員が教鞭をとっていたこともあり、外国人留学

生を古くから受け入れ、日本の大学の中では国際色豊かな大学としてその学風を育んできました。 　この入学試験制度は外国人留学生を対象とし、さまざまな国からの留学生を受け入れることにより、大学の国際性を一層高め、ひいてはキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待した、いわゆる「多元的入試」の一環として実施されます。 　出願時の提出書類に基づき審査を実施し、本学で学ぶにあたって必要な日本語力および、基礎学力を有しているかを審査した後、各学部が面接審査（口頭試問を含む）・筆記試験等を実施し、志願する学部で学ぶ意欲や人間性などを中心に評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し、選抜します。	
学生支援に関する方針	変更の有無
法学部では、ソーシャル・アプローチの理念に基づき、広く深い社会的視野と教養に根ざした法学・政治学の研究と教育を通じ、法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富んだ有能にして心温かい市民を育成することを目指して、修学、生活、進路の各分野において支援を行っている。 修学支援 初年次教育 「スタディスキル演習」（1 年春学期配当、必修科目）では、各回のバリエーション豊かな授業やグループワークなどを通じて、大学で学ぶにあたって基礎となるスタディ・スキルを修得し、法律学・政治学を学ぶにあたって必要となる基礎知識を身につけることを目的としています。本科目ではラーニング・アシスタントを配置し、学習をさまざまな形でサポートしています。 秋学期には「基本演習」を開講し、「スタディスキル演習」の受講を前提に、法律学科生を対象として、法律学を専門的に学ぶために必要な基礎知識を得るとともに、法律・政治の基本的な諸問題をとりあげて、報告の仕方・プレゼンテーション能力・ディベイト能力・論理的思考力等を得ることを目的としています。 TA・LA・SA・メンターの活用 法学部教育の充実と大学院学生のTAとしての経験の機会提供を目的としてTA制度を設けています。TAの主な業務は授業時間中の教育補助、授業時間外の授業関連業務補助（出席管理、小テスト整理作業、レポート添削、ゼミ報告チェックなど）、学部学生の学習相談対応です。 年度末には、当該年度にTA業務を行った院生に、自らが担当した業務についてアンケート（口頭のものを含む）を実施し、業務内容、制度の課題等について情報を提供してもらっています。この結果を、翌年のTAを含む教育補助制度整備の参考としています。 また、新たな教育・学習支援の取り組みとして、ラーニング・アシスタント（Learning Assistant：以下「L.A.」と呼ぶ）という制度を全学的に導入しています。L.A.とは、授業担当者の授業運営の補佐をしたり、履修学生の指導や相談をとおして教育および学習の支援を行う学部学生スタッフの総称です。 この新たな試みを通じて、L.A.と履修学生とが共に学ぶ「ラーニング・コミュニティ」の形成と、L.A.自身のさらなる自己成長を期待して、本取組を推進していきたいと考えています。 アカデミック・アドバイザー制度の実施 2015 年度より単位修得が一定単位数に満たない学生を対象に、個別に呼び出し面談を行い、勉強の方法、ノートの取り方などを中心にアドバイスを行っています。また、必要と判断した学生には、引き続き継続的に面談を実施します。また、面談学生の成績追跡も行い、今後の面談等の参考としています。 学修相談の実施 法学研究科博士課程後期課程に在籍する大学院生をチューターとして配置し、学習に対する不安や悩みを抱えている学生に対して学修の支援を行っています。授業でのノートの取り方、予習・復習の仕方、リポート等の論理的文章作成手法などの学習スキルについて指導しています。 生活支援 法学部の学生および教員により構成される法政学会において、在学中に生活が極めて困窮した学生に対して奨学金を給付する制度が作られています。 進路支援 主に1年生を対象とした法職説明会を、毎年開催しています。2年生にはコース説明会おいて各コースの進路を含めた説明を行っています。さらに大学院進学希望者には大学院説明会も実施しています。	有・無
教員像	変更の有無
（教育者として） よりよい教育について考え、学生の知的好奇心を喚起して、誇りと情熱を持って学生を知の世界へと誘うとともに自省の精神を忘れない教員 （研究者として） 専門分野において、学会構成員から高い評価を受けると同時に、自分の研究の社会的有意性・妥当性について常に考える教員 （組織の構成員として） 組織の発展のために多くの教職員と進んで協力し、他の教職員の意見やアイデアを引き出し、リーダーシップが取れるような教員 （人として） 教育・研究・組織運営にあたって、誠実さを忘れず、まわりから尊敬される教員	有・無
教員組織の編制方針	変更の有無
年齢やジェンダー等の多様性の観点からバランスが取れており、自由闊達で風通しのよい教員組織をめざす	有・無

2. 法学部のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準					
DPに定める資質・能力の獲得状況	あなたはこの授業を通して卒業までに求められる資質・能力を向上できたと思いますか。(「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」) の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表 vv	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Kwansei コンピテンシー獲得状況	知識・能力・資質の程度 全項目 (「大変身についた」～「全く身についていない」の5段階評価) (2018～2022 年度) 当該年度卒業生と次年度 1 年生との調査による伸び (2023～2027 年度) 当該年度卒業生とその 1 年生時との調査による伸び 「IR 新入生調査」「IR 卒業時調査」	5段階評価のうち、上位2つ (「大変身についた」「やや身についた」)の回答割合(%)の平均の差 (2022 年度以降のデータの変更点 年度以降) ➡入学時と卒業時のアンケート調査においてコンピテンシーの 10 要素の総合得点(50 点満点)を確認して、学部ごとにその差の平均を算出する。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
汎用的能力の獲得状況	入学後の能力変化(表外※参照) (「大きく増えた」～「大きく減った」の5段階評価 「IR 上級生調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「大きく増えた」、B「増えた」) の回答割合(%) ➡2022 年度の調査見直しにより、当該項目は調査項目から削除。 (Kwansei コンピテンシーとの重複)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
授業外学修時間	授業外時間に、授業課題や準備時間、復習をする時間(一週当たりの平均) 「IR1年生調査、IR 上級生調査」 ➡【2022 年度データの変更点】 2022 年度実施分から調査名称を「学生調査」に変更。	一週あたり 6 時間以上の割合 ➡【2022 年度データの変更点】 学生調査の変更により、2022 年度以降は「一週あたり 5 時間以上」の割合に変更。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業目的・到達目標の達成度	あなたは、シラバスに示された授業の目的や、到達目標を達成できると思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業満足度	あなたは、全体としてこの授業に満足していますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
留学等派遣数	協定校への派遣学生数 「国際連携機構資料」	大学間協定に基づく派遣日本人学生数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
TOEIC/TOEFL 等の英語運用能力	SGUの取組みで確認している TOEFL 換算得点目標の達成人数 ＜参考(学部別目標値)＞ ■国際:TOEFL 換算 550 点 ■文・総政:TOEFL 換算 540 点 ■その他:TOEFL 換算 520 点 「SGU に関する調査」	左記「TOEFL 換算得点」目標の達成人数(人)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
学生生活満足度	大学生活を振り返って、学生生活は満足したものでしたか。 (「満足」～「不満」の5段階評価) 「IR 卒業1年目調査」	5 段階評価のうち、上位2つ (A「満足」、B「そこそこ満足」) の回答割合(%) ＊2018 年度調査までは、A「とても満足」、B「満足」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
就職率	就職率 「キャリアセンター統計資料」	就職者数(自営含まず)／就職希望者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
大学院進学率	大学院進学率 「キャリアセンター統計資料」	大学院進学者数/学部卒業者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(※)「知識・技能・能力の獲得状況」の「知識・技能・能力」とは、一般的な教養、論理的思考力、専門分野や学科の知識、グローバルな問題の理解、多様性を尊重する力、主体的に行動する力、リーダーシップ力、人間関係を構築する力、対立する価値を調整する力、地域社会が直面する問題を理解する能力、国民が直面する問題を理解する能力、困難を乗り越える粘り強さ、文章表現の能力、外国語の運用能力、生涯にわたって学び続ける能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、数理的な能力、コンピュータの操作能力、誠実さと品位、時間を効果的に利用する能力、卒業後に就職するための準備の程度、を指す。

(2)学部独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
コース選択	特修コースを希望した学生数	特修コースを希望した学生数	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
就職先内容	国家公務員総合職、外務職、地方公務員上級職へ進んだ学生数 ※地方公務員上級職＝都道府県・政令指定都市の行政職とする。	特修コース・各コースを修了した学生のうち、特定の職種等に就いた人数等	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
入試難易度 (偏差値)	ベネッセの進研模試のデータにおける合格可能性 60%以上となる偏差値 (次年度偏差値予想を記載) 入学センター		非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
同系列学部勝敗	ベネッセの進研模試のデータにおける同系列学部合格者の競合大学(同志社、立命館、関西)との入学比率 (当該年度結果を記載) 総合企画部	本学と相手校の両方に合格していずれかに入学した受験生のうち、本学に入学した者の比率 本学入学者数／(本学入学者数＋併願校入学者)(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC 年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
ダブルチャレンジ派遣者数	当該年度の卒業生のうち、ダブルチャレンジ制度のアウェイチャレンジの単位を取得して卒業した学生数 グローバル化推進本部	①インターナショナルプログラム②ハンズオン・ラーニング・プログラム③副専攻プログラムのいずれかで単位取得し卒業した学生数 ※学部毎は延べ人数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」～「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5段階評価のうち「満足」と回答した比率(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
スクールモットーの浸透度	スクールモットー“Mastery for Service”を普段意識する程度は (「常に行動の規範としている」～「全く意識しない」の 5 段階評価) IR 卒業生調査	5段階評価のうち、A「常に行動の規範としている」またはB「ときどき意識している」と回答した割合(%) ＊2018 年度調査までは A「常に行動の規範としている」または B「頻繁に意識している」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 7 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	設問 7 項目の「そう思う」「どちらかちいえばそう思う」と回答した割合の平均値 ➡2022 年度までは「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く6項目対する平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

提出日：2026 年 3 月 13 日
法学研究科

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜法学研究科＞教学改善シート

研究科における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
○前期課程の教育課程の見直し 前期課程は2015年度カリキュラムが適用されており、10年が経過する。また毎年度、一定数の不開講が発生しており、2025 年度履修者ゼロによる不開講は、春学期 147 授業のうち 85 授業、秋学期 142 授業のうち 86 授業が不開講である。 学部と比較して優先順位は高くないが、時代に即したカリキュラムの構築や開講する授業の精査など、中長期的な視点で見直しを開始する必要はある。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
○就職活動との両立の支援 2025 年度に在籍する前期課程の全学生は、就職を前提とする「エキスパートコース」に所属している。大学院生の就職活動は、本人の自主性と、担当教員の個別の配慮に委ねてきた。しかし、就職活動の早期化が進んでいるため、M1年生（M2年生の春学期含む）の学業と就職活動の両立が以前よりも困難な状況となっている。指導教員による履修指導・計画の見直し、就職活動による欠席時のフォローといった進路支援を検討する必要がある。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
○他大学出身の志願者者を増やすための情報発信の不足 現在、他大学学生への法学研究科の情報発信は、受験希望者が自ら情報収集するHP（プル型）のみとなっている。他大学学生で進学先を迷っている潜在層へのアプローチのため、大学から受験希望者に情報を届ける方法（プッシュ型）が必要である。なお、パンフレットは発行しているが、他大学生は自ら大学に資料請求するか、HP からデジタル版を閲覧するしか目にする方法はないため、プッシュ型のツールではない。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
○学生数増加のよるキャレルの不足 現在、前期課程の学生は 1 年生 18 名、2 年生 14 名で、院生室のキャレルは満席に近い状況である。今後、入学者が増えた場合、キャレルが足りなくなり、学習スペースのない大学院生が発生する。院生室のリニューアルによるキャレルの増加または、別の空間でのキャレルの設置といった整備を検討する必要がある。 ○研究環境の一層の整備 「授業アンケート」では 23 時の法学部棟閉館により研究時間に制限があること、授業外でディスカッションができる空間が少ないことが大学院生からの要望として挙げられた。大学院生の研究活動の質と効率を向上させるため、施設管理上のセキュリティに配慮しつつ可能な限り長時間の利用、個室やアクティブラーニングゾーンといった研究環境の一層の整備を検討する必要がある。	

1. 法学研究科の理念、目的、各種方針

法学研究科の理念	変更の有無
関西学院大学大学院法学研究科では教育理念に「ソーシャル・アプローチ」を掲げています。 「ソーシャル・アプローチ」とは、H. F. ウッズウォース初代法文学部長の言葉です。その内容は、次の三点に要約することができます。 第一に、日本における法学教育が官僚養成という目的を帯びていたことに対して、民間の自由な精神に基づく教育・研究を目指すこと。 第二に、資格試験の準備教育や狭い意味での法解釈学に止まらず、広く深い社会的視野と教養を重視した教育・研究であること。 第三に、建学の精神にのっとり、社会への貢献、社会的弱者に目を向けさせる視点を重視した教育・研究であること。 すなわち、民間における自由の精神、広く深い社会的視野と教養、社会貢献（奉仕）の精神という三つです。	有・無 目的以下も変更なし
法学研究科の目的	**変更の有無**
本研究科は、ソーシャル・アプローチの理念のもとに法学・政治学の研究をすすめ、良識を基礎に、幅広い社会的視野から論理的に物事を考察し、社会現象について深く洞察する力を有する高度な専門職業人及び研究者を育成することを目的とする。 ［博士課程　前期課程］ ＜法学・政治学専攻＞ 広く深い社会的視野と教養に根ざした法学政治学の研究を極めることを通じ、法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富む、高度の専門的能力をもつ有為な人材を育成することを目的とする。 ［博士課程　後期課程］ ＜政治学専攻＞ 政治学・公法学の分野において自立して研究活動を行える高度な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を身につけ、またその研究能力を生かした高度に専門的な業務に従事することのできる能力を養うことを目的とする。 ＜基礎法学専攻＞ 基礎法学・公法学の分野において自立して研究活動を行える高度な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を身につけ、またその研究能力を生かした高度に専門的な業務に従事することのできる能力を養うことを目的とする。 ＜民刑事学専攻＞ 民事法学・刑事法学の分野において自立して研究活動を行える高度な研究能力及びその基礎となる 豊かな学識を身につけ、またその研究能力を生かした高度に専門的な業務に従事することので きる能力を養うことを目的とする。	有・無
学位授与方針（DP）	**変更の有無**
関西学院大学大学院法学研究科は、市民社会における自由な精神に則り、広く深い社会的視野と教養、社会貢献（奉仕）の精神の視点を重視するという本研究科の「ソーシャル・アプローチ」の理念に基づき、法学・政治学の分野において下記の能力を習得したと認められる者に学位を授与する。 （1）修士学位 修士学位は、本学研究科に所定の年限在学し、所定の単位を修得したうえで、広い視野に立ち、法学・政治学の学問分野について精深な学識と精深な研究を行う能力を有すると認められる者に授与する。 （2）博士学位 ＜政治学専攻＞ 博士学位は、本研究科に所定の年限在学し、独創的な研究成果を挙げ、政治学の分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を有すると認められる者に授与する。 ＜基礎法学専攻＞ 博士学位は、本研究科に所定の年限在学し、独創的な研究成果を挙げ、基礎法学・公法学の分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を有すると認められる者に授与する。 ＜民刑事法学専攻＞ 博士学位は、本研究科に所定の年限在学し、独創的な研究成果を挙げ、民事法学・刑事法学の分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を有すると認められる者に授与する。	有・無
教育課程の編成・実施方針（CP）	**変更の有無**
関西学院大学大学院法学研究科は、本研究科学生がディプロマ・ポリシーに明記されている研究能力を習得するために、下記の重点項目を含むカリキュラムを編成し、これを実施する。 （1）前期課程 ① 法学・政治学分野の専門性の高い知識を各プログラムごとに系統的に習得する科目。 ② 研究活動に必要な外国語文献を研究する科目。 ③ 以上の科目により習得した知識や能力を活用して課題を発見し、問題解決を考察すると共に、修士論文作成のためのテーマ設定・論文構成等について指導を受ける演習科目。 （2）後期課程 ＜政治学専攻＞ ① 高度の政治学研究を行うための専門的知識および、その基礎となる学識を系統的に習得する科目。 ② 研究活動に必要な外国語文献を研究する科目。 ③ 以上の科目により習得した知識や能力を活用して独創的な研究成果である博士論文を作成すると共に、自立した研究活動を行うに必要な高度の研究能力を身につけるための指導を受ける演習科目。 ＜基礎法学専攻＞ ① 高度の基礎法学・公法学研究を行うための専門的知識および、その基礎となる学識を系統的に習得する科目。 ② 研究活動に必要な外国語文献を研究する科目。 ③ 以上の科目により習得した知識や能力を活用して独創的な研究成果である博士論文を作成すると共に、自立した研究活動を行うに必要な高度の研究能力を身につけるための指導を受ける演習科目。	有・無

＜民刑事法学専攻＞ ① 高度の民事法学・刑事法学研究を行うための専門的知識および、その基礎となる学識を系統的に習得する科目。 ② 研究活動に必要な外国語文献を研究する科目。 ③ 以上の科目により習得した知識や能力を活用して独創的な研究成果である博士論文を作成すると共に、自立した研究活動を行うに必要な高度の研究能力を身につけるための指導を受ける演習科目。	
学生の受け入れ方針（AP）	変更の有無
関西学院大学大学院法学研究科では、ソーシャル・アプローチの理念に基づき、広く深い社会的視野と教養に根ざした法学・政治学の研究を極めることを通じ、法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富み、高度の専門的能力を獲得することを目指す学生を受け入れます。 ・博士課程前期課程 前期課程にはアカデミックコースとエキスパートコースが設置されています。アカデミックコースでは、2年間の前期課程において法学・政治学の基礎的研究を行い、引き続き3年間の後期課程に進学して、主として研究者となることを目指す学生を受け入れます。エキスパートコースでは、次の5プログラムのいずれかに所属して、高度専門職業人となることを目指す学生を受け入れます。 ＜前期課程プログラム＞ 法律実務プログラム： 司法書士、税理士、弁理士、公認会計士、不動産鑑定士などの専門職や、裁判所事務官、家庭裁判所調査官などを目指す者（および既にこれらの職務に就いている者）。 ビジネス法務プログラム： 企業法務担当者や人事・労務担当者など企業社会での活躍を目指す者、企業経営に関わる司法書士・社会保険労務士などの専門職を目指す者（および既にこれらの職務に就いている者）。 公共政策プログラム： 国家・地方公務員、議員、NPO・NGO 職員などの公共的な職務に就くことを目指す者（および既にこれらの職務に就いている者）。 国際法政プログラム： 国際公務員、国際的NPO・NGO 職員、国際的ジャーナリスト、大学・地方公共団体などの国際交流要員などを目指す者（および既にこれらの職務に就いている者）や、国際的視野をもった市民となることを目指す者。 自由研究プログラム： 上述の4つのプログラムに横断的かつ総合的にアプローチする基礎研究を行うことを目指す者や、ジャーナリスト、各種シンクタンク研究員、高度な専門的学識を備えた中学校・高等学校教諭などを目指す者（および既にこれらの職務に就いている者）。 ・博士課程後期課程 後期課程には、3専攻が設置されています。各専攻は、それぞれ次のような学生を受け入れます。 ＜後期課程専攻＞ ・ 政治学専攻：政治学の分野において自立して研究活動を行うことのできる高度な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を身につけることを目指す者。 ・ 基礎法学専攻：基礎法学・公法学の分野において自立して研究活動を行うことのできる高度な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を身につけることを目指す者。 ・ 民刑事法学専攻：民事法学・刑事法学の分野において自立して研究活動を行うことのできる高度な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を身につけることを目指す者。	有・無
学生支援に関する方針	変更の有無
法学研究科では、ソーシャル・アプローチの理念に基づき、広く深い社会的視野と教養に根ざした法学部・政治学の研究を極めることを通じ、法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富み、高度の専門的能力を獲得する専門家の育成を目指して、修学と生活の分野において支援を行っている。 修学支援 法学研究科博士後期課程に在籍する大学院生をチューターとして配置し、博士前期課程在籍の学生に対する修学を支援している。 大学院生が利用できる図書費、およびコピー費を用意し、修学を支援している。 生活支援 法学研究科の学生および教員により構成される法政学会において、在学中に生活が極めて困窮した学生に、奨学金を給付する制度が作られている。 進路支援 法職説明会の対象を、学部生のみならず大学院生にも拡大する。卒業生との懇談会を実施する。	有・無
教員像	変更の有無
（教育者として） よりよい教育について考え、院生の知的好奇心を喚起して、誇りと情熱を持って院生を高度な知の世界へと誘うとともに自省の精神を忘れない教員 （研究者として） 専門分野において、学会構成員から高い評価を受けると同時に、自分の研究の社会的有意性・妥当性について常に考える教員 （組織の構成員として） 組織の発展のために多くの教職員と進んで協力し、他の教職員の意見やアイデアを引き出し、リーダーシップが取れるような教員	有・無
教員組織の編制方針	変更の有無
年齢やジェンダーなど多様性の観点からバランスが取れており、自由闊達で風通しのよい教員組織をめざす	有・無

2. 法学研究科のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学位授与数 (M・D・P)	修士、博士、修士(専門職)の学位授与数 (※乙号除く) 「大学基礎データ」	授与する学位数が多いほど○ (人)	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M D	M D	M D
就職・進路決定率 (M)	就職・進路決定率 「キャリアセンター統計資料」	(就職+自営+就労継続)/(修了者ー進学者)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
博士後期課程への進学者数 (M)	進学者数 「キャリアセンター統計資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
日本学術振興会 特別研究員数(新規) (D)	特別研究員のうち、当該年度の新規採用者 「研究推進社会連携機構資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
研究者輩出数(D) (将来)			現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

(2)研究科独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
授業・カリキュラムの満足度	大学院アンケートによる	毎年 7 月に実施のFD研究会でアンケート結果を検証「大変満足」の割合	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
学習環境の満足度	大学院アンケートによる	毎年 7 月に実施のFD研究会でアンケート結果を検証「大変満足」の割合	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」～「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5 段階評価のうち「満足」と回答した比率(%)					
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 7 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く7項目対して A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」 と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

(4)認証評価に関するKPI

KPI	定義	基準	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
収容定員充足率	当該年度 5 月 1 日時点の収容定員に対する在籍学生数の割合 大学基礎データ表2	在籍学生数/収容定員(%) ※認証評価上(大学基準協会)は、 (M)0.50i 以上 (D)0.33 以上 を適切性の目安としている。		非公表	非公表		

提出日：2025 年12月24日
経済学部

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜経済学部＞教学改善シート＜公表用＞

学部における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
各種調査で学習意欲が、全学平均より低くでていることの改善のために、「学問的興味を喚起し、登校・受講のモチベーション向上を図る施策」「早期の仲間づくりと学習定着を促進し、授業への参加意識を高める施策」「3 年次ゼミへの見通しを持たせ、学習意欲と授業参加の動機づけに繋げる施策」に取り組んでいる。 →経済学への関心を高めるための新科目の開設（1年生全員が履修する「経済学への招待」を新規開講（2026 年度より）） →新入生オリエンテーションを大幅拡充（クラス単位の懇話会を実施（2026 年度より）、先輩学生が話を聞ける機会を設定（2025 年度より）） →ゼミ（専門演習）合同説明会を新規実施（2025 年度より） →プレ演習、専門演習の再編に向けた議論を開始（プレ演習、専門演習、卒業演習の再編に向け、教員も学生もゼミの期間（1年、1学期など）を自由に選べる制度構築を検討中 →教室定員を大幅に上回る多人数履修科目への対応（可能な限り1から5時限を組み合わせること、教室定員を上回るサイズの科目は全てハイブリッド形式に移行（2026 年度より））	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
学部入学後、数学を使う科目での合格率のバラつきがある状況がある。数学を入試科目とせず入学してくる学生は全学部日程で 40%、学部個別日程で 50%程度となっていることもあり、数学に関わる修学支援として、数学の入学前教材、入学後に取り組めるオンライン教材を導入する（2026 年度より）。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
2021 年度入試以降、一般入試の志願者数を増やしながら、倍率も維持・向上できている。 →2025 年度入試の結果、偏差値はベネッセ 67.0 となっている。 →偏差値の動きを注視する中で、入学者比率にも注意が必要である。「一般選抜 50%：総合型選抜・各種推薦 50%」を目標にしながら、特に総合型選抜の見直しを検討している。経済学部の AP に合う特長ある高校生が出願してくれるような入試制度を設計したい。 →学部のカリキュラム上、「数学」を意識しないで卒業することはできない。実際、学部入学後、数学を使う科目での合格率のバラつきがある状況もある。一方、数学を入試科目とせず入学してくる学生は、全学部日程で 40%、学部個別日程で 50%程度、その比率を改善することも必要。他大学が先行して実施している「数学必須型」の入試方式の導入も検討している。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
学生の学習環境に関しては、各種調査で学生生活満足度が、全学平均より低くでていることの改善にもつながる学習環境（学生の居場所）の整備として、用途別に利用できる次の部屋を整備した。「学生談話室」は学生同士で議論できる環境に、「自習室」は文字どおり自学自習を進める環境に、「談話室ポプラ」はスターバックスのような空間を意識し、集う学生の声の“音”がある中でも集中して作業を進める環境になっている。	

1. 経済学部の理念、目的、各種方針

経済学部の理念	変更の有無
経済学部は高等教育における関西学院の中心的学部として、過去 80 年にわたり関西学院の教育理念を具体化する先頭に立ってきた。人は経済の場すなわちモノとカネの流れのなかで生活しているが、この流れを理論的、歴史的、政策的に分析するのが経済学である。大学全体のキリスト教主義教育に立って、社会の各分野において活動するのに必要な経済および経済学に関する専門的知識を与え、その基本を身につけた人材を育成することが経済学部の存在意義である。キリスト教主義に基づく全人教育の重視と経済学の専門的知識の修得は、わが国の経済運営の重点が成長キャッチアップから創造フロンティアに移行し、また国際的視野が要求されている現在においては、その意義をより大きなものとしている。	有・(無)
経済学部の目的	変更の有無
経済学の専門的知識の習得とそれに基づく現実の経済活動に関する分析能力や判断能力を涵養するとともに、本学のキリスト教主義教育の基本理念に立って、社会に対する公正な眼と自他を尊重する倫理性、さらには世界のさまざまの地域の人々とそれぞれの文化とに対する理解を育成し、世界の調和的な発展に貢献しうる人間を養成する。	有・(無)
学位授与方針（DP）	変更の有無
Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において、経済学部の DP を以下のとおり定める。 【関心・意欲】 ・世界の様々な地域の人々や文化への共感する力を持っている。 ・他者と協力し、社会に貢献しようという意欲を持っている。 【知識・理解】 ・経済学の基本的な概念と理論的・歴史的な経済学的思考力を身につけている。 ・日本や世界の経済事情、歴史、言語や文化、そして宗教に関する基本的な知識を身につけている。 【技能・表現】 ・基本的な情報処理技術に基づいた、経済データ分析能力を備えている。 ・日本語および1つ以上の外国語の習得に基づいた、コミュニケーション能力を備えている。 【判断・問題解決】 ・経済学的思考力に基づいた、現実の社会や経済の事象についての判断能力を備えている。 ・現実の社会や経済のなかで課題を発見し、解決する能力を備えている。	有・(無)
教育課程の編成・実施方針（CP）	変更の有無
経済学部は、学士（経済学）を授与するにあたり、学生に求める【関心・意欲】、【知識・理解】、【技能・表現】、【判断・問題解決】を育むため、下記のカリキュラムを編成し、これを実施する。 【関心・意欲】 高等学校までの中等教育から大学からの高等教育へ繋ぐ導入教育科目、健康な心身を育み世界の様々な地域の人々や文化を学びそれへの共感を醸成するための言語教育科目を配置する。また、本学のキリスト教主義の礎となるキリスト教科目、基盤・学際科目、および、経済学以外の様々な学問分野の基礎を学ぶ他学部開設専門教育科目から構成される総合教育科目を配置する。 【知識・理解】 日本や世界の経済事情、歴史、言語や文化、そして宗教に関する基本的な知識を身につけるための言語教育科目。また、本学のキリスト教主義の礎となるキリスト教科目、基盤・学際科目、他学部開設専門教育科目を配置する。これらの幅広い基礎学力の上に、経済学の基本的な概念や経済・社会の歴史的視点を理解し、経済学的思考力を身につけるため、基礎、標準、応用へと経済学諸分野を発展的に学び、深めるために体系的に配置された「専門導入科目」「専門基礎科目」「専門科目」を配置し、学生に体系的履修を促すための履修モデルを示す。 【技能・表現】 初年次に学部生全員が履修する少人数の経済学入門、経済学に必要な基礎的な数学、情報処理に関連する科目、母国語・外国語によるコミュニケーション能力を育む言語教育科目を配置し、それらを基盤として、より高度な経済学を段階的に習得すべく、プレ演習、専門演習、卒業研究演習を配置する。 【判断・問題解決】 経済学の専門的知識・理解を相互に関連付け考える力を涵養するための少人数による専門演習、卒業研究演習を配置する。	有・(無)
学生の受け入れ方針（AP）	変更の有無
【関西学院大学】 Ⅰ. 関西学院大学アドミッション・ポリシー 　世界を視野におさめ、他者（ひと）への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service（奉仕のための練達）”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。 　関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。 　そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多元的に評価することを基本的な方針としています。 Ⅱ. 各学部のアドミッション・ポリシー 経済学部アドミッション・ポリシー 　わが国を含め世界の政治・経済情勢は大きな変化の時代を迎えています。その一つに、貧困や環境の問題などが挙げられますが、その根本には経済問題があるのはいうまでもありません。今の時代に大学で経済学を学ぶ意義はきわめて大きいといえます。同時に、社会や世界の多様な文化や考え方の違いを認識することが大切だと言えます。まさに、激動の世界において活躍できる「世界市民」に求められる資質は、経済学の専門知識だけでなく幅の広い多様な知識としっかりとした価値観を持つことです。 Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー 1. 一般選抜入学試験 　一般選抜は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。 　一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。	有・(無)

全学部日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学（記述式）」を選択科目とし筆記試験を実施します。
全学部日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述」による入学試験も実施しています。
学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語（記述式含む）」「国語（記述式含む）」を必須とし、「日本史」「世界史」「数学（記述式）」を選択科目とし、筆記試験を実施します。また、一部の日程では「日本史」「世界史」「数学（記述式）」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については学部個別日程において「英語（記述式含む）」「国語（記述式含む）」の2科目による筆記試験を行っています。理系入学試験においては全学部日程を2種類実施しています。本学で学ぶために必要な「英語」「数学（記述式）」を必須とし、理科（記述式）「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。

一般入学試験として、英数日程、共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）の3方式を実施しています。英数日程は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」と「数学（記述式）」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」または「数学（記述式）」に、大学入学共通テストの教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。

大学入学共通テストを利用する入学試験は、「一般入学試験とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入学共通テストで実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入学共通テストの得点のみで合否判定を行います。1月出願においては、総合政策学部3科目英数型を除く文系学部は「外国語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を3科目型、5科目型の方式で実施します。また「外国語」「国語」「数学」「地理歴史・公民」「理科」を必須とする7科目型を実施します。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。また、3月出願においては、文系学部は「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。
また、大学入学共通テストを利用する入学試験[1月出願　3科目型（英語資格・検定試験利用）]、大学入学共通テストを利用する入学試験[1月出願　5科目型（英語資格・検定試験利用）]は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語資格・検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入学共通テストの教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2. グローバル入学試験
グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業におけるインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）に積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に3つのカテゴリーで実施する入学試験です。
Ⅰ　国際的な活躍を志す者を対象とした入学試験
＜文系学部＞
関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、英語能力に加え、留学経験、模擬国連での活動など、自ら国際的な活動に取り組んだ実績を有し、国際的課題解決のための提案・実践に意欲を有するとともに、その国際的な活動で培った力を関西学院大学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）に挑戦することでさらに発展させ、国際社会で活躍できる力を身に付けることを志す者を求めています。
第一次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
第二次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

＜理系学部＞
関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、自然科学に関する科目について一定の学力を有した上で、英語能力や高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験、自然科学分野における特記すべき国際交流経験、国際科学技術コンテストに出場した経験のいずれかを有し、国際的に活躍する科学者や技術者になることを志す者を求めています。
第一次審査では、調査書等の書類に基づき「主体性」を中心に書類審査を行います。さらに入学後に必要な数学、理科の基礎知識を問う筆記試験にて「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果と合わせて総合的に評価します。
第二次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを総合的に評価します。

Ⅱ インターナショナル・バカロレア入学試験
関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP（ディプロマ・プログラム）の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有するとともに、入学後は、本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）を通して、国際社会で活躍する能力を身に付けることを志す者を求めています。
第一次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
第二次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

3. 推薦入学
推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、自己推薦書、志望理由書、学校長推薦書等の提出書類による書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
① 院内推薦入学
1）関西学院高等部
関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
2）関西学院千里国際高等部
関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
② 継続校推薦入学
啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等学校の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
③ 提携校推薦入学
関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

④ 協定校推薦入学

1)キリスト教学校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。_

2)グローバル枠

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

3)グローバル＋キリスト教校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑤ 指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接(口頭試問含む)によって総合的に評価し受け入れるための制度です。出願書類と面接(口頭試問含む)において、一定水準以上の「知識・技能」、各学部で学ぶために必要な「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」が備わっているか等を評価し、入学後の勉学における明確な志向および意欲の評価に重点を置き総合的に審査しています。

経済学部

関西学院大学経済学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性ゆたかな活力ある生徒を推薦入学させることによって、学生の多様化をはかり、学部諸活動の一層の活性化を推進して、本学建学の精神に基づく有能な人材を育成することを目的とします。

審査では志願提出書類、面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

4. 探究評価型入学試験

本入学試験では、関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき探究学習を通して身に付けたそれらの力を多面的・総合的に評価します。これまで主体的に取り組んできた探究活動を「新たなデータを収集して知見を明らかにしようとする事を通した探究活動」、「国内外の学校・様々な機関と協働を通した探究活動」、「特定の社会課題等に関する学術的考察を通した探究活動」に区分し、書類審査や面接(口頭試問含む)、プレゼンテーション審査等の多様な審査方法をもって、探究活動の過程を重視した評価を行います。

5. UNHCR難民高等教育プログラムによる推薦入学

「UNHCR難民高等教育プログラムによる推薦入学」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所および国連UNHCR協会との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。

日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。

こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。

国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所および国連UNHCR協会の推薦に基づき、面接(口頭試問含む)を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

6. スポーツ選抜入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後に学業とスポーツ活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化とスポーツ活動の一層の振興に寄与することを目指しています。

第一次審査では、書類審査にてスポーツ活動における実績を評価するとともに、筆記審査にて、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を評価します。

第二次審査では、学部毎に実施する面接(口頭試問含む)等により、志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

7. 外国人留学生入学試験

本学は、米国南メソジスト監督教会の宣教師、W. R. ランバスによって創設されました。開学当初から多くの外国人教員が教鞭をとっていたこともあり、外国人留学生を古くから受け入れ、日本の大学の中では国際色豊かな大学としてその学風を育んできました。

この入学試験制度は外国人留学生を対象とし、さまざまな国からの留学生を受け入れることにより、大学の国際性を一層高め、ひいてはキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待した、いわゆる「多元的入試」の一環として実施されます。

出願時の提出書類に基づき審査を実施し、本学で学ぶにあたって必要な日本語力および、基礎学力を有しているかを審査した後、各学部が面接審査(口頭試問を含む)・筆記試験等を実施し、志願する学部で学ぶ意欲や人間性などを中心に評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し、選抜します。

8.学部特色入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシー、また、各学部が定めるアドミッション・ポリシーに基づき、各学部が求める多様な能力、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性をもった学生を求めています。

経済学部

関西学院大学経済学部は、経済学の専門的知識や現実経済の背景にあるさまざまな文化や伝達手段を身につけることを通じて、社会に貢献し、その社会への貢献を通じて自分自身をも磨ける人間を育てることを目的としています。

大学教育の場を活気と創造性に満ちたものにするためには、個性ゆたかで活力ある学生を受け入れることで、学生たちの間に生き生きとした状況を作り出し、さらには大学教育そのものを活性化する必要があると考えています。経済学部が求めるのは、学問を通じて発揮される活力です。このような活力は、単に勉学においてだけではなく、生活全般にわたる人間としての働きのなかで培われるものです。そこで、経済学部の学部特色入学試験では、学校内外での様々な活動に積極的に取り組んだ経験を通じて培われた能力や人間性などを備え、かつ数学・英語について一定の学力を有した学生を募集します。

審査は書類審査・筆記審査・面接審査(口頭試問含む)を通じて、「主体性・多様性・協働性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を多面的・多元的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。面接(口頭試問含む)ではプレゼンテーションにより表現力・主体性などを評価しながら、上述の本学部で学ぶ能力や人間性などを中心に評価を行います。

学生支援に関する方針	変更の有無
（定めなし）	有・無
教員像	変更の有無
（定めなし）	有・無
教員組織の編制方針	変更の有無
教員は、自身の専門領域に応じて、専門導入科目、専門基礎科目を担当している。しかし、時代の変化とともにカリキュラム体系も変えていく必要があり、それに応じて教員の編成も変えていく必要がある。そこで、学部全体の見地から教員の構成を常に見直すことができるようにしている。	有・無

2. 経済学部のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
DPに定める資質・能力の獲得状況	あなたはこの授業を通して卒業までに求められる資質・能力を向上できたと思いますか。(「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」) の回答割合(%)	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Kwansei コンピテンシー獲得状況	知識・能力・資質の程度 全項目 (「大変身についた」～「全く身についていない」の5段階評価) (2018～2022 年度) 当該年度卒業生と次年度 1 年生との調査による伸び (2023～2027 年度) 当該年度卒業生とその 1 年生時との調査による伸び 「IR 新入生調査」「IR 卒業時調査」	5段階評価のうち、上位2つ (「大変身についた」「やや身についた」)の回答割合(%)の平均の差 (2022 年度以降のデータの変更点年度以降) ➡入学時と卒業時のアンケート調査においてコンピテンシーの 10 要素の総合得点(50 点満点)を確認して、学部ごとにその差の平均を算出する。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
汎用的能力の獲得状況	入学後の能力変化(表外※参照) (「大きく増えた」～「大きく減った」の5段階評価 「IR 上級生調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「大きく増えた」、B「増えた」) の回答割合(%) ➡2022 年度の調査見直しにより、当該項目は調査項目から削除。 (Kwansei コンピテンシーとの重複)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
授業外学修時間	授業外時間に、授業課題や準備時間、復習をする時間(一週当たりの平均) 「IR1年生調査、IR 上級生調査」 ➡【2022 年度データの変更点】 2022 年度実施分から調査名称を「学生調査」に変更。	一週あたり 6 時間以上の割合 ➡【2022 年度データの変更点】 学生調査の変更により、2022 年度以降は「一週あたり 5 時間以上」の割合に変更。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業目的・到達目標の達成度	あなたは、シラバスに示された授業の目的や、到達目標を達成できると思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業満足度	あなたは、全体としてこの授業に満足していますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
留学等派遣数	協定校への派遣学生数 「国際連携機構資料」	大学間協定に基づく派遣日本人学生数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
TOEIC/TOEFL 等の英語運用能力	TOEFL 換算得点目標の達成人数 ＜参考(学部別目標値)＞ ■国際:TOEFL 換算 550 点 ■文・総政:TOEFL 換算 540 点 ■その他:TOEFL 換算 520 点 「言語教育研究センター資料」	左記「TOEFL 換算得点」目標の達成人数(人)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
学生生活満足度	大学生活を振り返って、学生生活は満足したものでしたか。 (「満足」～「不満」の5段階評価) 「IR 卒業1年目調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「満足」、B「どちらかといえば満足」)の回答割合(%) ＊2018 年度調査までは、A「とても満足」、B「満足」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
就職率	就職率 「キャリアセンター統計資料」	就職者数(自営含まず)／就職希望者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
大学院進学率	大学院進学率 「キャリアセンター統計資料」	大学院進学者数/学部卒業者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(※)「知識・技能・能力の獲得状況」の「知識・技能・能力」とは、一般的な教養、論理的思考力、専門分野や学科の知識、グローバルな問題の理解、多様性を尊重する力、主体的に行動する力、リーダーシップ力、人間関係を構築する力、対立する価値を調整する力、地域社会が直面する問題を理解する能力、国民が直面する問題を理解する能力、困難を乗り越える粘り強さ、文章表現の能力、外国語の運用能力、生涯にわたって学び続ける能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、数理的な能力、コンピュータの操作能力、誠実さと品位、時間を効果的に利用する能力、卒業後に就職するための準備の程度、を指す。

(2)学部独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
ゼミ活性化	学内外のゼミ間交流実績	ゼミ間交流を行ったゼミの割合(%)	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
グローバル化意識の向上	1 セメスター以上の留学をした学生数	1セメスター以上の留学をした学生の延べ人数(学外提供の留学を含む，2 セメスター以上の留学の場合は出発した年度に計上)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
入試難易度 (偏差値)	ベネッセの進研模試のデータにおける合格可能性 60%以上となる偏差値 (次年度偏差値予想を記載) 入学センター		非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
同系列学部勝敗	ベネッセの進研模試のデータにおける同系列学部合格者の競合大学(同志社、立命館、関西)との入学比率 (当該年度結果を記載) 経営企画部	本学と相手校の両方に合格していずれかに入学した受験生のうち、本学に入学した者の比率 本学入学者数／(本学入学者数＋併願校入学者)(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC 年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
ダブルチャレンジ修了者数	当該年度の卒業生のうち、ダブルチャレンジ制度のアウェイチャレンジの単位を取得して卒業した学生数 IR 室	①インターナショナルプログラム②ハンズオン・ラーニング・プログラム③副専攻プログラムのいずれかで単位取得し卒業した学生数 ※学部毎は延べ人数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」～「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5段階評価のうち「満足」と回答した比率(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
スクールモットーの浸透度	スクールモットー“Mastery for Service”を意識する程度は (「意識している」～「意識していない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	4 段階評価のうち、A「意識している」または B「ある程度意識している」と回答した割合(%) ＊2018 年度調査までは A「常に行動の規範としている」または B「頻繁に意識している」と回答した比率 ＊2020 年度調査までは 5 段階評価のうち、A「常に行動の規範としている」または B「ときどき意識している」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 6 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	設問 6 項目の「そう思う」「どちらかちいえばそう思う」と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

提出日：2025 年 12 月24日

経済学研究科

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜経済学研究科＞教学改善シート

研究科における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
大学院への進学者数を増加させるとともに、これまで以上に多様になると想像される大学院生の受け皿を確保するために以下を実施する（2025 年度に内規改正済、2026 年度より実施）。 (1)特別選抜入試制度の見直し (2)学力試験の見直し（経済学筆記試験を廃止し、ERE の提出スコアによる評価に一本化。英語は従来通り、TOEIC などの英語検定試験の提出スコアで評価） (3)修士論文コースにおける志望指導教員による事前確認制度の新設 (4)「修士論文コース」不合格者の回し合格制度の新設 (5)奨学金支給対象者の選考方法の見直し	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
「大学院支給（ベーツ支給）奨学金」選考方法に関わる内規改正を行った（2026 年度より）。一方、大学院全体としての「大学院支給（ベーツ支給）奨学金」の現運用に対する問題意識は残っており、長期的な運用のためには、課題が残ることも確認した。どのような制度設計であれば、課題を解消でき、各研究科の事情に沿った全体にとってよい制度となるのか、執行部内でも検討を開始した。その中で、大学院全体として、TA 制度の制度改定に向けた動きがある（2027 年 4 月 1 日施行目指し）。大学院進学にインセンティブがあること、大学院生の修学支援全体の整備に向けて議論が必要である。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
前期課程のプログラムの見直しとして、「修士論文コース」「課題研究リポートコース」を設置する（2025年度に内規改正済、2027年度入学生より）。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
大学院生の研究環境改善・整備には適宜取り組んでおり、大学院生控室・大学院生研究室の室内を整理・什器入れ替え、研究活動に必要な物品も購入している。また、大学院生が主体で実施する夏季研究会では、お弁当も提供し、研究活動を継続してフォローしている。	

1. 経済学研究科の理念、目的、各種方針

経済学研究科の理念	変更の有無
経済学研究科は、経済学の高等教育機関として研究者を養成するとともに、研究機関として理論的・歴史的・政策的な研究を行うことにより経済学の進展に寄与することを理念として掲げる。この理念の下、今日、経済問題の複雑化や社会の高度化に伴って経済学の学習がより広い範囲にわたって必須のものとなってきていることから、幅広い人材に向けた高等教育の機会提供に柔軟に取り組んできている。本研究科では、絶え間なく変化する現実の中で、冷静な頭脳と暖かい心情の両方を持ちあわせながら、国際的な視野と多元的なものの見方をバランスよく習得する点を重視し、経済学を学際的な観点から追求していくことを常に意識している。	有・(無)
経済学研究科の目的	**変更の有無**
より高い水準の研究を志す学生に対して、広く経済学の専門研究の機会を提供し、多元的なものの見方や国際的な視野を育成するとともに、経済に対する高度な分析・応用能力を修得させる。 社会人に対して、その職業経験と経済学の研究能力との融合をはかり、問題の発見能力とその現実的な解決能力とに秀でた高度専門職業人を育てる。	有・(無)
学位授与方針（DP）	**変更の有無**
経済学研究科は、「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成するために定めた「Kwansei コンピテンシー」を規範として据え、経済学の高等教育機関として研究者ならびに高度専門職業人を養成するとともに、研究機関として経済学の理論及び応用を研究することにより経済学の進展に寄与することを理念としています。この理念の下、経済学研究科は、博士課程前期課程教育を通じて所定の基準を満たし、修士論文又は課題研究リポートの審査に合格した学生に修士学位（経済学）を授与します。また、博士課程後期課程教育を通じて学術的に最高の基準を満たし、学位申請論文の厳格な審査に合格した学生に博士学位（経済学）を授与します。修士学位及び博士学位の授与には、生涯、最先端の研究者として、あるいは高度専門職業人として社会に貢献してもらいたいという経済学研究科としての未来への希望が込められています。それを実現するために、経済学研究科では「Kwansei コンピテンシー」を念頭に置いて、修得するべき知識・能力・資質を以下のように定めています。 【博士課程前期課程】 （知識／Knowledge） ・　幅広い知識・教養とならびに経済学の深い専門性 （能力／Skills） ・　経済・社会に絶え間なく生起する諸問題に関心を持ち、それら諸問題を経済学に関わる「研究の問い」として昇華させ、打ち立てる能力 ・　自身で打ち立てた「研究の問い」に対峙して、常に深く思考することにより問題の本質を捉え、明確な分析を行う能力 ・　得られた分析結果を、経済学的方法にふさわしい文章・数式・図表によって表現し、研究論文にまとめ上げる能力 （資質／Quality of Character） ・　経済学研究の過程において直面するあらゆる困難を乗り越え、粘り強く問題を解決していこうとする姿勢 【博士課程後期課程】 （知識／Knowledge） ・　幅広い知識・教養、経済学の高度な専門性ならびに経済学的方法（理論分析・実証分析・歴史分析）のうち、一つ以上の最先端の方法 （能力／Skills） ・　「研究の問い」に対して最先端の手法を用いた高度な分析を行い、分析結果を国際的な水準の研究論文にまとめ上げる能力 （資質／Quality of Character） ・　研究の過程において直面する問題を粘り強く解決していく姿勢とともに、自身の分析に対する他者からの批判を謙虚に受け入れ、より高い水準の研究成果を得ようとする姿勢	有・(無)
教育課程の編成・実施方針（CP）	**変更の有無**
経済学研究科では、別掲されている理念・目的・教育目標を実現するために、以下の方針に基づいてカリキュラムを構成しています。 【博士課程前期課程】 博士課程前期課程では、学士課程で学んだ経済学の知識を発展させ、より高度な専門知識と分析能力を習得し、質の高い修士論文の作成と学位取得を目標とします。 将来、大学や研究機関等での研究者になることをめざしている大学院生に対しては、そのために必要な高度の資質と能力を養ってもらうため、専門分野を横断して身につけておくべき科目として大学院基礎科目を設定し、その全部または一部の履修を義務づけています。 研究者志望の大学院生、それ以外の大学院生ともに、これらの大学院基礎科目を前期課程での学習の共通基盤として学び、経済学専攻の大学院生としての学問的素養を高めつつ、それぞれの研究課題に沿った専門科目を履修します。専門科目については、大学院生の多様で高度な学問的欲求を満たせるように、また経済問題の複雑化に対応できるように、経済学の最先端の領域から伝統的な分野まで広範かつ体系的な科目提供を行い、そのあり方についての定期的な検討・見直しを行っています。 大学院基礎科目を含め、どのような科目の履修を行うかは、個々の大学院生の大学院進学目的とニーズ、将来の目標、適性や能力などに応じて、指導教員からの指導が行われます。修士論文の作成に際しては、第2学年の修士論文中間報告会（公開で実施）においての報告が義務づけられ、より優れた論文の完成に向け、指導教員以外のさまざまな分野の教員からの指導と助言を受ける機会が与えられています。 【博士課程後期課程】 博士課程後期課程では、国際的な水準での評価にも耐え得るような高度な課程博士論文の作成と学位取得を目標とします。 この目標を実現するために、指導教員の指導の下で研究を遂行し、科目の履修等も指導教員の指導で行われます。必要に応じて1人の大学院生に対して指導教員を中心とした研究指導グループが学位申請論文や研究論文の作成等の指導にあたる体制が用意されています。また、第1学年から第3学年までの各年度に行うべき研究報告や研究論文の作成・発表が博士学位取得プロセスのガイドラインとして示され、それに沿って順序だった研究教育指導が行われます。	有・(無)
学生の受け入れ方針（AP）	**変更の有無**
これまで、大学院教育が担うべき役割は、それぞれの領域の学問を究め、得られた新たな知見・知識を後世に継承する研究者を養成することでした。しかし、昨今の社会情勢や時代の大きな変化に伴い、大学院教育が担う役割も多様化しています。このような変化に対応して、本研究科では研究者の養成にとどまらず、高度な専門性を備えた幅広い人材の育成を目指します。 以上をふまえ、本研究科では次のような方々の進学・入学を希望します。 【博士課程前期課程】 学部卒業程度の経済学に関する知識・思考力および外国語運用能力を有し、経済学をさらに理論的、実証的、あるいは歴史的に深く学びたいという強い意欲のある方。 【博士課程後期課程】 博士課程前期課程あるいは修士課程修了程度の経済学に関する知識・思考力および外国語運用能力を有し、高度な研究分析能力を習得したいという強い意欲のある方。	有・(無)

学生支援に関する方針	変更の有無
（定めなし）	有・無
教員像	変更の有無
（定めなし）	有・無
教員組織の編制方針	変更の有無
教員は、自身の専門領域に応じて、学部の専門導入科目、専門基礎科目を担当している。しかし、時代の変化とともにカリキュラム体系も変えていく必要があり、それに応じて教員の編成も変えていく必要がある。そこで、研究科全体の見地から教員の構成を常に見直すことができるようにしている。	有・無

2. 経済学研究科のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学位授与数 (M・D・P)	修士、博士、修士(専門職)の学位授与数 (※乙号除く) 「大学基礎データ」	授与する学位数が多いほど○ (人)	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M D	M D
就職・進路決定率 (M)	就職・進路決定率 「キャリアセンター統計資料」	(就職+起業・自営+就労継続)/(修了者ー進学者)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
博士後期課程への進学者数 (M)	進学者数 「キャリアセンター統計資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
日本学術振興会 特別研究員数(新規) (D)	特別研究員のうち、当該年度の新規採用者 「研究推進社会連携機構資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
研究者輩出数(D) (将来)			現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(2)研究科独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
国内外研究報告、調査研究、就職活動に対する資金助成制度の利用率	国内外研究報告、調査研究、就職活動に対する資金助成制度の利用率	資金助成制度の利用数/在籍者数	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
			現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
修了後の進路の満足度	修了後の進路の満足度 (「とても納得している」～「あまり納得していない」の5段階評価) 修了時調査	5 段階評価のうち、A「とても納得している」または B「ある程度納得している」と回答した比率(%)					
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定7項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く7項目対して A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」 と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

(4)認証評価に関するKPI

KPI	定義	基準	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
収容定員充足率	当該年度 5 月 1 日時点の収容定員に対する在籍学生数の割合 大学基礎データ表2	在籍学生数/収容定員(%) ※認証評価上(大学基準協会)は、 (M)0.50 以上 (D)0.33 以上 を適切性の目安としている。		非公表	非公表		

提出日：2025 年 12 月18日
商学部

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜商学部＞教学改善シート

学部における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
参考資料：学生 IR データ（商学部）【基準 7：学生支援体制の整備および支援の適切性｜①学習意欲・教育内容満足度】 新入生調査および 1 年次の学生調査における商学部の学修意欲は、全学平均とほぼ同水準である。しかし、3 年次の調査では、全学平均と比較して「高い」と回答した割合はむしろ上回っているものの、「どちらかといえば高い」の割合が大きく下がる傾向が見られ、合わせると他学部よりやや低い水準となっている。 新入生調査　全学：高い＝24.0%、どちらかといえば高い＝45.4% 商学部：高い＝23.7%、どちらかといえば高い＝47.2% 1 年次調査　全学：高い＝13.4%、どちらかといえば高い＝32.7% 商学部：高い＝12.9%、どちらかといえば高い＝32.7% 3 年次調査　全学：高い＝22.9%、どちらかといえば高い＝34.8% 商学部：高い＝25.7%、どちらかといえば高い＝26.5% この背景要因として、「教育内容の満足度」の結果が影響している可能性がある。全学調査では満足度 33.3%に対し、商学部では 29.3%とやや低い結果となっている。このことから、時代が求める能力を育成する教育課程の構築、学生の特性に応じた教育方法の改善、AI 時代にふさわしい学修成果の評価方法などについて、さらなる検討が必要であると考えられる。 また、現在推進中の教育改革施策（ビジネスプロジェクト、COIL 授業、商学部短期海外研修プログラムなど）はすべて少人数制の申込制となっており、KWIC での周知に努めているが、1 学年 650 人規模の学生数を踏まえると、申込期間等の情報を確認できていない学生も存在していると思われる。したがって、申込期間や募集情報の周知が引き続き課題である。 IR データによる英語アセスメントテスト【2024 年度卒業生】を見ると、1 年次から 2・3 年次にかけてスコアに目立った改善が見られない。この状況を改善するために、教育改革施策の一環として「グローバル×ビジネスパーソン」を育成する目的で、「海外短期研修プログラム」の大幅な拡充を 2024 年度・2025 年度と進めてきた。今後もこれらのプログラムを継続的に実施するとともに、学生への周知を図るための説明会や、2025 年度に新たに開催した研修成果報告会の実施、海外短期研修後の中期留学等への誘導を継続して行うことが効果的である。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
データから示される学習意欲や満足度の低さは、学生が学業やキャリア形成に自信を持ちにくい環境に置かれている可能性を示唆している。一定数の学生が悩みを抱えており、休学や退学といった結果に至る前に、適切なサポート体制をさらに充実させる必要がある。 現在、商学部のアカデミックアドバイザー制度では、修得単位が基準（在学学期数×12 単位）に満たない 1 年生などを対象に、商学演習担当教員などによる面談を実施している。しかし、2 年生以上になると、面談対象であっても面談に出席しない学生の割合が増え、その状況や課題を把握しにくい現状がある。また、このような学生の中には保護者とのコミュニケーションが十分に取れていないケースもあり、教育懇談会における保護者面談で初めて単位が取得できていない状況を保護者が知ることもある。そのため、追加的な対応策を検討する必要がある。 学生の学習意欲を高めるためには、商学部で学ぶ内容がビジネス実務に直結していることや社会との接点を意識しながら学べる環境づくりが重要であると考えている。そのため、プロフェッショナルの実務家から直接学べる少人数制のビジネスプロジェクト科目群や、商学部主催の学術講演会、企業家によるゲストスピーカー講演会などの機会を一層充実させるとともに、多くの学生に履修・参加してもらえるよう、周知の徹底を図る必要がある。 また、最難関国家資格である公認会計士試験の大学別合格者ランキングが低下したことを受け、商学部では公認会計士等の合格者増加施策を進めてきた。過去 2 年間の取り組みにより、優秀層から資格試験勉強に取り組む学生が増加し、教員による受験勉強サポートも充実してきた。簿記動画の作成・配布により、早期に簿記資格を取得し、より高いレベルの資格（公認会計士・税理士）の試験勉強に進む学生も現れている。2025 年 11 月 21 日の公認会計士論文式試験合格発表では、商学部 2 年生の合格者も輩出されるなど、一定の成果も見えてきた。	

ただし、公認会計士試験の全国合格率は 2024 年・2025 年ともに 7.4%と、依然として合格の難易度が極めて高いことから、アカウンティングスクールとの5年一貫コースの周知も含め、学生の希望や学習環境に応じた受験ルートとサポートを継続して提供する必要がある。公認会計士試験は、試験勉強開始から合格まで少なくとも 3 年程度を要するため、施策の効果は徐々に表れつつあるものの、合格者数が本格的に増加するまでには、さらに時間を要することが見込まれる。	
3. 学生の受け入れ(学生募集、入学者選抜、定員管理)に関する現状分析・課題	改善状況
公認会計士等の合格者増加およびプロフェッショナル人材育成の強化に向け、指定校推薦入学における「出願資格 C(日商簿記 1 級以上を保有する者の推薦枠)」の新設と、入学生の資格試験勉強サポートや商学部坂上孝治奨学金の新設など、中期計画に掲げる新たな施策に順次着手している。今後もこれらの取り組みを継続し、学生への支援を途切れることなく提供する必要がある。 これらの施策については、学部独自のオープンキャンパスプログラムの実施や積極的な広報活動により対外発信を行ってきた。しかし、教育改革施策に係る広報予算がなくなることから、今後は高校生・保護者等の外部関係者に対して、いかに効果的に情報発信を継続していくかが、引き続き重要な課題となる。 一般選抜入試については、全学的な志願者数の増加を背景に、商学部でも志願者が増加傾向にある。総合型選抜および学校推薦型選抜を含む入試種別の割合についても、2025 年度は一般選抜と一般選抜以外がそれぞれ約半数を占めており、全学が求める入学者比率を維持できている。 商学部の偏差値推移(2024 年度～2026 年度入試)においては、ベネッセのデータでは、2024 年度入試の 66.0 から、2025 年度・2026 年度はいずれも 68.0 となり、2 ポイント上昇した。さらに河合塾のデータでは、2025 年度の 53.7 から 2026 年度には 56.2 へと 2.5 ポイント上昇している。全学的には横ばいもしくは低下傾向がみられる中で、商学部は相対的に健闘していると言える。 しかしながら、関関同立における同系列学部の入学者決定率(いわゆる「勝ち負け表」)では、関西大学に対しては 58.3%と勝ち越している一方、立命館大学(12.5%)、同志社大学(4.3%)に対しては大きく下回っている。特に、立命館大学経営学部が大阪いばらきキャンパスへ移転して以降、上ケ原キャンパスは地理的に不利となり、競争力の低下が急速に進んでいる点が課題として挙げられる。	
4. その他(学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題)	改善状況
「学生の学習環境」は多様な場所や場面を含む概念であるが、学生調査の設問「所属学部の事務室の学習支援・相談は利用しやすいか」に着目すると、商学部の数値は特に低い。2023 年度の 1 年生における「そう思う」「どちらかというとそう思う」の合計は 30.2%で文系学部の中で最下位、2024 年度も 34.7%にとどまっている。また、自由記述欄には学部事務室に対する否定的な意見も散見されることから、低年次の学習意欲の向上と併せて、学生が相談しやすい環境の整備が求められる。 国際化については、「語学力を身につけたい」と回答した学生の割合が全学平均より著しく低い点(商学部:19.5%、全学:36.4%)が懸念点である。卒業生調査においても、「留学・外国語研修が役立った」と回答した割合は全学より低く(商学部:17.1%、全学:20.2%)、商学部としての国際教育の成果が十分に発揮されていない可能性がある。実際に、休学して短期留学やワーキングホリデーに挑戦する学生が多いものの、休学せずとも参加できる商学部独自の研修プログラムへ学生をより効果的に誘導する工夫を行い、グローバル人材育成の成果に結びつける必要がある。 また、研究演習の履修学生が正規交換留学に参加しづらい制度となっていることや、1・2 年次の学生が海外研修プログラムにアクセスしにくい状況にあったことから、2024 年度・2025 年度は「海外短期研修プログラム」の大幅な拡充を進め、低学年時での海外経験を後押しするとともに、その後に中期留学等をめざす環境づくりを行ってきた。今後もこれらのプログラムを継続的に実施することが必要である。 さらに、一部の学生のグローバル志向は高いものの、その意欲やモチベーションが他の学生に波及していない点も課題である。COIL のさらなる導入や海外研修の周知、さらには留学生とともに学ぶ「内なる国際化」の国際共修科目の充実に向けた海外学生の受け入れ制度の開発など、グローバル学習機会の拡充とその浸透を図る取り組みが求められる。	

1. 商学部の理念、目的、各種方針

商学部の理念	変更の有無
商学部の教育は、その前身の高等学部商科の時代、当時の学部長であった C. J. L. ベーツ博士（後の第4代院長）が学生に対して行った講演会で示した教えで、後に学院全体のスクールモットーとなる ”Mastery for Service（奉仕のための練達）” の精神を土台としている。「主とならんと欲するものは仕えるものとなれ」という聖書の教えと通じるものであり、知識を修得しそれを社会への奉仕に生かすよう求めるものである。 商学とは、現代社会の中で企業などの果たす役割、その行動原理と仕組み、そこで用いられる政策や管理技法、これら政策や管理技法の与える影響、企業などの社会的責任・倫理の重要性などを体系的に把握・分析し、これからのビジネスの在り方を追究するものである。どのような経済活動も、人が人のために行う営みでなければならない。それゆえに経済活動が単なる個人や企業の営為に終始するのではなく、社会への義務や責任を負うものであるという認識の重要性を、ベーツ博士は示唆されたものである。 商学部ではこれを具現化するため、急速に変化する社会に迎合することなく常に問題の本質を問い、論理的考察力と多面的な視点をもって物事を的確に判断する能力を養うことに力点を置いている。営利、非営利を問わず、 経済活動に関わるすべての主体がおかれている現実と向かうべき方向に対する認識を深めつつ、同時に広範な人間生活や環境との関わりの中で、その役割を見極める能力と主体性をもった人材、すなわち、「真に創造的な能力を有するビジネスパーソンの育成（Fostering Creative Minds for Business）」を教育理念としている。	無

商学部の目的	変更の有無
高度な専門知識と管理の技法、そしてグローバルに展開する現代経済・社会の理解に不可欠な総合的教養の修得、歴史的洞察力の涵養、言語やIT、企画・提案など幅広い分野にわたるコミュニケーション能力や意思決定能力の高度化を具体的な教育目的として掲げる。 また、理論と実践との関連性を重視したカリキュラムの編成、さらに産業界との密接な連携の中で常に最新かつ高度な情報を提供することにより、ビジネスの第一線で活躍しうる人材、会計・税務など商学関連分野の専門職者を輩出することを目指している。	無

学位授与方針（DP）	変更の有無
Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において、商学部のディプロマ・ポリシーを以下の通り定める。 商学部は、「隣人・社会・世界に仕えるため、自らを鍛える」という内容を示す関西学院のスクールモットー“Mastery for Service（奉仕のための練達）”のもと、次の能力等を有する「真に創造的な能力を有するビジネスパーソンの育成（Fostering Creative Minds for Business）」を教育理念としている。 【基本的意識と姿勢】 ・ 知識を修得する意欲と、それを社会への奉仕に生かそうとする意識と積極的な姿勢を有する。 【基本的思考と判断】 ・ 現代社会のなかで企業などの経済主体が果たす役割、その行動原理と仕組み、そこで用いられる政策や管理方法とそれらが社会に及ぼす影響、経済主体の社会的責任・倫理の重要性などを体系的に把握・分析・理解する能力を有する。 ・ 問題を発見し、問題の本質を問い、論理的考察と多面的総合的視点から社会的現象を的確に判断し行動する能力を有する。 【知識と技能】 ・ 商学についての基礎知識と専門知識、総合的教養を修得し、高いコミュニケーション能力を有し、多元的社会のなかで機能や文化を異にする他の多くの主体との共生を図ろうとする意識と積極的な姿勢を有する。 このような教育理念に基づき、本学部は、学則に定められた期間在籍し、卒業に必要な単位数を修得した者に、学士（商学）を授与する。	無

教育課程の編成・実施方針（CP）	変更の有無
商学部は、キリスト教主義による人間愛の精神を涵養し、一般教養による人格形成を図り、専門知識を身につけ国際化時代・情報化時代である今日の社会に貢献できるビジネスパーソンを養成するため、カリキュラムの編成に当たって、以下①～⑤の5本の柱を立てる。 ①ビジネスパーソンとしての一般教養の修得 専門知識に偏らない一般教養やビジネスの背景的知識を提供する。 ②ビジネスパーソンとしてのミニマム・コンピテンスの修得 ビジネス全般に関する基礎的知識を体系的に提供する。 ③ビジネスパーソンとしての高度な専門知識の修得 ビジネスの各分野におけるスペシャリストとして意思決定能力・分析能力等を養うため、経営、会計、マーケティング、ファイナンス、ビジネス情報、国際ビジネスの6コースを設け、各分野の高度な専門的知識を体系的に提供する。 ④ビジネスパーソンとしてのコミュニケーション能力の修得 学生・教員間の学問的・人格的な接触を通じて学習する演習型科目を提供する。 ⑤ビジネスパーソンとしての外国語能力の修得 外国語をツールとしてビジネスを学習する機会を提供する。	無

学生の受け入れ方針（AP）	変更の有無
【関西学院大学（学士課程）】 Ⅰ. 関西学院大学アドミッション・ポリシー 世界を視野におさめ、他者（ひと）への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service（奉仕のための練達）”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。 関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。 そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多元的に評価することを基本的な方針としています。 Ⅱ. 各学部のアドミッション・ポリシー 商学部アドミッション・ポリシー ～真に創造的な能力を有するビジネスパーソンを育成する（Fostering Creative Minds for Business）～ 商学部の教育理念は、“Mastery for Service（奉仕のための練達）”というスクールモットーの精神を踏まえて、営利、非営利を問わず経済活動に関わるすべての主体がおかれている現実と向かうべき方向に対する認識を深めつつ、同時に広範な人間生活や環境との関わりの中で、その役割を見極める能力と主体性をもった人材、すなわち「真に創造的な能力を有するビジネスパーソン」を育成することにあります。本学部は、この教育理念に基づき、人間性を向上させる意欲に満ちあふれた、多様な適性と能力を有する学生を受け入れたいと考えています。そのため、筆記試験を中心とする一般選抜と、面接（口頭試問含む）を取り入れた学校推薦型選抜・総	無

合型選抜を実施し、高等学校における基礎学力の三要素である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」および「主体性・多様性・協働性」を総合的に評価します。

Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー

1. 一般選抜

一般選抜は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。

一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。

全学部日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学（記述式）」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学部日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述」による入学試験も実施しています。

学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語（記述式含む）」「国語（記述式含む）」を必須とし、「日本史」「世界史」「数学（記述式）」を選択科目とし筆記試験を実施します。また、一部の日程では「日本史」「世界史」「数学（記述式）」に加えて「地理」を選択科目に加えています。

理系入学試験においては全学部日程を2日間実施、入試制度も2種類実施しています。総合型および数学・理科重視型においては、本学で学ぶために必要な「英語」「数学（記述式）」を必須とし、理科（記述式）「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。

一般入学試験として、英数日程、共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）の3方式を実施しています。英数日程は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」と「数学（記述式）」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」または「数学（記述式）」に、大学入学共通テストの教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。

大学入学共通テストを利用する入学試験は、「一般入学試験とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入学共通テストで実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入学共通テストの得点のみで合否判定を行います。

1月出願においては、総合政策学部3科目英数型を除く文系学部は「外国語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を3科目型、5科目型の方式で実施します。また「外国語」「国語」「数学」「地理歴史・公民」「理科」を必須とする7科目型を実施します。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。また、3月出願においては、文系学部は「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。

また、大学入学共通テストを利用する入学試験（1月出願　3科目型（英語資格・検定試験利用））、大学入学共通テストを利用する入学試験（1月出願　5科目型（英語資格・検定試験利用）は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語資格・検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入学共通テストの教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2. グローバル入学試験

グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業におけるインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）に積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に3つのカテゴリーで実施する入学試験です。

① 国際的な活躍を志す者を対象とした入学試験

＜文系学部＞

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、英語能力に加え、留学経験、模擬国連での活動など、自ら国際的な活動に取り組んだ実績を有し、国際的課題解決のための提案・実践に意欲を有するとともに、その国際的な活動で培った力を関西学院大学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）に挑戦することでさらに発展させ、国際社会で活躍できる力を身に付けることを志す者を求めています。

第1次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。

第2次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

＜理系学部＞

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、自然科学に関する科目について一定の学力を有した上で、英語能力や高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験、自然科学分野における特記すべき国際交流経験、国際科学技術コンテストに出場した経験のいずれかを有し、国際的に活躍する科学者や技術者になることを志す者を求めています。

第1次審査では、調査書等の書類に基づき「主体性」を中心に書類審査を行います。さらに入学後に必要な数学、理科の基礎知識を問う筆記試験にて「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果と合わせて総合的に評価します。

第2次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを総合的に評価します。

② インターナショナル・バカロレア入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP（ディプロマ・プログラム）の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有するとともに、入学後は、本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）を通して、国際社会で活躍する能力を身に付けることを志す者を求めています。

第1次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。

第2次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

③ 帰国生徒入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、家庭の事情等により海外に長期間滞在し、海外の教育を受けた者で、日本での生活や短期間の留学では身に付けることのできない主体性や価値観、多角的視点、困難を乗り越えた経験などを持ち、それらを本学での学生生活や学びに生かそうとする者を求めています。多様な背景を持つ学生が集い刺激し合うことで、キャンパスが活性化する教育的効果も望んでいます。さらに、帰国生徒が他の学生と相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長することにも期待します。

第1次審査では、筆記審査を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価します。

第2次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、自己推薦書、志望理由書、学校長推薦書等の提出書類による書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

① 院内推薦入学

1）関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

2)関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

② 継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等学校の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

③ 提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

④ 系属校推薦入学

関西学院大学系属校推薦入学は、科学技術に強い興味・関心・意欲を持ち、グローバルな観点に立って国際社会での活躍を目指す生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑤ 協定校推薦入学

1)キリスト教学校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

2)グローバル枠

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

3)グローバル＋キリスト教校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑥ 指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接(口頭試問含む)によって総合的に評価し受け入れるための制度です。出願書類と面接(口頭試問含む)において、一定水準以上の「知識・技能」、各学部で学ぶために必要な「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」が備わっているか等を評価し、入学後の勉学における明確な志向および意欲の評価に重点を置き総合的に審査しています。

商学部

関西学院大学商学部の教育は、本学のスクールモットーである“Mastery for Service （奉仕のための練達）”の精神を踏まえ、真に創造的な能力を有するビジネスパーソンの育成(Fostering Creative Minds for Business)を理念としています。この理念を実現するためには、本学の建学の精神を理解し、商学部で学びたいという強い意欲をもつ学力優秀で個性ゆたかな生徒を推薦によって求めることが必要です。そこで、商学部で学ぶ意欲ならびに学力三要素を総合的に評価する指定校推薦入学を実施します。指定校推薦入学では、書類審査と面接審査を通じて、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」および「主体性・多様性・協働性」という学力三要素を多面的・多元的に評価します。具体的には、書類審査においては、提出された書類や調査書に基づき学力三要素を評価します。面接審査においては、書類審査の結果を踏まえて、面接(口頭試問含む)により商学部で主体的に学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。

4. 探究評価型入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を発見し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を持ち、多様な人々と協働して学ぶことが出来る者を求めています。

第1次審査では、探究活動の成果物含む提出書類を審査し、主体性や協働性、課題発見・解決能力、また、本学で学ぶにふさわしい「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価します。

第2次審査では、学部毎に実施する面接(口頭試問含む)や探究活動に関するプレゼンテーション等で探究活動のプロセスや自己の成長、入学後の志望学部での学びの意欲や学びの計画などを評価します。

5. UNHCR難民高等教育プログラムによる推薦入学

「UNHCR難民高等教育プログラムによる推薦入学」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所および国連UNHCR協会との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。
日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。

こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。

国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所および国連UNHCR協会の推薦に基づき、面接(口頭試問含む)を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

6. スポーツ選抜入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後に学業とスポーツ活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化とスポーツ活動の一層の振興に寄与することを目指しています。

第1次審査では、書類審査にてスポーツ活動における実績を評価するとともに、筆記審査にて、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を評

価します。 　第2次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）等により、志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。 7. 外国人留学生入学試験 　本学は、米国南メソジスト監督教会の宣教師、W. R. ランバスによって創設されました。開学当初から多くの外国人教員が教鞭をとっていたこともあり、外国人留学生を古くから受け入れ、日本の大学の中では国際色豊かな大学としてその学風を育んできました。 　この入学試験制度は外国人留学生を対象とし、さまざまな国からの留学生を受け入れることにより、大学の国際性を一層高め、ひいてはキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待した、いわゆる「多元的入試」の一環として実施されます。 　出願時の提出書類に基づき審査を実施し、本学で学ぶにあたって必要な日本語力および、基礎学力を有しているかを審査した後、各学部が面接審査（口頭試問を含む）・筆記試験等を実施し、志願する学部で学ぶ意欲や人間性などを中心に評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し、選抜します。 8. 学部特色入学試験 　関西学院大学のアドミッション・ポリシー、また、各学部が定めるアドミッション・ポリシーに基づき、各学部が求める多様な能力、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性をもった学生を求めています。 　商学部 　　関西学院大学商学部の教育は、本学のスクールモットーである“Mastery for Service（奉仕のための練達）”の精神を踏まえ、真に創造的な能力を有するビジネスパーソンの育成（Fostering Creative Minds for Business）を理念としています。 　　この理念を実現するためには、本学の建学の精神を理解し、商学部で学びたいという強い意志を有するとともに、様々な経験や活動を通して豊かな人間性を身につけており、従来の学力審査では十分に捉えることのできない多彩な能力を有している生徒を迎え入れることが必要です。そこで、高度な資格を有する者、事業経営を志向する者、高等学校商業科等を卒業見込の者を対象として、それらの多彩な能力を多面的に評価する学部特色入学試験を実施します。 　　学部特色入学試験では、書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」および「主体性・多様性・協働性」という学力三要素を多面的・多元的に評価します。具体的には、書類審査においては、提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」を中心に評価します。筆記審査においては、小論文試験により「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに、面接審査においては、書類審査と筆記審査の結果を踏まえて、面接（口頭試問・プレゼンテーション含む）により商学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。	
商学部の各方針	変更の有無
（1）めざす学生像 　商学部教育がめざす学生像は、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service（奉仕のための練達）”のもと、「真に創造的な能力を有するビジネスパーソン（Fostering Creative Minds for Business）」として、次の能力等を有する学生である。 【基本的意識と姿勢】 　・知識を修得する意欲と、それを社会への奉仕に生かそうとする意識と積極的な姿勢を有する。 【基本的思考と判断】 　・現代社会のなかで企業などの経済主体が果たす役割、その行動原理と仕組み、そこで用いられる政策や管理方法とそれらが社会に及ぼす影響、経済主体の社会的責任・倫理の重要性などを体系的に把握・分析・理解する能力を有する。 　・問題を発見し、問題の本質を問い、論理的考察と多面的総合的視点から社会的現象を的確に判断し行動する能力を有する。 【知識と技能】 　・商学についての基礎知識と専門知識、総合的教養を修得し、高いコミュニケーション能力を有し、多元的社会のなかで機能や文化を異にする他の多くの主体との共生を図ろうとする意識と積極的な姿勢を有する。 （2）教育研究目標 【高度な能力を有するビジネスパーソンの養成】 　・高度な専門知識と管理の技法、そしてグローバルに展開する現代経済・社会の理解に不可欠な総合的教養の修得 【国際化時代・情報化時代におけるグローバル人材の育成】 　・言語やIT、企画・提案など幅広い分野にわたるコミュニケーション能力や意思決定能力の高度化 （3）学生支援に関する方針 　「真に創造的な能力を有するビジネスパーソン」を育成することを目指し、幅広い関心と鋭い問題意識を有し、さまざまな領域でその能力を十分に発揮できる人材を社会に送り出すべく、とくに初年次教育における基礎的スキルと基礎的知識の習得を重視し、その後の体系的な学習を促すよう配慮しています。 修学支援 初年次教育 　1年生を対象としている「商学演習」においては、担任制度をとっており、大学生活を始めるにあたって必要な基礎的スキル（図書館の利用方法・レポートの書き方・プレゼンテーションの方法・インターネット利用上の注意など）を教えるとともに、個別面談等を通じて学生の学習状況を把握し、適宜指導しています。 　また、ビジネス全般についての基礎的な知識を確実に身につけることができるよう、基礎科目を体系的に学習できる教育課程となっています。必修科目である「簿記基礎」、「経済学基礎」をはじめとして、「統計学基礎」、「数学基礎」、「マーケティング入門」、「ファイナンス入門」などを開講しています。 TA・RA・SA・メンターの活用 　商学研究科所属の大学院生を教学補佐（TA）として採用する制度をとっています。教学補佐は、学部定期試験・入学試験の監督、入学式・卒業式等学部行事の補助業務、コンピュータ利用室の運営・管理業務など、補助業務とはいえ商学部の重要な業務にかかわっています。 　また、学部生は、ラーニング・アシスタント（LA）として、基礎科目の授業中の補助業務を担っています。 アカデミック・アドバイザー制度 　毎年度春学期終了時点での成績に基づいて、修得単位数とGPAが一定基準に満たない者を対象学生として選定し、商学演習・研究演習担当者を中心に全教員が分担して、対象学生と個別面談および学修指導を行っている。 生活支援 　1年生を対象としている「商学演習」や各ゼミナールにおいて、講義担任者が必要に応じて適宜個別面談を行っています。またゼミに所属しない学生については学部執行部の学生担当者が必要に応じて面談や指導をおこなっています。 進路支援 　1年生を対象としている「商学演習」や各ゼミナールにおいて、講義担任者が必要に応じて適宜個別面談を行っています。またゼミに所属しない学生については学部執行部の学生担当者が必要に応じて面談や指導をおこなっています。 （4）教員像 各自の優れた研究を基盤として、「真に創造的な能力を有するビジネスパーソンの育成」という教育理念に基づいた学部教育を行い、優れたビジネスパーソンを輩出す	無

ることによって社会に貢献する教員。 (5)教員組織の編制方針 「真に創造的な能力を有するビジネスパーソンの育成」という教育理念の実現をめざし、商学部の理念を実現するために必要な教員・教員組織を、任用に関する規定および教員選考基準に基づき、商学研究科と緊密に連携しながら編制する。	

2. 商学部のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準					
DPに定める資質・能力の獲得状況	あなたはこの授業を通して卒業までに求められる資質・能力を向上できたと思いますか。(「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」) の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Kwansei コンピテンシー獲得状況	知識・能力・資質の程度 全項目 (「大変身についた」～「全く身についていない」の5段階評価) (2018～2022 年度) 当該年度卒業生と次年度 1 年生との調査による伸び (2023～2027 年度) 当該年度卒業生とその 1 年生時との調査による伸び 「IR 新入生調査」「IR 卒業時調査」	5段階評価のうち、上位2つ (「大変身についた」「やや身についた」)の回答割合(%)の平均の差 (2022 年度以降のデータの変更点年度以降) ➡入学時と卒業時のアンケート調査においてコンピテンシーの 10 要素の総合得点(50 点満点)を確認して、学部ごとにその差の平均を算出する。4.4	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
汎用的能力の獲得状況	入学後の能力変化(表外※参照) (「大きく増えた」～「大きく減った」の5段階評価 「IR 上級生調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「大きく増えた」、B「増えた」) の回答割合(%) ➡2022 年度の調査見直しにより、当該項目は調査項目から削除。 (Kwansei コンピテンシーとの重複)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
授業外学修時間	授業外時間に、授業課題や準備時間、復習をする時間(一週当たりの平均) 「IR1年生調査、IR 上級生調査」 ➡【2022 年度データの変更点】 2022 年度実施分から調査名称を「学生調査」に変更。	一週あたり 6 時間以上の割合 ➡【2022 年度データの変更点】 学生調査の変更により、2022 年度以降は「一週あたり 5 時間以上」の割合に変更。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業目的・到達目標の達成度	あなたは、シラバスに示された授業の目的や、到達目標を達成できると思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業満足度	あなたは、全体としてこの授業に満足していますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
留学等派遣数	協定校への派遣学生数 「国際連携機構資料」	大学間協定に基づく派遣日本人学生数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
TOEIC/TOEFL 等の英語運用能力	TOEFL 換算得点目標の達成人数 ＜参考(学部別目標値)＞ ■国際:TOEFL 換算 550 点 ■文・総政:TOEFL 換算 540 点 ■その他:TOEFL 換算 520 点 「言語教育研究センター」	左記「TOEFL 換算得点」目標の達成人数(人)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
学生生活満足度	大学生活を振り返って、学生生活は満足したものでしたか。 (「満足」～「不満」の5段階評価) 「IR 卒業1年目調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「満足」、B「どちらかといえば満足」)の回答割合(%) ＊2018 年度調査までは、A「とても満足」、B「満足」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
就職率	就職率 「キャリアセンター統計資料」	就職者数(自営含まず)／就職希望者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
大学院進学率	大学院進学率 「キャリアセンター統計資料」	大学院進学者数/学部卒業者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(※)「知識・技能・能力の獲得状況」の「知識・技能・能力」とは、一般的な教養、論理的思考力、専門分野や学科の知識、グローバルな問題の理解、多様性を尊重する力、主体的に行動する力、リーダーシップ力、人間関係を構築する力、対立する価値を調整する力、地域社会が直面する問題を理解する能力、国民が直面する問題を理解する能力、困難を乗り越える粘り強さ、文章表現の能力、外国語の運用能力、生涯にわたって学び続ける能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、数理的な能力、コンピュータの操作能力、誠実さと品位、時間を効果的に利用する能力、卒業後に就職するための準備の程度、を指す。

(2)学部独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
インターナショナルプログラムの充実	学部独自プログラム「ビジネスに活かせる海外短期研修プログラム」の単位取得 【2022 年度以降】 オンライン・インターナショナル・ラーニング科目、融合科目(COIL/VE)を含む	単位取得者延べ人数 (商学部生のみ)	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
ハンズオン・ラーニング・プログラムの充実	開講科目「ビジネスプロジェクト」の単位取得	単位取得者延べ人数 (商学部生のみ)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
専門科目学修のアウトカム	ビジネスに関わる検定試験・資格試験合格者の単位認定科目	商学部「2019 年度 学習と履修の手引き 履修編」p.72～75 の単位認定可能科目(ただし言語教育科目の単位認定は除く)の延べ科目数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
実務家等による教育内容の充実化	ビジネス関連開講科目における実務家等による授業	寄附講座、学術講演会、学外講師による授業回数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
入試難易度 (偏差値)	ベネッセの進研模試のデータにおける合格可能性 60%以上となる偏差値 入学センター		非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
同系列学部勝敗	ベネッセの進研模試のデータにおける同系列学部合格者の競合大学(同志社、立命館、関西)との入学比率 経営企画部	本学と相手校の両方に合格していずれかに入学した受験生のうち、本学に入学した者の比率 本学入学者数／(本学入学者数＋併願校入学者)(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC 年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
ダブルチャレンジ修了者数	当該年度の卒業生のうち、ダブルチャレンジ制度のアウェイチャレンジの単位を取得して卒業した学生数 IR 室	①インターナショナルプログラム②ハンズオン・ラーニング・プログラム③副専攻プログラムのいずれかで単位取得し卒業した学生数 ※学部毎は延べ人数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」～「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5段階評価のうち「満足」と回答した比率(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
スクールモットーの浸透度	スクールモットー“Mastery for Service”を意識する程度は (「意識している」～「意識していない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	4 段階評価のうち、A「意識している」または B「ある程度意識している」と回答した割合(%) ＊2018 年度調査までは A「常に行動の規範としている」または B「頻繁に意識している」と回答した比率 ＊2020 年度調査までは 5 段階評価のうち、A「常に行動の規範としている」または B「ときどき意識している」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 6 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	設問 6 項目の「そう思う」「どちらかちいえばそう思う」と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

提出日：2025 年 12 月 18 日

商学研究科

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜商学研究科＞教学改善シート

研究科における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
商学研究科の教育課程は、必要に応じて新規科目を設置しつつ、これまでの教育経験を踏まえた安定したカリキュラムのもと、継続的に質の高い教育を提供している。 商学研究科の IR データにおいても、「大学院の研究指導に満足しているか」との問いに対し、「とても満足している」と回答した割合が 83.3% と高い数値を示している。多くの講義や演習において少人数教育が実現されており、このようなきめ細やかな指導体制が、研究指導に対する評価の高さにつながっていると考えられる。現状では特段大きな問題は認められないものの、以下の 2～4 の課題を改善することで、学生の学習成果をさらに向上させることができると考えられる。 なお、「所属研究科のカリキュラムを通じて、ディプロマポリシー（DP）に定められた学修成果が身についたと思いますか」および「所属研究科のカリキュラムは、DP に定められた学修成果を身につけるのに効果的でしたか」という問いに対しては、「そう思う」と回答した割合がそれぞれ 33.3%、50.0% であった。学部新入生については入学時オリエンテーションにおいて DP の説明を行っているが、大学院生に対しては DP の趣旨や内容の周知が十分でない可能性があり、今後の課題として認識している。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
商学研究科では、少人数制の指導体制が実現しており、大学院生全員分ではないものの自習スペースも確保されている。また、研究論文データベースや研究用データベースを利用できる環境が整っているほか、教員には大学院生の研究指導に必要な図書を購入するための商学部大学院図書費が一定程度配分されている。 商学研究科の IR データにおいても、「大学院生活は充実していましたか」との問いに対し、「とても充実している」と回答した割合が 66.7% と高く、大学院生活の満足度は概ね良好である。 一方で、改善が望まれる点も存在する。大学院における「学生による授業評価」の結果によれば、低い評価が見られた項目として、「文献・データベース（大学図書館・資料室を含む）の充実」および「自習室の充実」が挙げられる。 修士論文や博士論文に必要なデータベースや文献の準備について、現状では指導教員が個別に支援している場合もあり、本来は研究科として必要な研究基盤として整備すべきと考えている。 自習室については、博士後期課程の院生には研究スペースが確保されているものの、博士前期課程の学生には全員分のスペースが確保できていないのが現状である。すべての大学院生が十分な研究スペースを利用でき、研究交流が活発に行える環境を整備することが望ましい。 また、商学研究科における少人数制指導は、満足度を高める一方で、課題もある。指導教員または院生のいずれかが問題を抱えた場合に、適切にサポートできる体制が求められる点である。どのような学内支援を利用するのが適切か、研究科としてどのような支援を提供すべきか、また学生と指導教員双方にどのようなサポートが必要かについて、今後経験を蓄積しながら整備を進める必要があると考える。	

進路支援についても、課題がみられる。商学研究科の IR データでは、「修了後の進路に納得している」および「大学院で学んだことを将来の仕事で生かすことができる」と回答した割合はいずれも 33.3% と低い。また、「進路に納得している理由」の項目では、「事業内容」以外について「あてはまる」と回答した割合が総じて低い。これらの結果から、大学院生に対する進路支援、特にキャリアセンターの積極的活用を含めた体系的なキャリア支援の強化が求められる。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
入学定員を充足する入学者を確保できておらず、大学院生の人数が少ないため、院生間の研究交流が十分に活性化されていないことが課題である。一方で、質を担保した入学者を短期間で確保することは、現状の情勢では容易ではない。 学生募集に向けては、「商学研究科進学相談会」として年4回の大学院入試説明会を実施し、対面とオンラインの双方で参加できる体制を整えている。また、優秀な商学部学生の商学研究科への進学を促すため、教授会等を通じて教員への働きかけも行っている。今後も、学内外の学生に広く情報を届けるため、これらの取り組みを継続していく必要がある。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
大学院生が国際会議等で研究成果を報告する際の参加費用（参加登録料・旅費等）が上昇しており、参加が難しい状況が生じている。大学院生の研究発表を促進するためには、既存の助成制度における支援の強化が必要である。 近隣大学（特に競合校である神戸大学）の大学院では、海外大学とのダブルディグリーやグローバルプログラムが実施されており、院生間での英語による研究交流が盛んである。入学者の確保が難しい現状を踏まえると、交換留学生の活用なども含め、研究交流を活性化させる多様な施策を検討する必要がある。また、経営戦略研究科との連携を通じたシナジーの発揮や、共同でのプログラム構築も今後求められる。	

1. 商学研究科の理念、目的、各種方針

商学研究科の理念	変更の有無
商学研究科では、経営、会計、マーケティング、ファイナンス、ビジネス情報、国際ビジネスの6分野において、伝統的な研究領域に新しいアプローチを導入し、学際的な分野において新たな研究課題や解決策の構築を行っている。また、企業を取り巻く環境が急激に変化するなかで、現代の経済・社会や個々の企業が抱える諸問題を受けとめ、それらの根底にある理論や原理を研究・教育の課題としている。そこで、個々の研究者がこのような新しい任務に取り組み、伝統の継承と新たな領域への挑戦を積極的に行い、研究のより一層の高度化を計ると同時に、成果を教育に反映する。これらを通じて、スクールモットーである“Mastery for Service（奉仕のための練達）”を具現化した「組織運営に関して高い分析力と深い洞察力を有する研究者や専門職業人」の輩出を図ることを教育理念とする。	無

商学研究科の目的	変更の有無
近年の経済社会の変革と進展のスピードは著しく、企業等の組織運営にあってもテクノロジーの急速な進歩や社会変革に対応する能力が問われている。そこで要求されるのは高度の論理的思考能力と分析力である。従って、21世紀には理系に傾斜した技術的専門家だけではなく、組織運営を深く洞察する能力を有する人材が必要になると考えらえており、社会科学、とくに商学に精通した理論的基盤のある高度専門家の育成が重要と考えられる。そのため、企業経済環境に関する独創的な研究によって早期の課程博士授与をめざす前期課程・後期課程5年一貫による「研究職コース」と、深い理論的基盤と分析力を有する職業人を養成するための前期課程2年による「専門学識コース」を設ける。	無

学位授与方針（DP）	変更の有無
【前期課程】 前期課程では、専門学識コースと研究職コースのそれぞれにおいて、以下の方針に基づき学位を授与する。 1. 専門学識コース 専門学識コースでは、「主分野」において以下の能力を修得した者に対し、修士の学位を授与する。 （1）経営分野 経営の組織、戦略、管理、労務、財務、歴史などの領域において、高い分析力と深い洞察力を修得した者に対し、修士（経営学）の学位を授与する。 （2）会計分野 財務会計、管理会計、監査、国際会計、情報会計などの領域において、高い分析力と深い洞察力を修得した者に対し、修士（会計学）の学位を授与する。 （3）マーケティング分野 マーケティング、流通、ロジスティクスなどの領域において、高い分析力と深い洞察力を修得した者に対し、修士（マーケティング）の学位を授与する。 （4）ファイナンス分野 金融論、企業金融、国際金融、金融史、保険などの領域において、高い分析力と深い洞察力を修得した者に対し、修士（ファイナンス）の学位を授与する。 （5）ビジネス情報分野 データサイエンス、ビジネス情報、国際経済、市場システム、ビジネス・イノベーションなどの領域において、高い分析力と深い洞察力を修得した者に対し、修士（ビジネス情報）の学位を授与する。 （6）国際ビジネス分野 国際マーケティング、異文化マネジメント、国際ビジネス交渉、国際通商システム、イノベーション・エコシステムなどの領域において、高い分析力と深い洞察力を修得した者に対し、修士（国際ビジネス）の学位を授与する。 2. 研究職コース 研究職コースでは、商学に関する幅広い研究能力を修得し、博士論文作成のための研究能力の基盤を修得した者に対し、修士（商学）の学位を授与する。 【後期課程】 後期課程では、商学に関する独創的な研究を行い、博士論文を作成することを通じて、高度な研究を推進する能力を修得した者に対し、博士（商学）の学位を授与する。	無

教育課程の編成・実施方針（CP）	変更の有無
商学研究科では、「組織運営に関して高い分析力と深い洞察力を有する研究者や専門職業人」の輩出を図るという教育理念を実現するために、「経営」、「会計」、「マーケティング」、「ファイナンス」、「ビジネス情報」、「国際ビジネス」という 6 つの研究分野を整備し、指導教授が所属する分野（主分野）を軸として研究に取り組むカリキュラムを編成する。 【前期課程】 1. 専門学識コース 専門学識コースでは、高い分析力と深い洞察力を 2 年間で養うことに主眼を置き、その集大成として修士論文を位置づけている。そのため、「主分野」に特化して科目を履修し、大学院教員による講義および指導教授による演習指導を通じて、修士論文の作成に取り組むようにカリキュラムを編成する。 （1）経営分野 経営の組織、戦略、管理、労務、財務、歴史などの領域において、現象の解明の基盤となる理論と分析手法、ならびに高度な専門的学識を修得できる科目を提供する。 （2）会計分野 財務会計、管理会計、監査、国際会計、情報会計などの領域において、現象の解明の基盤となる理論と分析手法、ならびに高度な専門的学識を修得できる科目を提供する。 （3）マーケティング分野 マーケティング、流通、ロジスティクスなどの領域において、現象の解明の基盤となる理論と分析手法、ならびに高度な専門的学識を修得できる科目を提供する。 （4）ファイナンス分野 金融論、企業金融、国際金融、金融史、保険などの領域において、現象の解明の基盤となる理論と分析手法、ならびに高度な専門的学識を修得できる科目を提供する。 （5）ビジネス情報分野 データサイエンス、ビジネス情報、国際経済、市場システム、ビジネス・イノベーションなどの領域において、現象の解明の基盤となる理論と分析手法、ならびに高度な専門的学識を修得できる科目を提供する。 （6）国際ビジネス分野 国際マーケティング、異文化マネジメント、国際ビジネス交渉、国際通商システム、イノベーション・エコシステムなどの領域において、現象の解明の基盤となる理論および分析手法、ならびに専門的学識を修得できる科目を提供する。 2. 研究職コース 研究職コースでは、博士論文作成のための研究能力の基盤を養うことに主眼を置き、博士論文の作成に至る部分的・中間的成果として修士論文を位置づけている。そのため、「主分野」に重点を置きつつ「主分野」以外に必要とされる分野についても科目を履修し、大学院教員による講義および指導教授による演習指導を通じて修士論文の作成に取り組むとともに、商学に関する幅広い研究能力を修得するようにカリキュラムを編成する。 なお、研究職コースでは、前期課程入学の段階から指導教授を中心とした博士論文指導委員会による研究指導と論文指導を行う。 【後期課程】 指導教授を中心とした博士論文指導委員会による研究指導と論文指導を行い、後期課程 3 年間での博士学位取得、遅くとも後期課程進学後 5 年以内の博士学位取得に取り組む体制を整えるとともに、商学に関する独創的な研究能力を修得するようにカリキュラムを編成する。	無

学生の受け入れ方針（AP）	変更の有無
商学研究科は、経営、会計、マーケティング、ファイナンス、ビジネス情報、国際ビジネスの6分野において、スクールモットーである“Mastery for Service”（奉仕のための練達）を具現化するために「組織運営に関して高い分析力と深い洞察力を有する研究者や専門職業人」を輩出することを教育上の目的としている。 そのため博士課程前期課程2年間の「専門学識コース」、博士課程前期課程と博士課程後期課程の5年一貫制となる「研究職コース」、博士課程後期課程3年間において、高度の専門性と豊かな人間性を備え、理論的基盤のある人間の育成を目指す。したがって、この趣旨を理解し、高い基礎学力を備え、向上心を持ち、さまざまな適性を有する多様で幅広い学生たちを受け入れる。 【博士課程前期課程】 博士課程前期課程専門学識コースでは、6分野の中から指導教授の属する「主分野」に関する高い分析力と深い洞察力を2年間で養い、その集大成として、修士論文の作成を目指す。そのため、「主分野」に関する学部卒業程度の基礎学力と思考力を有しているとともに、修士論文の作成に真摯かつ積極的に取り組む姿勢が求められる。 博士課程前期課程研究識コース（5年一貫）では、商学に関する幅広い研究能力を2年間で養い、博士論文作成のための研究能力の基盤の修得と修士論文の作成を目指す。そのため、「主分野」ならびに「主分野」以外に関しても学部卒業程度の基礎学力と思考力を有しているとともに、修士論文の作成に真摯かつ積極的に取り組む姿勢が求められる。 【博士課程後期課程】 博士論文の作成を通じて、商学に関する独創的な研究能力の修得を目指している。そのため、商学の「主分野」ならびに「主分野」以外に関しても博士課程前期課程修了程度の基礎知識と思考力を有しているとともに、博士論文の作成に真摯かつ積極的に取り組む姿勢が求められる。	無
商学研究科の各方針	変更の有無
（1）めざす学生像 商学研究科教育が目指す学生像は、スクールモットーである“Mastery for Service（奉仕のための練達）”を具現化した組織運営に関して高い分析能力と深い洞察力を有する研究者や専門職業人である。 （2）教育研究目標 【研究者の養成】 「研究職コース」においては、前期課程・後期課程5年一貫制のコースを通じて、高等教育機関等における研究者にとどまらず、民間のシンクタンクをはじめとした幅広い分野での活躍を想定した高度な専門性と豊かな人間性を備え、独創的な理論研究能力を有する課程博士を授与するにふさわしい研究者の養成を目標とする。 【ビジネスリーダー等の養成】 「専門学識コース」においては、前期課程2年間のコースを通じて、企業にとどまらず官公庁、NPOなど幅広い分野での活躍を想定した実務現象の解明の基盤となる理論を修得した人材ならびに高度の専門的学識を備えたビジネスリーダーの養成を目標とする。 （3）学生支援に関する方針 学生が研究活動に専念し、その志や夢を実現できるよう、指導教員、商学研究科および学内関連部署の連携を図り、修学支援、生活支援および進路支援に取り組む。 修学支援 指導教員による個別対応を中心としつつ、商学研究科として情報収集および学内関連組織（学生支援機構、教務機構など）との連携にあたる。 生活支援 指導教員が必要に応じて適宜個別面談を行う。また、商学研究科として情報収集および学内関連組織（学生活動支援機構、教務機構など）との連携にあたる。 進路支援 指導教員が必要に応じて適宜個別面談を行う。また、商学研究科として情報収集およびキャリア・センターとの連携にあたる。 （4）教員像 商学研究科の一員として、組織運営に関して高い分析能力と深い洞察力を有する研究者や専門職業人の輩出（教育面）、専門領域を中心とする学術研究の発展（研究面）または商学研究科の持続的発展（組織運営面）に誇りと情熱をもって取り組む教員。 （5）教員組織の編制方針 カリキュラムに基づく組織的な教育・研究を遂行するために必要な教員組織を編成するために、教員の研究領域および教育・研究・組織運営に関する経験・能力を最優先事項としつつ、構成員の年齢、性別、国籍、クリスチャニティなどの多様性を確保することにも留意する。	無

2. 商学研究科のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学位授与数 (M・D・P)	修士、博士、修士(専門職)の学位授与数 (※乙号除く) 「大学基礎データ」	授与する学位数が多いほど○ (人)	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M D	M D
就職・進路決定率 (M)	就職・進路決定率 「キャリアセンター統計資料」	(就職+起業・自営+就労継続)/(修了者ー進学者)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
博士後期課程への進学者数 (M)	進学者数 「キャリアセンター統計資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
日本学術振興会 特別研究員数(新規) (D)	特別研究員のうち、当該年度の新規採用者 「研究推進社会連携機構資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
研究者輩出数(D) (将来)			現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

(2)研究科独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
教員の授業内容の充実化	学生による授業に関するアンケート(大学院)結果	学生による授業に関するアンケート(大学院)における設問「(1)教員の授業内容と方法について」の平均値	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
研究学習環境の充実化	学生による授業に関するアンケート(大学院)結果	アンケート結果における「満足」の割合 ※学生による授業に関するアンケートにおける設問「(4)研究環境について」の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
商学研究科主催の研究会の充実化	商学研究科が主催する研究会等の開催数	商学セミナー、学術講演会(学部共催含む)の実施回数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
修了後の進路の満足度	修了後の進路の満足度 (「とても納得している」～「あまり納得していない」の5段階評価) 修了時調査	5 段階評価のうち、 A「とても納得している」または B「ある程度納得している」 と回答した比率(%)					
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 7 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く7項目対して A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」 と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

(4)認証評価に関するKPI

KPI	定義	基準	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
収容定員充足率	当該年度 5 月 1 日時点の収容定員に対する在籍学生数の割合 大学基礎データ表2	在籍学生数/収容定員(%) ※認証評価上(大学基準協会)は、 (M)0.50 以上 (D)0.33 以上 を適切性の目安としている。		非公表	非公表		

提出日：2025 年12月17日
総合政策学部

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜総合政策学部＞教学改善シート

学部における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
・2025年度在学生調査（1年）より、実習や実験などを体験的に学ぶ機会について、肯定的意見（そう思う、どちらかといえばそう思う）が38.3%とさらなる体験的学習機会の充実が期待される。 ・2025年度在学生調査（1年）より、授業の中で教員と学生とで双方向のやりとりについて、「そう思う」の回答率が17%と向上に向けた取り組みの余地がある（全体平均22.7%）。 ・2025年度在学生調査（3年）より、学生が自分の考えや研究を発表する機会がありましたかについて、肯定的意見（そう思う、どちらかといえばそう思う）が64．8%とさらなる発表機会の確保が望まれる（全体平均71%）。 ・2025年度在学生調査（1年）より、授業を通して最先端の研究成果に触れることができましたかについて、肯定的意見（そう思う、どちらかといえばそう思う）が34．7%と今後の伸長が期待される（全体42．8%）。 これらの結果の多くは、本学部の教育課程の大きな特色の1つである「レイトスペシャライゼーション」（2 年次からの学科分属）に起因する傾向があると考えられる。 ・（中期計画2025-2027より）学部再編に向けた新たな総合政策学部の教育カリキュラムの見直しを進めている →①カリキュラムの細分化とそれに伴う科目数の増加 ②コンピュータ演習・English Communication 等のカリキュラム編成や授業内容の再評価 ③研究演習・メディア工房の在り方の検証 ④低学年次における専門教育，フィールドワークのあり方等。 ・2026 年度から授業スケジュール変更・授業実施方針変更に伴う授業運営や教育効果の検証。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
・2025 年度在学生調査（1 年）より、授業と授業の間の自習する場所は充実していますか、に対して「そう思う」が 30.5%と今後の自習環境の整備・拡充が求められる（全体平均47．3%）。 ・アカデミック・アドバイザー（AA）面談対象者から見える現状課題として 2024 年度より基準変更（2023 年度までは主に単位習得数を主に算出していたが、2024 年度からは GPA 基準も含まれることになった）により、ともに8割強の学生が EC 修得単位数の要件により AA 面談の対象者となっている。 ―2024年度秋学期 AA 面談対象者79名中 59名（82%） ―2025年度秋学期 AA 面談対象者52名中 46名（88%） これらはカリキュラム編成上、1、2年次必修科目である English Communication で課される課題の多さに起因するものもあると考えられ、カリキュラム上の調整と学生への学習支援の強化が課題となっている。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
・（中期計画2025-2027より）入試難易度（偏差値）は 2024 年度 51.2 と、さらなる志願者層の開拓とブランド力の向上が求められる。（ベネッセ進研模試データ〔入学センター提供〕より） ・（中期計画2025-2027より）比較的成績優秀層の入学実績がある院内・協定校等推薦（指定校推薦除く）入学者数は2021年度 50 名強であったのに対し、2025 年度 30 名弱と減少傾向にあり、推薦入学者の確保に向けたアプローチ方法の再検討が必要である。 ・2024，2025新入生調査より、第一志望比率の向上に向けた魅力発信が課題である。 （入学者の第一志望の割合 2024 年度：68．7%、2025 年度：64．6%。全体平均 2024 年度：87．1%、2025 年度：85．8%） これらは「政策」という言葉が広義で、受験生にとって学ぶ内容や将来像がイメージしづらいことや、近年では多くの他大学でもフィールドリサーチや学際的学びを前面に押し出した傾向が強まり、国際系学部など競合との差別化がさらに難しくなってきていることが要因と考えられる。そのため、本学部独自の強みや具体的なキャリアパスをより明確に発信していく必要がある。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
・学部の国際教育を推進するにあたり外国人教員（専任・総合政策学部英語常勤講師）比率が低下している。 →2021年度 29.7%（64 名中 19 名）であったのに対し、2025年度は 26.8%（56 名中 15 名） ・学部独自 KPI 数値より、2024 年度海外プログラム参加者は126名と過年度から減少傾向にあり、参加促進に向けたプログラムの魅力向上や支援策の再構築が必要である。 ・学外でのフィールドワークなどの充実化にむけた課題整理等が必要。 ・Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ号館の施設の老朽化や学部独自で運用してきた教育研究システムリプレース計画の見直しが必要。 （神戸キャンパスの移転を前提として、2029 年度に全学教育研究システムリプレースに統合する予定であったため） ・学生の自己学習環境の充実のため、1号館共同研究室等の利用活性化が必要。	

1. 総合政策学部の理念、目的、各種方針

総合政策学部の理念	変更の有無
自然と人間の共生、人間と人間の共生	有・無

総合政策学部の目的	変更の有無
総合政策学部は、「自然と人間の共生、人間と人間の共生」という理念の下で、複雑かつ高度化した現代社会に潜む諸問題を発見し、問題解決及び政策立案能力を持った人材を養成することを目的としている。そのために、総合政策学部はヒューマン・エコロジーを視座とし、政治学、経済学、社会学、経営学、法学、工学、理学、言語、文化、思想といった個別的学問領域を横断的かつ重層的に構造化した教育課程を編成して、「Think Globally. Act Locally.」をモットーとした総合的かつ専門的な教育研究を行う。 総合政策学科 総合政策学部の理念である「自然と人間の共生、人間と人間の共生」についての基本的理解を深め、技術的環境の変化とマクロな社会変化に対応できる総合的な視野、問題解決能力、政策立案能力を持つとともに、「Think Globally. Act Locally.」をモットーとして地球規模で自然・文化・社会環境を維持発展させ、国際社会に貢献できる人材を養成する。そのために、「環境政策フィールド」、「公共政策フィールド」、「言語文化政策フィールド」という 3 つの専攻フィールドを設け、総合的かつ専門的な教育研究を行う。 メディア情報学科 デジタル・ネットワークを基盤とする豊かな社会を築くため、日々進歩する情報通信技術と情報メディアの本質を理解した上で、それらのあり方についての問題を人間重視の視点から先見性を持って見出す。そこで発見された問題を、フィールド調査や数理的分析などにより考察し、次に問題解決の政策案を作成し、さらにそれらを映像表現を含む多様なメディアを活用したコンテンツとして社会に発信することができる人材を育成する。 都市政策学科 地方都市に活力あふれる新たなコミュニティを創造していくための都市政策と都市経営に必要な地方産業の活性化策に関する教育研究を行う。都市政策については行財政に関する基礎知識とデータサイエンススキルを学び、実際の都市経営や地域運営に必要な能力を身につけた人材の育成、また、地方産業活性化の中心となる地方発ベンチャー企業の経営に必要な能力を身につけた人材を育成する。 国際政策学科 国連が掲げる平和構築、国際発展と開発、人権の擁護といった国際社会の諸課題に対して、総合的かつ専門的な見地から政策を構想・立案し、実践的な問題解決能力を備えた人材を養成する。そのために、「国際社会における平和構築」、「国際発展と開発」、「国際人権レジームの拡大と擁護」という 3 つの政策課題に関して理論と実践の双方の視点から総合的かつ専門的な教育研究を行う。	有・無

学位授与方針（DP）	変更の有無
Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において総合政策学部の学位授与方針（DP）を以下のとおり定めます。 総合政策学科 総合政策学部はより良い未来を実現するため、「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」の理念を理解し、その実現を通じて、社会の持続的発展に資する人材の育成を目標とします。 この目標を実現するための教育として、総合政策学科では、人が生きていく場としての「環境」、維持すべき社会としての「公共」、ならびに思考がよって立つ「言語・文化」に関わる政策に着目します。 学生は、関連する様々な課題に対してグローバルな視点から考え、実行可能な対策を立案・実践できる専門力と総合力を備えた人材としての教育を受けます。そして、それぞれの問題意識と将来の夢に従い、本学部での多様な学びと経験を自らの力とし、より良い社会の実現のために、その力を生かしていくことが期待されます。こうしたポリシーにもとづき、学士（総合政策）の学位は、共生の実現と社会の持続的発展に関わる政策の立案、実行に必要な以下にあげる基礎的能力を有する者に授与されます。 ・「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」をめざし、グローバルな視点から現代の地球社会の問題を発見する能力（問題発見能力）を習得し、さらに学問的な態度でこれらの問題を解決できる能力（問題解決能力）。 ・自然科学・社会科学等の複数の学問分野にまたがる基礎的な知識（学際性）と問題を科学的に分析する力を身につけることで、社会や自然における複合的で複雑な諸問題を理解し、具体的な政策を構想できる能力（総合力）。 ・フィールドワークをとおして現実の社会において人々と共に実際の諸問題を分析発見し（実学性）、さらにそれらを克服する政策を構想し実践できる能力（実践力）。 ・政策実現にあたって必要となる様々な文化や価値観を理解し交流できる能力（コミュニケーション力）と自己の考えを発信できる能力（プレゼンテーション力）。 メディア情報学科 総合政策学部はより良い未来を実現するため、「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」の理念を理解し、その実現を通じて、社会の持続的発展に資する人材の育成を目標とします。 この目標を実現するための教育として、メディア情報学科では、急速な技術革新のもとで社会を変革しつつある表現手段としての「メディア」に関わる政策に着目します。 学生は、関連する様々な課題に対してグローバルな視点から考え、実行可能な対策を立案・実践できる専門力と総合力を備えた人材としての教育を受けます。そして、それぞれの問題意識と将来の夢に従い、本学部での多様な学びと経験を自らの力とし、より良い社会の実現のために、その力を生かしていくことが期待されます。こうしたポリシーにもとづき、学士（総合政策）の学位は、共生の実現と社会の持続的発展に関わる政策の立案、実行に必要な以下にあげる基礎的能力を有する者に授与されます。 ・「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」をめざし、グローバルな視点から現代の地球社会の問題を発見する能力（問題発見能力）を習得し、さらに学問的な態度でこれらの問題を解決できる能力（問題解決能力）。 ・自然科学・社会科学等の複数の学問分野にまたがる基礎的な知識（学際性）と問題を科学的に分析する力を身につけることで、社会や自然における複合的で複雑な諸問題を理解し、具体的な政策を構想できる能力（総合力）。 ・フィールドワークをとおして現実の社会において人々と共に実際の諸問題を分析発見し（実学性）、さらにそれらを克服する政策を構想し実践できる能力（実践力）。 ・政策実現にあたって必要となる様々な文化や価値観を理解し交流できる能力（コミュニケーション力）と自己の考えを発信できる能力（プレゼンテーション力）。 都市政策学科 総合政策学部はより良い未来を実現するため、「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」の理念を理解し、その実現を通じて、社会の持続的発展に資する人材の育成を目標とします。 この目標を実現するための教育として、都市政策学科では、現代社会の危機と可能性を踏まえて、経済・社会活動の場として重要性を増す「都市」に関わる政策に着目します。 学生は、関連する様々な課題に対してグローバルな視点から考え、実行可能な対策を立案・実践できる専門力と総合力を備えた人材としての教育を受けます。そして、それぞれの問題意識と将来の夢に従い、本学部での多様な学びと経験を自らの力とし、より良い社会の実現のために、その力を生かしていくことが期待されます。こう	有・無

したポリシーにもとづき、学士（総合政策）の学位は、共生の実現と社会の持続的発展に関わる政策の立案、実行に必要な以下にあげる基礎的能力を有する者に授与されます。
・「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」をめざし、グローバルな視点から現代の地球社会の問題を発見する能力（問題発見能力）を習得し、さらに学問的な態度でこれらの問題を解決できる能力（問題解決能力）。
・自然科学・社会科学等の複数の学問分野にまたがる基礎的な知識（学際性）と問題を科学的に分析する力を身につけることで、社会や自然における複合的で複雑な諸問題を理解し、具体的な政策を構想できる能力（総合力）。
・フィールドワークをとおして現実の社会において人々と共に実際の諸問題を分析発見し（実学性）、さらにそれらを克服する政策を構想し実践できる能力（実践力）。
・政策実現にあたって必要となる様々な文化や価値観を理解し交流できる能力（コミュニケーション力）と自己の考えを発信できる能力（プレゼンテーション力）。

国際政策学科
総合政策学部はより良い未来を実現するため、「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」の理念を理解し、その実現を通じて、社会の持続的発展に資する人材の育成を目標とします。
この目標を実現するための教育として、国際政策学科では、相互影響と関係性がさらに深まりつつある「国際」社会に関わる政策に着目します。
学生は、関連する様々な課題に対してグローバルな視点から考え、実行可能な対策を立案・実践できる専門力と総合力を備えた人材としての教育を受けます。そして、それぞれの問題意識と将来の夢に従い、本学部での多様な学びと経験を自らの力とし、より良い社会の実現のために、その力を生かしていくことが期待されます。こうしたポリシーにもとづき、学士（総合政策）の学位は、共生の実現と社会の持続的発展に関わる政策の立案、実行に必要な以下にあげる基礎的能力を有する者に授与されます。
・「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」をめざし、グローバルな視点から現代の地球社会の問題を発見する能力（問題発見能力）を習得し、さらに学問的な態度でこれらの問題を解決できる能力（問題解決能力）。
・自然科学・社会科学等の複数の学問分野にまたがる基礎的な知識（学際性）と問題を科学的に分析する力を身につけることで、社会や自然における複合的で複雑な諸問題を理解し、具体的な政策を構想できる能力（総合力）。
・フィールドワークをとおして現実の社会において人々と共に実際の諸問題を分析発見し（実学性）、さらにそれらを克服する政策を構想し実践できる能力（実践力）。
・政策実現にあたって必要となる様々な文化や価値観を理解し交流できる能力（コミュニケーション力）と自己の考えを発信できる能力（プレゼンテーション力）。

教育課程の編成・実施方針（CP）	変更の有無

総合政策学部では、学位授与方針を念頭におき、教育課程の編成・実施方針（CP）を以下のとおり定めます 。

総合政策学科
　総合政策学科は、「自然と人間の共生、人間と人間の共生」についての基本的理解を深め、技術的環境の変化とマクロな社会変化に対応できる総合的な視野、問題解決能力、政策立案能力を持つとともに、「Think Globally. Act Locally.」をモットーとして地球規模で自然・文化・社会環境を維持発展させ、国際社会に貢献できる人材を養成します。そのために、「環境政策フィールド」、「公共政策フィールド」、「言語文化政策フィールド」という3つの専攻フィールドを設け、総合的かつ専門的な教育研究を行います。
＜基本ポリシー＞
(1)建学の精神の継承と人間性の涵養
学生は、キリスト 教の文化・思想に基づく建学の精神を理解し、「仕えられるためではなく仕えるために」という理念のもとで個々の人間性を涵養するとともに、世界への広い視野を身につけます。
(2)学びの起点
総合政策学部では、学生が「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」、「Think Globally. Act Locally.」という学部の基本理念を深く理解し、実践する力を養います。
(3) 広範で総合的な知識の獲得と政策分析力の形成
総合政策学部は、総合政策に関連する幅広い知識を習得し、多角的視野から社会の問題を俯瞰する力を養うため、学科の枠を越えて履修できる多様な専門科目を提供します。 社会科学、人文科学、自然科学に関する知識を広げるとともに、どの専門分野でも必要な、データの科学的活用技術を習得し、各所属学科の目的と興味に応じた専門性と、学際性の両立をめざします。これらをもとに、各分野における政策あるいは計画の分析・立案能力の形成をめざします。
(4) 各分野における実務的専門的技術の獲得
総合政策学科は、各分野における必要にして十分な専門科目を開講します。学内での講義や演習科目だけではなく、プロジェクト・ベースド・ラーニングやハンズオンラーニングを 意識したフィールドワークも用意して、現場体験を通した学びの動機付けを行います。また、外部の研究者や実務家等を招聘して、全学部生を対象とする公開講座（学部研究会と呼んでいます）も実施します。さらに専門性を高めるために、さまざまな資格取得が可能なプログラムも提供します。
(5)語学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の涵養
学生は、英語や諸外国語で発信される様々な情報を収集、理解するとともに、自らの考えや思いを口頭や文章、映像等で的確に伝える実践的な力を習得します。そのために、英語のネイティブスピーカーによる少人数制の英語教育を推進します。留学生は同様の趣旨で、日本語科目を学びます。また、ICT を柔軟に活用した情報収集・分析・発信技術を学び、数理的思考やデータ分析の基本も習得します。これらの成果を大勢の前でプレゼンテーションする機会を学部行事として実施します。
(6)諸分野における課題発見能力と自発的な研究推進およびこれを取りまとめる能力の 形成
学生自らが研究課題を発見、遂行、とりまとめる能力を形成するために、ゼミでの少人数教育を基本として、進級論文や卒業論文、卒業制作等の指導を通じてアカデミックスキルの向上をめざします。またその成果を発表する機会を設け、プレゼンテーション能力やディスカッションのスキルも磨きます。
＜4 年間のカリキュラムの流れ＞
(1) 1年次にはキリスト教および総合政策の基本理念を学ぶ他、各学科の専門的な内容を知るための学科入門科目があります。また、少人数での英語教育とコンピュータ演習他、いくつかの必修科目を設けます。学生 はこれらの科目の履修を通し、各自の学習目標と専門領域を検討し、1 年次の終わりに学科を選択します。
(2) 2年次以降は4つの学科に分属し、それぞれの視点から現代社会の諸課題を理解し、専門的な学びを開始します。学科ごとに必修科目を用意するとともに、引き続き英語能力の上達をめざす少人数科目を提供します。
(3) 3、4年次では、学生は全員いずれかのゼミに配属され、教員との議論や実践的なフィールドワーク、ハンズオンラーニング等を通して、専門性をさらに深めます。また各種教職以外にも各種資格取得に必要な科目を提供します。
(4) 上記を踏まえて、総合政策学科では、広範で多様な知識と政策の理論を学びつつ、それらを環境政策・公共政策・言語文化政策の3つのフィールドで現実の政策に応用していくための専門知識・技能・態度を修得する教育 課程を編成しています。

メディア情報学科
　メディア情報学科は、デジタル・ネットワークを基盤とする豊かな社会を築くため、日々進歩する情報通信技術と情報メディアの本質を理解した上で、それらのあり方についての問題を人間重視の視点から先見性を持って見出します。そこで発見された問題を、フィールド調査や数理的分析などにより考察し、次に問題解決の政策案を作成し、さらにそれらを映像表現を含む多様なメディアを活用したコンテンツとして社会に発信することができる人材を育成します。
＜基本ポリシー＞
(1)建学の精神の継承と人間性の涵養
学生は、キリスト教の文化・思想に基づく建学の精神を理解し、「仕えられるためではなく仕えるために」という理念のもとで個々の人間性を涵養するとともに、世界への広い視野を身につけます。

有・無

(2)学びの起点
総合政策学部では、学生が「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」、「Think Globally. Act Locally.」という学部の基本理念を深く理解し、実践する力を養います。
(3) 広範で総合的な知識の獲得と政策分析力の形成
総合政策学部は、総合政策に関連する幅広い知識を習得し、多角的視野から社会の問題を俯瞰する力を養うため、学科の枠を越えて履修できる多様な専門科目を提供します。社会科学、人文科学、自然科学に関する知識を広げるとともに、どの専門分野でも必要な、データの科学的活用技術を習得し、各所属学科の目的と興味に応じた専門性と、学際性の両立をめざします。これらをもとに、各分野における政策あるいは計画の分析・立案能力の形成をめざします。
(4) 各分野における実務的専門的技術の獲得
メディア情報学科は、必要にして十分な専門科目を開講します。学内での講義や演習科目だけではなく、プロジェクト・ベースド・ラーニングやハンズオンラーニングを意識したフィールドワークも用意して、現場体験を通した学びの動機付けを行います。また、外部の研究者や実務家等を招聘して、全学部生を対象とする公開講座(学部研究会と呼んでいます)も実施します。さらに専門性を高めるために、さまざまな資格取得が可能なプログラムも提供します。
(5)語学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の涵養
学生は、英語や諸外国語で発信される様々な情報を収集、理解するとともに、自らの考えや思いを口頭や文章、映像等で的確に伝える実践的な力を習得します。そのために、英語のネイティブスピーカーによる少人数制の英語教育を推進します。留学生は同様の趣旨で、日本語科目を学びます。また、ICT を柔軟に活用した情報収集・分析・発信技術を学び、数理的思考やデータ分析の基本も習得します。これらの成果を大勢の前でプレゼンテーションする機会を学部行事として実施します。
(6)諸分野における課題発見能力と自発的な研究推進およびこれを取りまとめる能力の 形成
学生自らが研究課題を発見、遂行、とりまとめる能力を形成するために、ゼミでの少人数教育を基本として、進級論文や卒業論文、卒業制作等の指導を通じてアカデミックスキルの向上をめざします。またその成果を発表する機会を設け、プレゼンテーション能力やディスカッションのスキルも磨きます。
＜4 年間のカリキュラムの流れ＞
(1) 1年次にはキリスト教および総合政策の基本理念を学ぶ他、各学科の専門的な内容を知るための学科入門科目があります。また、少人数での英語教育とコンピュータ演習他、いくつかの必修科目を設けます。学生はこれらの科目の履修を通し、各自の学習目標と専門領域を検討し、1 年次の終わりに学科を選択します。
(2) 2年次以降は4つの学科に分属し、それぞれの視点から現代社会の諸課題を理解し、専門的な学びを開始します。学科ごとに必修科目を用意するとともに、引き続き英語能力の上達をめざす少人数科目を提供します。
(3) 3、4年次では、学生は全員いずれかのゼミに配属され、教員との議論や実践的なフィールドワーク、ハンズオンラーニング等を通して、専門性をさらに深めます。また各種 教職以外にも各種資格取得に必要な科目を提供します。
(4) 上記を踏まえて、メディア情報学科では、人間を中心に据えた情報技術や社会のあり方を総合的に考えた、情報技術を通じて実現するための情報社会政策、メディアと情報通信技術に関する専門知識・技能・態度を習得する教育課程を編成しています。

都市政策学科
都市政策学科は、地方都市に活力あふれる新たなコミュニティを創造していくための都市政策と都市経営に必要な地方産業の活性化策に関する教育研究を行います。都市政策については行財政に関する基礎知識とデータサイエンススキルを学び、実際の都市経営や地域運営に必要な能力を身につけた人材の育成、また、地方産業活性化の中心となる地方発ベンチャー企業の経営に必要な能力を身につけた人材を育成します。
＜基本ポリシー＞
(1)建学の精神の継承と人間性の涵養
学生は、キリスト教の文化・思想に基づく建学の精神を理解し、「仕えられるためではなく仕えるために」という理念のもとで個々の人間性を涵養するとともに、世界への広い視野を身につけます。
(2)学びの起点
総合政策学部では、学生が「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」、「Think Globally. Act Locally.」という学部の基本理念を深く理解し、実践する力を養います。
(3) 広範で総合的な知識の獲得と政策分析力の形成
総合政策学部は、総合政策に関連する幅広い知識を習得し、多角的視野から社会の問題を俯瞰する力を養うため、学科の枠を越えて履修できる多様な専門科目を提供します。社会科学、人文科学、自然科学に関する知識を広げるとともに、どの専門分野でも必要な、データの科学的活用技術を習得し、各所属学科の目的と興味に応じた専門性と、学際性の両立をめざします。これらをもとに、各分野における政策あるいは計画の分析・立案能力の形成をめざします。
(4) 各分野における実務的専門的技術の獲得
都市政策学科は、必要にして十分な専門科目を開講します。学内での講義や演習科目だけではなく、プロジェクト・ベースド・ラーニングやハンズオンラーニングを意識したフィールドワークも用意して、現場体験を通した学びの動機付けを行います。また、外部の研究者や実務家等を招聘して、全学部生を対象とする公開講座(学部研究会と呼んでいます)も実施します。さらに専門性を高めるために、さまざまな資格取得が可能なプログラムも提供します。
(5)語学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の涵養
学生は、英語や諸外国語で発信される様々な情報を収集、理解するとともに、自らの考えや思いを口頭や文章、映像等で的確に伝える実践的な力を習得します。そのために、英語のネイティブスピーカーによる少人数制の英語教育を推進します。留学生は同様の趣旨で、日本語科目を学びます。また、ICT を柔軟に活用した情報収集・分析・発信技術を学び、数理的思考やデータ分析の基本も習得します。これらの成果を大勢の前でプレゼンテーションする機会を学部行事として実施します。
(6) 諸分野における課題発見能力と自発的な研究推進およびこれを取りまとめる能力の 形成
学生自らが研究課題を発見、遂行、とりまとめる能力を形成するために、ゼミでの少人数教育を基本として、進級論文や卒業論文、卒業制作等の指導を通じてアカデミックスキルの向上をめざします。またその成果を発表する機会を設け、プレゼンテーション能力やディスカッションのスキルも磨きます。
＜4 年間のカリキュラムの流れ＞
(1) 1年次にはキリスト教および総合政策の基本理念を学ぶ他、各学科の専門的な内容を知るための学科入門科目があります。また、少人数での英語教育とコンピュータ演習他、いくつかの必修科目を設けます。学生はこれらの科目の履修を通し、各自の学習目標と専門領域を検討し、1 年次の終わりに学科を選択します。
(2) 2年次以降は4つの学科に分属し、それぞれの視点から現代社会の諸課題を理解し、専門的な学びを開始します。学科ごとに必修科目を用意するとともに、引き続き英語能力の上達をめざす少人数科目を提供します。
(3) 3、4年次では、学生は全員いずれかのゼミに配属され、教員との議論や実践的なフィールドワーク、ハンズオンラーニング等を通して、専門性をさらに深めます。また各種教職以外にも各種資格取得に必要な科目を提供します。
(4) 上記を踏まえて、都市政策学科では、都市経営や地域運営を適切にマネージするための専門知識や地方発ベンチャーの経営を適切にこなすための専門知識・技法・態度を習得する教育課程を編成しています。

国際政策学科
国際政策学科は、国連が掲げる平和構築、国際発展と開発、人権の擁護といった国際社会の諸課題に対して、総合的かつ専門的な見地から政策を構想・立案し、実践的な問題解決能力を備えた人材を養成します。そのために、「国際社会における平和構築」、「国際発展と開発」、「国際人権レジームの拡大と擁護」という3つの政策課題に関して理論と実践の双方の視点から総合的かつ専門的な教育研究を行います。
＜基本ポリシー＞
(1)建学の精神の継承と人間性の涵養
学生は、キリスト教の文化・思想に基づく建学の精神を理解し、「仕えられるためではなく仕えるために」という理念のもとで個々の人間性を涵養するとともに、世界への広い視野を身につけます。
(2)学びの起点
総合政策学部では、学生が「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」、「Think Globally. Act Locally.」という学部の基本理念を深く理解し、実践する力を

養います。
（3） 広範で総合的な知識の獲得と政策分析力の形成
総合政策学部は、総合政策に関連する幅広い知識を習得し、多角的視野から社会の問題を俯瞰する力を養うため、学科の枠を越えて履修できる多様な専門科目を提供します。社会科学、人文科学、自然科学に関する知識を広げるとともに、どの専門分野でも必要な、データの科学的活用技術を習得し、各所属学科の目的と興味に応じた専門性と、学際性の両立をめざします。これらをもとに、各分野における政策あるいは計画の分析・立案能力の形成をめざします。
（4） 各分野における実務的専門的技術の獲得
国際政策学科は、必要にして十分な専門科目を開講します。学内での講義や演習科目だけではなく、プロジェクト・ベースド・ラーニングやハンズオンラーニングを意識したフィールドワークも用意して、現場体験を通した学びの動機付けを行います。また、外部の研究者や実務家等を招聘して、全学部生を対象とする公開講座（学部研究会と呼んでいます）も実施します。さらに専門性を高めるために、さまざまな資格取得が可能なプログラムも提供します。
（5）語学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の涵養
学生は、英語や諸外国語で発信される様々な情報を収集、理解するとともに、自らの考えや思いを口頭や文章、映像等で的確に伝える実践的な力を習得します。そのために、英語のネイティブスピーカーによる少人数制の英語教育を推進します。留学生は同様の趣旨で、日本語科目を学びます。また、ICT を柔軟に活用した情報収集・分析・発信技術を学び、数理的思考やデータ分析の基本も習得します。これらの成果を大勢の前でプレゼンテーションする機会を学部行事として実施します。
（6）諸分野における課題発見能力と自発的な研究推進およびこれを取りまとめる能力の 形成
学生自らが研究課題を発見、遂行、とりまとめる能力を形成するために、ゼミでの少人数教育を基本として、進級論文や卒業論文、卒業制作等の指導を通じてアカデミックスキルの向上をめざします。またその成果を発表する機会を設け、プレゼンテーション能力やディスカッションのスキルも磨きます。
＜4 年間のカリキュラムの流れ＞
（1） 1年次にはキリスト教および総合政策の基本理念を学ぶ他、各学科の専門的な内容を知るための学科入門科目があります。また、少人数での英語教育とコンピュータ演習他、いくつかの必修科目を設けます。学生はこれらの科目の履修を通し、各自の学習目標と専門領域を検討し、1 年次の終わりに学科を選択します。
（2） 2年次以降は4つの学科に分属し、それぞれの視点から現代社会の諸課題を理解し、専門的な学びを開始します。学科ごとに必修科目を用意するとともに、引き続き英語能力の上達をめざす少人数科目を提供します。
（3） 3、4年次では、学生は全員いずれかのゼミに配属され、教員との議論や実践的なフィールドワーク、ハンズオンラーニング等を通して、専門性をさらに深めます。また各種 教職以外にも各種資格取得に必要な科目を提供します。
（4） 上記を踏まえて、国際政策学科では、国際機関や多国籍企業などグローバルレベルで活躍できる人材の育成を目指し、グローバルな視点からの政策を立案し、分析するための専門知識・技能・態度を習得できる教育課程を編成しています。

学生の受け入れ方針（AP）	変更の有無
【関西学院大学（学士課程）】 Ⅰ. 関西学院大学アドミッション・ポリシー 世界を視野におさめ、他者（ひと）への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service（奉仕のための練達）”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。 関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多元的に評価することを基本的な方針としています。 Ⅱ. 各学部のアドミッション・ポリシー 総合政策学部アドミッション・ポリシー 本学部が教育研究の目的としている、現代社会の諸問題に的確に対応できる人材を養成するため、必要となる基礎的学力を有することを前提としつつ、資質の異なる多様な学生を受け入れることにより、相互に刺激しあい学びあう教育研究環境の場を整えます。入学に必要となる基礎的学力としては、文理の幅広い学びとともに、大学での教育に対応できる一定の外国語運用能力を有していることが望まれます。また学生の資質としては、特に社会への幅広い関心と考える力、主体性をもって多様な人々と協働し学ぶことができることが求められます。学生は、入学までに得た基礎的知識をもとに、入学後は本学部の理念である共生への理解を深め、各自が関心を持つ専門領域で必要とされる能力を身に着け、専門領域を越えた幅広い学びを探求することが期待されます。 こうした能力を持った学生を募集するために、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接（口頭試問含む）を採り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を評価するため、それらの重み付けをさまざまに組み合わせた各種の入学試験を実施します。 Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー 1. 一般選抜入学試験 一般選抜入学試験は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。 一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。 全学日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学（記述式）」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述」による入学試験も実施しています。 学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語（記述式含む）」を必須とし、「国語（記述式含む）」「日本史」「世界史」「数学（記述式）」を選択科目とし筆記試験を実施します。なお文学部・法学部では「国語（記述式含む）」「日本史」「世界史」「数学（記述式）」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については学部個別日程において「英語」「国語」の 2 科目による筆記試験を行っています。教育学部については初等教育学コースの主体性評価方式の入試において、高等学校における生徒会活動、学校行事、課外活動等でのリーダーシップを、調査書と提出書類を合わせて評価する入学試験を実施します。 理系入学試験においては全学日程を 2 日間実施、入試制度も 2 種類実施しています。総合型および数学・理科重視型においては、本学で学ぶために必要な「英語」「数学（記述式）」を必須とし、理科（記述式）「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。 一般入学試験関学独自方式日程は、英語・数学型、関学英語併用型、関学数学併用型の3方式を実施しています。英語・数学型は、関西学院大学独自の「英語（記述式含む）」と「数学（記述式）」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。関学英語併用型・関学数学併用型は、関西学院大学独自の「英語（記述式含む）」または「数学（記述式）」に、大学入学共通テストの教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。 大学入学共通テストを利用する入学試験は、「一般入試とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入学共通テストで実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入学共通テストの得点のみで合否判定を行います。 1 月出願においては、総合政策学部3科目英数型を除く文系学部は「外国語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を 3 科目型、5 科目型の方式で実施しています。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え科目数を設定し、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。 3 月出願においては、文系学部は「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価しま	有・無

す。
　また、大学入学共通テストを利用する入学試験（1 月出願　英語検定試験活用型）は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の 4 技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入学共通テストの教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2. グローバル入学試験
　グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業におけるインターナショナル・プログラムに積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に 5 つのカテゴリーで実施する入学試験です。
① 国際貢献活動を志す者のための入学試験
　国際貢献活動を志す者のための入学試験は、関西学院大学が先駆として実施している学生の国際ボランティアに参加することを志す者で、秀でた英語コミュニケーション能力を有し、国際的課題に関し興味を持ち課題解決のための提案を行い、実践しようとする意欲を持つ者を対象とした入学試験です。英語検定試験においてCEFR　B2 以上を有する生徒、課題研究や模擬国連等に取り組み知識・技能、思考力・判断力・表現力を有し主体性・多様性・協働性を高めた課題解決能力を有する生徒を対象に出願資格を設定し評価を行っています。一次審査においてはこれらの実績や成果と、提出された志望理由書等の書類と合わせた書類審査と口頭試問・適性面接審査により評価を行います。口頭試問・適性面接審査では日本語および英語による面接により、国際的な知識や英語コミュニケーション能力、発展途上国でのプログラムに参加するために必要なチャレンジ精神、価値観や粘り強さを評価しています。二次審査では志望する学部の面接（口頭試問含む）により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。
② 英語能力・国際交流経験を有する者を対象とした入学試験
　英語能力・国際交流経験を有する者を対象とした入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）において国際社会で活躍する能力を身に付けることを志し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、もしくは国際交流体験による異文化社会における経験を有する者で、国際的課題に関し興味をもち課題解決のための提案に意欲を有する者を対象とした入学試験です。
　出願資格として、英語検定試験において CEFR B1 程度以上を有する生徒、海外における留学経験を有する生徒、模擬国連等に取り組み問題解決能力を育んだ生徒、英語弁論大会、英語エッセイコンテスト等において入賞した経験を持つ英語コミュニケーション能力を有する生徒を対象に設定し、調査書など提出された書類とあわせて、「主体性」を中心とした書類審査を行っています。
　また、英語を題材とした論述試験、日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査では志望する学部の面接（口頭試問含む）により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。
③ インターナショナル・バカロレア入学試験
　インターナショナル・バカロレア入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）において、国際社会で活躍する能力を身につけることを志す者で、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP（ディプロマ・プログラム）の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有する者を受け入れるための入学試験です。出願時においてフルディプロマを取得済みの者でスコアが 32 ポイント以上の者、もしくは取得見込で IB PREDICTED SCORE が出願時に 32 ポイント以上であるものは英語論述審査が免除となります。また日本の一条校において上記のスコアを有する者は日本語小論文が免除となります。これに満たない者については、英語を題材とした論述試験・日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する一次審査を行います。二次審査においては学部の面接（口頭試問含む）により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。
④ グローバルキャリアを志す者のための入学試験（英語エッセイ方式）
　グローバルキャリアを志す者のための入学試験は関西学院大学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）もしくは総合政策学部独自のカリキュラムである（グローバルキャリア・プログラム）において、国際社会で活躍することを志し、英語コミュニケーション能力をもつ者を対象とした入学試験です。国際社会で活躍する能力を身につけることをめざし、現代社会で話題となっている様々なニュース、トピックに対して、自身の知識や考えを英語で伝えることのできる生徒を対象に実施します。一次審査においては筆記審査を行い、現代社会で話題となっているトピック 4 題のうち、2 題を選択し、それぞれ英語 300 語程度のエッセイを書いてもらいます。また自分の書いたエッセイに適切な英語のタイトルをつけてもらいます。トピックはいずれも英語で書かれており、それらに関する情報や資料は掲載されていません。そのトピックについての知識、考え方も評価の対象とします。新聞などで社会の動きを知っていることも問われます。二次審査においては、面接（口頭試問含む）を行い学ぶ意欲や人間性を評価し書類審査と合わせて総合的に評価し選抜を行います。
⑤ グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験
　グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験は国際的に活躍する科学者や技術者となることを志し、自然科学に関する科目について一定の学力を有し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、インターナショナル・バカロレア資格を有する者、高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験を有する者もしくは自然科学分野における特記すべき国際交流経験を有する者、国際科学技術コンテストに出場した経験を有する者を出願資格として設定し、調査書等提出された書類とあわせ「主体性」を中心に書類審査を行います。また、入学後必要な数学、理科の基礎知識を問う筆記試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査では志望する学部の面接（口頭試問含む）により学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

3. 推薦入学
推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、自己推薦書、志望理由書、学校長推薦書等の提出書類による書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
① 院内推薦入学
1）関西学院高等部
　関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
2）関西学院千里国際高等部
　関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
② 継続校推薦入学
　啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等部の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
③ 提携校推薦入学
　関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、各校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
④ 協定校推薦入学
1）キリスト教学校枠
　関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の

建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

2）グローバル枠

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

3）グローバル＋キリスト教校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑤ 指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接（口頭試問含む）によって各学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

総合政策学部

関西学院大学総合政策学部で学ぶことに強い意欲を持ち、かつそれにふさわしい能力を有する生徒を推薦に基づき入学させることによって、キリスト教主義に基づく教育という関西学院建学の精神を基盤として、社会に対する深い洞察力を備え、国際感覚に優れた人材を育成することを目的とする。

審査では志願提出書類、面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑥ 指定校推薦編入学

関西学院大学指定校推薦編入学制度では、指定校学校長の責任に基づいて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」等の能力や資質を有すると判断され推薦された学生を、各学部が書類審査・面接等を通して総合的に評価し、編入生として受け入れます。

総合政策学部

指定校推薦編入学は、一定の学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接（口頭試問含む）によって総合政策学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

4. 公募制推薦入学試験

1）スーパーグローバルハイスクール対象入学試験

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service（奉仕のための練達）”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。2014年度よりスタートした文部科学省スーパーグローバルハイスクール事業は、急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付けることを重視し、課題研究と高大連携を二本の柱として教育プログラムの開発を目指しています。このスーパーグローバルハイスクール、SGHアソシエイト校において、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための入学試験を実施します。一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーション・口頭試問を行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的、多元的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。出願資格として、英語検定試験スコアCEFR B1レベル以上を有する者と設定しています。

2）スーパーサイエンスハイスクール対象入学試験

関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service（奉仕のための練達）”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。文部科学省スーパーサイエンスハイスクール事業の趣旨は、高等学校及び中高一貫教育校における先進的な理数教育を通じ、生徒の科学知識・技能と科学的思考力・判断力を高めることにより将来の国際的な科学技術系人材の育成を図ることとなっています。スーパーサイエンスハイスクールにおいて、課題研究を通じて能力を高めた生徒を、多面的・総合的に評価を行い、積極的に受け入れ、本学が採択されたスーパーグローバル大学事業への接続を促進するための入学試験を実施します。一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーション・口頭試問を行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的、多元的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。出願資格として、英語検定試験スコアCEFR A2レベル以上を有する者と設定しています。

3）探究（課題研究）評価型入学試験

関西学院のスクールモットーは“Mastery for Service”。 これは、第4代院長C.J.L.ベーツ宣教師が学生たちに与えた言葉で、「奉仕のための練達」と訳されています。わかりやすく言えば、「人々に奉仕できる、社会に役立つ知識と人間性を、自らの主体性を持って磨き上げよ」ということです。関西学院大学では、その教育目的を具現化できる、意欲に満ちた受験生を求めています。特に、本学で学ぶにふさわしい知識・技能、思考力・判断力・表現力を有しているだけでなく、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を持ち、多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけた学生を求めています。一次審査においては書類審査を行います。さらに二次審査において学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーション・口頭試問を行います。課題研究を通じて培った「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的、多元的に評価を行います。高等学校までの学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。出願資格として、英語検定試験スコアCEFR A2レベル以上を有する者と設定しています。

5. 総合選抜入学試験

関西学院のスクールモットーは“Mastery for Service”。 これは、第4代院長C.J.L.ベーツ宣教師が学生たちに与えた言葉で、「奉仕のための練達」と訳されています。わかりやすく言えば、「人々に奉仕できる、社会に役立つ知識と人間性を、自らの主体性を持って磨き上げよ」ということです。関西学院大学では、その教育目的を具現化できる、意欲に満ちた受験生を求めています。特に，本学で学ぶにふさわしい知識・技能、思考力・判断力・表現力を有しているだけでなく、主体的に学ぶ強い意欲をもった学生を求めています。総合選抜入学試験では、様々な選抜方法を組み合わせる事により多面的・総合的に学力の三要素の評価を行います。本学で学ぶにふさわしい知識・技能、思考力・判断力・表現力を有しているかについては、調査書や論述審査、小論文審査等、多様な方法で評価します。学びに向かう力・人間性（知識・技能、思考力・判断力・表現力を含む）については、提出された資料も併せて活用しながら、面接（口頭試問含む）、グループ学習、プレゼンテーション等により評価します。出願資格として、文系学部については、英語検定試験スコアCEFR B1レベル以上、理系学部についてはCEFR A2レベル以上を有する者と設定しています。

総合政策学部

現代社会は、環境破壊や資源・人口問題、国際紛争など多くの深刻な問題をかかえており、各国政府や国際機関、非政府組織、民間団体などさまざまな組織や団体が、問題の解決をめざしています。関西学院大学総合政策学部では、“Think globally. Act locally.”（地球規模で考え、足元から行動せよ）をモットーに、こうした地球規模の問題に対する適切な解決策としての政策を打ち出すために、幅広い学問領域を結集させ、総合的に追究しています。総合政策学部が求めている学生像は、現実世界の問題に対してして明確な問題意識をもち、解決に向けた取り組みによって、人々がより幸福に暮らすことのできる社会の実現に貢献しようとする学生です。総合政策学部では、このような学生は少なくとも次のような能力を備えていなければならないと考えています。1つ目は、現実世界の問題を解決したいという志と情熱を持っていることです。2つ目は、複雑に入り組んだ現実世界の問題を解きほぐし、その中から具体的な課題を発見・抽出するための想像力と論理的な思

考力です。3つ目は、自らの考えや意見、政策提案を的確に表現し、伝達するための発信型のコミュニケーション能力です。総合政策学部では、第1次審査として読解・論述審査を行い、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を有しているかを評価します。第2次審査では面接（口頭試問含む）およびプレゼンテーション等によって、提出された書類も併せて活用しながら「学びに向かう力・人間性」について評価を行います。

9. 帰国生徒入学試験

国際化時代に伴い、海外において勤務する日本人の数は多数にのぼっています。また、外国文化摂取のために長期留学する者も増加しています。この現象に伴う帰国生徒の教育問題は高い関心事となっています。しかし、海外での教育条件や生活環境などの違いによって大学に進学できる能力を有しながらも、日本の大学入試制度に対応できないために、正当に評価されていないという問題が指摘されてきました。これに対して、本学では、全国の大学に先駆けて1964年に帰国生徒の受け入れについての規程を制定し、その先進性で評価されています。この入学試験は、帰国生徒の海外での経験を評価して受け入れるためであると同時に、多様な学生を受け入れることによってキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待し、いわゆる「多元的入試」の一環として行っています。諸外国で勉学してきた帰国生徒が海外での貴重な経験と知識を生かし、学内での相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長していくことを期待しています。筆記試験を実施する学部については、英語、日本語に関する知識・技能、思考力・判断力・表現力の評価を行い、面接（口頭試問含む）において海外での体験において培った主体性・多様性・協働性や、本学で学ぶ意欲について評価を行います。

10. UNHCR難民高等教育プログラムによる推薦入学

「UNHCR難民高等教育プログラムによる推薦入学」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連UNHCR協会との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連UNHCR協会の推薦に基づき、面接（口頭試問含む）を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

11. スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験

この選抜入学試験制度は、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後は学業と課外活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化と課外活動の一層の振興に寄与することを目指すものです。

提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を筆記試験により評価を行います。一次合格者に対する二次審査は面接（口頭試問含む）を実施し志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

12. 外国人留学生入学試験

本学は、米国南メソジスト監督教会の宣教師、W. R. ランバスによって創設されました。開学当初から多くの外国人教員が教鞭をとっていたこともあり、外国人留学生を古くから受け入れ、日本の大学の中では国際色豊かな大学としてその学風を育んできました。

この入学試験制度は外国人留学生を対象とし、さまざまな国からの留学生を受け入れることにより、大学の国際性を一層高め、ひいてはキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待した、いわゆる「多元的入試」の一環として実施されます。

出願時の提出書類に基づき審査を実施し、本学で学ぶにあたって必要な日本語力および、基礎学力を有しているかを審査した後、各学部が面接審査（口頭試問を含む）・筆記試験等を実施し、志願する学部で学ぶ意欲や人間性などを中心に評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し、選抜します。

13. 学部特色入学試験

現代社会は、環境破壊や資源・人口問題、国際紛争など多くの深刻な問題をかかえており、各国政府や国際機関、非政府組織、民間団体などさまざまな組織や団体が、問題の解決をめざしています。関西学院大学総合政策学部では、“Think globally. Act locally.”（地球規模で考え、足元から行動せよ）をモットーに、こうした地球規模の問題に対する適切な解決策としての政策を打ち出すために、幅広い学問領域を結集させ、総合的に追究しています。総合政策学部が求めている学生像は、現実世界の問題に対してして明確な問題意識をもち、解決に向けた取り組みによって、人々がより幸福に暮らすことのできる社会の実現に貢献しようとする学生です。総合政策学部では、このような学生は少なくとも次のような能力を備えていなければならないと考えています。1つ目は、現実世界の問題を解決したいという志と情熱を持っていることです。2つ目は、複雑に入り組んだ現実世界の問題を解きほぐし、その中から具体的な課題を発見・抽出するための想像力と論理的な思考力です。3つ目は、自らの考えや意見、政策提案を的確に表現し、伝達するための発信型のコミュニケーション能力です。総合政策学部では、第1次審査として読解・論述審査を行い、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を有しているかを評価します。第2次審査では面接（口頭試問含む）およびプレゼンテーション等によって、提出された書類も併せて活用しながら「学びに向かう力・人間性」について評価を行います。

学生支援に関する方針	変更の有無
（定めなし）	有・無
教員像	変更の有無
（定めなし）	有・無
教員組織の編制方針	変更の有無
(1) 多様でかつ専門性に富んだカリキュラムにそって、総合政策学部ならびに各学科の教育目的に応じた教育・研究活動にふさわしい人材の確保に努める。 (2) コミュニケーション力ならびにプレゼンテーション力を養い、日本語／英語双方で表現できる学生を育てるため、海外での研究・教育経験を有する人材の確保に努める。 (3) 実学性・実践性を高めるため、国際機関、政府機関、自治体、民間企業等で多様な実務経験をもった人材から、教育目的にふさわしい教員の確保に努める。 (4) 教員採用にあたっては、国籍・性別を問わず、広く人材を選ぶ。 (5) 教員採用にあたっては、教員組織の年齢構成が特定の年齢層に偏らないように配慮する。 (6) 多様な教育の強化をめざして、特別客員教員や任期制教員の採用に務める。 (7) 英語教育の強化をめざして、外国人常勤講師の確保に努める。	有・無

2. 総合政策学部のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
DPに定める資質・能力の獲得状況	あなたはこの授業を通して卒業までに求められる資質・能力を向上できたと思いますか。(「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」) の回答割合(%)	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Kwansei コンピテンシー獲得状況	知識・能力・資質の程度 全項目 (「大変身についた」～「全く身についていない」の5段階評価) (2018～2022 年度) 当該年度卒業生と次年度 1 年生との調査による伸び (2023～2027 年度) 当該年度卒業生とその 1 年生時との調査による伸び 「IR 新入生調査」「IR 卒業時調査」	5段階評価のうち、上位2つ (「大変身についた」「やや身についた」)の回答割合(%)の平均の差	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
汎用的能力の獲得状況	入学後の能力変化(表外※参照) (「大きく増えた」～「大きく減った」の5段階評価 「IR 上級生調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「大きく増えた」、B「増えた」) の回答割合(%) ➡2022 年度の調査見直しにより、当該項目は調査項目から削除。 (Kwansei コンピテンシーとの重複)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
授業外学修時間	授業外時間に、授業課題や準備時間、復習をする時間(一週当たりの平均) 「IR1 年生調査、IR 上級生調査」 ➡【2022 年度データの変更点】 2022 年度実施分から調査名称を「学生調査」に変更。	一週あたり 6 時間以上の割合 ➡【2022 年度データの変更点】 学生調査の変更により、2022 年度以降は「一週あたり 5 時間以上」の割合に変更。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業目的・到達目標の達成度	あなたは、シラバスに示された授業の目的や、到達目標を達成できると思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業満足度	あなたは、全体としてこの授業に満足していますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
留学等派遣数	協定校への派遣学生数 「国際連携機構資料」	大学間協定に基づく派遣日本人学生数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
TOEIC/TOEFL 等の英語運用能力	TOEFL 換算得点目標の達成人数 ＜参考(学部別目標値)＞ ■国際:TOEFL 換算 550 点 ■文・総政:TOEFL 換算 540 点 ■その他:TOEFL 換算 520 点 「言語教育研究センター資料」	左記「TOEFL 換算得点」目標の達成人数(人)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
学生生活満足度	大学生活を振り返って、学生生活は満足したものでしたか。 (「満足」～「不満」の5段階評価) 「IR 卒業1年目調査」	5 段階評価のうち、上位2つ (A「満足」、B「どちらかといえば満足」)の回答割合(%) ＊2018 年度調査までは、A「とても満足」、B「満足」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
就職率	就職率 「キャリアセンター統計資料」	就職者数(自営含まず)／就職希望者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
大学院進学率	大学院進学率 「キャリアセンター統計資料」	大学院進学者数/学部卒業者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(※)「知識・技能・能力の獲得状況」の「知識・技能・能力」とは、一般的な教養、論理的思考力、専門分野や学科の知識、グローバルな問題の理解、多様性を尊重する力、主体的に行動する力、リーダーシップ力、人間関係を構築する力、対立する価値を調整する力、地域社会が直面する問題を理解する能力、国民が直面する問題を理解する能力、困難を乗り越える粘り強さ、文章表現の能力、外国語の運用能力、生涯にわたって学び続ける能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、数理的な能力、コンピュータの操作能力、誠実さと品位、時間を効果的に利用する能力、卒業後に就職するための準備の程度、を指す。

(2)学部独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
海外プログラム参加者	CIEC および総合政策学部が提供する海外プログラムの参加者数	派遣期間、派遣先(協定校か否か)にかかわらず全ての海外プログラムの参加者数をカウントする	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
ゼミ活動におけるフィールドワーク	ゼミ活動におけるフィールドワーク(学外活動)経験者数	学外における調査・実習を含むゼミ活動参加者数をカウントする	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
入試難易度 (偏差値)	ベネッセの進研模試のデータにおける合格可能性 60%以上となる偏差値 入学センター		非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
同系列学部勝敗	ベネッセの進研模試のデータにおける同系列学部合格者の競合大学(同志社、立命館、関西)との入学比率 経営企画部	本学と相手校の両方に合格していずれかに入学した受験生のうち、本学に入学した者の比率 本学入学者数／(本学入学者数＋併願校入学者)(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC 年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
ダブルチャレンジ修了者数	当該年度の卒業生のうち、ダブルチャレンジ制度のアウェイチャレンジの単位を取得して卒業した学生数 IR 室	①インターナショナルプログラム②ハンズオン・ラーニング・プログラム③副専攻プログラムのいずれかで単位取得し卒業した学生数 ※学部毎は延べ人数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」～「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5 段階評価のうち「満足」と回答した比率(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
スクールモットーの浸透度	スクールモットー“Mastery for Service”を意識する程度は (「意識している」～「意識していない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	4 段階評価のうち、A「意識している」または B「ある程度意識している」と回答した割合(%) ＊2018 年度調査までは A「常に行動の規範としている」または B「頻繁に意識している」と回答した比率 ＊2020 年度調査までは 5 段階評価のうち、A「常に行動の規範としている」または B「ときどき意識している」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2023 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 6 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	設問 6 項目の「そう思う」「どちらかちいえばそう思う」と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

提出日：2025 年12月17日
総合政策研究科

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜総合政策研究科＞教学改善シート

研究科における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
・2025年度の授業アンケートの「カリキュラム構成は、学習効果のあがる、満足のいくものだったか」という質問に対し、「大変満足」が 62.5%。今後は「大変満足」比率のさらなる向上と、回答率（現状 24.2%）の向上に向けた取り組みが必要である。） ・2025年度より開設された国連システム政策専攻履修生への授業満足度を検証し、同専攻所属教員からの評価と合わせて多角的な検証を行うことで、今後のカリキュラムや授業内容のさらなる充実と改善を図る。 ・国連システム政策専攻のインターンシップ支援の強化　→　進路支援・学生募集に直結（2にも併記）	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
・母語が日本語でない大学院生（特に国連システム政策専攻所属学生）への修学支援や生活支援の体制および情報提供の充実。 ・国連システム政策専攻のインターンシップ支援の強化　→　進路支援・学生募集に直結（1にも併記） ・TA 報酬見直しによる、TA 応募者の動向を注視しつつ、きめ細かな授業支援体制（主には学部開講科目）を維持・継続するための工夫や体制整備を検討する。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
・（中期計画2025―2027より）総合政策専攻（前期課程）と国連システム政策専攻（修士課程）の入学者確保と適正な充足率の維持・向上。 ※総合政策専攻（前期課程）においては同後期課程とともに、2025年度中に適正な入学定員の見直しを検討中。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
・国連システム政策専攻所属教員体制の教育研究の安定的な運用（後任人事計画を含む） ・リサーチ・コンソーシアムの活動の再活性化へ向けて具体的な検討が必要。 ―産官学のインターフェースとしての役割。 ―大学院進学を含めたキャリアパスや学部理念と今日的社会課題の接点を体感できる機会として学部生の主体的参加を促す方策の検討。 ―2028年度リサーチ・コンソーシアムは第30回目の節目となるため，これまでの活動を総括しつつ今後を検討する。	

1. 総合政策研究科の理念、目的、各種方針

総合政策研究科の理念	変更の有無
「自然と人間の共生、人間と人間の共生」	有・無
総合政策研究科の目的	**変更の有無**
総合政策研究科は、「自然と人間の共生、人間と人間の共生」を基本理念として、現代社会の諸問題を多様な視点から総合的に把握するための高度な課題発見能力と政策立案能力を実践的に涵養することを通じて、社会の各分野で指導的役割を果たしうる高度専門的職業人の養成と、併せて研究者として十分な専門的能力を有する人材を育成することを目的とする。 この目的を達成するため、前期課程および修士課程においては、政策立案・評価に関する理論的な理解を深めるとともに、課題発見・課題解決に向けた複眼的な研究手法を習得する。さらに、それらと並行して、具体的な政策課題について分野の異なる複数の教員が担当する課題研究に取り組むことで、実践的かつ高度な政策立案能力を持つ人材を養成する。 後期課程においては、前期課程において獲得した理論的視点、複眼的研究手法及び実践的訓練を土台として、現代社会の諸課題を解明し課題解決のための斬新な知を生み出すことのできる専門研究者を輩出するために、博士学位取得に至るプロセスを明示した上で学位論文作成に向けた研究指導を行なう。	有・無
学位授与方針（DP）	**変更の有無**
総合政策研究科では、在学中に、本研究科の理念である「自然と人間の共生、人間と人間の共生」への理解を深め、各自の専門領域において必要となる能力を身に着けるとともに、異なる専門領域についても幅広い学びを探求し、それらの学びを高度な次元で結合し、研究論文という形で取りまとめる力を培う。 （総合政策専攻） （1）修士学位は、課程の修了要件を満たし、修士論文の審査に合格した学生に授与する。修了要件を満たすためには、所定の期間以上在籍し、所定の単位を修得することが求められる。この上で、以下のような知識と能力を有する学生に修士学位を授与する。 ① 政策策定や政策評価・政策分析に必要な専門知識、研究成果を発表するためのプレゼンテーション能力、国際社会で活躍しうる語学力を身に着けている。 ② 異なる専門領域との関連において、自身の研究がどのように位置づけられているかを説明する能力と、その視点および結論の新規性を明確な根拠にもとづいて説明する能力を身に着けている。 ③ 映像、ソフトウェアなどの作品制作について学ぶ学生においては、独創的な作品テーマを設定し、その作品を制作し得るだけの技術力とデザイン力を身に着けている。 なお、修士論文の審査を受ける前提として、学生は（ⅰ）リサーチ・コンソーシアム及びリサーチ・フェアでの発表、（ⅱ）外国語（英語）学力の認定、（ⅲ）修士論文公聴会での報告、の要件を満たす必要があることを付記する。 （2）博士学位は、以下のような知識と能力を有し、博士論文の審査に合格した学生に授与する。 ① 諸政策の融合領域における研究課題の発見、企画、推進能力を修得し、国際的に通用する自立した研究者あるいは専門的実務家として認められ得る能力を身に着けている。 ② 自身の専門分野における優れた研究成果を発表できる能力とともに、異なる専門領域との関連においてどのように位置づけるかを説明するための幅広い知識と柔軟な思考力が身に着いている。 ③ 映像、ソフトウェアなどの作品制作について学ぶ学生においては、独創的な作品テーマを設定し、その作品を制作し得るだけの高度な技術力とデザイン力を身に着けている。 なお、博士論文の審査を受ける前提として、学生は（ⅰ）諸学会等での研究報告、（ⅱ）審査付学術論文（あるいはそれに相当する著作）の公刊、（ⅲ）博士論文概要審査での合格、（ⅳ）博士論文公聴会での報告、の要件を満たす必要があることを付記する。 （国連システム政策専攻） 修士学位は、課程の修了要件を満たし、修士論文の審査に合格した学生に授与する。修了要件を満たすためには、所定の期間以上在籍し、所定の単位を修得することに加え、外国語（英語）学力の認定が求められる。修了要件にてらして、以下のような知識と能力を有する学生に修士学位を授与する。 ① 国際社会が直面する様々なグローバルな課題について、国連他の国際機関、各国政府、NGO、民間部門の国際社会における取組みを理解し、広い視野と深い専門知識によって問題解決に導く具体的な政策や提案を見出す方法を身につけている。 ② 国際の平和と安全の維持、人権の擁護と推進、経済社会開発の推進という国連の三本柱に沿って、これらを不可分なものととらえ、国際関係論を中心とした幅広い学問分野を連携させた学際的なアプローチにもとづき課題を解決する多様なスキルを身につけている。 ③ 国際社会の公的分野でプロフェッショナルとして世界に貢献しうる問題解決能力、創造的かつ批判的思考力、実践的コミュニケーション能力、柔軟性と行動力を有する。	有・無
教育課程の編成・実施方針（CP）	**変更の有無**
（総合政策専攻） （1）博士課程前期課程では、ヒューマン・エコロジーの理念に基づき、専門的知識と課題分析力・政策提案力を身につけた、国際社会で活躍できる専門家の養成を目指したカリキュラムを構成する。 ① 通常の講義と演習に加えて、複数の教員が担当・運営する「政策特別演習」を実施し、ひとつの課題を異なる視点からとらえて政策の編集・統合を試みるという主体的かつ学際的な研究・フィールドワークの機会を提供する。 ② プレゼンテーション能力やディスカッション能力の開発のために、産官学民による共同研究体制としてのリサーチ・コンソーシアムや、学部と共催するリサーチ・フェアでの発表を義務付ける。 （2）博士課程後期課程では、高度な専門性とゆたかな独創性を兼ね備えた、国際社会で通用する研究・教育者あるいは専門的実務家の養成を目指したカリキュラムを構成する。 ① 研究指導と論文指導を基本的カリキュラムとし、在学中からの諸学会での研究発表を支援する。 ② 与えられた研究課題を受動的にこなすのではなく、自ら研究テーマを設定し、研究のチームリーダーとしても行動できる、研究企画力や総合力の獲得も目指す。 （国連システム政策専攻） 国連の基本理念を念頭に「平和協力・平和構築」「人権・人道」「経済社会開発」の専門領域を踏まえつつ、それぞれの各専門分野において必要とされる知識・能力を体系的に習得できるよう、国連の採用基準”UN Competency Framework”に基づき編成されたカリキュラムによって構成する。 ① 国際連合やその他国際機関の役割を理解し、関連する科目の学習を通じて、グローバルな視点と、実践的コミュニケーション能力を身につける。 ②「Internship with UN and Other Agencies（国連その他機関でのインターンシップ）」科目において、国際機関、政府関連機関、NGO などの場におけるインターンシップの機会を提供し、将来の国際機関を目指す上での具体的な経験を積むとともに能力を高める。	有・無

③「Research Seminar(リサーチ・セミナー)」は毎学期 2 単位(合計 8 単位)配置されており、関連分野での専門情報の収集、学術論文の書き方などについての指導を通じて一つの専門領域を深め、修士論文を作成する。 ④ 以上の学習を通じて、分析力や実践的応用力を備え国際的競争力を身につけた人材を育成する。授業はすべて英語で行われる。	
学生の受け入れ方針(AP)	変更の有無
総合政策研究科では、社会の各分野で指導的役割を果たしうる高度専門的職業人の育成、あるいは研究者として十分な専門的能力を有する人材の育成という目的に向け、必要となる専門知識と応用力、適切な語学力を有することを前提に、専門、文化や立場が異なる多様な学生を受け入れることにより、相互に助け学びあうことができる教育研究環境を実現する。学生は入学後、本研究科の理念である「自然と人間の共生、人間と人間の共生」への理解を深め、各自の専門領域において必要となる能力を身に着けるとともに、異なる専門領域についても幅広い学びを探求し、それらの学びを高度な次元で結合し、研究論文という形で取りまとめることが期待される。 (総合政策専攻) 政策策定や政策評価・政策分析の現場で、異なる専門領域との関連を意識しながら、自らの専門知識に基づき課題解決の提案を実行しうる人材の輩出を目指す。そのために以下のような学生を求める。 (1)博士課程前期課程:入学に際して必要となる学力としては、幅広い知識と高度な専門性、データ分析やプレゼンテーションなどの応用力に加えて、外国語運用能力を有している学生。特に社会への幅広い関心とリーダーシップ、対話を通して他者の考えを十分に理解する力を有している学生。 (2)博士課程後期課程:前期課程で必要となる学力、資質に加えて、新規性のある独自の研究テーマと具体的かつ適切な研究計画を有し、それを主体的に実行する力を持つ学生。 (国連システム政策専攻) 国連、その他国際機関の職員など世界の公共分野でリーダーとして活躍するプロフェッショナルを育成し、国際社会の問題解決に貢献する。そのために以下のような学生を求める。 ① 高い専門性と教養、国際社会で通用する英語力を備え、グローバルな場におけるコミュニケーション能力を有する学生。 ② 多文化・異なる価値観の間での柔軟性、変化への対応能力やレジリエンシーを備えた学生。 ③ 国際社会の動向をよく把握しつつ、今日直面するグローバルな課題について政治、経済、社会その他の複合的な分析ツールを身につけ、論理的、批判的に解明しようとする意欲のある学生。	有・無
学生支援に関する方針	変更の有無
(定めなし)	有・無
教員像	変更の有無
(定めなし)	有・無
教員組織の編制方針	変更の有無
(1)多様でかつ専門性に富んだカリキュラムにそって、総合政策研究科の教育目的に応じた教育・研究活動にふさわしい人材の確保に努める。 (2)コミュニケーション力ならびにプレゼンテーション力を養い、日本語/英語双方で表現できる学生を育てるため、海外での研究・教育経験を有する人材の確保に努める。 (3)実学性・実践性を高めるため、国際機関、政府機関、自治体、民間企業等で多様な実務経験をもった人材から、教育目的にふさわしい教員の確保に努める。 (4)教員採用にあたっては、国籍・性別を問わず、広く人材を選ぶ。 (5)教員採用にあたっては、教員組織の年齢構成が特定の年齢層に偏らないように配慮する。 (6)多様な教育の強化をめざして、特別客員教員や任期制教員の採用に努める。 (7)英語教育の強化をめざして、外国人常勤講師の確保に努める。	有・無

2. 総合政策研究科のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学位授与数 (M・D・P)	修士、博士、修士(専門職)の学位授与数 (※乙号除く) 「大学基礎データ」	授与する学位数が多いほど○ (人)	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M D	M D
就職・進路決定率 (M)	就職・進路決定率 「キャリアセンター統計資料」	(就職+起業・自営+就労継続)/(修了者ー進学者)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
博士後期課程への進学者数 (M)	進学者数 「キャリアセンター統計資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
日本学術振興会 特別研究員数(新規) (D)	特別研究員のうち、当該年度の新規採用者 「研究推進社会連携機構資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
研究者輩出数(D) (将来)			現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

(2)研究科独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学内外の研究会における大学院生の発表	各年度における大学院生 1 人あたりの研究報告数	大学院生の研究報告数／課程別大学院生総数	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
総合政策研究科主催の研究会	総合政策研究科が主催する研究会の開催数		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
修了後の進路の満足度	修了後の進路の満足度 (「とても納得している」～「あまり納得していない」の5段階評価) 修了時調査	5 段階評価のうち、 A「とても納得している」または B「ある程度納得している」 と回答した比率(%)					
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 7 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く7項目対して A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」 と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
					非公表		

(4)認証評価に関するKPI

KPI	定義	基準	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
収容定員充足率	当該年度 5 月 1 日時点の収容定員に対する在籍学生数の割合 大学基礎データ表2	在籍学生数/収容定員(%) ※認証評価上(大学基準協会)は、 (M)0.50 以上 (D)0.33 以上 を適切性の目安としている。		非公表	非公表		

提出日:2026 年9月 10 日
人間福祉学部

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜人間福祉学部＞教学改善シート

学部における課題の整理(2026 年 3 月時点)	左記に挙げた課題の改善状況(2027 年 3 月時点)
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
学生が専門領域を国際的な視点からも学修できるよう、海外プログラムの拡充や海外フィールドワーク先の開拓に取り組んでいる。一方、海外渡航費の高騰が進む中、経済的な理由により海外での学修機会を得ることが困難な学生も存在している。国内にいながら国際的視点やグローバルマインドの涵養を可能とする国内融合科目等の開発が求められている。 社会福祉士国家試験受験資格の要件である「240時間・２箇所以上での実習」の実施に際しては、学生（実習生）・教員・実習機関の３者の負担が大きい。実習の質を確保しつつ、少しでも負担が軽減される実施方法を検討する必要がある。 人間科学科が2020年度、社会福祉学科が2021年度に、社会起業学科が2025年度にカリキュラム改革を実施した。しかし、研究演習Ⅰ・Ⅱにおけるいわゆる「学科横断ゼミ」の運用や、社会福祉士・精神保健福祉士受験資格指定科目に係る支援体制など、カリキュラム上の課題が顕在化している。教育効果の向上と学生支援の充実を図るため、これらの課題の整理と改善を進める必要がある。	
2. 学生支援(修学支援、生活支援、進路支援)に関する現状分析・課題	改善状況
後述の「学生支援に関する方針」を踏まえ、適切に支援を行っている。 養成校として安定的に社会福祉士・精神保健福祉士を輩出するための学修支援体制のさらなる強化が必要である。	
3. 学生の受け入れ(学生募集、入学者選抜、定員管理)に関する現状分析・課題	改善状況
各学科の教育内容の特長を明確に打ち出すとともに、「総合的・学際的・創造的 well-being」の追求という学部の特色や価値を発信することにより、社会貢献や社会変革に関心を有する意欲的な受験生の獲得を図ることが求められている。具体的には、志望校の検討を開始する前段階の高校生や保護者に対して、本学部での学びや学生生活、卒業後の進路を具体的にイメージできる広報を展開することが課題となっている。そのため、各学科の学びの特色や学修成果、キャリア形成を分かりやすく発信し、本学部への理解と関心を高める効果的な広報活動を推進する必要がある。 また、入学センター等の関係部署と連携しながら、定員管理及び入試制度改革に取り組むことが求められている。	
4. その他(学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題)	改善状況
本学部では、実践教育支援室を中心に実習・フィールドワーク等の実践教育を支える体制を取っている。特別研究期間を除き、学部開設以来、実践教育支援室長を担ってきた専任教員が 2026 年度末をもって定年退職を迎える。学生に質の高い実践教育を継続的かつ安定的に提供する観点から、実践教育支援室の役割や業務内容の整理を含め、運営体制の整備を進めることが喫緊の課題となっている。 また、充実した実践教育を推進するためには、実習先との連携強化はもとより、卒業生や退職教員とのネットワークを維持・発展させていくことが不可欠である。関係機関や関係者との連携体制の強化が課題である。	

1. 人間福祉学部の理念、目的、各種方針

人間福祉学部の理念	変更の有無
人間福祉学部は、永年の伝統を有する「関学社会福祉」の教育研究を継承、発展させつつ、さらにはスポーツ科学・健康科学教育研究及び社会経済研究の資源を活かしながら、それらとの有機的な連携をより一層強めることによって、様々な社会的要請に応えることを目的として設立された。本学部は「人間（humans）」とその生活環境としての「社会（society）」、そしてその両者の交渉関連として「交互作用（transactions）」に関わる諸課題に対してソリューションを提供することによって、質の高い生活と社会の実現（Improving Quality of Human Life and Society）に貢献する人材の輩出を目指す。そのためには、堅実な学問的研究とそれに基づく教育に裏付けられた「実学の府（center of practical science）」であらねばならないと考える。	有・(無)

人間福祉学部の目的	変更の有無
地域社会と国際社会における「人間」とその生活環境としての「社会」、そしてその両者の「交互作用」の中で生じる福祉ニーズをはじめとする様々な生活課題へのソリューションを見出し提供できる専門的人材と、市民として地域及び国際社会の福祉向上に貢献する人材の養成を行うことを目的とする。 社会福祉学科 豊かな人間性と人権意識、そして深い知識と優れた実践能力を持つソーシャルワーカー、あるいはソーシャルワーク・マインドを有した市民を養成し、さらにはそれらの養成に従事する人材を育てていくことを教育研究の目的とする。同時に、日本及び国際社会における社会福祉とソーシャルワークの発展と展開に貢献していくこと、そしてそれによって社会福祉学の理論と価値を国内外に広く浸透させていくことも目的として位置づける。 社会起業学科 国際化や多様化が進む現代社会において、社会生活を総合的に捉える視点、地域社会の生活問題を連帯して解決できる自治能力、グローバルな水準の思考力や実践能力を身につけた人材の育成を目的とする。持続可能な福祉社会の実現に向けて、ローカル・ガバナンスに視点をおいた総合的アプローチに基づき、多元的・国際的に行動できる「市民力」の形成を目指し、「人間福祉」を核とする優れた社会起業能力の養成を行う。 人間科学科 人間をこころ（スピリチュアリティ）と身体を持つ存在として理解し、社会の中で生きる人の問題を見出し、自己と人々の自己実現を支援するための価値・知識・技術の総体について教育することを目的とする。ここから得られた人間理解に基づき、専門職として人の自己実現やその支援に関わる実践家を育成し、さらに一般市民として地域社会の中でこころと身体の健康に貢献できる人材を育成することを重要なミッションとする。	有・(無)

学位授与方針（DP）	変更の有無
Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において、人間福祉学部の DP を以下のとおり定める。 ＜社会福祉学科＞ 1. 大学生にふさわしい基礎力を身につけている 2. 人間と社会とその交互作用に関する基本的知識を身につけている 3. 人間の生活課題を共感的に理解し、幅広い視野から実践的な解決法を考えることができる 4. 社会福祉学科の学生は、社会福祉学に関する専門的知識を身につけ、社会福祉課題の解決に関与し貢献できる ＜社会起業学科＞ 1. 大学生にふさわしい基礎力を身につけている 2. 人間と社会とその交互作用に関する基本的知識を身につけている 3. 人間の生活課題を共感的に理解し、幅広い視野から実践的な解決法を考えることができる 4. 社会起業学科の学生は、社会起業に関する専門的知識を身につけ、グローバルな市民社会の建設に関与し貢献できる ＜人間科学科＞ 1. 大学生にふさわしい基礎力を身につけている 2. 人間と社会とその交互作用に関する基本的知識を身につけている 3. 人間の生活課題を共感的に理解し、幅広い視野から実践的な解決法を考えることができる 4. 人間科学科の学生は、人間科学に関する専門的知識を身につけ、質の高い生活と社会の実現に貢献できる	有・(無)

教育課程の編成・実施方針（CP）	変更の有無
＜社会福祉学科＞ 1. 大学生にふさわしい基礎力の修得（キリスト教教育科目／言語教育科目／教養教育科目） （1）キリスト教に関する基礎的知識と社会貢献の態度を身につけている （2）人間と社会に関する教養を身につけている （3）英語で情報を収集し、個人や社会に向けて発信することができる （4）外国語または日本手話に関する基礎的知識を身につけ、基本的なコミュニケーションができる （5）多様な文化に関心をもち、それを理解する態度を身につけている （6）ワープロ、表計算、プレゼンテーション用PCソフトを用いることができる （7）文献、統計、資料などの検索と読解のための基礎力を身につけている （8）レポートを書き、プレゼンテーションをすることができる （9）ディスカッションに参加し、自分の意見を述べることができる 2. 社会福祉学に関する専門的知識・技能・態度の修得（社会福祉学科専門教育科目） （1）人間と社会とその交互作用についての基礎的知識と課題解決への意欲を身につけている （2）日本および世界の社会福祉の歴史と理念を理解している （3）日本の社会福祉および社会保障制度の概要を理解している （4）ソーシャルワークの理論と実践について、基本的な知識、技能及び態度を身につけている （5）専門ソーシャルワークの理論と実践について発展的な知識、技能及び態度を身につけている （6）ソーシャルワークに関連する専門分野について基礎的知識を身につけている （7）社会福祉およびソーシャルワークの視点で生活課題および心理社会的現象をとらえ、関連領域の視点も活用しながら実践方法を考えることができる 3. 研究課題に関する研究実施能力の修得（研究演習・卒業研究）	有・(無)

(1)研究課題に関して、資料を収集し、実験、測定、調査、実践を行い、分析する能力を身につけている (2)研究課題に関して、レポートまたは論文が書ける 4. 学科の専門性と関連する領域における発展的な知識、技能、態度の修得(自由選択科目) (1)総合教育科目・専門教育科目・全学科目・他学部科目の中から自己の専門性と関連する科目を見つけて自ら学びを計画できる (2)総合教育科目・専門教育科目・全学科目・他学部科目を活用して自分の専門性を発展させることができる ＜社会起業学科＞ 1. 大学生にふさわしい基礎力の修得(キリスト教教育科目／言語教育科目／教養教育科目) (1)キリスト教に関する基礎的知識と社会貢献の態度を身につけている (2)人間と社会に関する教養を身につけている (3)英語で情報を収集し、個人や社会に向けて発信することができる (4)外国語または日本手話に関する基礎的知識を身につけ、基本的なコミュニケーションができる (5)多様な文化に関心をもち、それを理解する態度を身につけている (6)ワープロ、表計算、プレゼンテーション用PCソフトを用いることができる (7)文献、統計、資料などの検索と読解のための基礎力を身につけている (8)レポートを書き、プレゼンテーションをすることができる (9)ディスカッションに参加し、自分の意見を述べることができる 2. 社会起業に関する専門的知識・技能・態度の修得(社会起業学科専門教育科目) (1)人間と社会とその交互作用についての基礎的知識と課題解決への意欲を身につけている (2)多様な社会的課題に対する理解と認識を身につけている (3)グローバルな視点を身につけている (4)社会的課題に対するさまざまな取り組みに関する知識と方法について理解している (5)社会起業の理念に関する基本的知識を理解している (6)社会起業の基本的概念を理解している (7)社会起業の実践のための専門的な知識、技法、経験及び態度を身につけている (8)社会起業に関連する専門分野についての基礎的知識を身につけている (9)社会起業に関する情報の収集と活用に必要な知識、技法、経験を身につけている。 3. 研究課題に関する研究実施能力の修得(研究演習・卒業研究) (1)研究課題に関して、資料を収集し、実験、測定、調査、実践を行い、分析する能力を身につけている (2)研究課題に関して、レポートまたは論文が書ける 4. 学科の専門性と関連する領域における発展的な知識、技能、態度の修得(自由選択科目) (1)総合教育科目・専門教育科目・全学科目・他学部科目の中から自己の専門性と関連する科目を見つけて自ら学びを計画できる (2)総合教育科目・専門教育科目・全学科目・他学部科目を活用して自分の専門性を発展させることができる ＜人間科学科＞ 1. 大学生にふさわしい基礎力の修得(キリスト教教育科目／言語教育科目／教養教育科目) (1)キリスト教に関する基礎的知識と社会貢献の態度を身につけている (2)人間と社会に関する教養を身につけている (3)英語で情報を収集し、個人や社会に向けて発信することができる (4)外国語または日本手話に関する基礎的知識を身につけ、基本的なコミュニケーションができる (5)多様な文化に関心をもち、それを理解する態度を身につけている (6)ワープロ、表計算、プレゼンテーション用PCソフトを用いることができる (7)文献、統計、資料などの検索と読解のための基礎力を身につけている (8)レポートを書き、プレゼンテーションをすることができる (9)ディスカッションに参加し、自分の意見を述べることができる 2. 人間科学に関する専門的知識・技能・態度の修得(人間科学科専門教育科目) (1)人間と社会とその交互作用についての基礎的知識と課題解決への意欲を身につけている (2)「こころ(スピリチュアリティ)と身体」の両面から人間を理解する態度とそのための専門的知識を身につけている (3)人間のライフコースの各段階(乳・幼児、少年期、青年期、成人期、壮年期、高齢期)における課題や理論について「こころ(スピリチュアリティ)と身体」の両面から理解している (4)人間の生き方やいのちについて、広い視野から理解している (5)こころ(スピリチュアリティ)についての専門的知識と援助技術を身につけている (6)身体に関わる科学的専門知識と技術を身につけている 3. 研究課題に関する研究実施能力の修得(研究演習・卒業研究) (1)研究課題に関して、資料を収集し、実験、測定、調査、実践を行い、分析する能力を身につけている (2)研究課題に関して、レポートまたは論文が書ける 4. 学科の専門性と関連する領域における発展的な知識、技能、態度の修得(自由選択科目) (1)総合教育科目・専門教育科目・全学科目・他学部科目の中から自己の専門性と関連する科目を見つけて自ら学びを計画できる (2)総合教育科目・専門教育科目・全学科目・他学部科目を活用して自分の専門性を発展させることができる	
学生の受け入れ方針(AP)	変更の有無
【関西学院大学(学士課程)】(2025年度入学生) Ⅰ. 関西学院大学アドミッション・ポリシー 世界を視野におさめ、他者(ひと)への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service(奉仕のための練達)”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。 関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。 そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多元的に評価することを基本的な方針としています。 Ⅱ. 学部のアドミッション・ポリシー 人間福祉学部では、人間とその生活環境としての社会、そして両者の交互作用を全体的に捉えながら、「質の高い生活と社会」の実現に向けて貢献できる人材の育	㊒・無

成を目指します。そのための基本理念として「3つのC」、すなわち「人への思いやり（Compassion）」、「幅広い視野（Comprehensiveness）」、「高度な問題解決能力（Competence）」をすべての学科に共通するキー・コンセプトとして位置づけています。

一般選抜ではこの理念や教育プログラムにふさわしい生徒を確保するために、「高校において基本とするような科目全体について一定の学力を持っているか、特に言語的能力があり理解力や論述力に優れているか、あるいは特に数理的な能力に優れているか」との観点から試験を実施します。

なお、本学部の入学にあたって、社会福祉学科は、「社会福祉にかかわる分野での職業選択を希望しているかその分野に理解がある」ことが、社会起業学科は、「社会起業に関心があり、国内外での社会貢献活動をめざしているかそのような分野に理解がある」ことが、人間科学科は、「死生学・生命倫理学・悲嘆学などのこころ（スピリチュアリティ）に関する学問に関心があるか、身体（スポーツ・健康）に関連する分野に関心があり、それぞれの分野での職業選択を希望しているかそれらの分野に理解がある」ことが求められます。

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜と、面接（口頭試問）等を採り入れた学校推薦型選抜・総合型選抜を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー

1. 一般選抜

一般選抜は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。

一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。

全学部日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学（記述式）」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学部日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述」による入学試験も実施しています。

学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語（記述式含む）」「国語（記述式含む）」を必須とし、「日本史」「世界史」「数学（記述式）」を選択科目とし筆記試験を実施します。また、一部の日程では「日本史」「世界史」「数学（記述式）」に加えて「地理」を選択科目に加えています。

理系入学試験においては全学部日程を 2 種類実施しています。本学で学ぶために必要な「英語」「数学（記述式）」を必須とし、理科（記述式）「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。

一般入学試験として、英数日程、共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）の3方式を実施しています。英数日程は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」と「数学（記述式もしくは記述式を含む）」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」または「数学（記述式もしくは記述式を含む）」に、大学入学共通テストの教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。

大学入学共通テストを利用する入学試験は、「一般入学試験とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入学共通テストで実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入学共通テストの得点のみで合否判定を行います。

1 月出願においては、「外国語」「国語」「数学」「地理歴史・公民」「理科」「情報」を各学部の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。また、3 月出願においても高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。

また、大学入学共通テストを利用する入学試験（1 月出願　3 科目型（英語資格・検定試験利用））は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の 4 技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語資格・検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入学共通テストの教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2. グローバル入学試験

グローバル入学試験は、入学後、本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）に積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に3つのカテゴリーで実施する入学試験です。

① 国際的な活躍を志す者を対象とした入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、英語能力に加え、留学経験、模擬国連での活動など、自ら国際的な活動に取り組んだ実績を有し、国際的課題解決のための提案・実践に意欲を有するとともに、その国際的な活動で培った力を本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）に挑戦することでさらに発展させ、国際社会で活躍できる力を身に付けることを志す者を求めています。

第一次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。

第二次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

② インターナショナル・バカロレア入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP（ディプロマ・プログラム）の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有するとともに、入学後は、本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）を通して、国際社会で活躍する能力を身に付けることを志す者を求めています。

第一次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。

第二次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

③ 帰国生徒入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、家庭の事情等により海外に長期間滞在し、海外の教育を受けた者で、日本での生活や短期間の留学では身に付けることのできない主体性や価値観、多角的視点、困難を乗り越えた経験などを持ち、それらを本学での学生生活や学びに生かそうとする者を求めています。多様な背景を持つ学生が集い刺激し合うことで、キャンパスが活性化する教育的効果も望んでいます。さらに、帰国生徒が他の学生と相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長することにも期待します。

第一次審査では、筆記審査を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価します。

第二次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、自己推薦書、志望理由書、学校長推薦書等の提出書類による書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

① 院内推薦入学

1）関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

2）関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実

施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

② 継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等学校の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

③ 提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

④ 協定校推薦入学

1）キリスト教学校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

2）グローバル枠

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

3）グローバル＋キリスト教校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑤指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接（口頭試問含む）によって総合的に評価し受け入れるための制度です。出願書類と面接（口頭試問含む）において、一定水準以上の「知識・技能」、各学部で学ぶために必要な「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」が備わっているか等を評価し、入学後の勉学における明確な志向および意欲の評価に重点を置き総合的に審査しています。

人間福祉学部

関西学院大学人間福祉学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性豊かな生徒を求め、本学の建学の精神に基づき、将来性ある人物を育成することを目的とします。審査では志願提出書類、面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑥指定校推薦編入学

関西学院大学指定校推薦編入学制度では、指定校学校長の責任に基づいて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」等の能力や資質を有すると判断され推薦された学生を、各学部が書類審査・面接等を通して総合的に評価し、編入生として受け入れます。

人間福祉学部

指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接（口頭試問含む）によって人間福祉学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

4. 探究評価型入学試験

Society5.0の到来や人工知能（AI）の台頭、急速なグローバル化の進展等、予測困難な社会の変化に適応するため、自己の在り方生き方を考えながら、物事の本質を様々な角度から探り見究め続けることが必要です。本学では「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を捉えたうえで、社会に主体的に関わり新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする気概を持つ者からの挑戦を求めています。

これらの背景から、本入学試験では、関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき探究学習を通して身に付けたそれらの力を多面的・総合的に評価します。これまで主体的に取り組んできた探究活動を「新たなデータを収集して知見を明らかにしようとする事を通した探究活動」、「国内外の学校・様々な機関と協働を通した探究活動」、「特定の社会課題等に関する学術的考察を通した探究活動」に区分し、書類審査や面接（口頭試問含む）、プレゼンテーション審査等の多様な審査方法をもって、探究活動の過程を重視した評価を行います。

主体的に取り組んできた探究活動での経験を、本学入学後に学部での学びや研究をはじめ、様々なプログラム等に積極的に参加して活かしていくことを期待しています。

5. UNHCR難民高等教育プログラムによる推薦入学

「UNHCR難民高等教育プログラムによる推薦入学」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連UNHCR協会との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。

日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。

こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。

国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連UNHCR協会の推薦に基づき、面接及び口頭試問を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

6. スポーツ選抜入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後に学業と体育会でのスポーツ活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化とスポーツ活動の一層の振興に寄与することを目指しています。

第一次審査では、書類審査にてスポーツ活動における実績を評価するとともに、筆記審査にて、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を評価します。

第二次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）等により、志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

7. 外国人留学生入学試験

関西学院大学は、米国南メソジスト監督教会の宣教師、W. R. ランバスによって創設されました。開学当初から多くの外国人教員が教鞭をとっていたこともあり、外国人留学生を古くから受け入れ、日本の大学の中では国際色豊かな大学としてその学風を育んできました。

この入学試験制度は外国人留学生を対象とし、さまざまな国からの留学生を受け入れることにより、大学の国際性を一層高め、ひいてはキャンパスの活性化を図る教

育的効果も期待した、いわゆる「多元的入試」の一環として実施されます。 出願時の提出書類に基づき審査を実施し、本学で学ぶにあたって必要な日本語力および、基礎学力を有しているかを審査した後、各学部が面接審査（口頭試問を含む）・筆記試験等を実施し、志願する学部で学ぶ意欲や人間性などを中心に評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し、選抜します。 8. 学部特色入学試験 関西学院大学のアドミッション・ポリシー、また、各学部が定めるアドミッション・ポリシーに基づき、各学部が求める多様な能力、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性をもった学生を求めています。 人間福祉学部 人間福祉学部は、関西学院大学のなかで伝統のある「社会福祉」の分野をさらに進化させ、「人間そのもの」そして「その生活環境としての社会」について理解を深め、よりよい社会の実現をめざして学ぶ学際的分野をテーマとする実学志向の学部です。 社会福祉学科では、社会的支援の必要な人の自立や自己実現への支援、社会福祉に関する政策や実践を学び、未来の社会福祉を担うソーシャルワーカーとしてリーダーシップを発揮できる人、社会起業学科では、国際的な視点とコミュニケーション能力を養い、地域社会や国際社会に貢献できる行動力と知識を身につけ、社会起業とともに企業、自治体、NPO・NGO、国際機関などで社会のあり方を提案できる人、人間科学科では、人間を「こころ（スピリチュアリティ）」と「身体」の両面からとらえ、「こころ」や「身体」を病む人や悲しみの中にある人に寄り添い、人々の QOL（いのちの質・生活の質）を支える人を育成します。 学部特色入試では、基礎的な学力に加えて、社会福祉活動・社会貢献活動の実績、体験・経験、創造力、能力・資格、リーダーシップなどで特色を持つ者、スピリチュアリティの視点を持つ者、そして豊かな人間性と学ぶ意欲を持ち、誰ひとり取り残さない社会をめざす者を積極的に受け入れます。 審査は書類審査・筆記審査・面接審査を通じて、学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。	
学生支援に関する方針	変更の有無
［修学支援］ 1. アカデミックアドバイザー制度 アカデミックアドバイザーを任命し、同アドバイザーが事務職員と協働で、定めた期間内に~~1年生及び2年生の~~成績不振学生への個別指導（個別相談による学修指導及びその他これに付随する指導）を行う。 2. 要配慮学生への支援 総合支援センターと連携や授業担当者と連携して、障がいや疾病等のために授業中及び定期試験受験時の配慮を講じ~~ている~~る。また、学部内に障害学生支援委員会を置く。 3. 実践教育支援室の設置 実習、フィールドワーク、インターンシップ等の実習プログラムに参加する学生への支援組織として、実践教育支援室を設置している。経験豊富な専門スタッフ（人間福祉実習助手）が常駐し、各プログラムの事前準備や心構え、実施中の支援、事後の振り返り等をサポートするとともに、施設・機関とのコーディネートを行い、現場の指導者、本学担当教員、学生の3者の連携を図る。 4. その他 ・「優秀卒業研究賞（あじさい賞）」を設け、優秀な卒業研究を表彰している。 ・「人間福祉学部社会福祉学科実践教育奨励金」を設け、支援を必要とする社会福祉または精神保健福祉士の国家資格取得に必要となる実習科目を履修学生に対し、奨学金を支給する ・「人間福祉学部社会起業学科実践活動~~支援~~奨励金」を設け、優れた社会貢献活動を行った団体に奨励金を授与する。 社会起業英語中期留学に参加する学生のうち、要件を満たす者に対して人間福祉学部海外語学研修奨学金を支給する。 ［生活支援］ 必要に応じて総合支援センターや学生活動支援機構と~~綿密な~~連携を取りながら支援を行う。 ［進路支援］ 実践教育支援室が社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験受験資格取得に関わる指導（サポート）や、就職（福祉職）に関わる情報提供を行う。	有・~~無~~
教員像	変更の有無
・学生の志を受けとめ、その成長を喜びとして、それぞれ学生が自らの潜在能力を可能な限り開花できるよう、真摯に教育に取り組む姿勢を持つ。 ・専門分野においては、自らの研究課題に向き合い、誠実に継続的に探究し、その成果を広く発信して社会に貢献できるような高い研究能力を持つ。 ・組織の発展、継続のために、自らの持つ力を活用し、また多くの教職員と共に協働・連携して課題に取り組む姿勢を持つ。	有・~~無~~
教員組織の編制方針	変更の有無
人間福祉学部の理念・目的、人材養成に関する目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに照らして、適切な専門分野・経験等を持つ教員を、人数・年齢構成・男女比等の観点から、職位・雇用条件に鑑みて、適切に配置するための手続きを明確化、透明化する。	有・~~無~~

2. 人間福祉学部のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
DPに定める資質・能力の獲得状況	あなたはこの授業を通して卒業までに求められる資質・能力を向上できたと思いますか。(「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」) の回答割合(%)	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Kwansei コンピテンシー獲得状況	知識・能力・資質の程度 全項目 (「大変身についた」～「全く身についていない」の5段階評価) (2018～2022 年度) 当該年度卒業生と次年度 1 年生との調査による伸び (2023～2027 年度) 当該年度卒業生とその 1 年生時との調査による伸び 「IR 新入生調査」「IR 卒業時調査」	5段階評価のうち、上位2つ (「大変身についた」「やや身についた」)の回答割合(%)の平均の差 (2022 年度以降のデータの変更点年度以降) ➡入学時と卒業時のアンケート調査においてコンピテンシーの 10 要素の総合得点(50 点満点)を確認して、学部ごとにその差の平均を算出する。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
汎用的能力の獲得状況	入学後の能力変化(表外※参照) (「大きく増えた」～「大きく減った」の5段階評価 「IR 上級生調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「大きく増えた」、B「増えた」) の回答割合(%) ➡2022 年度の調査見直しにより、当該項目は調査項目から削除。 (Kwansei コンピテンシーとの重複)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
授業外学修時間	授業外時間に、授業課題や準備時間、復習をする時間(一週当たりの平均) 「IR1年生調査、IR 上級生調査」 ➡【2022 年度データの変更点】 2022 年度実施分から調査名称を「学生調査」に変更。	一週あたり 6 時間以上の割合 ➡【2022 年度データの変更点】 学生調査の変更により、2022 年度以降は「一週あたり 5 時間以上」の割合に変更。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業目的・到達目標の達成度	あなたは、シラバスに示された授業の目的や、到達目標を達成できると思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業満足度	あなたは、全体としてこの授業に満足していますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
留学等派遣数	協定校への派遣学生数 「国際連携機構資料」	大学間協定に基づく派遣日本人学生数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
TOEIC/TOEFL 等の英語運用能力	SGUの取組みで確認している TOEFL 換算得点目標の達成人数 ＜参考(学部別目標値)＞ ■国際:TOEFL 換算 550 点 ■文・総政:TOEFL 換算 540 点 ■その他:TOEFL 換算 520 点 「SGU に関する調査」	左記「TOEFL 換算得点」目標の達成人数(人)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
学生生活満足度	大学生活を振り返って、学生生活は満足したものでしたか。 (「満足」～「不満」の5段階評価) 「IR 卒業1年目調査」	5 段階評価のうち、上位2つ (A「満足」、B「そこそこ満足」) の回答割合(%) ＊2018 年度調査までは、A「とても満足」、B「満足」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
就職率	就職率 「キャリアセンター統計資料」	就職者数(自営含まず)／就職希望者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
大学院進学率	大学院進学率 「キャリアセンター統計資料」	大学院進学者数/学部卒業者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(※)「知識・技能・能力の獲得状況」の「知識・技能・能力」とは、一般的な教養、論理的思考力、専門分野や学科の知識、グローバルな問題の理解、多様性を尊重する力、主体的に行動する力、リーダーシップ力、人間関係を構築する力、対立する価値を調整する力、地域社会が直面する問題を理解する能力、国民が直面する問題を理解する能力、困難を乗り越える粘り強さ、文章表現の能力、外国語の運用能力、生涯にわたって学び続ける能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、数理的な能力、コンピュータの操作能力、誠実さと品位、時間を効果的に利用する能力、卒業後に就職するための準備の程度、を指す。

(2)学部独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
ハンズオン・ラーニングの推進	人間福祉学部開講のハンズオン・ラーニング科目(大学でハンズオン・ラーニング科目と定められた科目)を卒業時に2科目以上単位取得して卒業した学生の割合		非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
社会福祉士・精神保健福祉士の合格率の向上	社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験受験者の合格者の割合	A 社会福祉士の合格率 B 精神保健福祉士の合格率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
入試難易度(偏差値)	ベネッセの進研模試のデータにおける合格可能性 60%以上となる偏差値 (次年度偏差値予想を記載) 入学センター		非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
同系列学部勝敗	ベネッセの進研模試のデータにおける同系列学部合格者の競合大学(同志社、立命館、関西)との入学比率 (当該年度結果を記載) 総合企画部	本学と相手校の両方に合格していずれかに入学した受験生のうち、本学に入学した者の比率 本学入学者数／(本学入学者数＋併願校入学者)(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC 年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
ダブルチャレンジ派遣者数	当該年度の卒業生のうち、ダブルチャレンジ制度のアウェイチャレンジの単位を取得して卒業した学生数 グローバル化推進本部	①インターナショナルプログラム②ハンズオン・ラーニング・プログラム③副専攻プログラムのいずれかで単位取得し卒業した学生数 ※学部毎は延べ人数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」～「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5 段階評価のうち「満足」と回答した比率(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
スクールモットーの浸透度	スクールモットー“Mastery for Service”を普段意識する程度は (「常に行動の規範としている」～「全く意識しない」の 5 段階評価) IR 卒業生調査	5段階評価のうち、A「常に行動の規範としている」またはB「ときどき意識している」と回答した割合(%) ＊2018 年度調査までは A「常に行動の規範としている」または B「頻繁に意識している」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 7 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	設問 7 項目の「そう思う」「どちらかちいえばそう思う」と回答した割合の平均値 ➡2022 年度までは「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く6項目対する平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

提出日：2026年9月10日

人間福祉研究科

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜人間福祉研究科＞教学改善シート

研究科における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
前期課程において、教育内容の充実を図るため、2027 年度より「人間福祉コース」及び「保健体育専門コース」からなる 2 コース制を導入する。なお、保健体育専門コースには、中学・高等学校専修免許（保健体育）の免許課程を設置予定である（2026 年 3 月に教職課程認定申請を行い、2026 年 12 月に認定予定）。 後期課程において、2024 年度より研究指導体制を「指導チーム」に変更し、学位取得プロセスを変更した。2025 年度は新制度導入後 2 年目、2026 年度は 3 年目にあたり、新たな研究指導体制及び学位取得プロセスの定着を図っている。一方で、新制度への移行期間においては、従来の体制・プロセスによる学生と新制度による学生が併存していることから、それぞれに応じた研究指導及び学位申請支援を行う必要がある。また、新旧いずれの体制・プロセスにおいても、博士学位授与者を安定的に輩出するとともに、適切な研究指導と厳格な学位審査による博士学位申請論文の質の担保を図ることが重要な課題である。 さらに、多様な専門性を有する指導教員を配置し、教育・研究活動の充実・推進を図っているが、指導体制の一層の充実を図るため、後期課程指導教員の確保・充実が課題である。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
後述の「学生支援に関する方針」を踏まえ、適切に学生支援を行っている。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
収容定員充足率の向上と入学者の質の担保が求められており、その両立を図る観点から、前期課程・後期課程それぞれの特性、教育・研究水準に応じた入試制度の見直しに取り組んでいる。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
特になし。	

1. 人間福祉研究科の理念、目的、各種方針

人間福祉研究科の理念	変更の有無
関西学院の建学の精神であるキリスト教主義教育とスクールモットーである「Mastery for Service（奉仕のための練達）」を基本にして、急速なグローバル化と少子高齢社会等の下で変化する価値観の中で、多様化する社会的、心理的、あるいは政治的、経済的問題に対する精緻な分析能力を保持し、社会福祉学を基本にした学際的なアプローチで、研究倫理に基づいた実証研究能力や問題解決に向けた実践能力を涵養する。これにより、従来の社会福祉学分野にとどまらず、隣接した領域においても指導的役割を担える人材養成や研究者の育成を果たす。	有・(無)
人間福祉研究科の目的	**変更の有無**
前期課程では、人間福祉の諸分野を学び、高い学識と研究倫理を涵養し、高度な専門的な知識に基づくリサーチ能力、分析能力、政策立案能力及び問題解決に向けた実践能力を身につけ、社会の様々な場においてその専門性を発揮し、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。同時に、後期課程に進学していくための研究指導と教育も行う。 後期課程では、人間福祉の領域における高度な研究能力を身につけ、研究倫理を涵養し、独創的な研究により博士学位を取得できる人材の育成を目的とする。	有・(無)
学位授与方針（DP）	**変更の有無**
Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において、人間福祉研究科のDPを以下のとおり定める。 ［前期課程］ 修士（人間福祉）の学位は、以下の修了要件を満たす者に与えられます。 1. 人間福祉研究科博士課程前期課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格した者。 2. 人間福祉研究の基礎となる思想・理論・歴史、及びその応用と発展につながる社会科学と人間科学の関連領域を学び、福祉の現場、行政、教育分野等において広く福祉社会の維持・発展に貢献できる高度な専門知識、及び実践的な技法を有すると認められ、かつ研究倫理プログラムを受講し修了した者。 ［後期課程］ 博士（人間福祉）又は博士（学術）の学位は、以下の修了要件を満たす者に与えられます。 1. 人間福祉研究科博士課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、博士論文の審査に合格した者。 2. 人間福祉の専門領域において、自立した研究者として高い水準のリサーチから得た独自データを活用できる高度な研究能力、及び専門領域に新たな理論的枠組みを提供する独創的な知見を有すると認められ~~る者。~~、かつ研究倫理プログラムを受講し修了した者。	有・(無)
教育課程の編成・実施方針（CP）	**変更の有無**
［前期課程］ 前期課程では、研究者育成を目的としたカリキュラムだけでなく、福祉社会の維持・発展に貢献できる人材育成を前提とした多様なカリキュラムを整備しています。「人と社会（環境）の交互作用」の科目では社会福祉の様々な分野について、「社会系」の科目では福祉社会を支える国家や社会の構造について学びます。そして「人間系」科目では、人のこころと身体にかかわる問題を学びます。これらの科目以外にも、英語文献の講読科目やフィールドワーク科目を開講しており、狭い専門領域にとらわれることなく幅広く学べるように科目を配置しています。これらの科目を修得することで高度な知識と専門的技法を身に付け、その成果を修士論文としてまとめることができるように論文指導を行います。 ［後期課程］ 本研究科の目指す、高度な専門性とゆたかな独創性を兼ね備えた、国際社会で通用する研究者の養成のために、3年以上在学し、必要な研究指導を受けた上で、キャンディデートの承認を経て博士学位申請論文の審査に合格することを修了要件（博士学位取得） としています。 「研究演習」と「人間福祉文献研究講読（英語）」を必修科目として開講し、「研究演習」では、博士学位申請論文作成に必要となる「研究指導」を行い、「人間福祉文献研究講読（英語）」では、英語文献を中心とした海外の学術的文献を活用して国内外両方の人間福祉に関わる領域に関する知見を深め問題を分析する能力の修得を目指します（ただし、外国語学力認定試験に合格した場合は、その合格をもって「人間福祉文献研究講読（英語）」の単位を認定します）。 加えて、選択科目として「量的調査法A」、「量的調査法B」及び「質的調査法」が開講され、リサーチ能力の涵養を目指します。 また「研究演習」では、キャンディデートの承認に必要となる学術論文の学術誌への投稿や学会発表についても指導を行い、博士学位申請論文作成と同時に独立した研究者として活動するために求められる能力の醸成を行います。指導教員は、学生と相談の上で研究テーマに適した副指導教員 2 名を選び、指導チームとして多面的なアプローチと視座で研究を推進できるような体制を整えつつ、「博士論文計画書（年次研究計画書）」「年度中間審査」「年度末審査」「博士学位申請論文中間報告書」といった博士学位申請論文を作成するための各段階に学生が適切に対応できるよう指導を行います。学生は、こうした指導を受けつつ、与えられた研究課題をただ受動的にこなすのではなく、研究企画力や総合力の獲得を目指します。	有・(無)
学生の受け入れ方針（AP）	**変更の有無**
博士課程前期課程 前期課程においては、人間福祉の諸分野に高い関心を持ち、社会のさまざまな場においてその専門性を発揮し、社会に貢献する意欲のある者を受け入れています。また、広く社会から人材を集めつつ、国際的な研究活動に取り組むために、社会人および留学生の受け入れを積極的に図っています。 博士課程後期課程 後期課程においては、人間福祉領域における高度な研究能力を身につけ、優れた研究を行うことのできる者を受け入れています。	有・(無)
学生支援に関する方針	**変更の有無**
［修学支援］ ・人間福祉研究科専用施設： 院生室・院生PC室をG号館内に設置し、学生の研究活動の活性化を図る。 ・「駒草研究奨励金」を設置し、日本学術会議協力学術研究団体に登録している学会の大会で単著またはファーストオーサーとして発表を行った大学院生に対し、1回の発表につき30,000円を支給することにより、学生の学会発表を奨励する。 ・コピー代の補助、印刷機の使用（費用は自己負担。ただし、後期課程成果報告会・年度末審査と前期課程中間報告会は無料）などにより学生の研究支援を行う。 ・図書館図書費A（大学院生用図書、500,000円上限）を財源として、G号館内にある人間福祉学部資料室設置の図書・資料（問題集は不可）の選書をすることができる。 ［生活支援］ 奨学金を適切に配分し、予算の有効活用を図る。 ［進路支援］	(有)・無

特に後期課程において、学位取得プロセスを明示するとともに、着実に博士学位申請論文提出の要件を早く満たせるよう指導を行う。また、研究科研究員（博士学位取得後本務に就いていない者）に対し、本研究科施設の利用を認める。大学院研究員（満期退学者）については、本研究科施設の利用許可に加え、博士学位取得に向けて研究指導を行う。	
教員像	変更の有無
1. 前期課程においては、「人」と「社会（環境）」とその交互作用に関わる多様な問題に対して、社会福祉学を基本とした人間福祉に関わる諸領域における学際的な視点に基づく問題解決のための高度な専門的知識や技法を教授すると共に、高いリサーチ能力を通して独創的な知見を生み出し社会に貢献するために必要となる能力の育成に真摯に取り組む姿勢を持つ。後期課程においては、加えて教育・研究者としての指導能力の育成にも取り組む姿勢を持つ。 2. 専門分野においては、自らの研究課題に向き合い、誠実に継続的に探究し、その成果を発信して社会に貢献できるような高い研究能力を持つ。 3. 組織の発展、継続のために、自らの持つ力を活用し、また他の多くの教職員と共に協働・連携して課題に取り組む姿勢を持つ。	有・(無)
教員組織の編制方針	変更の有無
学際的な人間福祉研究科の特性に合わせて、学生のニーズに対応できる教育課程を保証できるよう、専門分野・教育研究業績・外国での学位取得状況に鑑み、人数・年齢構成・男女比・職位等を勘案の上、適切に教員を配置するための手続きを明確化、透明化する。	有・(無)

2. 人間福祉研究科のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学位授与数 (M・D・P)	修士、博士、修士(専門職)の学位授与数 (※乙号除く) 「大学基礎データ」	授与する学位数が多いほど○ (人)	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M D	M D
就職・進路決定率 (M)	就職・進路決定率 「キャリアセンター統計資料」	(就職+自営+就労継続)/(修了者ー進学者)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
博士後期課程への進学者数 (M)	進学者数 「キャリアセンター統計資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
日本学術振興会 特別研究員数(新規) (D)	特別研究員のうち、当該年度の新規採用者 「研究推進社会連携機構資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
研究者輩出数(D) (将来)			現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(2)研究科独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
1人当たりの査読付き論文の採択数	後期課程入学後6年以内の、学会誌または学術雑誌*1への査読付き論文*2の採択数 *1:「学会誌」、「学術雑誌」は、以下の1つ以上に該当するものを指す。 1) 日本学術会議協力学術研究団体のほか、会則・規約またはそれに準ずるものが整備されている「学会」(研究会は不可とする)が継続して年1回以上発行しているもの。 2) ISBN(国際標準図書番号)がついた学会誌、または ISSN(国際標準逐次刊行物番号)がついた学術雑誌(ただし、入門書等及び授業用に作成した教科書、研究ノート等は除く)。 *2:「論文」は、修士学位論文を要約しただけのものは不可。修士学位論文に新たな学術的知見を追加する(例:同じデータでも異なる分析手法を用いて異なる結果を導いている、あるいは、結論は同じでも新たなデータを付け加えてより精緻な分析ができているなど)したものは可とする。	当該年度の1人当たりの採択数	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
在学生一人当たりの学会での発表数	在学生一人当たりの当該年度の学会*3での発表数 *3:「学会」とは、日本学術会議協力学術研究団体のほか、会則・規約またはそれに準ずるものが整備されているものを指す(研究会は不可とする)。「研究発表」は、大会の部会や分科会での口頭発表や総会でのポスター発表でもよい。	当該年度の1人当たりの学会発表数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
入学後 6 年以内の博士学位甲号の取得比率	入学後 6 年以内の博士学位甲号の取得比率 (n-6 年の入学者のうち、入学後 6 年以内に博士学位甲号を取得している者の割合) *母数:当該年度・学期に在学 6 年目(12 セメスター)を迎える学生数	入学後 6 年以内の博士学位甲号取得者／当該年度・学期に在学 6 年目(12 セメスター)を迎える学生数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」～「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5 段階評価のうち「満足」と回答した比率(%)					
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定7項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く7項目対して A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
					非公表		

（4）認証評価に関するKPI

KPI	定義	基準	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
収容定員充足率	当該年度 5 月 1 日時点の収容定員に対する在籍学生数の割合 大学基礎データ表2	在籍学生数/収容定員（%） ※認証評価上（大学基準協会）は、 （M）0.50i 以上 （D）0.33 以上 を適切性の目安としている。		非公表	非公表		

提出日：2025 年12月11日
教育学部

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜教育学部＞教学改善シート

学部における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
・学習意欲の変化について 47.7%（1 年生）しか「高く」なっておらず、予習・復習・課題等の勉強をする生活時間（週平均）について「0～5 時間」が 70%を超え、学習成果に関して課題がある。そこで、教員数や教室数等の問題はあるが、クラスの分割や非常勤講師の採用など受講生規模を適正化、ICT 機器の設置などを取り入れ、教員の教育方法の改善ができる環境を整えることより、学習意欲、学習時間等の向上をはかる必要がある。 ・教育学部は実習関連科目が多く、教員採用試験が 3 年次からもあること等もあり、さまざまな制約上、留学する学生の数が少ない。留学と資格、免許取得や就職支援が同時にできるカリキュラムの検討が求められる。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
・教育学部の支援体制に関しての学生アンケートの結果によると、事務室の学習支援・相談は利用しやすいと肯定的に回答した学生は 51.5%と全学の平均よりやや高いが、授業料減免や奨学金などの経済的な支援・相談のしやすさは 33.9%とやや低くなっており、丁寧な情報提供と相談が求められる。また、教育学部生における留学のプランを増やして欲しいといった要望もあるが、現在新たなプログラムの開発を行っており対応が可能である。 ・上ヶ原キャンパスの科目を受講したいといった要望や初等部から高等部との交流を増やしてほしいといった意見に対しては、現在取り組んでいる学院内連携や情報の共有と学生への周知などを引き続き進めていく必要がある。 ・2024 年度の就職率は 100%であり、学校教員 34.1%、保育職 24.3%、企業・公務員 41.6%であった。全国的に教員・保育士志望の学生が減少しているなか、約 6 割が学校教員又は保育士として就職した。一方、教員採用試験の早期化が進み、多くの自治体が 3 年生を対象とした採用試験を実施している。本学でも今年度 62 名が受験している。2 年生からの試験対策等の支援を行うと共に、企業志望者に対しても学生のニーズに応じたキャリア支援を行う必要がある。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
・全学的な入試改革により 2024 年度は一般入試・共通テスト利用ともに大幅な志願者数増加を達成し、実質倍率も上昇した。 ・2025 年度実施の学部特色入試は出願者数の大幅な増加がみられた。 ・2 年度連続で入学者数が定員を上回っているため、収容定員に合わせて入学者数の適正化を図る必要がある。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
・学生の満足度調査によると、前年度同様、食堂や喫食場所に関する要望が多く寄せられた。また、生協でのキャッシュレス決済については、継続的に意見が挙げられた。一方、コンビニ新設の効果もあり、購買・コンビニに関する要望は前年度に比べて大幅に減少した。一方、これまで設置されていたパンの自販機が取り除かれることが決まり、引き続き他のキャンパスより満足度が大幅に低い施設設備の充実に向けて、環境を改善する必要がある。 ・キャンパス内の無線ネットワーク環境に関して、安定して高速スピードで使えるように工事が行われた。これにより、2026 年 3 月末までには学生がよりスムーズにインターネットにアクセスできる環境が整う。しかし、模擬授業や実習に対する要望も挙がり、学部特有のニーズも散見された。特に、学校現場で一人一台端末、デジタル教科書、AI などが導入されていることを鑑み、ICT 機器類を適宜配備し、アクティブラーニングに対応した教室改修工事や教育用ソフトの導入、学生へのアドレスの付与などを順次行い、適切な学習デザインの創出の推進と対応を早急に検討する必要がある。	

1. 教育学部の理念、目的、各種方針

教育学部の理念	変更の有無
教育学部では、関西学院大学のキリスト教主義に基づく人格陶冶の理念に沿い、世界市民の自覚を持ち、“Mastery for Service”を体現する奉仕的なリーダーシップをもった「人を育てる人」を育てることを基本方針にしている。 そしてその際、乳幼児・児童・生徒・障がいのある子どもを対象とした「子ども理解」を学部の教育研究の中心においている。「子ども理解」とは、子ども一人ひとりの〈いのち〉が唯一無二の贈与であることに深く思いを致しながら、大人との関係性において常に生成している乳幼児・児童・生徒・障がいのある子どもを全人的に理解することである。 すなわち、子どもは一人ひとり異なるすばらしさをもっていること、様々な家庭環境や生育歴をもっていることを理解し、保育・教育現場においてそれぞれの子どもにあった指導や対応を心がけること、ひいてはどの子どもにも心を開き、子どもたちからも学ぶという姿勢を失わずに、将来、子ども一人ひとりが固有のライフミッションを発見できるように支援することが大切であると理解していること、などを意味する。	有・(無)

教育学部の目的	変更の有無
「子ども理解」を教育研究の中核に据え、めざすべき「人を育てる人」の資質をより具体的に、「実践力」「教育力」「人間力」の三語で表し、これらを三位一体で形成することを学士課程上の目的とする。 「実践力」とは、保育所・幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校をはじめ、一般社会も含めた幅広い保育・教育現場で、強い情熱、子どもと響きあえる身体性、一人ひとり異なる子どもへの愛情、優れた指導力を持って、保育・教育を実践できる資質である。 「教育力」とは、「教える専門家」になるために常に「学びの専門家」として研鑽を積み、学問的専門性を背景としてその分野の「知の意味」を様々な事象との連関において理解し、それを子どもたち一人ひとりに「おしえる(愛(を)しふ)」ことができる資質である。 「人間力」とは、国際的、歴史的な視野の広さ、状況の文脈を読み取る「思慮深さ」、人権意識、しなやかな批判精神、(異文化交流を含む)豊かなコミュニケーション能力、そしてこれらの教養に基づいた総合的な判断力を持ち、それを具体的行為につなげることができる資質である。 この 3 つの力を身につけることは、既存の教育現場に単に適応するというだけではなく、現場をより創造性豊かな環境にするための能力を培うことを意味しているが、これは、本学院のミッションステートメントにある「思いやりと高潔さをもった社会の変革」を志向するものでもある。	有・(無)

学位授与方針(DP)	変更の有無
Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において教育学部のDPを以下のとおり定める。 [関心・意欲・態度] ①人の「弱さ」への深い自覚とともに、人生から問われて生きようとする「強さ」を身につけ、価値が不確実な状況下にあっても、他者と協働してよりよい人間関係や社会を創造するための基本的な態度を身につけている。 ②国際的、歴史的な視野の獲得と世界市民の自覚、そして Mastery for Service を体現する奉仕的なリーダーシップをもった「人を育てる人」として成長することに関心や意欲をもっている。 [思考・判断] ①幅広い教養に基づいた多角的な視点と臨機応変な判断力をもっている。 ②専門的な知識(knowledge)や智慧(wisdom)を修得し、さらには他者との学び合いから思考をよりしなやかに、深く、発展させることができる。 ③一人ひとりの〈いのち〉の尊厳と人権意識とをもって行動することができる。 [技能・表現] ①「子どもと共にある状況」からの呼びかけを聴きとり、課題を発見し、積極的に応答していく「感性(センス)」と「技(わざ)」を磨いている。 ②常に自らが「知」の探究者でありつつ、「知」を子どもたちに媒介できる表現や技能を磨くとともに、学びが困難な状況におかれた子どもたちを理解し、支援することができる。 ③日本語や外国語を用いて他者と円滑にコミュニケーションできる力を身に着けている。 [知識・理解] ①子ども一人ひとりの〈いのち〉が唯一無二の贈与であることに深く思いをいたしながら、大人との関係性において常に生成している乳幼児・児童・生徒・障がいのある子どもを全人的に理解している。 ②乳幼児教育・学校教育・社会の幅広い教育活動や実践を理解し、「思いやりと高潔さをもった社会変革」への道筋を自分なりに展望することができる。	有・(無)

教育課程の編成・実施方針(CP)	変更の有無
教育学部は、学部の教育目標を達成するために学位授与の方針(DP)に基づいた科目群を系統的に配置している。専門教育科目には、教員免許・保育士資格取得のために、免許・資格取得に必要な科目を配置している。 1. 総合教育科目 キリスト教主義と国際性を標榜する関西学院大学教育学部生として、人として生きる構え(「人間力」「実践力」の基礎)と外国語力の基礎(「人間力」「教育力」の基礎)を学ぶための共通科目群である。 ◆キリスト教科目 建学の精神の前提となるキリスト教についての概括的な理解を与え、また、宗教性を背景とする人間とその広範な営みとしての文化の在り方についての深い洞察力をもたせるための科目 ◆言語教育科目 外国語によるコミュニケーション能力を育成するための科目 2. 専門教育科目 理論と実践を往還する「教育学」という学問分野の多様な学びを通じて、教員を養成することを主たる目的とした本学部の専門教育科目群。その内容を「共通専門教育科目」「教育学コア科目」「教育内容探究科目」「特別支援教育科目」「教育実践科目」に分類し、まず、学部としての共通の学びとコースの専門性に根差した学びを通じて子ども(人間)と教育を理解するための基盤を形成し、そこから学生自身が主体的により翼を広げて、発展的に教科の教育内容を探究することに、また特別支援教育の専門性を身につけることに挑戦できるようにカリキュラムを編成している。「子ども理解」を中核に「実践力」「教育力」「人間力」の調和的獲得とコースごとの専門性の形成を目的としている。 A 共通専門教育科目 共通に学ぶべき専門科目群として「演習科目」「国際共生科目」を設け、教育学の基礎にしっかりと根差し視野を深めつつ、最終的には「卒業研究」の完成を目指して4年間を通じたゼミ活動で「主体的・対話的で深い学び」を実践し、自ら情報を整理し、主体的に考え、協働的に探究し、表現する力を身につけることを目的としている。と	有・(無)

りわけ、関西学院大学の教育学部生として国際化時代の共生と教育の在り方に展望を持てるような視野の広さを培う。主として「教育力」「人間力」の育成に貢献する。
◆演習科目
大学での学びと教育学の学びへの導入を行い、ゼミ活動を通じて、教育を自ら問いながら学ぶ主体的な学びを実践し、「卒業研究」へと収斂させることでその学びの証を立てる科目
◆国際共生科目
本学部の理念に掲げている、地球的視野に立ちながら、教育を担うことに人としての使命を自覚した世界市民を育成することを促すための科目

B　教育学コア科目
教員免許取得のために法令上必修に位置づけられた科目を多く含む「教育学基礎科目」は、理論と実践の両方の要素を含んでおり、教育学の基礎的な学びを踏まえ、コースの目的に応じてより発展した学びへと展開できるようにコア科目を配置している。「子ども理解」を中核に、「実践力」「教育力」「人間力」を総合的に深め、発展させることを目的とした本学部の根幹に位置している。
◆教育学基礎科目
教員免許取得のために法令上必要な教育の基礎的理解に関する科目等のうち全学校種に共通して必要な科目
◆幼児教育学コア科目
幼稚園教員免許および保育士資格取得に必要な科目
◆初等教育学コア科目
小学校教員免許取得に必要な科目
◆教育科学コア科目
教育科学の諸領域について多角的に学ぶための科目

C　教育内容探究科目
中学校・高等学校の教職課程における教科専門として、「英語科特修科目」と「社会科特修科目」を設けている。「教育学コア科目」の学びを土台として、教科内容の専門性を深めていくことを可能にしている。
◆英語科特修科目
中学校（英語）・高等学校（英語）の教員免許取得に必要な科目
◆社会科特修科目
中学校（社会）・高等学校（地理歴史・公民）の教員免許取得に必要な科目

D　特別支援教育科目
特別支援学校教員免許取得に必要な科目

E　教育実践科目
各種教員免許・保育士資格取得に必要な実習科目、ならびに学部が独自に開設している教育実践科目

学生の受け入れ方針（AP）	変更の有無

Ⅰ. 関西学院大学アドミッション・ポリシー
　世界を視野におさめ、他者（ひと）への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service（奉仕のための練達）”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。
　関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。
　そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多元的に評価することを基本的な方針としています。

Ⅱ. 各学部のアドミッション・ポリシー

教育学部アドミッション・ポリシー
教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」や、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志をもつ者を受け入れることを基本方針としています。具体的には、以下のような者を受け入れます。
●人間・社会に対する幅広い関心をもち、教育・保育現場などで学びと育ちを支える資質を身につけようとする意欲をもつ者。
●高等教育に相応しい学力をもち、主体的に問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲をもつ者。
●多様な価値観への理解・共感をもち、相互に人間的な成熟へと向かうことが期待できる者。
●関西学院のスクールモットーである“Mastery for Service（奉仕のための練達）”という精神を体現しようとする意欲をもつ者。

以上を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜と、面接（口頭試問含む）等を採り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校段階までに身につけた「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」をそれぞれの入学試験において重みづけを行い、評価しています。

Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー
1. 一般選抜
　一般選抜は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。
　一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。
　全学部日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学（記述式）」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学部日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述」による入学試験も実施しています。
　学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語（記述式含む）」「国語（記述式含む）」を必須とし、「日本史」「世界史」「数学（記述式）」を選択科目とし筆記試験を実施します。また、一部の日程では「日本史」「世界史」「数学（記述式）」に加えて「地理」を選択科目に加えています。
　理系入学試験においては全学部日程を2種類実施しています。本学で学ぶために必要な「英語」「数学（記述式）」を必須とし、理科（記述式）「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。
　一般入学試験として、英数日程、共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）の3方式を実施しています。英数日程は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」と「数学（記述式）」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」または「数学（記述式）」に、大学入学共通テストの教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。
　大学入学共通テストを利用する入学試験は、「一般入学試験とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入学共通テストで

有・(無)

実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入学共通テストの得点のみで合否判定を行います。
　1月出願においては、「外国語」「国語」「数学」「地理歴史・公民」「理科」「情報」を各学部の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。また、3月出願においても高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。
　また、大学入学共通テストを利用する入学試験（1月出願3科目型（英語資格・検定試験利用））は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語資格・検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入学共通テストの教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2. グローバル入学試験
　グローバル入学試験は、入学後、本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）に積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に3つのカテゴリーで実施する入学試験です。
① 国際的な活躍を志す者を対象とした入学試験
　＜文系学部＞
　関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、英語能力に加え、留学経験、模擬国連での活動など、自ら国際的な活動に取り組んだ実績を有し、国際的課題解決のための提案・実践に意欲を有するとともに、その国際的な活動で培った力を本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）に挑戦することでさらに発展させ、国際社会で活躍できる力を身に付けることを志す者を求めています。
　第1次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
　第2次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。
② インターナショナル・バカロレア入学試験
　関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP（ディプロマ・プログラム）の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有するとともに、入学後は、本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）を通して、国際社会で活躍する能力を身に付けることを志す者を求めています。
　第1次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
　第2次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。
③ 帰国生徒入学試験
　関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、家庭の事情等により海外に長期間滞在し、海外の教育を受けた者で、日本での生活や短期間の留学では身に付けることのできない主体性や価値観、多角的視点、困難を乗り越えた経験などを持ち、それらを本学での学生生活や学びに生かそうとする者を求めています。多様な背景を持つ学生が集い刺激し合うことで、キャンパスが活性化する教育的効果も望んでいます。さらに、帰国生徒が他の学生と相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長することにも期待します。
　第1次審査では、筆記審査を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価します。
　第2次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

3. 推薦入学
推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、自己推薦書、志望理由書、学校長推薦書等の提出書類による書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
①　院内推薦入学
1）関西学院高等部
関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
2）関西学院千里国際高等部
関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
②　継続校推薦入学
啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等学校の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
③　提携校推薦入学
関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
④　系属校推薦入学
　関西学院大学系属校推薦入学は、科学技術に強い興味・関心・意欲を持ち、グローバルな観点に立って国際社会での活躍を目指す生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
⑤ 協定校推薦入学
1）キリスト教学校枠
　関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
2）グローバル枠
　関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

3）グローバル＋キリスト教校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑥　指定校推薦入学

指定校推薦入学は一定の学力を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接（口頭試問含む）によって総合的に評価し受け入れるための制度です。出願書類と面接（口頭試問含む）において、一定水準以上の「知識・技能」、各学部で学ぶために必要な「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」が備わっているか等を評価し、入学後の勉学における明確な志向および意欲の評価に重点を置き総合的に審査しています。

教育学部

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志をもつ者を受け入れることを基本方針としています。具体的には、以下のような者を受け入れます。

●人間・社会に対する幅広い関心をもち、教育・保育現場などで学びと育ちを支える資質を身につけようとする意欲をもつ者。
●高等教育に相応しい学力をもち、主体的に問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲をもつ者。
●多様な価値観への理解・共感をもち、相互に人間的な成熟へと向かうことが期待できる者。
●関西学院のスクールモットーである“Mastery for Service（奉仕のための練達）”という精神を体現しようとする意欲をもつ者。

指定校推薦入学は上記基本方針に基づき、高等学校長から、高等教育に相応しい学力のうえに、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する生徒の推薦を受け、書類審査・面接（口頭試問含む）によって教育学部で学ぶ意欲と明確な目的意識等を総合的に評価し、受け入れるための制度です。

⑦　指定校推薦編入学

関西学院大学指定校推薦編入学制度では、指定校学校長の責任に基づいて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」等の能力や資質を有すると判断され推薦された学生を、各学部が書類審査・面接等を通して総合的に評価し、編入生として受け入れます。

教育学部

指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を学長の責任に基づく推薦を受け、書類審査、面接（口頭試問含む）によって教育学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

4. 探究評価型入学試験

Society5.0の到来や人工知能（AI）の台頭、急速なグローバル化の進展等、予測困難な社会の変化に適応するため、自己の在り方生き方を考えながら、物事の本質を様々な角度から探り見究め続けることが必要です。本学では「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を捉えたうえで、社会に主体的に関わり新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする気概を持つ者からの挑戦を求めています。

これらの背景から、本入学試験では、関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき探究学習を通して身に付けたそれらの力を多面的・総合的に評価します。これまで主体的に取り組んできた探究活動を「新たなデータを収集して知見を明らかにしようとする事を通した探究活動」、「国内外の学校・様々な機関と協働を通した探究活動」、「特定の社会課題等に関する学術的考察を通した探究活動」に区分し、書類審査や面接（口頭試問含む）、プレゼンテーション審査等の多様な審査方法をもって、探究活動の過程を重視した評価を行います。

主体的に取り組んできた探究活動での経験を、本学入学後に学部での学びや研究をはじめ、様々なプロにグラム積極的に参加して活かしていくことを期待しています。

5. UNHCR難民高等教育プログラムによる推薦入学

「UNHCR難民高等教育プログラムによる推薦入学」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連UNHCR協会との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。

日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。

こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。

国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連UNHCR協会の推薦に基づき、面接（口頭試問含む）を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

6. スポーツ選抜入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後に学業とスポーツ活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化とスポーツ活動の一層の振興に寄与することを目指しています。

第1次審査では、書類審査にてスポーツ活動における実績を評価するとともに、筆記審査にて、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を評価します。

第2次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）等により、志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

7. 外国人留学生入学試験

本学は、米国南メソジスト監督教会の宣教師、W. R. ランバスによって創設されました。開学当初から多くの外国人教員が教鞭をとっていたこともあり、外国人留学生を古くから受け入れ、日本の大学の中では国際色豊かな大学としてその学風を育んできました。

この入学試験制度は外国人留学生を対象とし、さまざまな国からの留学生を受け入れることにより、大学の国際性を一層高め、ひいてはキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待した、いわゆる「多元的入試」の一環として実施されます。

出願時の提出書類に基づき審査を実施し、本学で学ぶにあたって必要な日本語力および、基礎学力を有しているかを審査した後、各学部が面接審査（口頭試問を含む）・筆記試験等を実施し、志願する学部で学ぶ意欲や人間性などを中心に評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し、選抜します。

8.学部特色入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシー、また、各学部が定めるアドミッション・ポリシーに基づき、各学部が求める多様な能力、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性をもった学生を求めています。

教育学部

教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」や、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としています。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志をもつ者を受け入れることを基本方針としています。具体的には、以下のような者を受け入れます。

●人間・社会に対する幅広い関心をもち、教育・保育現場などで学びと育ちを支える資質を身につけようとする意欲をもつ者。
●高等教育に相応しい学力をもち、主体的に問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲をもつ者。

●多様な価値観への理解・共感をもち、相互に人間的な成熟へと向かうことが期待できる者。 ●関西学院のスクール・モットーである“Mastery for Service（奉仕のための練達）”という精神を体現しようとする意欲をもつ者。 以上を募集方針の要素として、本学への入学を第一希望とし、将来「教育者」になることへの強い目的意識と適性をもつ者を対象とした学部特色入学試験を実施します。本入学試験では、①「教育者」に求められる知識・技能を学修する確かな学力、②主体性をもって自らの知識や経験を「教育」に活かす思考力と判断力、③子どもの学びと育ちの本質をとらえてかかわる表現力、④多文化共生社会における子どもの学びと育ちを支えるための豊かな人間性、以上の4点を特に重視します。こうした適性をもち，将来教育・保育の現場で専門職として社会に貢献しようとする強い熱意とビジョンをもつ学生を求めます。	
学生支援に関する方針	変更の有無
（定めなし）	有・(無)
教員像	変更の有無
（定めなし）	有・(無)
教員組織の編制方針	変更の有無
定年退職予定者の後任人事を視野に入れながら、将来構想との関連において、免許・資格課程の教員組織のみではなく、学部全体の教員組織の適切性を検討する。	有・(無)

2. 教育学部のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
DPに定める資質・能力の獲得状況	あなたはこの授業を通して卒業までに求められる資質・能力を向上できたと思いますか。(「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」) の回答割合(%)	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Kwansei コンピテンシー獲得状況	知識・能力・資質の程度 全項目 (「大変身についた」～「全く身についていない」の5段階評価) (2018～2022 年度) 当該年度卒業生と次年度 1 年生との調査による伸び (2023～2027 年度) 当該年度卒業生とその 1 年生時との調査による伸び 「IR 新入生調査」「IR 卒業時調査」	5段階評価のうち、上位2つ (「大変身についた」「やや身についた」)の回答割合(%)の平均の差 (2022 年度以降のデータの変更点年度以降) ➡入学時と卒業時のアンケート調査においてコンピテンシーの 10 要素の総合得点(50 点満点)を確認して、学部ごとにその差の平均を算出する。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
汎用的能力の獲得状況	入学後の能力変化(表外※参照) (「大きく増えた」～「大きく減った」の5段階評価 「IR 上級生調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「大きく増えた」、B「増えた」) の回答割合(%) ➡2022 年度の調査見直しにより、当該項目は調査項目から削除。 (Kwansei コンピテンシーとの重複)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
授業外学修時間	授業外時間に、授業課題や準備時間、復習をする時間(一週当たりの平均) 「IR1年生調査、IR 上級生調査」 ➡【2022 年度データの変更点】 2022 年度実施分から調査名称を「学生調査」に変更。	一週あたり 6 時間以上の割合 ➡【2022 年度データの変更点】 学生調査の変更により、2022 年度以降は「一週あたり 5 時間以上」の割合に変更。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業目的・到達目標の達成度	あなたは、シラバスに示された授業の目的や、到達目標を達成できると思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業満足度	あなたは、全体としてこの授業に満足していますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
留学等派遣数	協定校への派遣学生数 「国際連携機構資料」	大学間協定に基づく派遣日本人学生数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
TOEIC/TOEFL 等の英語運用能力	TOEFL 換算得点目標の達成人数 ＜参考(学部別目標値)＞ ■国際:TOEFL 換算 550 点 ■文・総政:TOEFL 換算 540 点 ■その他:TOEFL 換算 520 点 「言語教育研究センター資料」	左記「TOEFL 換算得点」目標の達成人数(人)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
学生生活満足度	大学生活を振り返って、学生生活は満足したものでしたか。 (「満足」～「不満」の5段階評価) 「IR 卒業1年目調査」	5 段階評価のうち、上位2つ (A「満足」、B「どちらかといえば満足」)の回答割合(%) ＊2018 年度調査までは、A「とても満足」、B「満足」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
就職率	就職率 「キャリアセンター統計資料」	就職者数(自営含まず)／就職希望者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
大学院進学率	大学院進学率 「キャリアセンター統計資料」	大学院進学者数/学部卒業者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(※)「知識・技能・能力の獲得状況」の「知識・技能・能力」とは、一般的な教養、論理的思考力、専門分野や学科の知識、グローバルな問題の理解、多様性を尊重する力、主体的に行動する力、リーダーシップ力、人間関係を構築する力、対立する価値を調整する力、地域社会が直面する問題を理解する能力、国民が直面する問題を理解する能力、困難を乗り越える粘り強さ、文章表現の能力、外国語の運用能力、生涯にわたって学び続ける能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、数理的な能力、コンピュータの操作能力、誠実さと品位、時間を効果的に利用する能力、卒業後に就職するための準備の程度、を指す。

(2)学部独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
教育現場に立つ見込みの学生を対象とした実践的なプログラムの提供数	プログラムは、教員採用試験に合格、もしくは臨時的採用教員を目指す学生を主な対象とした実践的な内容。	教育学部が開催(共催を含む)したプログラム数を 1 件以上開催する	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
教員免許・保育士資格取得割合	教員免許・保育士資格の取得件数(延べ数)と卒業者数の割合。	1 期生の卒業年度である 2012 年度から 2018 年度までの平均値(157. 8%)を上回る。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
入試難易度(偏差値)	ベネッセの進研模試のデータにおける合格可能性 60%以上となる偏差値 (次年度偏差値予想を記載) 入学センター		非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
同系列学部勝敗	ベネッセの進研模試のデータにおける同系列学部合格者の競合大学(同志社、立命館、関西)との入学比率 (当該年度結果を記載) 経営企画部	本学と相手校の両方に合格していずれかに入学した受験生のうち、本学に入学した者の比率 本学入学者数／(本学入学者数＋併願校入学者)(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC 年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
ダブルチャレンジ修了者数	当該年度の卒業生のうち、ダブルチャレンジ制度のアウェイチャレンジの単位を取得して卒業した学生数 IR 室	①インターナショナルプログラム②ハンズオン・ラーニング・プログラム③副専攻プログラムのいずれかで単位取得し卒業した学生数 ※学部毎は延べ人数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」～「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5 段階評価のうち「満足」と回答した比率(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
スクールモットーの浸透度	スクールモットー“Mastery for Service”を意識する程度は (「意識している」～「意識していない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	4 段階評価のうち、A「意識している」または B「ある程度意識している」と回答した割合(%) ＊2018 年度調査までは A「常に行動の規範としている」または B「頻繁に意識している」と回答した比率 ＊2020 年度調査までは 5 段階評価のうち、A「常に行動の規範としている」または B「ときどき意識している」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 6 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	設問 6 項目の「そう思う」「どちらかちいえばそう思う」と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

提出日：2025 年12月 11 日

教育学研究科

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜教育学研究科＞教学改善シート

研究科における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
・本学研究科では、日本学術振興会の特別研究員、学内の特別研究員への採択がない状況が続いている。博士後期課程の大学院生の研究力向上が課題となっている。 ・関連して、近年博士学位論文の提出はあるものの学位授与に至らないケースが多くあったため、教育学研究科の履修プログラムの見直し、論文執筆に向けての指導の充実等、研究力強化に向けて検討する必要がある。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
・研究棟が別棟にあるため、学部生と大学院生の交流が少ない現状をふまえ、26年度には 6 号館に大学院生の研究スペースを確保する計画がある。研究スペースの確保が実現したのちには、学部生と大学院生の交流の機会の増加、大学院生の研究活動の活性化を図る具体策の提案が課題となる。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
・学部から大学院博士前期課程への進学、とりわけ乳幼児教育研究領域への進学率の低下が顕著であるため、入試広報活動の強化、大学院入学試験問題の見直し等の対策を講じることが課題となっている。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
・依然として西宮聖和キャンパスにおけるICT機器の整備は不足している現状があり、大学院生からのヒヤリング結果からも満足度か低いことがうかがわれる。引き続き大学院生との対話を継続しながら、教育・研究のニーズに合った環境整備に向けて取り組んでいく必要がある。 ・大学院生の英語力の向上、国際学会での発表機会を増やすための環境づくり、プログラムの検討等が課題となっている。	

1. 教育学研究科の理念、目的、各種方針

教育学研究科の理念	変更の有無
教育学研究科は、関西学院大学の理念であるキリスト教主義に基づく人格の陶冶を踏まえ、「教育とは何か」「人間とは何か」「共生とは何か」を根源的に問い続けながら、乳幼児期、児童期、青年期の人間形成上の問題を、家庭、地域、学校など広く社会全般の人間関係、個々のライフサイクル相互の影響関係を全体的に視野に入れて、解決に導くことができるような教育と研究、さらに社会貢献に繋げていける大学院教育を行うことを理念としている。	有・(無)
教育学研究科の目的	**変更の有無**
今日の価値観が多様で不確実な社会状況においては、人々が互いのライフ・ミッションの実現へ向けて「共生」できるインクルーシヴな社会形成をめざしつつ、意味豊かに世代が継承されていくための普遍的な営み(＝要:かなめ)である保育・教育に、世界市民の一員としての使命を自覚した研究者と教育者が求められている。 教育学研究科は、このような認識のもと、関西学院のキリスト教主義に基づいて、人間一人ひとりの〈いのち〉が、唯一無二の贈与であることへの畏敬をもとに「子ども理解」を深め、「教育とは何か」「人間とは何か」「共生とは何か」を根源的に問い続けながら、広く深い教養としなやかな批判意識をもって、現代の複雑で困難な諸問題、生涯にわたる人間形成上の諸問題に向き合う「研究者」の養成と、その専門性によって奉仕的なリーダーシップを発揮することができるような研究マインドをもった「教育者」の養成を行うことを目的としている。その際、家庭、地域、学校など広く社会全般の人間関係、異なる世代間の影響関係を全体的に視野に入れ、社会貢献に繋がるような研究を行うことを重視する。 また、以上を実現するために、教育研究の基礎をしっかりと学び取ると同時に、本学院の理想である「学びと探究の共同体」の実現を念頭におき、大学院生相互の学び合いを活性化し、研究科における多様な学びを有機的に連動させて、各自の研究に活かすことを奨励する。	有・(無)
学位授与方針(DP)	**変更の有無**
前期課程 1. 教育学研究科博士課程前期課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格した者。 2. それぞれの学問的研鑽によって、卓越した研究者、保育者、教育者として社会に貢献できる資質を培った者。 3. 意味豊かに世代継承していくための普遍的な営み(＝要:かなめ)としての保育・教育に、世界市民の一員としての使命(ミッション)を自覚している者。 4. 広く深い教養と学識、しなやかな批判精神をもって、現代の複雑で困難な教育環境や人間形成上の問題に向き合い、それを学問的に探究し、論理的に表現できる能力を培った者。 5. 教育学的専門性によって深い人間理解と実践的・臨床的賢慮を磨き、奉仕的なリーダーシップを発揮する素地を培った者。 後期課程 1. 教育学研究科博士課程後期課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、博士論文審査に合格した者。 2. 自立した研究者として当該分野の中で活躍していく能力および学識が認められる者。 3. 意味豊かに世代継承していくための普遍的な営み(＝要:かなめ)としての保育・教育に、世界市民の一員としての使命(ミッション)を自覚している者。 4. 広く深い教養と学識、しなやかな批判精神をもって、現代の複雑で困難な教育環境や人間形成上の問題に向き合い、それを学問的に探究し、論理的に表現できる高度な能力を有する者。 5. 教育学的専門性によって深い人間理解と実践的・臨床的賢慮を磨き、奉仕的なリーダーシップを発揮する素地を有する者。	
教育課程の編成・実施方針(CP)	**変更の有無**
教育学研究科では、以上の教育目的を達成するため、乳幼児教育研究領域、共生教育研究領域ともに次のような方針でカリキュラムを編成し、実施している。 前期課程 乳幼児教育研究領域、共生教育研究領域は、ともにそれぞれの目的に応じたカリキュラム編成を行っている。各領域には「研究者養成コース」と「高度教育コース」が設けられ、同一領域内での開設科目群から、コースの目的に応じて履修すべき科目の選定を行っている。各領域の開設科目群は、研究基礎科目、専門領域科目、フィールドワーク科目、研究演習から構成され、研究者養成の基礎となる科目や教員に求められる高度な専門性を培う科目を配置している。 研究基礎科目、専門領域科目には、教育学を体系的に学ぶことができるように科目が配置されている。各研究領域には、単独で開講されている科目に加え、包摂的な学びを可能とするために共通開設科目を設けている。フィールドワーク科目では、乳幼児教育や初等・中等教育に関連する現場等での実践研究に取り組み、理論と実践の往還を重視している。研究演習においては自らの研究を論理的に展開できる学問的な能力の育成を高める指導・助言が行われ、修士論文の作成を最終目標としている。 「研究者養成コース」「高度教育コース」ともに、修士学位取得に必要な単位数は32単位であり、コースごとに必修科目が定められている。研究者養成コースにおいては、5年間の博士課程を見据えたコースワークに基づき研究基礎科目を中心に12単位の必修科目が定められている。「高度教育コース」においては、前期課程の2年間で教員に求められる高度な専門性を幅広く学ぶことができるよう研究基礎科目2単位およびフィールド科目2単位以外は、すべて選択科目である。 後期課程 コースワークとして教育学特殊講義が、リサーチワークとしての研究演習が設けられている。教育学特殊講義においては、様々な領域への学びと探究を促すコースワークが行われる。研究演習においては、学位論文提出までの間、指導教員を中心とした指導・助言など、博士学位を取得するためのきめ細やかな指導が行われる。	有・(無)
学生の受け入れ方針(AP)	**変更の有無**
前期課程 研究者養成コース 1. 保育学・教育学領域における研究者をめざす者。 2. 保育学・教育学領域における学部学修程度の専門知識を獲得し、日本語の論理的文章表現能力を有する者。 3. 研究活動に必要となる保育学・教育学領域における英語文献読解のための基礎的能力を有する者。 4. 関西学院のキリスト教主義に基づく教育理念と本研究科の教育研究上の目的に共感する者。 高度教育コース 1. 研究マインドをもった高度な保育・学校教育の実践者をめざす者。 2. 保育学・教育学領域における学部学修程度の専門知識を獲得し、日本語の論理的文章表現能力を有する者。 3. 保育・教育現場において奉仕的なリーダーシップを発揮することを自己の使命であると自覚し、学問を通じてさらなる研鑽を積みたい者。 4. 関西学院のキリスト教主義に基づく教育理念と本研究科の教育研究上の目的に共感する者。 後期課程 研究者養成コース 1. 保育学・教育学領域における修士号を有し、研究者として自立して、さらなる研究活動を自ら推進する能力を有する者。 2. 保育学・教育学領域における修士課程修了程度の専門知識を獲得し、優れた日本語の論理的文章表現能力を有する者。	有・(無)

3. 研究活動に必要となる保育学・教育学領域における英語文献読解のための優れた能力を有する者。 4. 関西学院のキリスト教主義に基づく教育理念と本研究科の教育研究上の目的に共感する者。	
学生支援に関する方針	変更の有無
（定めなし）	有・(無)
教員像	変更の有無
（定めなし）	有・(無)
教員組織の編制方針	変更の有無
定年退職予定者の後任人事を視野に入れながら、将来構想との関連において、免許・資格課程の教員組織のみではなく、研究科全体の教員組織の適切性を検討する。	有・(無)

2. 教育学研究科のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学位授与数 (M・D・P)	修士、博士、修士(専門職)の学位授与数 (※乙号除く) 「大学基礎データ」	授与する学位数が多いほど○ (人)	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M D	M D
就職・進路決定率 (M)	就職・進路決定率 「キャリアセンター統計資料」	(就職+起業・自営+就労継続) /(修了者ー進学者)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
博士後期課程への進学者数 (M)	進学者数 「キャリアセンター統計資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
日本学術振興会 特別研究員数(新規) (D)	特別研究員のうち、当該年度の新規採用者 「研究推進社会連携機構資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
研究者輩出数(D) (将来)			現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

(2)研究科独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
博士後期課程の学生が学会・研究会等で発表した数(D)	学会・研究会等での発表、論究・学会誌・その他の報告書などでの発表数 (指導教員からの聞き取り)	平均して、1 学生=1 件以上。 (発表件数)/(D の学生数)	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
教育学部から博士前期課程への進学者数(M)	内部進学数/M 入学者数の割合	3 ポリシーを理解した学生を受け入れるには、学部内の進学者を増やすことが重要である。定員と学部推薦数を考慮し、半数以上とする。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
修了後の進路の満足度	修了後の進路の満足度 (「とても納得している」~「あまり納得していない」の5段階評価) 修了時調査	5 段階評価のうち、 A「とても納得している」または B「ある程度納得している」 と回答した比率(%)					
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 7 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」~「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く7項目に対して A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」 と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
					非公表		

(4)認証評価に関するKPI

KPI	定義	基準	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
収容定員充足率	当該年度 5 月 1 日時点の収容定員に対する在籍学生数の割合 大学基礎データ表2	在籍学生数/収容定員(%) ※認証評価上(大学基準協会)は、 (M)0.50 以上 (D)0.33 以上 を適切性の目安としている。		非公表	非公表		

提出日：2025 年12月17日
国際学部

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜国際学部＞教学改善シート

学部における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
【課題：学生の学修成果把握】 国際学部の学生に対する教育の到達点に関しては「Kwansei コンピテンシー」と、これに連関する「本学部 CP および DP」において示されているが、より精緻に学生個々の到達度を測る指標を確立し、成果把握の仕組みをさらに充実させなければならない。また把握した情報を基に教育課程の改編、見直しを図るサイクルの改善も必要である。 【課題：学習内容および学習時間の担保】 学生主体の学びに資するため、授業外学修時間も含めた学習時間をより明確にする等、シラバスのさらなる充実を図り、学生にとってわかりやすくかつ実態の伴うものになるよう改善していく必要がある。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
【課題：英語話者学生への対応の改善】 多様な外国人留学生をより多く受け入れるためには英語話者学生の受け入れ増加を図ることも必要である。そのためには主な対応窓口を担う学部職員個々の英語運用能力を向上させることも勿論重要であるが、学部において専門的な対応をするには限界もあり、教職員・学生向け案内の英語対応や、書類の英訳など、専門的なスタッフを学内に集中的に配備し、対応できるような体制を全学的に築く等の対応が望まれるとともに、本学部として自助努力で改善できる部分には取り組んでいきたい。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
【課題：一般入試の志願者数増加】 近年、一般入試の受験機会拡大等の入試改革により、関西学院大学全体の志願者数が増加している一方で、国際学部の志願者数は現状維持、あるいは減少傾向にあった。志願者を増加させることが喫緊の課題である。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
【課題：中期以上の海外プログラムの活性化】 コロナ禍において途切れた学生の海外プログラム参加については、既に以前の水準に回復している。しかし、世界情勢が不安定であることや為替の影響等により、留学のための費用が高騰しており、引き続き大学の支援を得た学生サポートが必要である。また、学生の成長と学部の魅力向上の両面から、短期留学ではなく中期以上の留学やダブルディグリー留学の参加者を増やすための方策も必要である。 【課題：外国人留学生の出身国・地域の多様化】 国際学部は、「国際性の涵養」という理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的としている。そのために学生の多様性を重視しており、さまざまな特色ある入試を行い、多様な学生を受け入れてきた。今後も引き続き、外国人留学生の出身国・地域の多様化をより進めていくことが必要である。	

1. 国際学部の理念、目的、各種方針

国際学部の理念	変更の有無
国際性の涵養	無
国際学部の目的	**変更の有無**
国際学部は、「国際性の涵養」を教育・研究上の理念とし、その理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的とする。その目的の達成を通じて、「国際性」（世界理解、国際理解のための能力）と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成する。よって本学部のモットーを「Be a world citizen who renders service to humanity.」とする。 「国際事情に関する課題の理解と分析」という教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度（特に人文・社会科学の観点）から理解し、分析できるようになることである。本学部の特色は、タテの学問領域（文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営）に含まれる複数のディシプリン間の相乗効果を用い、ヨコの地域別研究コース（北米研究、アジア研究）を「学際的に」教育・研究し、それによって柔軟で、幅広い視野に立った世界理解、国際理解を図るところにあり、その教育・研究全体を「国際学」と位置づける。	無
学位授与方針（DP）	**変更の有無**
Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において、国際学部のディプロマ・ポリシーを以下の通り定める。 国際学部は、関西学院大学学則に定める本学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を達成するため、教育課程（カリキュラム）を編成・実施している。これに基づき、本学部は、学生が所定の期間在学し、教育課程上の所定の科目を修得することで、学生自身が身につけた次のような学士力を評価し、学士（国際学）の学位を授与する。 1）国際事情に関する課題の理解力と分析力 世界の諸地域を人文・社会科学の様々な観点から理解し、分析できる。 2）問題発見解決能力 主体的に問題を発見し、適切な方法に基づいて問題を解決できる。 3）異文化理解・多文化共生能力 異文化に対する感受性をもち、多様な文化と共生できる。 4）倫理的価値 キリスト教主義に基づく「人間教育としての教養教育」を通じて「倫理的価値観」を体得している。 5）言語コミュニケーション能力 外国語能力を生かし、積極的に発信できる。	無
教育課程の編成・実施方針（CP）	**変更の有無**
Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において、国際学部のカリキュラム・ポリシーを以下の通り定める。 国際学部は、関西学院大学学則に定める本学部の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を達成するため、教育課程（カリキュラム）の編成方針を以下のように定める。 本学部の教育課程における科目区分は、キリスト教科目、言語教育科目、教養基礎科目、専門基礎科目、地域研究科目、研究演習科目、領域関連科目、自由履修科目とする。教養基礎科目は、入門的科目を第1類、基礎的科目を第2類、基礎演習科目を第3類とする。地域研究科目は、グローバル研究科目群、北米研究科目群、アジア研究科目群、ヨーロッパ研究科目群とする。 本学部の学生は、英語、そして日本にとって物的・人的交流が盛んな主要地域で使用されている中国語・朝鮮語を第1外国語として集中的に修得する。また、世界における様々な地域には、異なった文化、言語、社会、ガバナンス、経済、経営などが存在する。本学部における「国際事情に関する課題の理解と分析」という教育・研究上の目的は、学生が各地域を様々な角度（特に人文・社会科学の観点）から学際的に理解し、分析できるようになることである。そのため、専門科目を大きく3つの領域（文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営）に分け、国際社会、国際事情に関する幅広い知識の習得を行う。 異文化理解と自国文化の理解は互いに不可欠である。そのため、本学部では日本の文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営などに関する諸科目も開講することで、自国文化の歴史的・同時代的考察を促す。加えて、英語の運用能力を高めるため、また外国人留学生に対応するため、英語で行う授業科目を、各科目区分に配置する。 ① キリスト教科目、宗教、哲学・思想、人権などに関する科目を提供し、キリスト教主義に基づく「人間教育としての教養教育」を通じて「倫理的価値観」を養う。 ② 4年間を通じてひとつの外国語を重点的に学ぶことができるカリキュラムを用意し、他の言語の学習機会も広く提供し、「言語コミュニケーション能力」を養う。 また、教養基礎科目、専門基礎科目、地域研究科目に英語で行う授業科目を配置する。 ③ 海外留学によって、「異文化理解・多文化共生能力」および「言語コミュニケーション能力」を養う。海外留学としては、短期留学（約1ヶ月）、中期留学（3ヶ月～半期）、長期留学（半期～1年）の他、関連する留学プログラムを位置づける。 ④ 全専任教員は、原則として各自の研究専門領域科目とともに研究演習科目を担当し、文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営領域の学際的学習と、少人数教育を通じて、「問題発見解決能力」を養う。 ⑤ 文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営の各分野に関する基礎的な科目と国際的な科目を提供し、世界の諸地域を人文・社会科学の様々な観点から理解し分析できるようにし、「国際事情に関する課題の理解力と分析力」を養う。	無
学生の受け入れ方針（AP）	**変更の有無**
【関西学院大学（学士課程）】（2024年度入学生） Ⅰ. 関西学院大学アドミッション・ポリシー 世界を視野におさめ、他者（ひと）への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。 関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。 そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多元的に評価することを基本的な方針としています。	無

Ⅱ. 各学部のアドミッション・ポリシー

国際学部アドミッション・ポリシー

国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的とする。その目的の達成を通じて、「国際性」（世界理解、国際理解のための能力）と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成する。その教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度（特に人文・社会科学の観点）から理解し、分析できるようになることである。このような教育・研究上の理念・目的を持った本学部では、以下のようなアドミッション・ポリシーを示して学生を迎え入れる。

1. 人文・社会科学の多岐にわたる領域について幅広い関心と、一定の学力と論理的思考力を持ち、総合的な観点からそれらの課題に取り組もうとする意欲を持つ者
2. 主体的な関心に応じて、自らの問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲を持つ者
3. グローバル化する社会の中で他者の想念や異文化に関する感性や、自己のありかたに相対的・反省的視点を持つことが期待される者
4. 関西学院に対して強い帰属意識を持ち、スクールモットーである「Mastery for Service（奉仕のための練達）」という精神を体現しようとする意欲を持つ者
5. 海外生活経験を持つ生徒、留学生等、多様なバックグラウンドを有する者
6. 優れた外国語能力や、特定の分野において優れた学力・能力を持ち、入学後にそれを活かした教育成果が期待できる者

以上の項目を募集方針の要素として、教科・科目を設定して筆記試験を中心とする一般選抜入学試験と、面接等を採り入れた各種入学試験を実施しています。高等学校における基礎学力の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を、それぞれの入学試験において重み付けを行い評価しています。

Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー

1. 一般選抜入学試験

一般選抜入学試験は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。

一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。

全学日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「数学（記述式）」を選択科目とし筆記試験を実施します。

また、一部の日程では「国語（記述式含む）」「日本史」「世界史」「数学（記述式）」に加えて「地理」を選択科目に加えています。

理系入学試験においては全学日程を2日間実施、入試制度も2種類実施しています。総合型および数学・理科重視型においては、本学で学ぶために必要な「英語」「数学（記述式）」を必須とし、「理科（記述式）」「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。

一般入学試験として、英数日程、共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）の3方式を実施しています。英数日程は、関西学院大学独自の「英語（記述式含む）」と「数学（記述式）」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」または「数学（記述式）」に、大学入学共通テストの教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。

大学入学共通テストを利用する入学試験は、「一般入試とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入学共通テストで実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入学共通テストの得点のみで合否判定を行います。

1月出願においては、「外国語」「国語」「数学」「地理歴史・公民」「理科」「情報」を各学部の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。また、3月出願においても高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。

また、大学入学共通テストを利用する入学試験（1月出願　3科目型（英語資格・検定試験利用））は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入学共通テストの教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2. グローバル入学試験

グローバル入学試験は、入学後、本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）に積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に3つのカテゴリーで実施する入学試験です。

①　国際的な活躍を志す者を対象とした入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、英語能力に加え、留学経験、模擬国連での活動など、自ら国際的な活動に取り組んだ実績を有し、国際的課題解決のための提案・実践に意欲を有するとともに、その国際的な活動で培った力を本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）に挑戦することでさらに発展させ、国際社会で活躍できる力を身に付けることを志す者を求めています。

第1次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。

第2次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

② インターナショナル・バカロレア入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP（ディプロマ・プログラム）の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有するとともに、入学後は、本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）を通して、国際社会で活躍する能力を身に付けることを志す者を求めています。

第1次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。

第2次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

③ 帰国生徒入学試験

関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、家庭の事情等により海外に長期間滞在し、海外の教育を受けた者で、日本での生活や短期間の留学では身に付けることのできない主体性や価値観、多角的視点、困難を乗り越えた経験などを持ち、それらを本学での学生生活や学びに生かそうとする者を求めています。多様な背景を持つ学生が集い刺激し合うことで、キャンパスが活性化する教育的効果も望んでいます。さらに、帰国生徒が他の学生と相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長することにも期待します。

第1次審査では、筆記審査を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価します。

第2次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、自己推薦書、志望理由書、学校長推薦書等の提出書類による書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

① 院内推薦入学

1）関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

2）関西学院千里国際高等部
関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
② 継続校推薦入学
啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等部の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問を含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
③ 提携校推薦入学
関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、各校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問を含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
④ 系属校推薦入学
　関西学院大学系属校推薦入学は、科学技術に強い興味・関心・意欲を持ち、グローバルな観点に立って国際社会での活躍を目指す生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
⑤ 協定校推薦入学
1）キリスト教学校枠
関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
2）グローバル枠
関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
3）グローバル＋キリスト教校枠
関西学院大学協定校推薦入学は、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
⑥ 指定校推薦入学
指定校推薦入学は一定の学力を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接（口頭試問含む）によって総合的に評価し受け入れるための制度です。出願書類と面接（口頭試問含む）において、一定水準以上の「知識・技能」、各学部で学ぶために必要な「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」が備わっているか等を評価し、入学後の勉学における明確な志向および意欲の評価に重点を置き総合的に審査しています。
国際学部
関西学院大学国際学部において勉学することに強い意欲をもち、成績優秀で個性ゆたかな生徒を推薦入学させることによって、本学建学の精神および本学部の教育・研究上の理念である「国際性の涵養」に基づく世界市民と呼ぶにふさわしい国際性と人間性を備えた人材を育成することを目的とします。
審査では志願提出書類、面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

4. 探究評価型入学試験
Society5.0の到来や人工知能（AI）の台頭、急速なグローバル化の進展等、予測困難な社会の変化に適応するため、自己の在り方生き方を考えながら、物事の本質を様々な角度から探り見究め続けることが必要です。本学では「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を捉えたうえで、社会に主体的に関わり新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする気概を持つ者からの挑戦を求めています。
これらの背景から、本入学試験では、関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき探究学習を通して身に付けたそれらの力を多面的・総合的に評価します。これまで主体的に取り組んできた探究活動を「新たなデータを収集して知見を明らかにしようとする事を通した探究活動」、「国内外の学校・様々な機関と協働を通した探究活動」、「特定の社会課題等に関する学術的考察を通した探究活動」に区分し、書類審査や面接（口頭試問含む）、プレゼンテーション審査等の多様な審査方法をもって、探究活動の過程を重視した評価を行います。
主体的に取り組んできた探究活動での経験を、本学入学後に学部での学びや研究をはじめ、様々なプログラム等に積極的に参加して活かしていくことを期待しています。

5. UNHCR難民高等教育プログラムによる推薦入学
「UNHCR難民高等教育プログラムによる推薦入学」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連UNHCR協会との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。
日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。
こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。
国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連UNHCR協会の推薦に基づき、面接（口頭試問含む）を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

6. スポーツ選抜入学試験
　関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後に学業とスポーツ活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化とスポーツ活動の一層の振興に寄与することを目指しています。
　第1次審査では、書類審査にてスポーツ活動における実績を評価するとともに、筆記審査にて、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を評価します。
　第2次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）等により、志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

7. 外国人留学生入学試験
本学は、米国南メソジスト監督教会の宣教師、W.R.ランバスによって創設されました。開学当初から多くの外国人教員が教鞭をとっていたこともあり、外国人留学生を

古くから受け入れ、日本の大学の中では国際色豊かな大学としてその学風を育んできました。 この入学試験制度は外国人留学生を対象とし、さまざまな国からの留学生を受け入れることにより、大学の国際性を一層高め、ひいてはキャンパスの活性化を図る教育効果も期待した、いわゆる「多元的入試」の一環として実施されます。 出願時の提出書類に基づき審査を実施し、本学で学ぶにあたって必要な日本語力および、基礎学力を有しているかを審査した後、各学部が面接審査（口頭試問を含む）・筆記試験等を実施し、志願する学部で学ぶ意欲や人間性などを中心に評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し、選抜します。 8. 学部特色入学試験 関西学院大学のアドミッション・ポリシー、また、各学部が定めるアドミッション・ポリシーに基づき、各学部が求める多様な能力、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性をもった学生を求めています。 国際学部 関西学院大学国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するため、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的としています。その目的の達成を通じて、「国際性」（世界理解、国際理解のための能力）と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材の養成をめざしています。その教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度（特に人文・社会科学の観点）から理解し、分析できるようになることです。 本学部では、このような教育・研究上の理念・目的に基づいて、学部特色入学試験を実施します。この入学試験では、本学部に強い関心と学習意欲を持ち、高い中国語・朝鮮語能力を有する人、文化・芸術活動に関して秀でた経験を有する人、社会人を対象として、従来の一般学力試験では判断することができない多様な経験、活動を通じて身につけた豊かな人間性、将来性、可能性、能力を多面的に、積極的に評価します。 審査は書類審査・筆記審査・面接審査（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。書類審査においては提出された書類や調査書に基づき、高等学校での学びや活動の成果から「主体性・多様性・協働性」などを中心に評価を行います。筆記審査においては日本語資料による読解・論述審査、英語資料による読解・論述審査を行い「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力を評価します。さらに面接審査（口頭試問含む）においては上述の本学部で学ぶ意欲を中心に総合的に評価を行います。	
学生支援に関する方針	変更の有無
すべての学生が学習上のさまざまな障壁を乗り越えて学業を修めることを可能にするように、全学的体制を踏まえ、学部教員・職員が一体となった学生支援を行う。 修学支援 ＊ リサーチ、発表、学術的レポート（論文）作成のための知識と学力を習得することを目的とする必修の演習科目を1年次に配置し、国際学部での専門科目および3年次から始まる研究演習において必要とされるレベルを想定して、その基礎的部分を習得できるよう取り組む。 ＊ LA（ラーニング・アシスタント）として国際学部生を各学期一定の人数採用し、基礎演習学生・外国人留学生等のサポートを依頼する。 ＊ 全学レベルで導入されているアカデミックアドバイザー制度を活用し、学習上の問題を抱える学生を支援する。 ＊ 留年者及び休・退学者の状況把握については、基礎演習・研究演習・外国語教育授業等を通じて適切な把握に努め、教職員の協働により取り組む。 ＊ 障がい学生への修学支援及び各種ハラスメントの防止に関しては、全学のガイドラインに沿って教職員の協働により取り組む。 生活支援 ＊ 全学レベルの奨学金制度を活用する。 ＊ 学生担当副学部長及び同学部長補佐を配置し、職員を含めた面談体制を整える。 進路支援 ＊ キャリア委員会を設置し、学部を挙げて進路支援を実施する。 ＊ 就職・進学に関する情報の提供や助言等を実施・支援する。	無
教員像	変更の有無
キリスト教主義に発する建学の精神を深く理解し、垣根なき学びと探究の共同体をめざし、教育においては教育能力の向上のため自己研鑽と相互研鑽に努めるとともに、情熱を持って学生の育成に努め、研究においては高度な専門知識と高い倫理観・自律性を持って学術研究や国内外の交流に自覚的に取り組み、学会のみならず社会全体において高い評価を受けるとともに、その成果を不断に教育に反映し、社会活動においては国内外において社会と大学との相互交流を促進し、自己の教育研究の成果や実績を社会に還元しこれに寄与し、大学運営においては職員との深い相互理解に基づく連携によって、さまざまな問題の解決や課題の達成に寄与する。	無
教員組織の編制方針	変更の有無
教授 26 名、准教授 3 名、講師 15 名、計 44 人の専任教員・任期制教員・言語教育常勤講師を、文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営の3領域、北米、アジア、グローバルの3分野にバランスをとって配置している。また、教育研究、社会活動におけるグローバル化を進める観点から、外国人教員比率を高く設定している。（2025年 4 月 1 日の体制）	無

2. 国際学部のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
DPに定める資質・能力の獲得状況	あなたはこの授業を通して卒業までに求められる資質・能力を向上できたと思いますか。(「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」) の回答割合(%)	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Kwansei コンピテンシー獲得状況	知識・能力・資質の程度　全項目 (「大変身についた」～「全く身についていない」の5段階評価) (2018～2022 年度) 当該年度卒業生と次年度 1 年生との調査による伸び (2023～2027 年度) 当該年度卒業生とその 1 年生時との調査による伸び 「IR 新入生調査」「IR 卒業時調査」	5段階評価のうち、上位2つ (「大変身についた」「やや身についた」)の回答割合(%)の平均の差 (2022 年度以降のデータの変更点 年度以降) ➡入学時と卒業時のアンケート調査においてコンピテンシーの 10 要素の総合得点(50 点満点)を確認して、学部ごとにその差の平均を算出する。	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
汎用的能力の獲得状況	入学後の能力変化(表外※参照) (「大きく増えた」～「大きく減った」の5段階評価 「IR 上級生調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「大きく増えた」、B「増えた」) の回答割合(%) ➡2022 年度の調査見直しにより、当該項目は調査項目から削除。 (Kwansei コンピテンシーとの重複)	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
授業外学修時間	授業外時間に、授業課題や準備時間、復習をする時間(一週当たりの平均) 「IR1 年生調査、IR 上級生調査」 ➡【2022 年度データの変更点】 2022 年度実施分から調査名称を「学生調査」に変更。	一週あたり 6 時間以上の割合 ➡【2022 年度データの変更点】 学生調査の変更により、2022 年度以降は「一週あたり 5 時間以上」の割合に変更。	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業目的・到達目標の達成度	あなたは、シラバスに示された授業の目的や、到達目標を達成できると思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業満足度	あなたは、全体としてこの授業に満足していますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
留学等派遣数	協定校への派遣学生数 「国際連携機構資料」	大学間協定に基づく派遣日本人学生数	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
TOEIC/TOEFL 等の英語運用能力	TOEFL 換算得点目標の達成人数 ＜参考(学部別目標値)＞ ■国際:TOEFL 換算 550 点 ■文・総政:TOEFL 換算 540 点 ■その他:TOEFL 換算 520 点 「言語教育研究センター」	左記「TOEFL 換算得点」目標の達成人数(人)	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
学生生活満足度	大学生活を振り返って、学生生活は満足したものでしたか。 (「満足」～「不満」の5段階評価) 「IR 卒業1年目調査」	5 段階評価のうち、上位2つ (A「満足」、B「どちらかといえば満足」)の回答割合(%) ＊2018 年度調査までは、A「とても満足」、B「満足」と回答した比率	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
就職率	就職率 「キャリアセンター統計資料」	就職者数(自営含まず)／就職希望者数	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
大学院進学率	大学院進学率 「キャリアセンター統計資料」	大学院進学者数/学部卒業者数	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(※)「知識・技能・能力の獲得状況」の「知識・技能・能力」とは、一般的な教養、論理的思考力、専門分野や学科の知識、グローバルな問題の理解、多様性を尊重する力、主体的に行動する力、リーダーシップ力、人間関係を構築する力、対立する価値を調整する力、地域社会が直面する問題を理解する能力、国民が直面する問題を理解する能力、困難を乗り越える粘り強さ、文章表現の能力、外国語の運用能力、生涯にわたって学び続ける能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、数理的な能力、コンピュータの操作能力、誠実さと品位、時間を効果的に利用する能力、卒業後に就職するための準備の程度、を指す。

(2)学部独自KPI

KPI	定義	基準	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
グローバル企業への就職率	アメリカ・Interbrand 社による Japan's Best Global Brands（40 社） Best Global Brands（100 社）への就職率	①アメリカ・Interbrand 社による Japan's Best Global Brands（40 社）＋②Best Global Brands（100 社）への就職者数／就職希望者数	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
留学の効果を測定する指標 1	国際学部が必須としている留学の効果を数値化 3年生が受検した全学 TOEIC と1年次との留学種別ごとの比較 A…交換留学・長期留学 B…中期英語留学 C…その他の留学 D…留学なし	3 年生の１年次と３年次の全学 TOEIC スコア（L と R の合計）の留学種別ごと比較（平均値および伸び率）	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
					非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
留学の効果を測定する指標2	卒業時の GPA の留学種別ごとの比較 A…交換留学・長期留学 B…中期英語留学 C…その他の留学 D…留学なし	卒業時の最終 GPA の留学種別ごとの平均値	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
					非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
留学の効果を測定する指標3	卒業時調査「3. 大学生活で一番力を入れたこと」で留学を選択した学生の、学生生活を通じた教育内容満足度	卒業時調査「3. 大学生活で一番力を入れたこと」で留学を選択した学生の、学生生活を通じた教育内容満足度で「5. 大変満足」を選んだ比率と、国際学部全体の同項目の満足度の比較 2022 年度の調査見直しにより、当該項目は調査項目から削除。	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
					非公表	非公表	
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

（3）学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
入試難易度 （偏差値）	ベネッセの進研模試のデータにおける合格可能性 60%以上となる偏差値 入学センター		非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
同系列学部勝敗	ベネッセの進研模試のデータにおける同系列学部合格者の競合大学（同志社、立命館、関西）との入学比率 経営企画部	本学と相手校の両方に合格していずれかに入学した受験生のうち、本学に入学した者の比率 本学入学者数／（本学入学者数＋併願校入学者）（%）	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC　年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
ダブルチャレンジ修了者数	当該年度の卒業生のうち、ダブルチャレンジ制度のアウェイチャレンジの単位を取得して卒業した学生数 IR 室	①インターナショナルプログラム②ハンズオン・ラーニング・プログラム③副専攻プログラムのいずれかで単位取得し卒業した学生数 ※学部毎は延べ人数	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 （「満足」～「不満」の5段階評価） 卒業時調査	5 段階評価のうち「満足」と回答した比率（%）	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
スクールモットーの浸透度	スクールモットー“Mastery for Service”を意識する程度は （「意識している」～「意識していない」の 4 段階評価） IR 卒業生調査	4 段階評価のうち、A「意識している」または B「ある程度意識している」と回答した割合（%） ＊2018 年度調査までは A「常に行動の規範としている」または B「頻繁に意識している」と回答した比率 ＊2020 年度調査までは 5 段階評価のうち、A「常に行動の規範としている」または B「ときどき意識している」と回答した比率	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
				非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境（特定 6 項目）に対して、あなたはどのように思いますか。 （「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価） IR 卒業生調査	設問 6 項目の「そう思う」「どちらかちいえばそう思う」と回答した割合の平均値	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
				非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

提出日：2025 年12月10日

国際学研究科

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜国際学研究科＞教学改善シート

研究科における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
専任教員、所属学生、及び受験生に対して HP 等を通じ国際学概念の周知徹底を行っている。 「三つのポリシー」（ディプロマ・カリキュラム・アドミッション）の整合性が十分に可視化されておらず、特に DP とカリキュラムの関係について、学生が体系的に理解する機会の提供が必要である。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
修学支援については、学生による授業評価アンケートに合わせて、調査しているが、生活支援、進路支援に関する、学生のニーズ把握が行えていない。学生のニーズ把握が急務であり、ニーズを基に PDCA サイクルを回す必要がある。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
2014年度新設後、年度ごとに入学者の数に上下があり、入学定員を満たせない年も多くなっている、学内外から安定的に志願者を確保することが本研究科最大の課題である。 ☒2018年度入学者 前期5名、後期1名 ☒2019年度入学者 前期3名、後期1名 ☒2020年度入学者 前期1名、後期0名 ☒2021年度入学者 前期3名、後期0名 ☒2022年度入学者 前期1名、後期1名 ☒2023年度入学者 前期2名、後期1名 ☒2024年度入学者 前期7名、後期1名 ☒2025年度入学者 前期2名、後期1名 ☒2026年度入学者予定者 前期4名、後期0名（第1次のみ）	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
大学院生の授業時間外の自習環境について、利用時間について制約がある。本件は学生からも改善要望が上がっている為、早急に対応が必要な事項である。 後期課程指導教員の増加は課題であるものの、3に記載した入学定員を満たすことが最大の課題であり、安定的な定員の充足を実現した後に、後期課程指導教員の増加に向けた施策を検討する。 また、研究科単独での FD 活動について現在実施されていない（活動実績はすべて学部と合同である）ことも課題である。	

1. 国際学研究科の理念、目的、各種方針

国際学研究科の理念	変更の有無
本研究科は、多様な文化・価値観が共存する国際社会とそのガバナンス構造の変容に関わる地域的・地球的課題を人文・社会科学的に分析し、解決策を講じることを教育・研究上の理念・目的とし、その課題の解決に貢献することのできる高度な専門的職業人・研究者などの知的人材を育成する。	無
国際学研究科の目的	**変更の有無**
多様な文化・価値観が共存する現実の中で、国際社会とそのガバナンス構造の変容に関わる様々な地域的・地球的課題を分析し、解決策を講じるためには、歴史的・地域的に形成されてきた多様な文化・価値観、それに基づく社会ガバナンス構造、そしてその制度的枠組みとの相互作用の中で繰り広げられる経済経営行動を横断的に理解・分析する能力、それに基づいて各課題の解決策を提案・実践する能力、およびそれらの成果を分析・評価する能力をもつ人材が必要である。 よって国際学研究科は、多様な文化・価値観が共存する国際社会とそのガバナンス構造の変容に関わる地域的・地球的課題を人文・社会科学的に分析し、解決策を講じることを教育・研究上の理念・目的とし、その課題の解決に貢献することのできる高度な専門的職業人・研究者などの知的人材を育成する。	無
学位授与方針（DP）	**変更の有無**
本研究科は、上記の教育・研究上の理念・目的に基づき、文化・言語、社会・ガバナンス、および経済・経営の3つの専門領域に基づく、2つの地域別研究コース（北米研究およびアジア研究）と、地域間や地域を越えた地球規模の研究を行うグローバル研究コースを設ける。 博士課程前期課程においては、3つの専門領域のうち、研究課題との関連性の高い、少なくとも2つの領域を学習し、研究視野を広げることを通じて専門性を高めること、また、国際標準語としての英語総合力、とくに英語による対話力を培う。修士論文作成にあたっては、研究課題周辺の先行研究を十分に踏まえ、既存研究に新たな発見・知見を加え、広く国際社会に発信できるような成果をあげる。 博士課程後期課程においては、博士課程前期課程の履修成果をさらに進め、学際的視野をもちつつ、より高度な専門性と研究者としての自立性を確立する。その上でさらに、他の専門領域研究者やフィールドあるいは市民に対して研究課題のフロンティアを周知させ、また、そこからフィードバックを受容することのできる発信力と対話力を身につけた研究者を養成する。 本研究科就任予定の専任教員は各々、「国際」を切り口に、文化・言語、社会・ガバナンス、および経済・経営の各領域に含まれる人文・社会科学の様々な専門分野に基づいて研究を行っており、本研究科内にて専門領域を跨る共同研究、研究会などを通じて、研究面での相乗効果が期待できる。 学生は、その専門領域を縦軸とし、北米研究コース、アジア研究コースおよびグローバル研究コースを横軸として、横断的、学際的に研究することにより成果をあげる。 本研究科では、このような教育・研究アプローチを「国際学」とよぶ。本研究科の教育・研究の特色は次のようにイメージ化できる。 以上の教育・研究から、修士（国際学）（英文名称：Master of Arts in International Studies）、博士（国際学）（英文名称：Doctor of Philosophy in International Studies）の学位を授与する。	有
教育課程の編成・実施方針（CP）	**変更の有無**
多様な文化・価値観が共存する現実の中で国際社会とそのガバナンス構造の変容に関わる様々な地域的・地球的課題を分析し、解決策を講じるためには、歴史的・地域的に形成されてきた多様な文化・価値観、それに基づく社会ガバナンス構造、そしてその制度的枠組みとの相互作用の中で繰り広げられる経済経営行動を横断的に理解・分析する能力、それに基づいて各課題の解決策を提案・実践する能力、およびそれらの成果を分析・評価する能力をもつ人材が必要である。 そこで本研究科では、文化・言語、社会・ガバナンス、および経済・経営の 3 つの専門領域を横断する、2 つの地域別研究コース（北米研究およびアジア研究）とグローバル研究コースを履修コースとしておく。北米研究コースは、アメリカ、カナダを、アジア研究コースは、日本、中国、アジアNIEs、ASEAN、オセアニアを主な対象地域とし、グローバル研究コースは、地域間や地域を越えた課題を扱う。	有
学生の受け入れ方針（AP）	**変更の有無**
本研究科は、多様な制度・文化・価値観が存在する国際社会とその変容に関し、個別ディシプリン（人文社会科学上の専門領域）の観点から国際・地域比較研究（含む、国際的課題研究）を行う、あるいは特定の国・地域に関する学際的（専門領域横断的）な地域研究を行うことを教育・研究上の理念・目的とする。そのうえで、こうした研究を通じて導き出される具体的な課題の解決に貢献することのできる高度な専門的職業人・研究者など知的人材の育成を目指す。これらを踏まえ、以下のアドミッションポリシーのもと、優れた学生を選抜する。 【博士課程前期課程】 博士課程前期課程では、個別専門領域に基づく国際・地域比較研究、あるいは国・地域に関する学際的な特定地域研究を行い、こうした研究を通じて導出される具体的な課題の解決に貢献することのできる高度な専門的職業人・研究者など知的人材の育成を教育・研究上の理念・目的とする。これらを踏まえ、次のアドミッションポリシーのもと、優れた学生を選抜する。 ①国際・地域比較研究を行う場合、個別専門領域（文化・言語/社会・ガバナンス/経済・経営）に関連する専門領域を原則として既習している者が望まれる。具体的には、文化・言語領域を主な専門領域として希望する場合、文学、哲学・思想、歴史学、文化人類学、言語学を、社会・ガバナンス領域を主な専門領域として希望する場合、国際関係論、政治学、法学、国際法、国際社会論を、経済・経営領域を主な専門領域として希望する場合は、経済学、経営学、会計学を、以上のいずれかを既習していることが望まれる。 ②学際的な特定地域研究を行う場合、上記①にある個別専門領域のうち少なくとも1領域を既習しており、かつ他領域の理論・知見等を積極的に習得しようとする者が望まれる。 ③上記①及び②いずれの研究においても分析能力、プレゼンテーション能力、語学力、対話力の高い者が望まれる。 【博士課程後期課程】 博士課程後期課程では、本研究科博士前期課程相当の国際・地域比較研究あるいは学際的な特定地域研究に基づき、精緻なリサーチを行い高度かつ独創的な知的分析能力を培い、学問領域や地域社会に一層の貢献を行うことができる人材を育成する。これらを踏まえ、以下のようなアドミッションポリシーのもとに優れた学生を選抜する。 ①本研究科博士課程前期課程で習得する内容に関連した修士号あるいは修士課程修了程度の専門知識を有し、本研究科において定められた課程を修め学位論文を提出し、博士号を取得することを目指す者。 ②国際・地域比較研究あるいは学際的な特定地域研究を発展させる強い意欲を持ち、自律して研究活動を行うことができる高度な研究能力ならびに卓越した教養と品格を身につけることを目指す者。 ③研究成果を内外に発信する能力を有すると期待される者。	有
学生支援に関する方針	**変更の有無**
少人数の研究科であるので、まず演習担当教員（指導教員）がアドバイザーとして学生の相談にのり、問題があれば研究科執行部にすぐに連絡をするように努めている。 修学支援 春学期が始まって1ヵ月後に、研究科執行部が学生の悩み・不満・要望を聞く機会を設けている。経済学など必要に応じて他の研究科の科目履修を勧める。	無

生活支援 全学共通の奨学金を紹介している。研究科独自の奨学金はないが、学生数が少ないので奨学金を獲得できる確率が高い。教学補佐のアルバイトを提供しているが、これも学生数が少ないので希望者はほぼ全員が採用されている。 進路支援 キャリアセンター職員と研究科執行部ならびに演習担当（指導）教員が連携を密にしている。演習担当教員が学生の就職希望について相談に乗る。	
教員像	変更の有無
「国際学」は学問分野としての歴史が浅いので、多くの教員は文学、言語学、政治学、法学、会計学、経営学、経済学といった既存の学問分野で学位を持ち、アジア、北米、国際関係を研究対象にしている。しかし、本研究科の教員は既存の学問領域にとらわれず、国際学という学際領域に関心を持ち、専門分野の異なる研究者との協力によって相乗効果が発揮されることが期待される。国際学研究科の理念に基づき自己の研究成果を積極的に国内外で社会に還元することに努め、同時に国際学研究科という組織の発展にも献身的に寄与する。	無
教員組織の編制方針	変更の有無
博士前期課程は文化領域 8 名、社会・ガバナンス領域 10 名、経済・経営学領域 9 人で、博士後期課程はそれぞれ2名、7 名、6名で構成される。（2025 年11月1日の体制）	無

2. 国際学研究科のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学位授与数 (M・D・P)	修士、博士、修士(専門職)の学位授与数 (※乙号除く) 「大学基礎データ」	授与する学位数が多いほど○ (人)	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M D	M D
就職・進路決定率 (M)	就職・進路決定率 「キャリアセンター統計資料」	(就職+起業・自営+就労継続)/(修了者ー進学者)	2018 年度 非公表	2019 年度 非公表	2020 年度 非公表	2021 年度 非公表	2022 年度 非公表
			2023 年度 非公表	2024 年度 非公表	2025 年度 非公表	2026 年度	2027 年度
博士後期課程への進学者数 (M)	進学者数 「キャリアセンター統計資料」		2018 年度 非公表	2019 年度 非公表	2020 年度 非公表	2021 年度 非公表	2022 年度 非公表
			2023 年度 非公表	2024 年度 非公表	2025 年度 非公表	2026 年度	2027 年度
日本学術振興会特別研究員数(新規) (D)	特別研究員のうち、当該年度の新規採用者 「研究推進社会連携機構資料」		2018 年度 非公表	2019 年度 非公表	2020 年度 非公表	2021 年度 非公表	2022 年度 非公表
			2023 年度 非公表	2024 年度 非公表	2025 年度 非公表	2026 年度	2027 年度
研究者輩出数(D) (将来)			2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

(2)研究科独自KPI

KPI	定義	基準	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
授業・カリキュラムの満足度	大学院アンケートによる	「学生による授業評価」アンケート 「大変満足」「やや満足」の割合	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度 非公表	2024 年度 非公表	2025 年度 非公表	2026 年度	2027 年度
学習環境の満足度	大学院アンケートによる	「学生による授業評価」アンケート 「大変満足」「やや満足」の割合	2018 年度 非公表	2019 年度 非公表	2020 年度 非公表	2021 年度 非公表	2022 年度 非公表
			2023 年度 非公表	2024 年度 非公表	2025 年度 非公表	2026 年度	2027 年度

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
修了後の進路の満足度	修了後の進路の満足度 (「とても納得している」～「あまり納得していない」の5段階評価) 修了時調査	5 段階評価のうち、 A「とても納得している」または B「ある程度納得している」 と回答した比率(%)					
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定7項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く7項目対して A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」 と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
					非公表		

(4)認証評価に関するKPI

KPI	定義	基準	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
収容定員充足率	当該年度 5 月 1 日時点の収容定員に対する在籍学生数の割合 大学基礎データ表2	在籍学生数/収容定員(%) ※認証評価上(大学基準協会)は、 (M)0.50 以上 (D)0.33 以上 を適切性の目安としている。		非公表	非公表		

提出日：2025 年●月●日
理学部

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜理学部＞教学改善シート

学部における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
・教育内容満足度：卒業時調査において 80.0%が「満足」「どちらかといえば満足」と回答しており、全学部平均 80.6%と同等である。 ・学修意欲：新入生調査では「高い」「どちらかといえば高い」が 63.9%、学生調査（1 年次）では 47.0%であり、全学部平均とほぼ同等である。学生調査（3 年次）では 65.7%と全学部平均 57.7%を 8 ポイント上回っており、良好である。 ・英語力（TOEIC）：1 年次平均スコア 432.4、2・3 年次平均スコア 457.4 であり、変化量は 12.4 点、変化割合は 2.7%である。3 学部中では中位である。 評価：学修意欲は良好である。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
・大学院進学率：理 52.3%、工 59.1%、生環 53.2%である。 ・卒業後進路満足度：理 51.7%、工 39.8%、生環 45.1%である。 評価：大学院進学率は中位であり、進路満足度は 3 学部中で最も高い点は評価できる。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
評価：競合校に対する優位性を確保すべきであろう。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
・大学院生の増加により、各研究室の研究スペースが狭隘化している。B4 および大学院生の研究スペース確保、研究装置・機器の共通化などの検討が必要である。 ・急速な少子化の進行により、今後の理系志願者確保に強い懸念がある。院内校や系列校からの進学者も伸び悩んでおり、初等中等教育段階からの理系志向定着のため、院内校や系列校との連携プログラム強化が必要である。 ・社会連携・社会貢献活動として、学部横断型プログラムの開発や地域連携プロジェクトの推進が進められている。 ・教育研究環境の充実に向け、SPring-8 を利用した放射光教育や南極学の新規開講など、特色ある取り組みが展開されている。 評価：教育研究環境の特色ある取り組みは評価できるが、研究スペース不足が課題である。	

1. 理学部の理念、目的、各種方針

理学部の理念	変更の有無
自然科学の基本原理とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において再生・共生型社会の構築に貢献すること。	有・無

理学部の目的	変更の有無
自然科学の法則と基本原理を理解するのみならず、具体的、実践的な課題を発見し、専門的な知識を適用し発展させることで、解決にむけて的確に歩みを進めることができる人材を養成する。他者を理解し自ら発信する総合的なコミュニケーションの能力、現代社会の抱える多様な課題の問題点を的確に見抜く能力を有し、各々の基礎的、専門的な知識を活かすことで従前には解決し得なかった課題の解決へと至る人材を養成する。 【数理科学科】 自然科学ならびに科学技術のあらゆる分野に重要な役割を果たす数学に関して、理論と応用の両面から教育と研究を行い、柔軟で論理的かつ創造的な思考能力を備えた人材を養成する。現代社会で必要とされる数学理論に関する柔軟で論理的かつ創造的な思考能力を有し、それらを積極的に現代社会の様々な問題に適用し解決することのできる人材を養成することで社会に貢献することを目的としている。 【物理・宇宙学科】 科学技術の基礎である物理学を基盤として、物理学や宇宙の未解決問題や本質的なイノベーションの創出に挑戦するチャレンジ精神と創造性を有する人材を育成する。古典物理学から量子力学等の現代物理学までの物理法則を理解するとともに、ミクロな物質からマクロな天体までの物理現象の実験・観測・理論を用いた研究体験を通して涵養された論理的思考力と専門性を有する人材を養成することで社会に貢献することを目的としている。 【化学科】 物質が示す多様な性質を原子・分子レベルから理解し、それらが持つ可能性の開拓と物質の創成によって、化学を基盤とする科学技術の進展と人類の生活の向上に貢献できる人材を養成する。多面的なカリキュラムと卒業研究を通じ、新物質の創成や未解明現象の解明に資する化学の基礎を体系的に身に付け、多様な課題を解決できる能力と新しい科学技術を創出できる能力を有する人材を養成することで社会に貢献することを目的としている。	有・無

学位授与方針（DP）	変更の有無
関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、全ての学生が卒業時に学部の区別なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、この獲得を念頭において、理学部の理念の下、理学部各学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を以下のとおり定める。 【数理科学科】 数理科学科は、自然科学ならびに科学技術のあらゆる分野に重要な役割を果たす数学に関して、理論と応用の両面から教育と研究を行い、柔軟で論理的かつ創造的な思考能力を備えた人材を養成する。 よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（理学）」の学位を授与する。 1. ［関心・意欲・態度］自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 （1）自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。 （2）自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲をもっている。 2. ［知識・理解］幅広い知識と深い専門性 （1）社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。 （2）数理科学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。 （3）数理科学分野における基礎的な技能を修得している。 （4）基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。 （5）社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。 3. ［技能・表現］実践的な学習技能とコミュニケーション力 （1）論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。 （2）日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。 4. ［思考・判断］課題解決のための総合的思考・判断力 （1）現代社会における問題に取組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。 【物理・宇宙学科】 物理・宇宙学科は、科学技術の基礎である物理学を基盤として、物理や宇宙の未解決問題や本質的なイノベーションの創出に挑戦するチャレンジ精神と創造性を有する人材を育成する。 よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（理学）」の学位を授与する。 1. ［関心・意欲・態度］自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 （1）自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。 （2）自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲をもっている。 2. ［知識・理解］幅広い知識と深い専門性 （1）社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。 （2）物理学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。 （3）物理学分野における基礎的な技能を修得している。 （4）基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。 （5）社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。 3. ［技能・表現］実践的な学習技能とコミュニケーション力	有・無

(1)論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
(2)日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断]課題解決のための総合的思考・判断力
(1)現代社会における問題に取組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。

【化学科】
化学科は、物質が示す多様な性質を原子・分子レベルから理解し、それらがもつ可能性の開拓と物質の創成・生産によって、化学を基盤とする科学技術の進展と人類の生活の向上に貢献できる人材を養成する。
よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士(理学)」の学位を授与する。

1. [関心・意欲・態度]自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢
(1)自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
(2)自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲をもっている。

2. [知識・理解]幅広い知識と深い専門性
(1)社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
(2)化学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
(3)化学分野における基礎的な技能を修得している。
(4)基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。
(5)社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。

3. [技能・表現]実践的な学習技能とコミュニケーション力
(1)論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
(2)日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4. [思考・判断]課題解決のための総合的思考・判断力
(1)現代社会における問題に取組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。

教育課程の編成・実施方針(CP)	変更の有無
各学科の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえ、各学科の教育課程の編成方針(カリキュラム・ポリシー)を以下のように定める。 [総合教育科目](3 学科共通) 「キリスト教科目」 初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義に基づく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性等の基本的な態度を身につけさせる。 「英語教育科目」 自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。 「総合選択科目」 社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。 【数理科学科】 理学部数理科学科の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえ、「学士(理学)」を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。 本学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、基礎科目、コンピュータ科目、発展科目、専門選択科目にて構成する。 [専門教育科目] 「必修科目」 数理科学科の学びの基盤となる科目から演習科目まで、本学科の学生全員が履修すべき科目を 1 年次、3 年次及び 4 年次に体系的に配当し修得させる。 「基礎科目」 1 年次～3 年次に配当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。 「コンピュータ科目」 1 年次～3 年次に配当し、各専攻分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能及び基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を演習を通じて修得させる。 「発展科目」 4 年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義を通じて修得させる。 「専門選択科目」 主に専攻分野以外の自然科学・科学技術等について、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。	有・[無]

理学部数理科学科　カリキュラム・マップ（概要）
（ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表）

ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3		4
カリキュラム・ポリシーの科目群		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(1)
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	必修科目				○	○	○	○	○	○	○
	基礎科目				○	○					
	コンピュータ科目				○	○	○		○		
	発展科目		○				○	○			○
	専門選択科目		○	○	○	○	○		○	○	

【物理・宇宙学科】
理学部物理・宇宙学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、「学士（理学）」を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。
本学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は物理系科目、数学系科目、専門選択科目にて構成する。

［専門教育科目］

「物理系科目」
卒業研究に関連する科目（卒業研究科目）、各専攻分野において核となる基礎的な科目（コア科目）、実験演習科目及び専門知識を深める科目（選択科目）を体系的に配置し、必要な知識や技能を修得させる。

「数学系科目」
主に数学に関する基礎知識や基礎的な技能及びそれらを応用するための知識や技能を講義を通じて修得させる。

「専門選択科目」
主に専攻分野以外の自然科学・科学技術等について、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理学部物理・宇宙学科　カリキュラム・マップ（概要）
（ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表）

ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3		4
カリキュラム・ポリシーの科目群		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(1)
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	物理系科目	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	数学系科目				○		○		○	○	
	専門選択科目				○	○	○		○	○	

【化学科】
理学部化学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、「学士（理学）」を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。
本学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、基礎科目、物理分析化学科目、有機無機化学科目、専門選択科目にて構成する。

［専門教育科目］

「必修科目」
実験科目を 1 年次～3 年次に、卒業研究に関する科目を 4 年次に配当し、本学科の全ての学生が身につけるべき知識と技能を体系的に修得させる。

「基礎科目」
主に 1 年次と 2 年次に配当し、各専攻分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「物理分析化学科目」
2 年次と 3 年次に配当し、物理化学と分析化学における基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義を通じて修得させる。

「有機無機化学科目」
主に 2 年次と 3 年次に配当し、有機化学と無機化学における基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義を通じて修得させる。

「専門選択科目」
専門分野の応用となる科目、専攻分野以外の自然科学・科学技術等について、幅広い教養と視野を養成し、各専攻分野の伸展となる知識を修得させる。

理学部化学科　カリキュラム・マップ(概要)
(ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表)

ディプロマ・ポリシーの項目 / カリキュラム・ポリシーの科目群		1		2					3		4
		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	卒業研究科目		○					○			○
	実験科目				○	○			○		
	基礎科目				○						
	物理分析化学科目						○	○			
	有機無機化学科目						○	○			
	専門選択科目			○							

学生の受け入れ方針(AP)

変更の有無

Ⅰ.関西学院大学アドミッション・ポリシー
世界を視野におさめ、他者(ひと)への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service(奉仕のための練達)”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。
関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。
そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多元的に評価することを基本的な方針としています。

Ⅱ.各学部のアドミッション・ポリシー

理学部アドミッション・ポリシー

【数理科学科】
数理科学科は、現代社会で必要とされる数学理論に関する柔軟で論理的かつ創造的な思考能力を有し、それらを積極的に現代社会の様々な問題に適用し解決することのできる人材を養成することで社会に貢献することを目的としている。
よって、次のような入学者を求める。

① 理学部及び数理科学科の目的及び養成する人材像に賛同し、自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって社会・文化・人類の発展に貢献しようとする学生
② 理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生
③ 人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生
④ 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生

【物理・宇宙学科】
物理・宇宙学科は、古典物理学から量子力学・相対性理論等の現代物理学までの物理法則を理解するとともに、ミクロな物質からマクロな天体までの物理現象の実験・観測・理論を用いた研究体験を通して涵養された論理的思考能力と専門性を有する人材を養成することで社会に貢献することを目的としている。
よって、次のような入学者を求める。

① 理学部及び物理・宇宙学科の目的及び養成する人材像に賛同し、自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって社会・文化・人類の発展に貢献しようとする学生
② 理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生
③ 人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生
④ 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生

【化学科】
化学科は、基礎化学と無機分析化学、有機化学、物理化学を中心とした多面的なカリキュラムと卒業研究を通じ、新物質の創成や未解明現象の解明に資する化学の基礎を体系的に身につけ、多様な課題を解決できる能力と新しい科学技術を創出できる能力を有する人材を養成することで社会に貢献することを目的としている。
よって、次のような入学者を求める。
① 理学部及び化学科の目的及び養成する人材像に賛同し、自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって社会・文化・人類の発展に貢献しようとする学生
② 理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生
③ 人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生
④ 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生

Ⅲ.入学試験毎のアドミッション・ポリシー
1.一般選抜
一般選抜は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。
一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。
全学部日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学部日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述」による入学試験も実施しています。
学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語(記述式含む)」「国語(記述式含む)」を必須とし、「日本史」「世界史」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。また、一部の日程では「日本史」「世界史」「数学(記述式)」に加えて「地理」を選択科目に加えています。
理系入学試験においては全学部日程を 2 種類実施しています。本学で学ぶために必要な「英語」「数学(記述式)」を必須とし、理科(記述式)「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。

有・無

一般入学試験として、英数日程、共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）の3方式を実施しています。英数日程は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」と「数学（記述式）」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」または「数学（記述式）」に、大学入学共通テストの教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。

大学入学共通テストを利用する入学試験は、「一般入学試験とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入学共通テストで実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入学共通テストの得点のみで合否判定を行います。
1 月出願においては、「外国語」「国語」「数学」「地理歴史・公民」「理科」「情報」を各学部の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。また、3 月出願においても高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。
また、大学入学共通テストを利用する入学試験（1 月出願　3 科目型（英語資格・検定試験利用）は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の 4 技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語資格・検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入学共通テストの教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2. グローバル入学試験
グローバル入学試験は、入学後、本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）に積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に 3 つのカテゴリーで実施する入学試験です。

① 国際的な活躍を志す者を対象とした入学試験
　＜理系学部＞
関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、自然科学に関する科目について一定の学力を有した上で、英語能力や高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験、自然科学分野における特記すべき国際交流経験、国際科学技術コンテストに出場した経験のいずれかを有し、国際的に活躍する科学者や技術者になることを志す者を求めています。
第 1 次審査では、調査書等の書類に基づき「主体性」を中心に書類審査を行います。さらに入学後に必要な数学、理科の基礎知識を問う筆記試験にて「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果と合わせて総合的に評価します。
　第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを総合的に評価します。
② インターナショナル・バカロレア入学試験
関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP（ディプロマ・プログラム）の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有するとともに、入学後は、本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）を通して、国際社会で活躍する能力を身に付けることを志す者を求めています。
　第 1 次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
　第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。
③ 帰国生徒入学試験
関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、家庭の事情等により海外に長期間滞在し、海外の教育を受けた者で、日本での生活や短期間の留学では身に付けることのできない主体性や価値観、多角的視点、困難を乗り越えた経験などを持ち、それらを本学での学生生活や学びに生かそうとする者を求めています。多様な背景を持つ学生が集い刺激し合うことで、キャンパスが活性化する教育的効果も望んでいます。さらに、帰国生徒が他の学生と相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長することにも期待します。
　第 1 次審査では、筆記審査を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価します。
　第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

3. 推薦入学
推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、自己推薦書、志望理由書、学校長推薦書等の提出書類による書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

① 院内推薦入学
1）関西学院高等部
関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
2）関西学院千里国際高等部
関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
② 継続校推薦入学
啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等学校の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
③ 提携校推薦入学
関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
④ 系属校推薦入学
関西学院大学系属校推薦入学は、科学技術に強い興味・関心・意欲を持ち、グローバルな観点に立って国際社会での活躍を目指す生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑤ 協定校推薦入学
1)キリスト教学校枠
関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
2)グローバル枠
関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21 世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
3)グローバル＋キリスト教校枠
関西学院大学協定校推薦入学は、21 世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
⑥ 指定校推薦入学
指定校推薦入学は一定の学力を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接(口頭試問含む)によって総合的に評価し受け入れるための制度です。出願書類と面接(口頭試問含む)において、一定水準以上の「知識・技能」、各学部で学ぶために必要な「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」が備わっているか等を評価し、入学後の勉学における明確な志向および意欲の評価に重点を置き総合的に審査しています。
理学部
関西学院大学理学部を強く希望する優秀な生徒で、自然科学・科学技術の基礎知識と能力の修得に情熱を有する者を総合的学力評価に基づく推薦制度により迎え入れ、将来性ある人材に育成することを目的としています。
審査では、出願時提出書類、面接(口頭試問含む)を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

4. 探究評価型入学試験
Society5.0 の到来や人工知能(AI)の台頭、急速なグローバル化の進展等、予測困難な社会の変化に適応するため、自己の在り方生き方を考えながら、物事の本質を様々な角度から探り見究め続けることが必要です。本学では「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を捉えたうえで、社会に主体的に関わり新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする気概を持つ者からの挑戦を求めています。
これらの背景から、本入学試験では、関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき探究学習を通して身に付けたそれらの力を多面的・総合的に評価します。これまで主体的に取り組んできた探究活動を「新たなデータを収集して知見を明らかにしようとする事を通した探究活動」、「国内外の学校・様々な機関と協働を通した探究活動」、「特定の社会課題等に関する学術的考察を通した探究活動」に区分し、書類審査や面接(口頭試問含む)、プレゼンテーション審査等の多様な審査方法をもって、探究活動の過程を重視した評価を行います。
主体的に取り組んできた探究活動での経験を、本学入学後に学部での学びや研究をはじめ、様々なプログラム等に積極的に参加して活かしていくことを期待しています。

5. UNHCR 難民高等教育プログラムによる推薦入学
「UNHCR 難民高等教育プログラムによる推薦入学」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所および国連 UNHCR 協会との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。
日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。
こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。
国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所および国連 UNHCR 協会の推薦に基づき、面接(口頭試問含む)を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

6. スポーツ選抜入学試験
関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後に学業とスポーツ活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化とスポーツ活動の一層の振興に寄与することを目指しています。
第 1 次審査では、書類審査にてスポーツ活動における実績を評価するとともに、筆記審査にて、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を評価します。
第 2 次審査では、学部毎に実施する面接(口頭試問含む)等により、志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

7. 外国人留学生入学試験
本学は、米国南メソジスト監督教会の宣教師、W. R. ランバスによって創設されました。開学当初から多くの外国人教員が教鞭をとっていたこともあり、外国人留学生を古くから受け入れ、日本の大学の中では国際色豊かな大学としてその学風を育んできました。
この入学試験制度は外国人留学生を対象とし、さまざまな国からの留学生を受け入れることにより、大学の国際性を一層高め、ひいてはキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待した、いわゆる「多元的入試」の一環として実施されます。
出願時の提出書類に基づき審査を実施し、本学で学ぶにあたって必要な日本語力および、基礎学力を有しているかを審査した後、各学部が面接審査(口頭試問を含む)・筆記試験等を実施し、志願する学部で学ぶ意欲や人間性などを中心に評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し、選抜します。

8.学部特色入学試験
関西学院大学のアドミッション・ポリシー、また、各学部が定めるアドミッション・ポリシーに基づき、各学部が求める多様な能力、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性をもった学生を求めています。

理・工・生命環境学部共通
本学のスクールモットーである“Mastery for Service(奉仕のための練達)”の理念のもと、自然科学の基礎をしっかり学び、それらを応用に生かしていく能力を養いたいと考えている若者たち、本学の建学の精神を背景にして、人格形成、自己の確立に努め、自然科学の知識や能力に優れているだけでなく、人間として深みのある科学者や技術者になりたいと考えている若者たち、そのような人々を対象に学部特色入試を実施します。
関西学院大学理系学部の目標のひとつである「より良い社会の実現」のための一大研究拠点の構成員として、学部の理念に賛同し、ここで学ぶ意欲を強く持つ学生を求めます。

学部特色入試とは、高等学校までに学んだ基礎的な知識、技能、思考力を備え、それに加えて「学びに向かう力・人間性」を持った学生を評価する入試です。また、入学後必要な数学、理科の基礎知識を問う筆記試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査（面接（口頭試問含む））は、「思考力・判断力・表現力」を確認するとともに、学問領域を探究していこうとする力や意欲を総合的に評価します。	
学生支援に関する方針	変更の有無
（定めなし）	有・無
教員像	変更の有無
（定めなし）	有・無
教員組織の編制方針	変更の有無
生き生きとした魅力ある学部として、教育・研究の活力を保ち、持続的に社会貢献できる体制を構築するために、教員組織の編制方針を次の通り定めている。 ①教員の年齢構成が、特定の年齢層に極端にかたよらないようにする。 ②女性教員を積極的に採用し、各学科の専任教員として少なくとも 1 名の女性教員が在籍するようにする。また、学部における女性教員比率を 2029 年 4 月までに12.0％以上になるようにする。 ③任期制教員枠を利用して、若手教員を積極的採用して教育・研究の活性化を図るとともに、若手教員をサポートする体制を整備する。 ④教員の研究分野は、多様性を保ちつつ各学科の特色を出すように配慮する。 ⑤英語教育充実のため、ネイティブ教員を積極的に採用するとともに、教員間の連携体制を整備する。 ⑥体験的教育の充実を図るため、実験や演習を補佐する教職員等を各学科に配置する。	有・無

2. 理学部のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
DPに定める資質・能力の獲得状況	あなたはこの授業を通して卒業までに求められる資質・能力を向上できたと思いますか。(「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」) の回答割合(%)				非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表			
Kwansei コンピテンシー獲得状況	知識・能力・資質の程度 全項目 (「大変身についた」～「全く身についていない」の5段階評価) (2018～2022 年度) 当該年度卒業生と次年度 1 年生との調査による伸び (2023～2027 年度) 当該年度卒業生とその 1 年生時との調査による伸び 「IR 新入生調査」「IR 卒業時調査」 なお、( )は参考値	5段階評価のうち、上位2つ (「大変身についた」「やや身についた」)の回答割合(%)の平均の差 (2022 年度以降のデータの変更点 年度以降) ➡入学時と卒業時のアンケート調査においてコンピテンシーの 10 要素の総合得点(50 点満点)を確認して、学部ごとにその差の平均を算出する。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表			
汎用的能力の獲得状況	入学後の能力変化(表外※参照) (「大きく増えた」～「大きく減った」の5段階評価 「IR 上級生調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「大きく増えた」、B「増えた」) の回答割合(%) ➡2022 年度の調査見直しにより、当該項目は調査項目から削除。 (Kwansei コンピテンシーとの重複)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
授業外学修時間	授業外時間に、授業課題や準備時間、復習をする時間(一週当たりの平均) 「IR1年生調査、IR 上級生調査」 ➡【2022 年度データの変更点】 2022 年度実施分から調査名称を「学生調査」に変更。	一週あたり 6 時間以上の割合 ➡【2022 年度データの変更点】 学生調査の変更により、2022 年度以降は「一週あたり 5 時間以上」の割合に変更。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業目的・到達目標の達成度	あなたは、シラバスに示された授業の目的や、到達目標を達成できると思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業満足度	あなたは、全体としてこの授業に満足していますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
留学等派遣数	協定校への派遣学生数 「国際連携機構資料」	大学間協定に基づく派遣日本人学生数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
TOEIC/TOEFL 等の英語運用能力	TOEFL 換算得点目標の達成人数 ＜参考(学部別目標値)＞ ■国際:TOEFL 換算 550 点 ■文・総政:TOEFL 換算 540 点 ■その他:TOEFL 換算 520 点 「言語教育研究センター」	左記「TOEFL 換算得点」目標の達成人数(人)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
学生生活満足度	大学生活を振り返って、学生生活は満足したものでしたか。 (「満足」～「不満」の5段階評価) 「IR 卒業1年目調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「満足」、B「どちらかといえば満足」)の回答割合(%) ＊2018 年度調査までは、A「とても満足」、B「満足」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
					非公表		
就職率	就職率 「キャリアセンター統計資料」	就職者数(自営含まず)／就職希望者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
大学院進学率	大学院進学率 「キャリアセンター統計資料」	大学院進学者数/学部卒業者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		

(※)「知識・技能・能力の獲得状況」の「知識・技能・能力」とは、一般的な教養、論理的思考力、専門分野や学科の知識、グローバルな問題の理解、多様性を尊重する力、主体的に行動する力、リーダーシップ力、人間関係を構築する力、対立する価値を調整する力、地域社会が直面する問題を理解する能力、国民が直面する問題を理解する能力、困難を乗り越える粘り強さ、文章表現の能力、外国語の運用能力、生涯にわたって学び続ける能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、数理的な能力、コンピュータの操作能力、誠実さと品位、時間を効果的に利用する能力、卒業後に就職するための準備の程度、を指す。

(2)学部独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
本学理工学研究科への進学率	理学部から本学大学院理工学研究科博士前期課程への進学率	2025 年 3 月理工学部生の進学率				—	—
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			—	—	—		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
入試難易度（偏差値）	ベネッセの進研模試のデータにおける合格可能性 60%以上となる偏差値 (次年度偏差値予想を記載) 入学センター				非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
同系列学部勝敗	ベネッセの進研模試のデータにおける同系列学部合格者の競合大学(同志社、立命館、関西)との入学比率 (当該年度結果を記載) 経営企画部	本学と相手校の両方に合格していずれかに入学した受験生のうち、本学に入学した者の比率 本学入学者数／(本学入学者数＋併願校入学者)(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC 年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
ダブルチャレンジ修了者数	当該年度の卒業生のうち、ダブルチャレンジ制度のアウェイチャレンジの単位を取得して卒業した学生数 IR 室	①インターナショナルプログラム②ハンズオン・ラーニング・プログラム③副専攻プログラムのいずれかで単位取得し卒業した学生数 ※学部毎は延べ人数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」～「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5 段階評価のうち「満足」と回答した比率(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
スクールモットーの浸透度	スクールモットー“Mastery for Service”を意識する程度は (「意識している」～「意識していない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	4 段階評価のうち、A「意識している」または B「ある程度意識している」と回答した割合(%) ＊2018 年度調査までは A「常に行動の規範としている」または B「頻繁に意識している」と回答した比率 ＊2020 年度調査までは 5 段階評価のうち、A「常に行動の規範としている」または B「ときどき意識している」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
					非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 6 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	設問 6 項目の「そう思う」「どちらかちいえばそう思う」と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
					非公表		

提出日：2025 年●月●日
工学部

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜工学部＞教学改善シート

学部における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
現状： ・ 教育内容満足度：卒業時調査の「満足」「どちらかといえば満足」の割合は 75.0%（全学 80.6%、理 80.0%、生環 81.7%）であり、課題である。 ・ 学修意欲：意欲が向上するような検討が必要である。 評価：教育内容満足度と学修意欲、英語力の伸びが課題である。 対策：目的志向、出口志向にあわせた教育組織再編（中期計画学部独自型④）	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
現状： ・ 退学・除籍者は3学部で少ないものの、残留生が多く、リメディアル教育など修学支援が必要である。 ・ 大学院進学率：環境整備による安定した進学率の向上が必要である。 評価：学生生活満足度の改善が必要である。修学支援に課題があるが、退学率は低い。大学院進学率は最も高いが、進路満足度について、研究環境の整備、キャリア支援の強化が必要であろう。 対策：現在の学生の学力に合わせたリメディアル教育の実践（中期計画学部独自型⑥）、学生の指向・期待（就職重視）に合わせた教育組織再編（中期計画学部独自型④）・研究室運営・体制の改善（中期計画学部独自型⑤）	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
評価：競合校に対する優位性の確保が必要。 対策：入学につながる初等中等教育との連携教育プログラムの開発（中期計画学部独自型②）、女子学生比率の向上（中期計画学部独自型③）、就職・社会に直結する学びの場の提供（中期計画学部独自型④）	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
現状： ・ 大学院生の増加により、各研究室の研究スペースが狭隘化している。B4 および大学院生の研究スペース確保、研究装置・機器の共通化などの検討が必要である。 ・ 急速な少子化の進行により、今後の理系志願者確保に強い懸念がある。院内校や系列校からの進学者も伸び悩んでおり、初等中等教育段階からの理系志向定着のため、院内校や系列校との連携プログラム強化が必要である。 評価：教育研究環境の改善が必要である。 対策：入学時から社会で活躍できるためのシームレスな教育のために、初等中等教育との連携教育（中期計画学部独自型②）、女子学生比率の向上（中期計画学部独自型③）、リメディアル教育（中期計画学部独自型⑥）、教育組織再編（中期計画学部独自型④）、研究室運営・体制の改善（中期計画学部独自型⑤を有機的に連携する。	

1. 工学部の理念、目的、各種方針

工学部の理念	変更の有無
自然科学の基本原理とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において再生・共生型社会の構築に貢献すること。	有・無

工学部の目的	変更の有無
科学技術の基礎に根ざした確かな知識を備え、それを課題解決につなげる思考力と創造力を備えた人材を育成する。さらに、健全な倫理観、教養人としての幅広い見識や柔軟性、特定の分野に閉じこもらない多彩な知識と視野をもとに、複雑化・多様化する社会における課題を解決できる能力を身につけ、グローバル化した世界で活躍できる人材を育成するとともに、現代社会が抱える諸問題の解決に結びつく研究の成果をもって社会に貢献することを目的とする。 【物質工学課程】 グリーンイノベーションに必須の「創エネ」「蓄エネ」「省エネ」の3分野にかかわる深い専門性と応用力とともに、専門外の領域の知識をも備え、持続可能な社会実現に向けた課題に新たな視点で取り組むことのできる人材を養成する。物質工学の基礎から応用までの幅広い知識を身につけ、研究・開発能力を有し、物質科学分野における課題に対して幅広く取り組む人材を養成することで持続可能な社会の実現に貢献することを目的とする。 【電気・電子応用工学課程】 電気電子応用工学課程は、次世代モビリティーなどで使用される動力機器、情報通信機器、エネルギー輸送・変換機器など、我々の社会・生活で利用している機器の基盤となる「電気エネルギー」の有効利用分野において、基礎から応用までの幅広い知識と深い専門性を有し、学修した専門知識・技能を実社会での課題解決に応用し得る柔軟な思考力をもつ人材を養成することで、新しいエネルギー社会に貢献することを目的とする。 【情報工学課程】 情報技術に関する専門知識とプログラミングの能力を有し、IoTやAI、ヒューマンインタフェース、感性工学等、最先端の情報技術及び今後情報工学が展開して行く広い学問領域に関する見識と課題解決能力を備え、社会変革を実現して行く創造性に富んだ人材を養成することで、それらを活用して新しい科学・技術・文化の発展を推進し、情報通信、ソフトウェア及びコンテンツ産業に貢献することを目的とする。 【知能・機械工学課程】 機械工学と人工知能技術の双方にまたがる教育・研究を通じ、数学と物理学を土台としてその上に機械系力学や制御工学、ロボティクスなどの機械工学に関する専門知識と、その高度化のためのセンシングや機械学習、データマイニングなどの人工知能に関わる専門知識を幅広く身に付け、さらに深い思考力をも兼ね備えた人材を養成することで、これからの社会に求められる高度に知的な機械システムの創出に貢献することを目的とする。	有・無

学位授与方針（DP）	変更の有無
関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、全ての学生が卒業時に学部の区別なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、この獲得を念頭において、工学部の理念の下、工学部各課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を以下のとおり定める。 【物質工学課程】 物質工学課程は、原子、分子から固体までの多様なスケールにおける物質科学の基礎となる数学・物理学・化学を身につけた上で、物質工学課程のカリキュラムを通してグリーンイノベーションで必須の 3 つの分野、すなわち、「創エネ」、「蓄エネ」、「省エネ」に関わる深い専門性と応用力、さらには、超スマート社会におけるグリーンイノベーションに関する知識や他領域を含む幅広い知識を身につけ、持続可能な社会の実現に向けた課題に新たな視点から取組むことのできる人材を養成する。 よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（工学）」の学位を授与する。 1.［関心・意欲・態度］自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 （1）自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。 （2）自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲をもっている。 2. ［知識・理解］幅広い知識と深い専門性 （1）社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。 （2）物質工学課程の分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。 （3）物質工学課程の分野における基礎的な技能を修得している。 （4）基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。 （5）社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。 3. ［技能・表現］実践的な学習技能とコミュニケーション力 （1）論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。 （2）日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。 4. ［思考・判断］課題解決のための総合的思考・判断力 （1）現代社会における問題に取組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。 【電気電子応用工学課程】 電気電子応用工学課程は、グリーンイノベーションの基盤となる、省電力エレクトロニクスの分野において、基礎から応用までの幅広い知識と深い専門性、他領域を含む幅広い知識を身につけ、学修した専門知識・技能を実社会での課題解決に応用し得る柔軟な思考力を併せもつ人材を養成する。 よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（工学）」の学位を授与する。 1. ［関心・意欲・態度］自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 （1）自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。 （2）自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲をもっている。 2. ［知識・理解］幅広い知識と深い専門性 （1）社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。	有・無

(2)電気電子応用工学課程における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
(3)電気電子応用工学課程における基礎的な技能を修得している。
(4)基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。
(5)社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。

3.［技能・表現］実践的な学習技能とコミュニケーション力
(1)論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
(2)日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4.［思考・判断］課題解決のための総合的思考・判断力
(1)現代社会における問題に取組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。

【情報工学課程】
情報工学課程は、情報技術に関する専門知識とプログラミングの能力を有し、IoT や AI、ヒューマンインタフェース、感性工学等、最先端の情報技術を修得し、さらにその上に他領域を含む幅広い知識と深い思考力を身につけた人材を養成する。
よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

1.［関心・意欲・態度］自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢
(1)自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
(2)自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲をもっている。

2.［知識・理解］幅広い知識と深い専門性
(1)社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
(2)情報工学課程における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
(3)情報工学課程における基礎的な技能を修得している。
(4)基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。
(5)社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。

3.［技能・表現］実践的な学習技能とコミュニケーション力
(1)論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
(2)日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4.［思考・判断］課題解決のための総合的思考・判断力
(1)現代社会における問題に取組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。

【知能・機械工学課程】
知能・機械工学課程は、機械工学と人工知能のいずれを学ぶ際にもその土台となる数学的な素養を備えた上に、機械系力学や制御工学、ロボティクス等の機械工学に関する専門知識と、センシングや機械学習、データサイエンス等の人工知能に関わる専門知識の両方を修得し、さらにその上に他領域を含む幅広い知識と深い思考力を身につけることで、これからの社会に求められる高度で多彩な機械化・知能化技術を開発できるとともに、それを通じて新たな産業の創出にも貢献できるような創造性豊かな人材を養成する。
よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

1.［関心・意欲・態度］自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢
(1)自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
(2)自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、人類の進歩に貢献しようとする意欲をもっている。

2.［知識・理解］幅広い知識と深い専門性
(1)社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
(2)知能・機械工学課程における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
(3)知能・機械工学課程における基礎的な技能を修得している。
(4)基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。
(5)社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。

3.［技能・表現］実践的な学習技能とコミュニケーション力
(1)論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
(2)日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4.［思考・判断］課題解決のための総合的思考・判断力
(1)現代社会における問題に取組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。

教育課程の編成・実施方針（CP）	変更の有無
各課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、各課程の教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を以下のように定める。 ［総合教育科目］（4 課程共通） 「キリスト教科目」 初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義に基づく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性等の基本的な態度を身につけさせる。 「英語教育科目」 自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。 「総合選択科目」 社会、文化、人間について、幅広い教養と視野を身につけさせる。	有・[無]

【物質工学課程】
物質工学課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、「学士（工学）」を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。本課程における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、基礎科目〈数学系、物理系、化学系〉、実験科目、発展科目、先端科目、専門選択科目、他領域科目にて構成する。各科目群については物質工学課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に沿う形で以下の方針をもって実施する。

［専門教育科目］

「必修科目」
本課程に必須となる基礎知識を 1 年次に、後述の「基礎科目」「実験科目」で修得した基礎的な知識・技術を基に卒業研究の自立的推進能力を養う科目を 3 年次に修得させる。卒業研究に関わる科目を 4 年次に配当し、「創エネ」、「蓄エネ」、「省エネ」の各分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連においてもつ意味を理解させた上で、取組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「基礎科目」
「創エネ」、「蓄エネ」、「省エネ」の各分野において必須の数学系、物理系、化学系の基礎知識を、講義等を通じて修得させる。

「実験科目」
「創エネ」、「蓄エネ」、「省エネ」の各分野において必要となる基礎的な技能及び基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験を通じて修得させる。

「発展科目」
基礎知識や基礎的な技能を応用するために必要なコンピュータ活用や基礎科目で学修した科目の発展的内容、実践的な知識について講義等を通じて修得させる。

「先端科目」
3 年次に配当し、本課程の学生が基礎知識や基礎的な技能の理解を深め、「創エネ」、「蓄エネ」、「省エネ」の各分野の特定の目的に対して応用するための高度な知識について講義を通じて修得させる。

「専門選択科目」
「創エネ」、「蓄エネ」、「省エネ」について、掘り下げた内容の知識と視野を養成し、各分野の伸展となる知識を修得させる。

「他領域科目」
特定の分野に閉じこもらず、多彩な知識と視野を身につけさせるため、自然科学・科学技術等について、幅広い教養と視野を養成し、高度に多様化する科学技術やグローバル化する社会に対応できる知識・能力を修得させる。

物質工学課程　カリキュラム・マップ（概要）
（ディプロマポリシーの項目とカリキュラムポリシーの科目群の主たる方針との対応表）

ディプロマポリシーの項目 / カリキュラムポリシーの科目群		1		2					3		4
		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	必修科目		○					○	○		○
	基礎科目				○						
	実験科目				○	○			○		
	発展科目				○		○				
	先端科目						○	○			
	専門選択科目			○				○			
	他領域科目			○						○	

【電気電子応用工学課程】
電気電子応用工学課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、「学士（工学）」を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。本課程における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は、必修科目、基礎科目、実験科目、発展科目、先端科目、専門選択科目、他領域科目にて構成する。
学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で述べたように、電気電子応用工学課程は、我が国のグリーンイノベーションに資する人材育成をめざす。理工学部時代から培ってきた物性物理学・電子工学の教育研究を異分野融合・連携の形で新課程に展開し、今後迎える新しいエネルギー社会に貢献し得る人材を輩出することを目的とする。
カリキュラムの基本的な考え方としては、省電力パワーエレクトロニクスを支える、素材・デバイス分野と回路・システム分野の 2 つの分野に関わる学術を、モビリティーの電動化等、具体的な応用先を想定して、基礎から応用まで幅広く学ばせる。各授業科目は、1 つの分野に偏ることなく、また、それぞれの分野の関係性を意識して、構成・配置されている。さらに、これらの講義科目に加えて、「電気電子ものづくり実験」、そして電気電子工学の基盤となる計測技術に関わる「電気電子計測実験」等の実験科目を開講し、省電力パワーエレクトロニクスの要素技術を体験的に受講できるようにする。
工学のための理学をよりよく理解し、実社会からの要請に対応できる基礎力を身につけるだけでなく、身につけた基礎力を発展させ、新しい素材・プロセス・デバイス・システムを創造できるような、複数分野にまたがる、あるいは境界分野で活躍できる研究者・技術者を育成する。

［専門教育科目］

「必修科目」
本課程に必須となる基礎知識を 1 年次に、卒業研究の自立的推進能力を養う科目を 3 年次に修得させる。卒業研究に関わる科目を 4 年次に配当し、素材・デバイス分野、回路・システム分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連においてもつ意味を理解させた上で、取組むための課題を発見させ、これまでに培ったコミュニケーション力・知識・技能を用いて課題解決に向けて意欲的に取組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「基礎科目」

素材・デバイス分野、回路・システム分野における数学、物理学等の基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「実験科目」
素材・デバイス分野、回路・システム分野において必要となる基礎的な技能及び基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験を通じて修得させる。

「発展科目」
基礎知識や基礎的な技能を応用するために必要なコンピュータ活用や基礎科目で学修した科目の発展的内容、実践的な知識について講義等を通じて修得させる。

「先端科目」
3 年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能の理解を深め、省電力パワーエレクトロニクスの分野の特定の目的に対して応用するための知識について講義を通じて修得させる。

「専門選択科目」
素材・デバイス分野、回路・システム分野の自然科学の基礎や「ものづくり」技術の共通基盤等についての知識と視野を養成し、各分野の伸展となる知識を修得させる。

「他領域科目」
特定の分野に閉じこもらず、多彩な知識と視野を身につけさせるため、自然科学・科学技術等について、幅広い教養と視野を養成し、高度に多様化する科学技術やグローバル化する社会に対応できる知識・能力を修得させる。

電気電子応用工学課程　カリキュラム・マップ（概要）
（ディプロマポリシーの項目とカリキュラムポリシーの科目群の主たる方針との対応表）

ディプロマポリシーの項目 / カリキュラムポリシーの科目群		1		2					3		4
		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	必修科目		○					○	○		○
	基礎科目				○						
	実験科目				○	○			○		
	発展科目				○		○				
	先端科目						○	○			
	専門選択科目			○				○			
	他領域科目			○						○	

【情報工学課程】
情報工学課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、「学士（工学）」を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。本課程における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、情報工学実習科目、知能・機械工学実習・実験科目、基礎科目、発展科目、専門選択科目、他領域科目にて構成する。各科目群については情報工学課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に沿う形で以下の方針をもって実施する。

［専門教育科目］

「必修科目」
本課程に必須となる基礎的な知識と技能を講義と演習、実験・実習を通じて修得させる。卒業研究に関連する科目を 4 年次に配当し、各専攻分野の学問的・技術的発展が社会、文化、人間等との様々な関連においてもつ意味を理解させた上で、取組むための課題を発見させ、これまでに培った知識、技能、コミュニケーション力を用いて課題解決に向けて意欲的に取組ませることにより、現代社会における問題解決力を修得させる。

「情報工学実習科目」
情報工学における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能及び基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実習を通じて修得させる。

「知能・機械工学実習・実験科目」
人間・機械系分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能及び基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・実習を通じて修得させる。

「数理系・情報系基礎科目」
主に 1 年次、2 年次に配当し、情報科学分野における基礎知識を講義等を通じて修得させる。

「数理系・情報系発展科目」
2 年次、3 年次に配当し、基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識を講義を通じて修得させる。

「専門選択科目」
人間・機械系分野における基礎知識や基礎的な技能を修得させ、知識と技能を伸展させる。

「他領域科目」
特定の分野に閉じこもらず、多彩な知識と視野を身につけさせるため、自然科学・科学技術等について、幅広い教養と視野を養成し、高度に多様化する科学技術やグローバル化する社会に対応できる知識・能力を修得させる。

情報工学課程　カリキュラム・マップ(概要)
(ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表)

ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3		4
カリキュラム・ポリシーの科目群		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	必修科目(卒業研究科目を除く)				○	○			○		
	卒業研究科目		○					○			○
	情報工学実習科目				○	○			○		
	知能・機械工学 実習・実験科目						○				
	数理系・情報系基礎科目				○						
	数理系・情報系発展科目						○	○			
	他領域科目			○			○	○			
	専門選択科目			○							

【知能・機械工学課程】
知能・機械工学課程の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえ、「学士(工学)」を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。本課程における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、知能・機械工学実習・実験科目、情報工学実習科目、基礎科目、発展科目、専門選択科目、他領域科目にて構成する。各科目群については知能・機械工学課程の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に沿う形で以下の方針をもって実施する。

[専門教育科目]

「必修科目」
機械工学と人工知能のいずれを学ぶ上でもその土台となる数学的素養、機械工学と人工知能それぞれの専門分野に関する基礎的な知識・技能、近年の情報化社会の基盤技術として各種の機械システムとも関連を深めつつある情報技術の中核となるプログラミングの基本的な技能の 3 つを、講義と演習、実験・実習を通じて体系的に修得させる。専門的知識・技能の修得を終えた 4 年次に、学んだ知識・技能を用いた課題解決型の演習等を実施することにより、自らのもつ知識・技能を応用するための柔軟な思考力を養成するとともに、これからの社会において機械工学や人工知能の学問的・技術的発展がもつ意義についても考えさせ、それらを通じて人類の進歩に貢献しようとする意欲を喚起する。

「知能・機械工学実習・実験科目」
人間・機械系分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能及び基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実験・実習を通じて修得させる。

「情報工学実習科目」
情報科学分野における基礎的な技能、コンピュータを活用する技能及び基礎知識を体系的・構造的に理解し論理的に思考する力を実習を通じて修得させる。

「基礎科目」
必修科目と同様、機械工学と人工知能両方の土台となる数学、機械工学と人工知能の両分野、それらと関わりの深い情報工学の 3 つについて、それぞれに関する専門的な知識を、対応する科目の講義等を通じてさらに充実させる。

「発展科目」
機械工学や人工知能に関するより発展的な内容の専門知識を、講義を通じて体系的に修得させるとともに、これまでに学んだ専門知識や技能を応用するための知識も併せて身につけさせる。

「専門選択科目」
情報技術に関する基礎知識及びより発展的な内容の専門的知識を、対応する講義等を通じて身につけさせるとともに、それらの情報技術を基盤とする近年の情報化社会において、機械工学や人工知能の技術を応用するための知識も併せて身につけさせる。

「他領域科目」
特定の分野に閉じこもらず、多彩な知識と視野を身につけさせるため、自然科学・科学技術等について、幅広い教養と視野を養成し、高度に多様化する科学技術やグローバル化する社会に対応できる知識を修得させる。

知能・機械工学課程カリキュラム・マップ(概要)
(ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表)

ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3		4
カリキュラム・ポリシーの科目群		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	
総合教育科目	キリスト教科目	○									
	英語教育科目									○	
	総合選択科目			○							
専門教育科目	必修科目 (卒業研究科目を除く)				○	○					
	卒業研究科目		○				○	○	○		○
	知能・機械工学 実験・実習科目					○			○		
	情報工学実習科目					○					
	基礎科目				○	○					
	発展科目				○		○				
	他領域科目			○				○			
	専門選択科目			○			○				

学生の受け入れ方針（AP）	変更の有無
Ⅰ. 関西学院大学アドミッション・ポリシー 世界を視野におさめ、他者（ひと）への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service（奉仕のための練達）”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。 関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。 そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多元的に評価することを基本的な方針としています。 Ⅱ. 各学部のアドミッション・ポリシー 工学部アドミッション・ポリシー 【物質工学課程】 物質工学課程では、「創エネ」、「蓄エネ」、「省エネ」の 3 つの分野に関連づけられる物質工学において、基礎に必要な数学系・物理系・化学系科目の知識を身につけた上で、課程制を活用して、電磁気学や固体電子論等の電気電子工学分野の知識や他領域科目を含む幅広い知識を身につけることで物質創製、物性評価、機能付与、デバイス応用等の応用力を修得させ、物質工学の分野における課題に対して新たな視点から取組み、持続可能な社会実現に貢献できる人材を養成することで社会に貢献することを目的としている。以上の人材養成の目的に沿って、物質工学課程では次のような入学者を求める。 ①工学部及び物質工学課程の目的及び養成する人材像に賛同し、自然科学・科学技術の発展を通じて、自立的な態度をもって社会・文化・人類の発展に貢献しようとする学生 ②理数系科目の十分な学力を有し、物質工学に関わる専門的知識を中心にしつつ、極端な専門性に偏らず、幅広い自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 ③人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生 ④日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生 【電気電子応用工学課程】 電気電子応用工学課程では自然現象に対する好奇心と科学技術に対する探究心を有し、電気エネルギーに関わる新しい課題に挑戦する意欲と情熱を有する人材を育成しようとしている。また、幅広い知識と深い専門性に加えて、柔軟な思考力を有する人材の育成を目標としている。以上の人材養成の目的に沿って、電気電子応用工学課程では次のような学生を求める。 ①工学部及び電気電子応用工学課程の目的及び養成する人物像に賛同し、電気エネルギーに関連した問題に強い関心を示し、本学の教育研究環境を積極的に活用して主体的に学び、近い将来、省電力パワーエレクトロニクスの分野で創造的役割を果たす人材へと成長していこうとする意志をもった学生 ②関西学院のスクールモットーである“Mastery for Service”への共感と、本課程における学びに対する強い関心、そして、その学びを通した人間的成長への強い意欲をもった学生 ③与えられた問題に対して、自分が有する知識を総合化して解を導く能力、あるいは導こうとして考え抜く力を有する学生 ④日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生 【情報工学課程】 情報工学課程は、情報技術に関する専門知識とプログラミングの能力を有し、IoT や AI、ヒューマンインタフェース、感性工学等、最先端の情報技術及び幅広い知識を修得した人材を養成することで社会に貢献することを目的としている。以上の人材養成の目的に沿って、情報工学課程では次のような学生を求める。 ①工学部及び情報工学課程の目的及び養成する人物像に賛同し、自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって人類の進歩に貢献しようとする学生 ②理数系科目の十分な学力を有し、情報工学に関わる専門的知識を中心に、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 ③人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生 ④日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生 【知能・機械工学課程】 知能・機械工学課程は、機械工学と人工知能の両方の分野にわたる知識と技能を身につけ、それらに基づいてこれからの社会に求められる高度に知的な機械システムの創出や、それらを活用した新たな産業の創出に貢献できる創造性に富んだ人材を養成することで社会に貢献することを目的としている。以上の人材養成の目的に沿って、知能・機械工学課程では次のような学生を求める。 ①工学部及び知能・機械工学課程の目的及び養成する人材像に賛同し、機械工学・人工知能技術の発展を通じて、自律的な態度をもって社会・文化・人類の発展に貢献しようとする学生 ②理数系科目の十分な学力を有し、機械工学・人工知能技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 ③人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生 ④日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生 Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー 1. 一般選抜 一般選抜は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。 一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。 全学部日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学（記述式）」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学部日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述」による入学試験も実施しています。 学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語（記述式含む）」「国語（記述式含む）」を必須とし、「日本史」「世界史」「数学（記述式）」を選択科目とし筆記試験を実施します。また、一部の日程では「日本史」「世界史」「数学（記述式）」に加えて「地理」を選択科目に加えています。 理系入学試験においては全学部日程を 2 種類実施しています。本学で学ぶために必要な「英語」「数学（記述式）」を必須とし、理科（記述式）「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。 一般入学試験として、英数日程、共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）の3方式を実施しています。英数日程は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」と「数学（記述式）」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」または「数学（記述式）」に、大学入学共通テストの教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。 大学入学共通テストを利用する入学試験は、「一般入学試験とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入学共通テストで実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入学共通テストの得点のみで合否判定を行います。 1 月出願においては、「外国語」「国語」「数学」「地理歴史・公民」「理科」「情報」を各学部の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校	有・無

における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。また、3 月出願においても高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。
また、大学入学共通テストを利用する入学試験（1 月出願　3 科目型（英語資格・検定試験利用）は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の 4 技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語資格・検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入学共通テストの教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2. グローバル入学試験
グローバル入学試験は、入学後、本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）に積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に 3 つのカテゴリーで実施する入学試験です。

① 国際的な活躍を志す者を対象とした入学試験
　＜理系学部＞
関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、自然科学に関する科目について一定の学力を有した上で、英語能力や高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験、自然科学分野における特記すべき国際交流経験、国際科学技術コンテストに出場した経験のいずれかを有し、国際的に活躍する科学者や技術者になることを志す者を求めています。
　第 1 次審査では、調査書等の書類に基づき「主体性」を中心に書類審査を行います。さらに入学後に必要な数学、理科の基礎知識を問う筆記試験にて「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果と合わせて総合的に評価します。
　第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを総合的に評価します。
② インターナショナル・バカロレア入学試験
関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP（ディプロマ・プログラム）の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有するとともに、入学後は、本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）を通して、国際社会で活躍する能力を身に付けることを志す者を求めています。
　第 1 次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
　第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。
③ 帰国生徒入学試験
関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、家庭の事情等により海外に長期間滞在し、海外の教育を受けた者で、日本での生活や短期間の留学では身に付けることのできない主体性や価値観、多角的視点、困難を乗り越えた経験などを持ち、それらを本学での学生生活や学びに生かそうとする者を求めています。多様な背景を持つ学生が集い刺激し合うことで、キャンパスが活性化する教育的効果も望んでいます。さらに、帰国生徒が他の学生と相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長することにも期待します。
　第 1 次審査では、筆記審査を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価します。
　第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

3. 推薦入学
推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、自己推薦書、志望理由書、学校長推薦書等の提出書類による書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
①院内推薦入学
1）関西学院高等部
関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
2）関西学院千里国際高等部
関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
②継続校推薦入学
啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等学校の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
③提携校推薦入学
関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
④系属校推薦入学
関西学院大学系属校推薦入学は、科学技術に強い興味・関心・意欲を持ち、グローバルな観点に立って国際社会での活躍を目指す生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
⑤ 協定校推薦入学
1）キリスト教学校枠
関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

2）グローバル枠
関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21 世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
3）グローバル＋キリスト教校枠
関西学院大学協定校推薦入学は、21 世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
⑥指定校推薦入学
指定校推薦入学は一定の学力を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接（口頭試問含む）によって総合的に評価し受け入れるための制度です。出願書類と面接（口頭試問含む）において、一定水準以上の「知識・技能」、各学部で学ぶために必要な「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」が備わっているか等を評価し、入学後の勉学における明確な志向および意欲の評価に重点を置き総合的に審査しています。
工学部
関西学院大学工学部を強く希望する優秀な生徒で、自然科学・科学技術の基礎知識と能力の修得に情熱を有する者を総合的学力評価に基づく推薦制度により迎え入れ、将来性ある人材に育成することを目的としています。
審査では、出願時提出書類、面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

4. 探究評価型入学試験
Society5.0 の到来や人工知能（AI）の台頭、急速なグローバル化の進展等、予測困難な社会の変化に適応するため、自己の在り方生き方を考えながら、物事の本質を様々な角度から探り見究め続けることが必要です。本学では「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を捉えたうえで、社会に主体的に関わり新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする気概を持つ者からの挑戦を求めています。
これらの背景から、本入学試験では、関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき探究学習を通して身に付けたそれらの力を多面的・総合的に評価します。これまで主体的に取り組んできた探究活動を「新たなデータを収集して知見を明らかにしようとする事を通した探究活動」、「国内外の学校・様々な機関と協働を通した探究活動」、「特定の社会課題等に関する学術的考察を通した探究活動」に区分し、書類審査や面接（口頭試問含む）、プレゼンテーション審査等の多様な審査方法をもって、探究活動の過程を重視した評価を行います。
主体的に取り組んできた探究活動での経験を、本学入学後に学部での学びや研究をはじめ、様々なプログラム等に積極的に参加して活かしていくことを期待しています。

5. UNHCR 難民高等教育プログラムによる推薦入学
「UNHCR 難民高等教育プログラムによる推薦入学」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連 UNHCR 協会との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。
日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。
こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。
国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連 UNHCR 協会の推薦に基づき、面接（口頭試問含む）を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

6. スポーツ選抜入学試験
関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後に学業とスポーツ活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化とスポーツ活動の一層の振興に寄与することを目指しています。
　第 1 次審査では、書類審査にてスポーツ活動における実績を評価するとともに、筆記審査にて、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を評価します。
第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）等により、志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

7. 外国人留学生入学試験
本学は、米国南メソジスト監督教会の宣教師、W. R. ランバスによって創設されました。開学当初から多くの外国人教員が教鞭をとっていたこともあり、外国人留学生を古くから受け入れ、日本の大学の中では国際色豊かな大学としてその学風を育んできました。
この入学試験制度は外国人留学生を対象とし、さまざまな国からの留学生を受け入れることにより、大学の国際性を一層高め、ひいてはキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待した、いわゆる「多元的入試」の一環として実施されます。
出願時の提出書類に基づき審査を実施し、本学で学ぶにあたって必要な日本語力および、基礎学力を有しているかを審査した後、各学部が面接審査（口頭試問を含む）・筆記試験等を実施し、志願する学部で学ぶ意欲や人間性などを中心に評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し、選抜します。

8.学部特色入学試験
関西学院大学のアドミッション・ポリシー、また、各学部が定めるアドミッション・ポリシーに基づき、各学部が求める多様な能力、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性をもった学生を求めています。
理・工・生命環境学部共通
本学のスクールモットーである“Mastery for Service（奉仕のための練達）”の理念のもと、自然科学の基礎をしっかり学び、それらを応用に生かしていく能力を養いたいと考えている若者たち、本学の建学の精神を背景にして、人格形成、自己の確立に努め、自然科学の知識や能力に優れているだけでなく、人間として深みのある科学者や技術者になりたいと考えている若者たち、そのような人々を対象に学部特色入試を実施します。
関西学院大学理系学部の目標のひとつである「より良い社会の実現」のための一大研究拠点の構成員として、学部の理念に賛同し、ここで学ぶ意欲を強く持つ学生を求めます。
学部特色入試とは、高等学校までに学んだ基礎的な知識、技能、思考力を備え、それに加えて「学びに向かう力・人間性」を持った学生を評価する入試です。また、入学後必要な数学、理科の基礎知識を問う筆記試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査（面接（口頭試問含む））は、「思考力・判断力・表現力」を確認するとともに、学問領域を探究していこうとする力や意欲を総合的に評価します。

学生支援に関する方針	変更の有無
（定めなし）	有・無
教員像	変更の有無
（定めなし）	有・無
教員組織の編制方針	変更の有無
生き生きとした魅力ある学部として、教育・研究の活力を保ち、持続的に社会貢献できる体制を構築するために、教員組織の編制方針を次の通り定めている。 ①教員の年齢構成が、特定の年齢層に極端にかたよらないようにする。 ②女性教員を積極的に採用し、各課程の専任教員として少なくとも 1 名の女性教員が在籍するようにする。また、学部における女性教員比率を 2029 年 4 月までに 9.0％以上になるようにする。 ③教員の研究分野は、多様性を保ちつつ各学科・課程の特色を出すように配慮する。 ④英語教育充実のため、ネイティブ教員を積極的に採用するとともに、教員間の連携体制を整備する。 ⑤体験的教育の充実を図るため、実験や演習を補佐する教職員等を各課程に配置する。	有・無

2. 工学部のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
DPに定める資質・能力の獲得状況	あなたはこの授業を通して卒業までに求められる資質・能力を向上できたと思いますか。(「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」) の回答割合(%)				非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Kwansei コンピテンシー獲得状況	知識・能力・資質の程度 全項目 (「大変身についた」～「全く身についていない」の5段階評価) (2018～2022 年度) 当該年度卒業生と次年度 1 年生との調査による伸び (2023～2027 年度) 当該年度卒業生とその 1 年生時との調査による伸び 「IR 新入生調査」「IR 卒業時調査」 なお、( )は参考値	5段階評価のうち、上位2つ (「大変身についた」「やや身についた」)の回答割合(%)の平均の差 (2022 年度以降のデータの変更点 年度以降) ➡入学時と卒業時のアンケート調査においてコンピテンシーの 10 要素の総合得点(50 点満点)を確認して、学部ごとにその差の平均を算出する。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
汎用的能力の獲得状況	入学後の能力変化(表外※参照) (「大きく増えた」～「大きく減った」の5段階評価 「IR 上級生調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「大きく増えた」、B「増えた」) の回答割合(%) ➡2022 年度の調査見直しにより、当該項目は調査項目から削除。 (Kwansei コンピテンシーとの重複)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
授業外学修時間	授業外時間に、授業課題や準備時間、復習をする時間(一週当たりの平均) 「IR1年生調査、IR 上級生調査」 ➡【2022 年度データの変更点】 2022 年度実施分から調査名称を「学生調査」に変更。	一週あたり 6 時間以上の割合 ➡【2022 年度データの変更点】 学生調査の変更により、2022 年度以降は「一週あたり 5 時間以上」の割合に変更。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業目的・到達目標の達成度	あなたは、シラバスに示された授業の目的や、到達目標を達成できると思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業満足度	あなたは、全体としてこの授業に満足していますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
留学等派遣数	協定校への派遣学生数 「国際連携機構資料」	大学間協定に基づく派遣日本人学生数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
TOEIC/TOEFL 等の英語運用能力	TOEFL 換算得点目標の達成人数 ＜参考(学部別目標値)＞ ■国際:TOEFL 換算 550 点 ■文・総政:TOEFL 換算 540 点 ■その他:TOEFL 換算 520 点 「言語教育研究センター」	左記「TOEFL 換算得点」目標の達成人数(人)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
学生生活満足度	大学生活を振り返って、学生生活は満足したものでしたか。 (「満足」～「不満」の5段階評価) 「IR 卒業1年目調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「満足」、B「どちらかといえば満足」)の回答割合(%) ＊2018 年度調査までは、A「とても満足」、B「満足」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
就職率	就職率 「キャリアセンター統計資料」	就職者数(自営含まず)／就職希望者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
大学院進学率	大学院進学率 「キャリアセンター統計資料」	大学院進学者数/学部卒業者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		

(※)「知識・技能・能力の獲得状況」の「知識・技能・能力」とは、一般的な教養、論理的思考力、専門分野や学科の知識、グローバルな問題の理解、多様性を尊重する力、主体的に行動する力、リーダーシップ力、人間関係を構築する力、対立する価値を調整する力、地域社会が直面する問題を理解する能力、国民が直面する問題を理解する能力、困難を乗り越える粘り強さ、文章表現の能力、外国語の運用能力、生涯にわたって学び続ける能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、数理的な能力、コンピュータの操作能力、誠実さと品位、時間を効果的に利用する能力、卒業後に就職するための準備の程度、を指す。

(2)学部独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
本学理工学研究科への進学率	工学部から本学大学院理工学研究科博士前期課程への進学率	2025 年 3 月理工学部生の進学率				—	—
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			—	—	—		
			現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
入試難易度 (偏差値)	ベネッセの進研模試のデータにおける合格可能性 60%以上となる偏差値 (次年度偏差値予想を記載) 入学センター				非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
同系列学部勝敗	ベネッセの進研模試のデータにおける同系列学部合格者の競合大学(同志社、立命館、関西)との入学比率 (当該年度結果を記載) 経営企画部	本学と相手校の両方に合格していずれかに入学した受験生のうち、本学に入学した者の比率 本学入学者数／(本学入学者数＋併願校入学者)(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC 年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
ダブルチャレンジ派遣者数	当該年度の卒業生のうち、ダブルチャレンジ制度のアウェイチャレンジの単位を取得して卒業した学生数 IR 室	①インターナショナルプログラム②ハンズオン・ラーニング・プログラム③副専攻プログラムのいずれかで単位取得し卒業した学生数 ※学部毎は延べ人数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」～「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5 段階評価のうち「満足」と回答した比率(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
スクールモットーの浸透度	スクールモットー“Mastery for Service”を意識する程度は (「意識している」～「意識していない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	4 段階評価のうち、 A「意識している」または B「ある程度意識している」 と回答した割合(%) ＊2018 年度調査までは A「常に行動の規範としている」または B「頻繁に意識している」と回答した比率 ＊2020 年度調査までは 5 段階評価のうち、A「常に行動の規範としている」または B「ときどき意識している」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 6 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	設問 6 項目の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

提出日：2025 年12月 23 日
生命環境学部

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜生命環境学部＞教学改善シート

学部における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
（1） 理念で掲げる「主体的学び・探究心の育成」との整合性 • 卒業時の教育内容満足度は 81.7%と良好だが、学生の主体的学修経験が理念ほど十分に提供できていない可能性がある。 • 実験・実習中心の学びを指向しているが、研究スペース不足が教育の質に影響し始めている。 （2） 英語力・国際性の育成 • TOEIC スコアの伸びは良好である（1 年 482.4 → 2・3 年 513.7）が、理念にある海外研修・国際 PBL の参加率など、国際経験の伸長を示す指標設定が不十分。 （3） 発表経験や学会参加の拡充 • 発表機会は良好と評価されているが、KPI にある「学外発表数」「社会連携プロジェクト参加」などが体系的に測定されていない。 評価：学修意欲、英語力の伸び、発表機会のいずれも良好である。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
（1） 学生生活満足度 • 1 年次の生活適応支援が十分ではない。 • 理念が求める「多様な学生の受容」体制強化が必要。 （2） 退学率・残留率の改善余地 • 生環退学率は理工の中位。 （3） 進路満足度 • キャリア教育戦略の再構築が必要。 評価：学生生活満足度は比較的良好だが、改善余地がある。退学率は中位であり、一定の課題がある。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
（1） ベネッセによる偏差値 • 学部の強み（学際性・環境化学の社会的重要性）が十分訴求できていない。 （2） 系列校進学者数の伸び悩み • 理念が掲げる「初等中等教育との連携」が機能しておらず、対策が必要。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
（1） NPS • 学部ブランド形成上の課題である。 • 要因分析（授業満足度・施設・研究環境・キャリア支援など）の実施が急務。 （2） 研究スペースの不足 • 実験・実習型の学部理念に反し、教育研究活動の質を低下させるリスクが高い。 • B4・大学院生の研究スペースを統合的に見直す必要がある。 （3） 少子化時代の理系志願者確保 • 理念の一つである「社会との共創」を踏まえ、 地域・系列校との連携プログラム、STEM 教育強化が喫緊の課題。 評価：進路満足度は中位であるが、研究スペース不足が課題である。	

1. 生命環境学部の理念、目的、各種方針

生命環境学部の理念	変更の有無
建学の精神であるキリスト教主義を基盤に、自然科学の基本原理と生命科学分野、環境化学分野について教育と研究を行い、持続可能な再生・共生型社会の構築に貢献する。	有・無

生命環境学部の目的	変更の有無
生命や環境問題に高い関心を持ち、生命現象や地球環境のしくみを数学的、化学的、生物的視点で読み解き、応用する技術を開発することにより、その成果を社会に還元する人材を養成する。自然科学の基礎知識と生物学分野、基礎医学分野、環境化学分野の専門知識を修得し、関連した科学技術の発展に資する課題解決力と高い倫理観、及びグローバル化に対応できる能力を備えた人材を養成することで、社会への貢献を目指す。 【生物科学科】 生物学、数理科学、化学を基盤とした生物機能の活用、及び生物科学関連のデータサイエンスに関する研究、教育を通じてグローバルに活躍できる人材の育成を目指す。生態系や生命現象のデータを数理解析する能力、さらには生物機能を分子レベルで解析し、応用する能力をもった人材を養成する。 【生命医科学科】 生物学、数学、物理、化学を基盤とした生命科学の確固たる知識に加え、基礎医学、薬学、医工学分野やデータサイエンスに関連した知識を兼ね備えた人材の育成を目指す。さらに、健全な倫理観をもってヒトの健康に関わる基礎医学系分野と医学系情報学分野で国際的に活躍し、ライフイノベーションに資する人材を養成する。 【環境応用化学科】 地球環境問題に関連するさまざまな課題に対して化学を基軸とした応用化学的アプローチによって柔軟に取り組み、国際的に活躍できる個性豊かな人材の育成を目指す。具体的には、原子・分子の世界から地球レベルの問題まで幅広い知識と深い専門性を有し、多角的な視点を身につけることによって、環境応用化学分野に深い関心を抱き、新しい課題に挑戦する情熱と知恵を持った人材の養成を図る。	有・無

学位授与方針（DP）	変更の有無
関西学院は、キリスト教主義に基づく全人教育によって「“Mastery for Service”を体現する世界市民」を育成することを使命としており、その実現に向けて、全ての学生が卒業時に学部の区別なく共通に身につけるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、この獲得を念頭において、生命環境学部の理念の下、生命環境学部各学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を以下のとおり定める。 【生物科学科】 生物科学科は、生物学、数理科学、化学を基盤とし、生物機能の活用者としてグローバルに活躍できる思考力を備えた人材、また、新産業分野として創出が加速される生物科学関連のデータサイエンス産業に対応できる専門性の高い人材を育成する。 よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（理学）」の学位を授与する。 1.［関心・意欲・態度］自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 （1）自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。 （2）自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、再生・共生型社会の構築に貢献しようとする意欲をもっている。 2.［知識・理解］幅広い知識と深い専門性 （1）社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。 （2）生物学、数理科学、化学における基礎知識を体系的・構造的に理解している。 （3）生命科学分野における基礎的な技能を修得している。 （4）基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。 （5）社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。 3.［技能・表現］実践的な学習技能とコミュニケーション力 （1）生命科学関連のデータサイエンス産業に対応し、コンピュータを活用したデータ分析力を有し、生命科学の研究から生成されるデータを解析できる能力を身につけている。 （2）生物機能を分子レベルで理解し、その理解に基づいて応用するための論理的思考力、情報収集力、表現力を身につけている。 （3）日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。 4.［思考・判断］課題解決のための総合的思考・判断力 （1）現代社会における問題に取組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。 （2）生物機能の活用者としてグローバルに活躍できる思考力・判断力を備えている。 【生命医科学科】 生命医科学科は、数学、物理学、化学等を基盤として生命科学を修得し、生命に対する健全な倫理観と専門知識をもって、基礎医学・薬学・医工学分野に応用できるように基礎医学系分野と医学系情報学分野の研究を推進することができる人材を育成する。 よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（生命医科学）」の学位を授与する。 1.［関心・意欲・態度］自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 （1）自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。 （2）自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、再生・共生型社会の構築に貢献しようとする意欲をもっている。 2.［知識・理解］幅広い知識と深い専門性 （1）社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。 （2） 生物学、物理化学、数理科学における基礎知識を体系的・構造的に理解している。 （3）生命医科学分野における基礎的な技能を修得している。 （4）基礎知識や基礎的な技能を基礎医学・薬学・医工学分野に応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。	有・無

(5)社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。

3.[技能・表現]実践的な学習技能とコミュニケーション力
(1)ヒトの健康に関わる医学、薬学、医工学系産業に対応し、コンピュータを活用したデータ分析力を有し、生命医科学研究から生成されるデータを解析できる能力を身につけている。
(2)生命現象を分子レベルで理解し、その知識を応用するための論理的思考力、情報収集力、表現力を身につけている。
(3)日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4.[思考・判断]課題解決のための総合的思考・判断力
(1)現代社会における問題に取組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。
(2)基礎医学的な視点から、ライフイノベーションに貢献し、グローバルに活躍できる思考力・判断力を備えている。

【環境応用化学科】
環境低負荷型の持続可能な社会の実現のために、地球環境にやさしい合成法や機能性材料の開発に関する知識や技術を身につけ、化学的な視点からグリーンイノベーションに資する人材を育成する。
よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士(工学)」の学位を授与する。

1.[関心・意欲・態度]自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢
(1)自らを律する強さと高い倫理観をもち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。
(2)自然科学・科学技術と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、自然科学・科学技術の発展を通じて、再生・共生型社会の構築に貢献しようとする意欲をもっている。

2.[知識・理解]幅広い知識と深い専門性
(1)社会、文化、人間、自然科学・科学技術についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。
(2)環境応用化学分野における基礎知識を体系的・構造的に理解している。
(3)環境応用化学分野における基礎的な技能を修得している。
(4)基礎知識や基礎的な技能を応用するための知識及び柔軟な思考力を有している。
(5)社会、文化、人間等との様々な関係において、専門分野の学問的・技術的発展がもつ意義を理解している。

3.[技能・表現]実践的な学習技能とコミュニケーション力
(1)論理的思考力、情報収集力、データ分析力、表現力及びコンピュータとネットワークを活用する能力を身につけている。
(2)ミクロな視点、マクロな視点の両面から地球環境問題に取組む能力を身につけている。
(3)日本語及び英語によって、コミュニケーションできる力を身につけている。

4.[思考・判断]課題解決のための総合的思考・判断力
(1)現代社会における問題に取組むための、課題発見力、創造的思考力及び課題解決能力を身につけている。
(2)化学的な視点からグリーンイノベーションに貢献し、グローバルに活躍できる思考力・判断力を備えている。

教育課程の編成・実施方針(CP)	変更の有無

各学科の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえ、各学科の教育課程の編成方針(カリキュラム・ポリシー)を以下のように定める。

[総合教育科目](3 学科共通)
「キリスト教科目」
初年次に配当し、本学の建学の精神であるキリスト教主義に基づく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性等の基本的な態度を身につけさせる。
「英語教育科目」
自然科学・科学技術分野における共通言語である英語を低学年次に配当する。自ら情報発信できるよう、総合的な英語コミュニケーション能力を修得させる。
「総合選択科目」
社会、文化、人間、自然科学・科学技術について、幅広い教養と視野を身につけさせる。

【生物科学科】
本学科の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を踏まえ、学士(理学)を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。
[専門教育科目]
「必修科目」
生物科学科の学びの基盤となる科目から卒業研究に関連する科目まで、本学科の学生全員が履修すべき科目を 1 年次～4 年次に体系的に配当し修得させる。
「基礎科目」
1 年次に配当し、生物科学分野に共通する基礎的な知識を、講義等を通じて修得させる。
「専門Ⅰ群科目」
主に 2 年次に配当し、生物科学分野に共通する発展的な知識を、講義等を通じて修得させる。
「専門Ⅱ群科目」
3 年次に配当し、植物昆虫科学分野、応用微生物学分野及び計算生物学分野に要求される基礎的な知識や技能、またそれらを応用するための能力を、講義を通じて修得させる。
「専門選択科目」
専門的な視野を広げるため、主に生物科学分野以外の自然科学・科学技術等について、幅広い知識や技能を、講義等を通じて修得させる。

有・[無]

生命環境学部生物科学科　カリキュラム・マップ（概要）
（ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表）

ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3			4	
カリキュラム・ポリシーの科目群		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)
総合教育科目	キリスト教科目	○											
	英語教育科目										○		
	総合選択科目			○									
専門教育科目	必修科目		○		○	○		○	○	○	○	○	○
	基礎科目				○	○							
	専門Ⅰ群科目						○	○	○	○			
	専門Ⅱ群科目						○	○	○	○			
	専門選択科目			○							○		○

【生命医科学科】
本学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、学士（生命医科学）を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。
［専門教育科目］
「必修科目」
生命医科学科の学びの基盤となる科目、生命医科学科の学生全員が身につけるべき知識と技能を修得するための科目を 1 年次～3 年次に体系的に配当する。
「基礎科目」
主に 1 年次に配当し、生物学、数学、物理学、化学等の生命医科学科に共通する基礎的な知識を講義等を通じて修得させる。
「専門Ⅰ群科目」
主に 2 年次に配当し、生命医科学分野の基礎的な知識や技能を講義等を通じて修得させる。
「専門Ⅱ群科目」
3 年次及び 4 年次に配当し、生命医科学分野の高度な専門知識や技能、それらを応用するための能力を講義等を通じて修得させる。
「専門選択科目」
専門的な視野を広げるために、生命医科学分野以外の自然科学・科学技術等について、幅広い知識や技能を講義等を通じて修得させる。

生命環境学部生命医科学科　カリキュラム・マップ（概要）
（ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表）

ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3			4	
カリキュラム・ポリシーの科目群		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)
総合教育科目	キリスト教科目	○											
	英語教育科目										○		
	総合選択科目			○									
専門教育科目	必修科目				○	○							
	基礎科目				○	○							
	専門Ⅰ群科目						○	○		○			
	専門Ⅱ群科目		○				○	○	○	○	○	○	○

【環境応用化学科】
本学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、学士（工学）を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。
［専門教育科目］
「必修科目」
環境応用化学科の学びの基盤となる科目から卒業研究に関連する科目まで、本学科の学生全員が履修すべき科目を 1 年次～4 年次に体系的に配当し修得させる。
「基礎科目（数学・物理系）」
1 年次、2 年次に配当し、環境応用化学分野において必要となる数学・物理系の基礎的な知識を、講義を通じて修得させる。
「基礎科目（地学・生命・情報系）」
1 年次、2 年次に配当し、環境応用化学分野において必要となる地学、生命科学、情報科学の基礎的な知識を、講義等を通じて修得させる。
「専門Ⅰ群科目」
2 年次に配当し、各領域における基礎的な知識を、講義を通じて修得させる。
「専門Ⅱ群科目」
主に 3 年次に配当し、各領域における基礎的な知識や基礎的な技能を応用するための知識を、講義を通じて修得させる。
「専門選択科目」
専門的な視野を広げるため、主に環境応用化学分野以外の自然科学・科学技術等について、幅広い知識や技能を、講義等を通じて修得させる。
生命環境学部環境応用化学科　カリキュラム・マップ（概要）
（ディプロマ・ポリシーの項目とカリキュラム・ポリシーの科目群の主たる方針との対応表）

ディプロマ・ポリシーの項目		1		2					3			4	
カリキュラム・ポリシーの科目群		(1)	(2)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)
総合教育科目	キリスト教科目	○											
	英語教育科目										○		
	総合選択科目			○									
専門教育科目	必修科目		○		○	○		○	○	○	○	○	○
	基礎科目（数学・物理系）				○	○							
	基礎科目（地学・生命・情報系）				○	○							
	専門Ⅰ群科目						○	○		○			
	専門Ⅱ群科目						○	○		○			
	専門選択科目			○							○		○

学生の受け入れ方針（AP）	変更の有無
Ⅰ. 関西学院大学アドミッション・ポリシー 世界を視野におさめ、他者（ひと）への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service（奉仕のための練達）”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。 関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。 そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多元的に評価することを基本的な方針としています。 Ⅱ. 各学部のアドミッション・ポリシー 生命環境学部アドミッション・ポリシー 【生物科学科】 生物科学科は、生物機能の活用を通じて再生・共生型社会の構築に貢献するため、生物学を基礎として生命のしくみを理解するとともに、生命を分子レベルで分析・評価するための知識や技術を身につけ、高い倫理観をもってグローバルに活躍できる人材の育成をめざしている。そのため、生物科学ばかりでなく、数学、物理学、化学の基礎を確実に身につけさせ、知識の土台作りを行った後、幅広い知識と深い専門性の修得のため専門教育科目を教育する。また、国際社会でコミュニケーションを図るために必要不可欠な英語力の向上のため、英語教育にも力を入れる。以上の人材養成の目的に沿って、生物科学科では以下のような学生を求める。 ① 生物科学科の各専攻分野と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、各専攻分野の発展を通じて、再生・共生型社会の構築に貢献しようとする学生 ② 生物学に加え、数学、物理学、化学の体系的・構造的な理解に基づき、各専攻についての知識や技能を多角的な視点をもって修得しようとする学生 ③ 自然科学に関する基礎知識や技能、また日本語及び英語の基礎学力を基に、コミュニケーション能力、論理的思考力、情報収集力、表現力の向上に努める学生 ④ 各専攻分野において現代社会における課題を見出し、健全な倫理観をもって課題を解決する能力を身につけようとする学生 【生命医科学科】 生命医科学科は、生命科学の確固たる知識に加え、基礎医学、薬学、医工学分野やデータサイエンスに関連した知識を兼ね備え、健全な倫理観をもってヒトの健康に関わる基礎医学系分野で活躍し、ライフイノベーションに資する人材を育成することを使命としている。生命科学を基礎医学系分野に応用するためには、まず生命科学の知識を確実に修得した上で基礎医学系分野の知識も兼ね備えている必要がある。生命科学の確実な知識を修得するためには、その基礎となる数学や物理学、化学をはじめとする基礎科目の知識を身につけている必要がある。また、医工学や医学系情報学分野の知識も養い、実験系分野で得られた成果を基礎医学系分野に効率的に応用できる人材の養成をめざす。さらに、ヒトの健康維持や疾病の治療に関わる分野で活躍する人材は、生命に関する健全な倫理観をもっている必要がある。以上の人材養成の目的に沿って、生命医科学科では以下のような学生を求める。 ① 生命科学を生命医科学科の各専攻分野に応用し、ヒトの健康の維持や疾病の治療等、ライフイノベーションに貢献しようとする学生 ② 数学や物理学、化学等、基礎科目も含め、生命科学及び各専攻分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 ③ 人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点と生命に関する健全な倫理観を意欲的に身につけようとする学生 ④ 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生 【環境応用化学科】 環境応用化学科は、地球環境問題に関連する多様な課題に化学的な視点から柔軟に取組み、国際的に活躍できる人材を養成することを使命としている。そのため、自然科学の基礎を身につけて知識の土台作りを行った後、幅広い知識と深い専門性を修得できる教育研究の実践が必要である。特に、原子・分子レベルから地球スケールまでの広範な対象を取扱う環境応用化学分野の理解には、化学ばかりでなく数学、物理学、地学等の基礎知識の修得も必要となる。以上の人材養成の目的に沿って、環境応用化学科では以下のような学生を求める。 ① 物質と人間生活や地球環境との関わりに幅広い関心を抱き、化学的な視点からグリーンイノベーションに代表される地球環境問題の解決に貢献しようとする学生 ② 自然科学の基礎学力を十分に有し、地球環境化学・応用化学分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 ③ 修得した専門的知識・技能を応用に発展させる柔軟な思考力と知識を養い、新しい課題に取組むことのできる能力と、成果を発信するコミュニケーション能力の修得に努めようとする学生 ④ 科学技術と地球環境との調和を重視した高い倫理観をもった学生 Ⅲ. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー 1. 一般選抜 一般選抜は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。 一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。 全学部日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学（記述式）」を選択科目とし筆記試験を実施します。全学部日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述」による入学試験も実施しています。 学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語（記述式含む）」「国語（記述式含む）」を必須とし、「日本史」「世界史」「数学（記述式）」を選択科目とし筆記試験を実施します。また、一部の日程では「日本史」「世界史」「数学（記述式）」に加えて「地理」を選択科目に加えています。 理系入学試験においては全学部日程を 2 種類実施しています。本学で学ぶために必要な「英語」「数学（記述式）」を必須とし、理科（記述式）「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。 一般入学試験として、英数日程、共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）の3方式を実施しています。英数日程は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」と「数学（記述式）」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。共通テスト併用日程（英語）、共通テスト併用日程（数学）は、関西学院大学の「英語（記述式含む）」または「数学（記述式）」に、大学入学共通テストの教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。 大学入学共通テストを利用する入学試験は、「一般入学試験とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入学共通テストで実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入学共通テストの得点のみで合否判定を行います。 1 月出願においては、「外国語」「国語」「数学」「地理歴史・公民」「理科」「情報」を各学部の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。また、3 月出願においても高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。 また、大学入学共通テストを利用する入学試験（1 月出願　3 科目型（英語資格・検定試験利用）は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の 4 技能を身に付けた生徒を選	有・無

抜するために、提出された書類のうち英語資格・検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入学共通テストの教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2. グローバル入学試験
グローバル入学試験は、入学後、本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）に積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に 3 つのカテゴリーで実施する入学試験です。

① 国際的な活躍を志す者を対象とした入学試験
＜理系学部＞
関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、自然科学に関する科目について一定の学力を有した上で、英語能力や高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験、自然科学分野における特記すべき国際交流経験、国際科学技術コンテストに出場した経験のいずれかを有し、国際的に活躍する科学者や技術者になることを志す者を求めています。
第 1 次審査では、調査書等の書類に基づき「主体性」を中心に書類審査を行います。さらに入学後に必要な数学、理科の基礎知識を問う筆記試験にて「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果と合わせて総合的に評価します。
第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを総合的に評価します。

② インターナショナル・バカロレア入学試験
関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP（ディプロマ・プログラム）の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有するとともに、入学後は、本学のインターナショナル・プログラム（国際教育プログラム）を通して、国際社会で活躍する能力を身に付けることを志す者を求めています。
第 1 次審査では、書類審査および筆記審査を行い、「主体性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を総合的に評価します。
第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

③ 帰国生徒入学試験
関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、家庭の事情等により海外に長期間滞在し、海外の教育を受けた者で、日本での生活や短期間の留学では身に付けることのできない主体性や価値観、多角的視点、困難を乗り越えた経験などを持ち、それらを本学での学生生活や学びに生かそうとする者を求めています。多様な背景を持つ学生が集い刺激し合うことで、キャンパスが活性化する教育的効果も望んでいます。さらに、帰国生徒が他の学生と相互交流を通して学識や人間性をより一層高め、将来の日本および世界を支えていく真の国際人として成長することにも期待します。
第 1 次審査では、筆記審査を行い、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価します。
第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）により、志望学部における学びの意欲や学びの計画、人間性などを評価します。

3. 推薦入学
推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、自己推薦書、志望理由書、学校長推薦書等の提出書類による書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

①院内推薦入学
1）関西学院高等部
関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
2）関西学院千里国際高等部
関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
②継続校推薦入学
啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等学校の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
③提携校推薦入学
関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
④系属校推薦入学
関西学院大学系属校推薦入学は、科学技術に強い興味・関心・意欲を持ち、グローバルな観点に立って国際社会での活躍を目指す生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
⑤ 協定校推薦入学
1）キリスト教学校枠
関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
2）グローバル枠
関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21 世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。

審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
3）グローバル＋キリスト教校枠
関西学院大学協定校推薦入学は、21 世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。
⑥指定校推薦入学
指定校推薦入学は一定の学力を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接（口頭試問含む）によって総合的に評価し受け入れるための制度です。出願書類と面接（口頭試問含む）において、一定水準以上の「知識・技能」、各学部で学ぶために必要な「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」が備わっているか等を評価し、入学後の勉学における明確な志向および意欲の評価に重点を置き総合的に審査しています。

生命環境学部
指定校推薦編入学は、一定の学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を有する学生を高等専門学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接（口頭試問含む）によって生命環境学部において学ぶ意欲等を総合的に評価し受け入れるための制度です。

4. 探究評価型入学試験
Society5.0 の到来や人工知能（AI）の台頭、急速なグローバル化の進展等、予測困難な社会の変化に適応するため、自己の在り方生き方を考えながら、物事の本質を様々な角度から探り見究め続けることが必要です。本学では「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働性」を捉えたうえで、社会に主体的に関わり新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする気概を持つ者からの挑戦を求めています。
これらの背景から、本入学試験では、関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき探究学習を通して身に付けたそれらの力を多面的・総合的に評価します。これまで主体的に取り組んできた探究活動を「新たなデータを収集して知見を明らかにしようとする事を通した探究活動」、「国内外の学校・様々な機関と協働を通した探究活動」、「特定の社会課題等に関する学術的考察を通した探究活動」に区分し、書類審査や面接（口頭試問含む）、プレゼンテーション審査等の多様な審査方法をもって、探究活動の過程を重視した評価を行います。
主体的に取り組んできた探究活動での経験を、本学入学後に学部での学びや研究をはじめ、様々なプログラム等に積極的に参加して活かしていくことを期待しています。

5. UNHCR 難民高等教育プログラムによる推薦入学
「UNHCR 難民高等教育プログラムによる推薦入学」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連 UNHCR 協会との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。
日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。
こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。
国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所および国連 UNHCR 協会の推薦に基づき、面接（口頭試問含む）を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

6. スポーツ選抜入学試験
関西学院大学のアドミッション・ポリシーに基づき、本入学試験では、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後に学業とスポーツ活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化とスポーツ活動の一層の振興に寄与することを目指しています。
第 1 次審査では、書類審査にてスポーツ活動における実績を評価するとともに、筆記審査にて、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を評価します。
第 2 次審査では、学部毎に実施する面接（口頭試問含む）等により、志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

7. 外国人留学生入学試験
本学は、米国南メソジスト監督教会の宣教師、W．R．ランバスによって創設されました。開学当初から多くの外国人教員が教鞭をとっていたこともあり、外国人留学生を古くから受け入れ、日本の大学の中では国際色豊かな大学としてその学風を育んできました。
この入学試験制度は外国人留学生を対象とし、さまざまな国からの留学生を受け入れることにより、大学の国際性を一層高め、ひいてはキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待した、いわゆる「多元的入試」の一環として実施されます。
出願時の提出書類に基づき審査を実施し、本学で学ぶにあたって必要な日本語力および、基礎学力を有しているかを審査した後、各学部が面接審査（口頭試問を含む）・筆記試験等を実施し、志願する学部で学ぶ意欲や人間性などを中心に評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し、選抜します。

8.学部特色入学試験
関西学院大学のアドミッション・ポリシー、また、各学部が定めるアドミッション・ポリシーに基づき、各学部が求める多様な能力、様々な経験や活動を通じて身につけた豊かな人間性をもった学生を求めています。

理・工・生命環境学部共通
本学のスクールモットーである“Mastery for Service（奉仕のための練達）”の理念のもと、自然科学の基礎をしっかり学び、それらを応用に生かしていく能力を養いたいと考えている若者たち、本学の建学の精神を背景にして、人格形成、自己の確立に努め、自然科学の知識や能力に優れているだけでなく、人間として深みのある科学者や技術者になりたいと考えている若者たち、そのような人々を対象に学部特色入試を実施します。
関西学院大学理系学部の目標のひとつである「より良い社会の実現」のための一大研究拠点の構成員として、学部の理念に賛同し、ここで学ぶ意欲を強く持つ学生を求めます。
学部特色入試とは、高等学校までに学んだ基礎的な知識、技能、思考力を備え、それに加えて「学びに向かう力・人間性」を持った学生を評価する入試です。また、入学後必要な数学、理科の基礎知識を問う筆記試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査（面接（口頭試問含む））は、「思考力・判断力・表現力」を確認するとともに、学問領域を探究していこうとする力や意欲を総合的に評価します。

学生支援に関する方針	変更の有無
（定めなし）	有・無

教員像	変更の有無
（定めなし）	有・無
教員組織の編制方針	**変更の有無**
生き生きとした魅力ある学部として、教育・研究の活力を保ち、持続的に社会貢献できる体制を構築するために、教員組織の編制方針を次の通り定めている。 ①教員の年齢構成が、特定の年齢層に極端にかたよらないようにする。 ②女性教員を積極的に採用し、各学科の専任教員として少なくとも 1 名の女性教員が在籍するようにする。また、学部における女性教員比率を 2029 年 4 月までに 12.0％以上になるようにする。 ③任期制教員枠を利用して、若手教員を積極的採用して教育・研究の活性化を図るとともに、若手教員をサポートする体制を整備する。 ④教員の研究分野は、多様性を保ちつつ各学科の特色を出すように配慮する。 ⑤英語教育充実のため、ネイティブ教員を積極的に採用するとともに、教員間の連携体制を整備する。 ⑥体験的教育の充実を図るため、実験や演習を補佐する教職員等を各学科に配置する。	有・無

2. 生命環境学部のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
DPに定める資質・能力の獲得状況	あなたはこの授業を通して卒業までに求められる資質・能力を向上できたと思いますか。(「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」) の回答割合(%)				非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Kwansei コンピテンシー獲得状況	知識・能力・資質の程度 全項目 (「大変身についた」～「全く身についていない」の5段階評価) (2018～2022 年度) 当該年度卒業生と次年度 1 年生との調査による伸び (2023～2027 年度) 当該年度卒業生とその 1 年生時との調査による伸び 「IR 新入生調査」「IR 卒業時調査」 なお、( )は参考値	5段階評価のうち、上位2つ (「大変身についた」「やや身についた」)の回答割合(%)の平均の差 (2022 年度以降のデータの変更点 年度以降) ➡入学時と卒業時のアンケート調査においてコンピテンシーの 10 要素の総合得点(50 点満点)を確認して、学部ごとにその差の平均を算出する。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表			
汎用的能力の獲得状況	入学後の能力変化(表外※参照) (「大きく増えた」～「大きく減った」の5段階評価 「IR 上級生調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「大きく増えた」、B「増えた」) の回答割合(%) ➡2022 年度の調査見直しにより、当該項目は調査項目から削除。 (Kwansei コンピテンシーとの重複)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
授業外学修時間	授業外時間に、授業課題や準備時間、復習をする時間(一週当たりの平均) 「IR1年生調査、IR 上級生調査」 ➡【2022 年度データの変更点】 2022 年度実施分から調査名称を「学生調査」に変更。	一週あたり 6 時間以上の割合 ➡【2022 年度データの変更点】 学生調査の変更により、2022 年度以降は「一週あたり 5 時間以上」の割合に変更。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業目的・到達目標の達成度	あなたは、シラバスに示された授業の目的や、到達目標を達成できると思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業満足度	あなたは、全体としてこの授業に満足していますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
留学等派遣数	協定校への派遣学生数 「国際連携機構資料」	大学間協定に基づく派遣日本人学生数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
TOEIC/TOEFL 等の英語運用能力	TOEFL 換算得点目標の達成人数 ＜参考(学部別目標値)＞ ■国際:TOEFL 換算 550 点 ■文・総政:TOEFL 換算 540 点 ■その他:TOEFL 換算 520 点 「言語教育研究センター資料」	左記「TOEFL 換算得点」目標の達成人数(人)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
学生生活満足度	大学生活を振り返って、学生生活は満足したものでしたか。 (「満足」～「不満」の5段階評価) 「IR 卒業1年目調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「満足」、B「どちらかといえば満足」)の回答割合(%) ＊2018 年度調査までは、A「とても満足」、B「満足」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
就職率	就職率 「キャリアセンター統計資料」	就職者数(自営含まず)／就職希望者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
大学院進学率	大学院進学率 「キャリアセンター統計資料」	大学院進学者数/学部卒業者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		

(※)「知識・技能・能力の獲得状況」の「知識・技能・能力」とは、一般的な教養、論理的思考力、専門分野や学科の知識、グローバルな問題の理解、多様性を尊重する力、主体的に行動する力、リーダーシップ力、人間関係を構築する力、対立する価値を調整する力、地域社会が直面する問題を理解する能力、国民が直面する問題を理解する能力、困難を乗り越える粘り強さ、文章表現の能力、外国語の運用能力、生涯にわたって学び続ける能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、数理的な能力、コンピュータの操作能力、誠実さと品位、時間を効果的に利用する能力、卒業後に就職するための準備の程度、を指す。

(2)学部独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
本学理工学研究科への進学率	生命環境学部から本学大学院理工学研究科博士前期課程への進学率	2025 年 3 月理工学部生の進学率				—	—
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			—	—	—		
			現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
入試難易度 (偏差値)	ベネッセの進研模試のデータにおける合格可能性 60%以上となる偏差値 (次年度偏差値予想を記載) 入学センター				非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
同系列学部勝敗	ベネッセの進研模試のデータにおける同系列学部合格者の競合大学(同志社、立命館、関西)との入学比率 (当該年度結果を記載) 経営企画部	本学と相手校の両方に合格していずれかに入学した受験生のうち、本学に入学した者の比率 本学入学者数／(本学入学者数＋併願校入学者)(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC 年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
						非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
ダブルチャレンジ修了者数	当該年度の卒業生のうち、ダブルチャレンジ制度のアウェイチャレンジの単位を取得して卒業した学生数 IR 室	①インターナショナルプログラム②ハンズオン・ラーニング・プログラム③副専攻プログラムのいずれかで単位取得し卒業した学生数 ※学部毎は延べ人数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」～「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5 段階評価のうち「満足」と回答した比率(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
スクールモットーの浸透度	スクールモットー“Mastery for Service”を意識する程度は (「意識している」～「意識していない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	4 段階評価のうち、 A「意識している」または B「ある程度意識している」 と回答した割合(%) ＊2018 年度調査までは A「常に行動の規範としている」または B「頻繁に意識している」と回答した比率 ＊2020 年度調査までは 5 段階評価のうち、A「常に行動の規範としている」または B「ときどき意識している」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 6 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	設問 6 項目の「そう思う」「どちらかちいえばそう思う」と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

提出日:2025 年 12 月 24 日

建築学部

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜建築学部＞教学改善シート

学部における課題の整理(2026 年 3 月時点)	左記に挙げた課題の改善状況(2027 年 3 月時点)
1.教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
【教育課程の検証】 **(1)大学院進学希望者の専門教育の検証** ・卒業時調査および卒業 1 年目調査を通じて、大学院進学者(自大学院進学率 50%以上)が専門性を高める意識づけを十分に行えていたかを分析・評価し、教育課程の検証資料とする必要がある。 **(2)学生満足度とカリキュラム整合性の検証** ・在学生調査において「学生生活満足度(充実度)」が全学平均よりやや低く、NPS も期待どおりではなく、今後実施する、卒業時調査から読み取れるカリキュラムと 3 ポリシーと整合性をとり、検証を行う必要がある。 **(3)カリキュラム改革の検討** ・(1)(2)と連携し、カリキュラムポリシーのひとつである「1 年次から 4 年次までの一貫した建築設計教育プログラム」についての検証を目標年度を設定し、2 コース制の導入も視野に入れて検討する。	
2. 学生の学習環境、学生支援(修学支援、生活支援、進路支援)に関する現状分析・課題	改善状況
【学習環境支援の検証】 **(1)研究室・演習室の機能強化** ・Ⅵ・Ⅲ号館改修整備により、学生研究室の学習環境は一定の改善が見られた。しかし、収容学生数に対して研究室の面積は依然として不足していることが、教員 FD アンケートからも確認できる。さらに、学生調査の結果から、実験・演習時間の多さや授業外課題の負担が明らかになっており、研究室・演習室のさらなる拡充や運用方法の見直し、授業外学習スペース等について検討する必要がある。 **【進路支援】** **(1)就職支援体制の強化** ・ディプロマ・ポリシーの「専門性を活かした進路選択」に対応すべくキャリアセンターとの連携による体系的な就職支援制度を構築する。さらに、研究室間での情報共有を促進し、就職指導体制を強化する。 ・建設業界への就職割合を指標として、学生が専門性を十分に活かした進路選択を行えているかを分析・評価する。 ・同窓会との連携によるキャリア支援(理系学部同窓会と連携し、OB・OG ネットワークを活用したキャリア形成支援を実施する。同総会との連携は社会連携の礎となることも想定される。	
3. 学生の受け入れ(学生募集、入学者選抜、定員管理)関する現状分析・課題	改善状況
【入学者選抜の検討】 **(1)入学者選抜方法の検討** ・一般入試による入学者割合は、開設当初から平均 66.5%、2025 年度は 72.0%と高い比率を維持している。しかし、入学者の学力レベル(偏差値)が今後、低迷しないよう、学力向上を図る入学者選抜方法、入試偏差値の向上策の検討が必要である。 **(2)指定校推薦制度の検討** ・学部設置当初に比べ、推薦入学による志願者が減少している。質の高い推薦入学者を確保するため、入試制度のあり方を再検討する必要がある。再検討にあたっては、アドミッション・ポリシーで掲げる「理数系科目の十分な学力」および「英語基礎力」の質保証を基盤として検証を行う。 **【定員管理】** **(1)適切な定員管理** 入学定員を超える入学者数が続いており、演習系授業ではスペース不足や指導負担の増加が生じている。この状況は学習意欲や教	

育内容満足度の低下につながっており、適切な定員管理の仕組みを整備することが求められる。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
【理念・教育目標との整合性に関する課題】 教育目標である「グローバルな視野で建築と都市の未来を創造し、持続可能で秩序ある生活空間の実現に貢献する」ための 3 つの課題。 **(1)国際プログラムの実施状況と課題** ・学部の国際化に関して、マレーシア・マラヤ大学、オーストラリア・アデレード大学、韓国・建国大学と協定を締結し、国際プログラムを継続的に実施している。これまでに累計 123 名が参加し、在学生の約 20.6%に相当する。しかし、さらなる参加者増加を目指し、取り組みの強化が必要である。 **(2)外国大学との提携拡充** ・学部の更なる国際化を推進するため、2026 年度までに外国大学との提携校を 2 校追加し、その中から海外研修や連携授業を開講することを目指す。 **(3)留学生受け入れの現状と課題分析** ・開設以来、計 7 名（中国 3 名、ミャンマー3 名、韓国 1 名）の留学生を受け入れている。今後は、より多様な国からの留学生受け入れのための入学者選抜方法と適正な留学生数の検討が必要である。 **【社会連携・社会貢献に関する課題】** **(1)現状の取り組みの検証と発展** 2022 年に設立したヴォーリズ研究センターの活動を通じ、滋賀県、近江八幡市、近江兄弟社グループなどとの連携や共同事業を推進してきた。今後もこの取り組みを継続・強化する必要があるとともに設置当初の目標である「兵庫県内各所との連携について検討することが課題である。	

1. 建築学部の理念、目的、各種方針

建築学部の理念	変更の有無
グローバルな視野で建築と都市の未来を創造し、持続可能で秩序ある生活空間の実現に貢献する。	有（無）

建築学部の目的	変更の有無
目的】 魅力的で持続可能な建築や都市空間をつくるための計画・デザイン手法及びそれらを運営・管理するためのマネジメント手法の教育を通じて、建築学から現代社会における諸問題を解決する。 【人材育成目標】 工学的知識と技術を基本としつつ、人文科学・社会科学などの知識とキリスト教主義に基づく高度な倫理観をもって、魅力的で持続可能な建築および都市空間をつくるための計画・デザイン能力と、それらを運営・管理するためのマネジメント能力を養う。単体としての建築、その集合体としての都市空間、そしてこれらを取り巻く地域社会や自然環境を、連続的・一体的なものとしてとらえ、相互の関係にまで踏み込んだ課題分析や計画・デザイン、管理運営等に関する研究教育を行う。さらに、修得した能力を地域社会や国際社会で発揮できるための語学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を養う。以上の能力を有する人材を育成することによって、持続可能で秩序ある生活空間の実現に貢献する。	有（無）

学位授与方針（DP）	変更の有無
「Kwansei コンピテンシー」の獲得を念頭において、建築学部建築学科の学位授与の方針（DP）を以下のとおり定める。 【建築学科】 建築学科は、安全・快適で美しい建築及び都市空間の計画、設計、運営等に関する専門的知識と技術を有して、グローバルな視点で建築と都市の未来を創造する国際的人材を養成する。 よって、以下のような知識と能力を有する学生に「学士（工学）」の学位を授与する。 1. 工学的知識と技術をベースにして、魅力的で持続可能な建築や都市空間をつくるための計画・デザイン技術及びそれらを運営・管理するためのマネジメント知識。 2. 建築空間、都市空間そして地域社会を連続的・一体的なものとして捉え、相互の関係性について深く理解し提案できる能力。 3. 語学力、コミュニケーション力はもとより日本やアジアの建築及び都市の特徴や文化について誇りをもって解説できる能力。 4. 最先端の建築技術やデザインはもとより地域性や歴史的文脈を踏まえて、人文科学・社会科学等、幅広い側面から取組むことができる能力。 5. 人々の安全や財産に深く関わるとともに公共財としての側面をもつ建築に、専門家としての高度な倫理観をもって携わることができる能力。 6. 建築や都市デザインは多様な専門家及び住民との共同作業であることを理解し、一連のプロセスにおいて謙虚さと協調性を尊重しながらリーダーシップを発揮できる能力。	有（無）

教育課程の編成・実施方針（CP）	変更の有無
学位授与の方針（DP）を踏まえ、建築学部建築学科の教育課程の編成方針（CP）を以下のように定める。 【建築学科】 安全・快適で美しい建築及び都市空間の計画、設計、運営等に関する専門的知識と技術を有して、グローバルな視点で建築と都市の未来を創造する国際的人材を養成するため、総合教育科目と専門教育科目から構成される教育課程を通して、建築・都市デザイン分野の知識・技能を体系的に修得できるようにする。 具体的なカリキュラムの編成方針は以下のとおりである。 ［総合教育科目］ ① 本学の建学の精神であるキリスト教主義に基づく人間形成によって、自らを律する強さ、倫理観、他者との協調性等の基本的な態度を身につけさせる。 ② 英語のリーディング・ライティング・コミュニケーション能力を高める充実した英語教育を実施する。 ③ 建築や都市デザインに必要な人文科学、社会科学分野の科目及び英語以外の多様な外国語を充実させることにより、総合的な知の形成を図る。 ［専門教育科目］ ① 基礎的な表現から高度な建築設計に至るまでのデザイン能力を向上させる、1年次から4年次までの一貫した建築設計教育プログラムを構築する。 ② 建築空間と都市空間そして地域社会を連続的・一体的に捉え、相互の関係について深く理解し計画できる能力を育成するため、建築関連科目に加えて都市・地域関連科目を充実させ、両者を体系的に配置する。 ③ 社会の具体的な課題に対して、建築や都市デザイン、まちづくりを通した改善や解決の手法を学べるよう、多様なフィールドを体験できるPBL型の授業を充実させる。 ④ 建築の専門的職能に必須の一級建築士・二級建築士・木造建築士の受験資格に対応した専門科目をバランスよく配置し、資格取得に向けた専門科目を1年次から開講する。	有（無）

学生の受け入れ方針（AP）	変更の有無
I. 関西学院大学アドミッション・ポリシー 世界を視野におさめ、他者（ひと）への思いやりと社会変革への気概を持ち、高い識見と倫理観を備えて自己を確立し、自らの大きな志を持って行動力を発揮する“Mastery for Service（奉仕のための練達）”を体現する世界市民を育成することが関西学院のミッションです。 関西学院大学は、このミッションに共感し、大学での学びや諸活動の中で、自分への挑戦をし続ける意欲にあふれ、さまざまな適性を有する多様な背景をもった学生・生徒を世界のあらゆる地域から受け入れます。 そのために、これまでに培われた確かな基礎学力、活動や経験を通じて身に付けた資質、能力、学ぶ意欲や人間性などを、多様な入試制度により多元的に評価することを基本的な方針としています。 II. 各学部のアドミッション・ポリシー 建築学部アドミッション・ポリシー	有（無）

【建築学科】
建築学科は、安全・快適で美しい建築及び都市空間の計画、設計、運営等に関する専門的知識と技術に基づいて、グローバルな視点で建築と都市の未来を創造する国際的人材を養成することで建築学の立場から社会に貢献することを目的としている。
以上の人材養成の目的に沿って、建築学科では次のような入学者を求める。

① 建築学部及び建築学科の目的及び養成する人材像に賛同し、自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって社会・文化・人類の発展に貢献しようとする学生
② 理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生
③ 人文・社会系科目の基礎学力を有し、建築・都市が存立する社会・文化・歴史等について理解しようとする意欲をもつ学生
④ 日本語及び英語の基礎学力を有し、論理的思考に基づいて、文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生

III. 入学試験毎のアドミッション・ポリシー
1. 一般選抜入学試験
一般選抜入学試験は、各学部での教育に必要な「総合的な学力を持つ受験生を選抜する」ものです。
一般入学試験では各学部の教育理念・目標に基づき試験教科・科目、配点を設定し、筆記試験により関西学院大学で学ぶために必要な学力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定するための問題を独自に作成しています。
全学部日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語」「国語」を必須とし、「日本史」「世界史」「地理」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。
全学部日程の国際学部については、高い英語能力を有する生徒を評価するため、「英語」に特化した「英語」「英語論述」による入学試験も実施しています。
学部個別日程の文系入学試験では本学で学ぶために必要な「英語(記述式含む)」「国語(記述式含む)」を必須とし、「日本史」「世界史」「数学(記述式)」を選択科目とし筆記試験を実施します。なお文学部・法学部では「日本史」「世界史」「数学(記述式)」に加えて「地理」を選択科目に加えています。人間福祉学部については学部個別日程において「英語(記述式含む)」「国語(記述式含む)」の2科目による筆記試験を行っています。教育学部については初等教育学コースの主体性評価方式の入試において、高等学校における生徒会活動、学校行事、課外活動等でのリーダーシップを、調査書と提出書類を合わせて評価する入学試験を実施します。
理系入学試験においては全学部日程を2日間実施、入試制度も2種類実施しています。総合型および数学・理科重視型においては、本学で学ぶために必要な「英語」「数学(記述式)」を必須とし、理科(記述式)「物理」「化学」「生物」のいずれかを選択する筆記試験を実施しています。
一般入学試験共通テスト併用／英数日程は、英語・数学型、共通テスト併用型・英語、共通テスト併用型・数学の3方式を実施しています。英語・数学型は、関西学院大学の「英語(記述式含む)」と「数学(記述式)」による筆記試験を実施し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を判定しています。共通テスト併用型・英語、共通テスト併用型・数学は、関西学院大学の「英語(記述式含む)」または「数学(記述式)」に、大学入学共通テストの教科・科目の得点を加味し、各学部で学ぶための学力と総合的な基礎学力を有する生徒を選抜するために実施しています。

大学入学共通テストを利用する入学試験は、「一般入試とは異なるタイプの受験生を受け入れるための入試制度」と位置づけています。大学入学共通テストで実施している教科・科目の筆記試験をもとに、本学で学ぶために必要な総合的な基礎学力を「知識・技能」を中心に判定を行い、大学入学共通テストの得点のみで合否判定を行います。
1月出願においては、総合政策学部3科目英数型を除く文系学部は「外国語」「国語」を必須として、「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点を採用する方式を3科目型、5科目型の方式で実施します。また「外国語」「国語」「数学」「地理歴史・公民」「理科」を必須とする7科目型を実施します。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。
3月出願においては、文系学部は「英語」を必須とし、「国語」「数学」「理科」「地理歴史」「公民」から高得点科目を採用する方式を実施しています。理系学部は「英語」「数学」を必須として各学科の学びに必要な科目について必須科目もしくは選択科目として加え、高等学校における各教科の基礎学力のうち「知識・技能」を評価します。
また、大学入学共通テストを利用する入学試験(1月出願　英語資格・検定試験活用型)は、「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の4技能を身に付けた生徒を選抜するために、提出された書類のうち英語資格・検定試験のスコアを出願資格として高く評価し、大学入学共通テストの教科・科目の得点を活用して実施する入学試験であり、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を得点として評価し、検定試験に取り組んだ「主体性」を高く評価します。

2. グローバル入学試験
グローバル入学試験は、入学後、本学のスーパーグローバル大学創成事業におけるインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)に積極的に取り組むことを希望する生徒や、将来、国際的な活躍を目指す生徒を対象に3つのカテゴリーで実施する入学試験です。

① 国際的な活躍を志す者を対象とした入学試験
国際的な活躍を志す者を対象とした入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において国際社会で活躍する能力を身に付けることを志し、秀でた英語コミュニケーション能力を有した上で、国際交流体験による異文化社会における経験、もしくは国際的課題に関して興味をもち、課題解決のための提案・実践に意欲を有する者を対象とした入学試験です。
出願資格として、英語資格・検定試験においてCEFR B1程度以上を有した上で、海外における留学経験を有する生徒、模擬国連等に取り組み問題解決能力を育んだ生徒、全国レベルの英語弁論大会・英語エッセイコンテスト等において入賞実績を有する生徒を対象に設定し、調査書等の提出書類とあわせて、「主体性」を中心とした書類審査を行います。
さらに、英語を題材とした論述試験、日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査では志望する学部の面接(口頭試問含む)により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

② インターナショナル・バカロレア入学試験
インターナショナル・バカロレア入学試験は、関西学院大学のインターナショナル・プログラム(国際教育プログラム)において、国際社会で活躍する能力を身につけることを志す者で、国際的に認められた大学入学資格であるインターナショナル・バカロレアDP(ディプロマ・プログラム)の課程を修了後、統一試験に合格し、インターナショナル・バカロレア資格を有する者を受け入れるための入学試験です。出願時においてフルディプロマを取得済みの者でスコアが32ポイント以上の者、もしくは取得見込でIB PREDICTED SCOREが出願時に32ポイント以上である者は英語論述審査が免除となります。

また日本の一条校において上記のスコアを有する者は日本語小論文が免除となります。これに満たない者については、英語を題材とした論述試験・日本語小論文試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を評価する一次審査を行います。二次審査においては学部の面接（口頭試問含む）により学ぶ意欲や人間性などを評価し選抜を行います。

③ グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験

グローバルサイエンティスト・エンジニア入学試験は国際的に活躍する科学者や技術者となることを志し、自然科学に関する科目について一定の学力を有し、秀でた英語コミュニケーション能力を有する者、インターナショナル・バカロレア資格を有する者、高等学校在籍時に海外において自然科学に関する教育を受けた経験を有する者もしくは自然科学分野における特記すべき国際交流経験を有する者、国際科学技術コンテストに出場した経験を有する者を出願資格として設定し、調査書等提出された書類とあわせ「主体性」を中心に書類審査を行います。
また、入学後必要な数学、理科の基礎知識を問う筆記試験を実施し「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を中心に評価し、書類審査の結果と合わせた総合評価による一次審査を行います。二次審査では志望する学部の面接（口頭試問含む）により学ぶ意欲や「主体性・多様性・協働性」について評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し選抜を行います。

3. 推薦入学

推薦入学は高等学校長の責任ある推薦により本学で学ぶために必要な学力を有する生徒を受け入れるものです。審査においては調査書、自己推薦書、志望理由書、学校長推薦書等の提出書類による書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

①院内推薦入学

1）関西学院高等部

関西学院高等部推薦入学は関西学院の一貫教育の大きな柱として位置づけられています。高等部でキリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、他の入学者に対しても良い影響を与え関西学院の学風を担うことを期待し実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

2）関西学院千里国際高等部

関西学院千里国際高等部推薦入学は、千里国際高等部の特色である国際教育と、キリスト教主義教育による関西学院の建学の精神をもとに学んだ生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

②継続校推薦入学

啓明学院継続校推薦入学は、キリスト教主義教育により学んだ啓明学院高等学校の生徒を受け入れることにより、大学進学後もそれぞれの学部において、正課、課外活動、学内諸活動の面で学生の核となり、関西学院大学の活性化に寄与することを期待し実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

③提携校推薦入学

関西学院大学提携校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

④系属校推薦入学

⑤協定校推薦入学

1）キリスト教学校枠

関西学院大学協定校推薦入学は、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

2）グローバル枠

関西学院大学協定校推薦入学は、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れるために実施しています。21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒を受け入れるものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

3）グローバル＋キリスト教校枠
関西学院大学協定校推薦入学は、21世紀的な教育目標であるグローバルな観点に立って国際社会に貢献できる人材として、高等学校のキリスト教主義教育により学び、個性的でかつ高い資質をもつ生徒を受け入れ、関西学院の建学の精神および教育理念を理解し、高等学校独自の特色を活かした優れた教育プログラムによって学んだ生徒をも受け入れるために実施するものです。
審査では志願提出書類の書類審査と面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

⑥指定校推薦入学
指定校推薦入学は一定の学力を有する生徒を高等学校長の責任に基づく推薦を受け、書類審査・面接（口頭試問含む）によって総合的に評価し受け入れるための制度です。出願書類と面接（口頭試問含む）において、一定水準以上の「知識・技能」、各学部で学ぶために必要な「思考力・判断力・表現力」や「主体性・多様性・協働性」が備わっているか等を評価し、入学後の勉学における明確な志向および意欲の評価に重点を置き総合的に審査しています。

建築学部
関西学院大学建築学部を強く希望する優秀な生徒で、自然科学・科学技術の基礎知識と能力の修得に情熱を有する者を総合的学力評価に基づく推薦制度により迎え入れ、将来性ある人材に育成することを目的としています。審査では、出願時提出書類、面接（口頭試問含む）を通じて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・多元的に評価します。

4. 探究評価型入学試験
関西学院は、キリスト教主義に基づく「学びと探究の共同体」として、ここに集うすべての者が生涯をかけて取り組む人生の目標を見出せるよう導き、思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service（奉仕のための練達）”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育むことを使命としています。その使命を具現化できる、意欲に満ちた受験生を求め、本入学試験を実施します。
本入学試験では、本学で学ぶにふさわしい知識・技能、思考力・判断力・表現力を有しているだけでなく、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を発見し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を持ち、多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけた生徒を求めています。
第一次審査においては書類審査を行います。横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して培った力を提出書類にて多面的、多元的に評価します。
さらに第二次審査において、学部毎に面接・集団討論・プレゼンテーション・口頭試問を行います。高等学校での学びを通じて培ったありのままの力を評価しますので、入学試験のために特段の準備を必要とするものではありません。
出願資格として、英語資格・検定試験スコアCEFR A2レベル以上を有する者と設定しています。

5. UNHCR難民高等教育プログラムによる推薦入学
「UNHCR難民高等教育プログラムによる推薦入学」は、関西学院大学と国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所および国連UNHCR協会との協定に基づき実施する入学制度です。これは本学の建学の精神に基づく「人類の幸福と平和に資する世界市民の育成」を現代に即したかたちで実現するためのものです。
日本で生活する難民の方々は、厳しい環境下におかれています。特に教育面では、本人や家族の経済的事情や、母国での出身校の卒業証明が得られないなどの理由で、高等教育を受ける機会を失っている場合が少なくありません。それが就労条件の悪化、さらには、経済的事情の悪化につながっています。
こうした状況を少しでも改善することを目的とするこの推薦入学制度で入学した生徒が、高い教養と専門性を身につけ、将来、日本、母国あるいは国際社会において平和の構築や社会の発展を支える人材へと成長することが期待されています。また関西学院大学で共に学ぶ他の学生にとっても、迫害や戦争といった国際社会が抱える問題を身近に捉えるとともに、日本国内の国際化を意識する機会となります。
国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所および国連UNHCR協会の推薦に基づき、面接（口頭試問含む）を行い本学で学ぶ意欲を中心にしながら「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について評価を行います。

6. スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験
この選抜入学試験制度は、スポーツ活動において優れた能力と競技実績を有し、入学後は学業と課外活動を両立させる強い意欲をもつ者を積極的に受け入れ、本学における教育の活性化と課外活動の一層の振興に寄与することを目指すものです。
提出された書類に基づきスポーツ実績を評価するとともに、本学で学ぶにあたっての基礎学力、知識、表現力、論理的思考力を筆記試験により評価を行います。一次合格者に対する二次審査は面接（口頭試問含む）を実施し志願する学部で学ぶ意欲を中心に評価を行います。

7. 外国人留学生入学試験
本学は、米国南メソジスト監督教会の宣教師、W. R. ランバスによって創設されました。開学当初から多くの外国人教員が教鞭をとっていたこともあり、外国人留学生を古くから受け入れ、日本の大学の中では国際色豊かな大学としてその学風を育んできました。
この入学試験制度は外国人留学生を対象とし、さまざまな国からの留学生を受け入れることにより、大学の国際性を一層高め、ひいてはキャンパスの活性化を図る教育的効果も期待した、いわゆる「多元的入試」の一環として実施されます。
出願時の提出書類に基づき審査を実施し、本学で学ぶにあたって必要な日本語力および、基礎学力を有しているかを審査した後、各学部が面接審査（口頭試問を含む）・筆記試験等を実施し、志願する学部で学ぶ意欲や人間性などを中心に評価し、出願時提出書類と合わせて総合的に判断し、選抜します。

8. 学部特色入学試験
本学のスクールモットーであるMastery for Service（奉仕のための練達）の理念のもと、自然科学の基礎をしっかり学び、それらを応用に生かしていく能力を養いたいと考えている若者たち、本学の建学の精神を背景にして、人格形成、自己の確立に努め、自然科学の知識や能力に優れているだけでなく、人間として深みのある科学者や技術者になりたいと考えている若者たち、そのような人々を対象に学部特色入試を実施し、次のような入学者を求めます。
・関西学院大学理系学部の目標のひとつである「より良い社会の実現」のための一大研究拠点の構成員として、学部の理念に賛同し、ここで学ぶ意欲を強く持つ学生。
・入学後に必要な数学、理科の基礎的な知識と思考力を持ち、それに加えて、自由な発想と豊かな表現力などの芸術的センスならびに、学びに向かう情熱、粘り強さ、人間性、意欲を持って学問領域を探究する学生。
・主体的かつ継続的に知識・能力・資質を向上させる努力を惜しまない学生。

学生支援に関する方針	変更の有無
	有・無
教員像	変更の有無
	有・無
教員組織の編制方針	変更の有無
（1） 専門性に富んだカリキュラムにそって、建築学部の教育目的に応じた教育・研究活動にふさわしい人材の確保に努める。 （2） コミュニケーション力ならびにプレゼンテーション力を養い、日本語／英語双方で、世界の建築及び都市や文化について表現できる学生を育てるため、海外での研究・教育経験を有する人材の確保に努める。 （3） 専門性・実践性・国際性を高めるため、自治体や民間企業、政府機関等で多様な実務経験をもった人材から、建築学部の教育目的にふさわしい教員の確保に努める。 （4） 教員採用にあたっては、国籍・性別を問わず、広く人材を選ぶ。 （5） 教員採用にあたっては、教員組織の年齢構成が特定の年齢層に偏らないように配慮する。 （6） 専門的かつ多様な教育の充実・強化をめざして、建築学部の教育目的にふさわしい特別客員教員や任期制教員の採用、非常勤講師の雇用に努める。 （7） 建築学部の教育目的にふさわしい英語教育常勤講師の確保に努める。	有・(無)

2. 建築学部のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
DPに定める資質・能力の獲得状況	あなたはこの授業を通して卒業までに求められる資質・能力を向上できたと思いますか。(「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」) の回答割合(%)	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Kwansei コンピテンシー獲得状況	知識・能力・資質の程度 全項目 (「大変身についた」～「全く身についていない」の5段階評価) (2018～2022 年度) 当該年度卒業生と次年度 1 年生との調査による伸び (2023～2027 年度) 当該年度卒業生とその 1 年生時との調査による伸び 「IR 新入生調査」「IR 卒業時調査」	5段階評価のうち、上位2つ (「大変身についた」「やや身についた」)の回答割合(%)の平均の差 (2022 年度以降のデータの変更点 年度以降) ➡入学時と卒業時のアンケート調査においてコンピテンシーの 10 要素の総合得点(50 点満点)を確認して、学部ごとにその差の平均を算出する。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
汎用的能力の獲得状況	入学後の能力変化(表外※参照) (「大きく増えた」～「大きく減った」の5段階評価 「IR 上級生調査」	5段階評価のうち、上位2つ (A「大きく増えた」、B「増えた」) の回答割合(%) ➡2022 年度の調査見直しにより、当該項目は調査項目から削除。 (Kwansei コンピテンシーとの重複)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
授業外学修時間	授業外時間に、授業課題や準備時間、復習をする時間(一週当たりの平均) 「IR1年生調査、IR 上級生調査」 ➡【2022 年度データの変更点】 2022 年度実施分から調査名称を「学生調査」に変更。	一週あたり 6 時間以上の割合 ➡【2022 年度データの変更点】 学生調査の変更により、2022 年度以降は「一週あたり 5 時間以上」の割合に変更。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業目的・到達目標の達成度	あなたは、シラバスに示された授業の目的や、到達目標を達成できると思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
授業満足度	あなたは、全体としてこの授業に満足していますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の5段階評価) 「学修行動と授業に関する調査」	5段階評価のうち、 A「そう思う」、 B「どちらかというとそう思う」 の回答割合(%)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
留学等派遣数	協定校への派遣学生数 「国際連携機構資料」	大学間協定に基づく派遣日本人学生数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
TOEIC/TOEFL 等の英語運用能力	SGUの取組みで確認している TOEFL 換算得点目標の達成人数 ＜参考(学部別目標値)＞ ■国際:TOEFL 換算 550 点 ■文・総政:TOEFL 換算 540 点 ■その他:TOEFL 換算 520 点 「SGU に関する調査」	左記「TOEFL 換算得点」目標の達成人数(人)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
学生生活満足度	大学生活を振り返って、学生生活は満足したものでしたか。 (「満足」～「不満」の5段階評価) 「IR 卒業1年目調査」	5 段階評価のうち、上位2つ (A「満足」、B「そこそこ満足」) の回答割合(%) ＊2018 年度調査までは、A「とても満足」、B「満足」と回答した比率	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
就職率	就職率 「キャリアセンター統計資料」	就職者数(自営含まず)／就職希望者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
大学院進学率	大学院進学率 「キャリアセンター統計資料」	大学院進学者数/学部卒業者数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(※)「知識・技能・能力の獲得状況」の「知識・技能・能力」とは、一般的な教養、論理的思考力、専門分野や学科の知識、グローバルな問題の理解、多様性を尊重する力、主体的に行動する力、リーダーシップ力、人間関係を構築する力、対立する価値を調整する力、地域社会が直面する問題を理解する能力、国民が直面する問題を理解する能力、困難を乗り越える粘り強さ、文章表現の能力、外国語の運用能力、生涯にわたって学び続ける能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、数理的な能力、コンピュータの操作能力、誠実さと品位、時間を効果的に利用する能力、卒業後に就職するための準備の程度、を指す。

（2）学部独自KPI

KPI	定義	基準	現在値（2018 年度）	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
①「教育内容（ゼミ）」に関する満足度	「ゼミや演習などの教育内容」における満足度評価 「IR 上級生調査」	5段階評価のうち、 「とても満足」「満足」合計 80% なお、「実験や実習などの教育内容」「教員と話をする機会」「大学の教職員に将来のキャリアの相談をした」も適宜参照する。	非公表	非公表	非公表	非公表	―
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			―	―	―	―	―
②卒業生の進路データ	A：現役卒業生における就職率 B：現役卒業生における有名企業 400 社就職者比率 ※2023 年度よりB：卒業生における有名企業 400 社就職者比率に変更する	A：84%目標（2025 年度実績） B：25%目標（2025 年度実績） なお、社会学部の教育内容（専攻領域や社会調査士資格・認定心理士資格等の取得など）と関連性の高い就職先への就職者数についても留意する	現在値（2018 年度）	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

（3）学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値（2018 年度）	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
入試難易度（偏差値）	ベネッセの進研模試のデータにおける合格可能性 60%以上となる偏差値 （次年度偏差値予想を記載） 入学センター		非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
同系列学部勝敗	ベネッセの進研模試のデータにおける同系列学部合格者の競合大学（同志社、立命館、関西）との入学比率 （当該年度結果を記載） 総合企画部	本学と相手校の両方に合格していずれかに入学した受験生のうち、本学に入学した者の比率 本学入学者数／（本学入学者数＋併願校入学者）（%）	現在値（2018 年度）	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC　年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	現在値（2018 年度）	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
ダブルチャレンジ派遣者数	当該年度の卒業生のうち、ダブルチャレンジ制度のアウェイチャレンジの単位を取得して卒業した学生数 グローバル化推進本部	①インターナショナルプログラム②ハンズオン・ラーニング・プログラム③副専攻プログラムのいずれかで単位取得し卒業した学生数 ※学部毎は延べ人数	現在値（2018 年度）	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 （「満足」～「不満」の5段階評価） 卒業時調査	5段階評価のうち「満足」と回答した比率（%）	現在値（2018 年度）	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
スクールモットーの浸透度	スクールモットー“Mastery for Service”を普段意識する程度は （「常に行動の規範としている」～「全く意識しない」の 5 段階評価） IR 卒業生調査	5段階評価のうち、 A「常に行動の規範としている」または B「ときどき意識している」 と回答した割合（%） ＊2018 年度調査までは A「常に行動の規範としている」または B「頻繁に意識している」と回答した比率	現在値（2018 年度）	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境（特定 7 項目）に対して、あなたはどのように思いますか。 （「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価） IR 卒業生調査	設問 7 項目の「そう思う」「どちらかちいえばそう思う」と回答した割合の平均値 ➡2022 年度までは「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く6項目対する平均値	現在値（2018 年度）	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

提出日：2025 年 12 月 24 日

理工学研究科

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜理工学研究科＞教学改善シート

研究科における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
(1) 理念・教育目標との整合性に関する課題 ・理念で掲げる「国際性豊かな教育」「専攻横断的な高度専門職業人育成」に対し、現行カリキュラムの国際科目・横断科目は十分とは言えず、体系化が必要である。 ・研究室中心の教育体制を理念（特別実験・特別研究の重視）として掲げているが、教員・学生双方の負担が増加しており、指導補助者・研究室スペースの充足が必要であることが、教員への FD アンケートや学生への修了時調査から読み取れる。 **(2) 開講科目への満足度の低さ（修了時調査 50%）** ・専門科目の偏り、英語科目の不足、科目体系の不透明さが要因として推定され、体系的な科目レビューが必要である。 **(3) 2029 年学部改組との接続課題** 6 年一貫教育の構築に向け、学部–研究科間の学修成果の連続性を再設計する必要がある（基盤科目の共有化、研究早期参画制度など）。 **(4) 外国語運用能力基準の再検証** ・専攻間の基準差・認定プロセスの不統一が存在し、理念で掲げる「国際的に活躍する人材の育成」と整合させるため、全専攻共通の枠組み構築、また6年一貫教育の構築へ向けて学部英語教育との接続性を検討する必要がある。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
(1) 若手研究者の研究活性化支援の不足 ・修了時調査では研究支援の要望が多く、後期課程生・博士研究員を対象とした独自支援制度の整備が求められる。 **(2) 後期課程の研究環境の不均質** ・後期課程改組申請（2027 年度）へ向けて、学内外での研究交流機会、研究資金確保、評価システムの改善などが必要である。 **(3) 留学生支援体制の強化** ・理念で強調される国際性に対応するため、生活支援・日本語指導・研究支援を包括した仕組みを構築する必要がある。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
(1) 進学率の低い分野の分析（前期課程） ・学部 4 学部からの進学率 50%超の達成に向け、分野別に要因分析し改善する必要がある。 **(2) 国際修士プログラムおよび留学生入試の受入体制整備** ・英語科目、研究指導体制、生活サポートを含む体系的な受入基盤の改善が必要である。 **(3) 後期課程の定員確保** ・社会人入試制度の拡充、研究テーマの社会実装志向化、RA 制度の強化などが必要である。 **(4)入学者選抜方法の検討** (1)～(3)に伴う入学者選抜方法の在り方についても検討が必要である。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況

(1) 研究室の学習環境改善 ・居室スペース不足、指導補助者の拡充が求められ、研究室教育の理念に直結する重大課題である。 **(2) キャンパス全体の研究環境改善** ・休日・夜間利用に関する要望が強く、体系的な改善が必要である。 **(3) 多様な研究者の受け入れ促進** ・教員からも要望があるように、外国人研究者・ポスドク・社会人研究者の受け入れを制度化し、研究科の国際化を強化する必要がある。 **(4) 教員の教育研究環境改善** ・FD アンケートを継続的に実施し、研究指導負担・研究時間確保などの課題を改善指標に落とし込むことが必要である。	

1. 理工学研究科の理念、目的、各種方針

理工学研究科の理念	変更の有無
自然科学の基本原理とその応用について先端的研究を行い、自然科学・科学技術の発展と人類の進歩に貢献する。	有・(無)

理工学研究科の目的	変更の有無
自然科学・科学技術の幅広い分野にわたり、それぞれの分野が有機的に連携しながら基礎的研究から応用的研究まで、常に最先端のレベルの高い研究を行う。 専攻分野における深い知識と高度な研究能力を身につけるとともに、専攻分野を超えた幅広い知識を修め、広い観点に立って研究を行うことができる高度専門職業人や研究者を育成する。 理工学研究科の教育と研究は社会との繋がりの中にあることを常に意識し、研究成果を学界、教育界、産業界等、社会に広く還元していくとともに、企業等で活躍する若手研究者を始めとする社会人学生の受け入れ、さらには国際社会との連携を推し進めるための外国人学生、外国人研究者の受け入れに積極的に取り組んでいく。 特別実験及び演習（数理科学専攻および建築学専攻を除く前期課程）、数理科学基礎研究（前期課程数理科学専攻）、建築学特別演習（前期課程建築学専攻）、特別研究（後期　課程）を理工学研究科の教育と研究の中心に位置づける。このなかで、それぞれの分野での最先端の研究に携わり、新しい未知の問題を発見し、それを探求し、解決していく能力とその成果を社会に活かしていく応用的能力を養う。 教育目標 前期課程においては、自然科学・科学技術について幅広い、そして深い理解力を培うとともに、専攻分野における研究能力と高度な専門性を必要とする職業に柔軟に対応できる能力を養う。 後期課程では、専攻分野において自立した研究活動を行うことができる高度な研究能力と、その研究能力を生かして深い専門的知識を必要とする職業に従事する能力を養う。大学院の教育・研究活動に多数の外国人学生、外国人研究者が参加できるよう努力し、また、大学院生が国外の学会で積極的に発表するなど、国際性豊かな教育と研究を進める。他の大学院、研究所との連携を推進し、大学院の教育と研究に広がりを持たせ、内容の充実と一層の活性化に役立てる。 目指す学生像 自然科学の発展と人類の進歩に貢献する幅広い知識・見識・能力を持つ学生。前期課程においては各専攻分野における深い知識と高い研究能力を有する学生。後期課程においては、各専門分野における幅広い知識・技能を修め、広い視点に立って独立して研究を行う能力を持ち、研究成果を学界や産業界等社会へ広く還元する能力を持つ学生。 人材養成目標 数学、物理学、化学、情報科学、生命科学、建築学の幅広い分野にわたり、それぞれの分野が有機的に連携しながら、基礎的研究から応用的研究まで、常に最先端のレベルの高い研究を行う。専攻分野における深い知識と高度な研究能力を身につけるとともに、専攻分野を超えた幅広い知識を修め、広い観点に立って研究を行うことができる高度な専門性を必要とする職業人や研究者を育成する。 ＜数理科学専攻＞ 前期課程においては、数学の基礎理論の修得を柱としながら、自然科学はもとより、社会科学への応用まで視野に入れ、数理科学の高度な知識と基礎的研究能力を養い、社会の幅広い分野で、専門性の高い職業に従事できる人材を育てる。後期課程では、数理科学の分野における自立した研究者にとって必要な高度で専門性の高い研究能力を培い、深い専門知識を必要とする分野で活躍できる人材を育てる。 ＜物理･宇宙物理学専攻（物理学専攻）＞ 前期課程では、物理学の基礎である数学の基礎学力を確かなものとし、ミクロからマクロまでの幅広い領域をカバーする物理法則のより深い理解をはかり、物理学的・論理的思考方法に立脚した実践的な研究能力ならびに英語で成果を公表できる能力を培う。後期課程では、新分野・新領域の開拓に必要な問題解決能力および自立した研究者にとって必要な創造性の育成を通して、深い専門知識を必要とする職業に従事できる能力を涵養する。 ＜化学専攻＞ 前期課程においては、化学における基礎から 最新の化学研究に関する幅広い知識と深い理解力を培い、専門性の高い課題に主体的に取り組む。さらに、この様な課題を解決しようとする際に要求される基礎概念を理解し、基本的な手法を修得することにより、高度な専門性を必要とする職業に従事できる人材の育成を行う。後期課程では、これに加え、創造性、独自性の高い化学研究の遂行を通して、自立した研究者としての能力を培う。 ＜先進エネルギーナノ工学専攻＞ 前期課程では、エネルギー科学・工学分野における専門的な知識を修得し、エネルギー分野に関する様々な問題に対して、新たな視点から主体的に研究に取り組む能力を養い、高度専門職業人として必要な研究能力と、その成果を社会に還元するための情報発信能力を有する人材を育てる。後期課程では、先進エネルギーに関する諸問題について自ら研究テーマを設定し、自立した研究者として必要な高度で専門性の高い研究能力と問題解決能力を培い、深い専門知識を必要とする分野で国際的に活躍できる人材を育てる。 ＜情報工学専攻（情報科学専攻）＞ 前期課程においては、情報工学の幅広い知識と深い理解力を培い、これらの知識と理解力を基礎とした研究能力及び高度な専門性を必要とする職業に柔軟に対応し、健全な情報化社会の構想を立案できる能力を養う。後期課程では、情報科学分野において自立した研究活動を行う高度な研究能力とその能力を生かして深い専門知識を必要とする職業に従事し、さらに健全な情報化社会の構築を技術面と倫理面倫理からリードする能力を養う。 ＜知能･機械工学専攻（人間システム工学専攻）＞ 前期課程においては、機械工学と人工知能の各領域の幅広い知識と深い理解力を培い、これらの知識と理解力を基礎とした研究能力、及び高度な専門性を必要とする職業に柔軟に対応し、高度で多彩な機械化・知能化技術を開発できる能力を養う。後期課程では、人間システム工学分野において自立した研究活動を行う高度な研究能力と、その能力生かして深い専門知識を必要とする職業に従事し、さらに新たな価値や産業を創出する能力を養う。 ＜生物科学専攻（生命科学専攻）＞ 前期課程においては、生物科学分野における幅広い知識と深い理解力を培うとともに、これらの知識を基礎とした研究能力及び成果を英語で公表できる能力、さらに高度な専門性を必要とする職業に柔軟に対応できる能力を養う。後期課程では、生命科学分野において自立した研究活動を行うことができる高度な研究能力と海外でも活躍できる国際性を培い、その研究能力を生かして深い専門知識を必要とする職業に従事する能力を養う。 ＜生命医科学専攻（生命医化学専攻）＞ 前期課程では、高い専門性を持った研究者や技術者を育成することを目的として、学部教育で培った医科学の基礎学力を礎とし、生命医科学分野の先端的な研究体験と専門分野の知識や技能の修得から、医科学への学識を深めるとともに、主体的に研究を行う力や応用力を醸成する。後期課程では、高度な研究能力と豊かな学識を持った研究者・技術者の育成を目的として、前期課程で学んだ医科学の知識や技能を高度化、深化させることを通じ、新たな視点から研究テーマを設定し、自立して研究を行う力を培う。 ＜環境応用化学専攻（環境・応用化学専攻）＞ 前期課程では、地球環境と応用化学に関する最新の知識と高度な実験技術を修得するとともに、これら得た知識と技術を基礎として、化学をベースとしながら他分野とも融合した複合的な視点から地球環境問題の解決に寄与するための応用能力を養う。後期課程では、地球環境と応用化学分野に関する幅広い知識と深い専門性を培い、さらに多角的な視点を身に付けることによって新しい課題に挑戦し、自立して研究を行う能力を養う。	有・(無)

＜建築学専攻＞ 本学理工学研究科建築学専攻は、"Mastery for Service"を体現する世界市民をめざし、工学的知識と技術をベースにして、魅力的で持続可能な建築や都市空間を作るための計画・デザイン能力及びそれらを運営・管理するためのマネジメント能力を育成する。また、単体としての建築、その集合体としての都市空間、そしてこれらを取り巻く地域社会や自然環境を、連続的・一体的なものとしてとらえ、相互の関係にまで踏み込んだ課題設定や計画提案、維持管理手法に取り組み、さらに、修得した能力を地域社会や国際社会で発揮できるための語学力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を備えた研究者・技術者を育成する。地球規模での環境問題が深刻化するなか、地球環境に配慮した持続可能で秩序ある都市開発が求められている現在、本専攻博士課程前期課程においては、高度専門職業人の育成を目的として、建築空間、都市空間そして地域社会を連続的かつ一体的なものとしてとらえ、相互の関係性について深く理解し計画できる能力の修得を行う。そしてこれら得た知識を生かして、持続可能な建築や都市空間をつくるための十分な応用能力を身につけさせる。具体的には、建築物の設計に関する領域（建築設計、建築デザイン、建築構造デザイン、住空間デザイン、環境デザイン、建築構法、ユニバーサルデザイン、建築史）及び都市計画・運営・防災に関する領域（都市デザイン、コミュニティデザイン、まちづくり、都市防災）につながるテーマに関する教育・研究を行う。※後期課程は策定中	
学位授与方針（DP）	変更の有無
本研究科は “Mastery for Service” を体現する世界市民をめざし、自然科学の基本原理とその応用について先端的研究を行っている。前期課程においては下記に示すように各専門分野における深い知識と研究能力を有する者に修士学位を与える。後期課程においては、下記に示すように各専門分野における幅広い知識・技能を修め、広い視点に立って独立して研究を行う能力を求める。加えて研究成果を学界や産業界等社会へ広く還元する能力を有する者に博士学位を与える。 【数理科学専攻】 （博士課程前期課程） 〈理学〉 ・ 数学領域における基礎理論を修得している。 ・ 数学領域において、専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。 ・ 社会の幅広い分野において専門性の高い職業人として活躍するため、修得した数学の知識と基礎的研究能力を活用できる。 （博士課程後期課程） 〈理学〉 ・ 数学領域における高度な専門知識および研究能力を修得している。 ・ 数学領域において、高度な専門的知識を必要とする研究課題に独立して取り組み、解決できる。 ・ 社会の幅広い分野において技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として国際的に活躍するため、修得した高度な知識と研究能力を活用できる。 〈工学〉 ・ 数理工学領域における高度な専門知識および研究能力を修得している。 ・ 数理工学領域において、高度な専門的知識を必要とする研究課題に独立して取り組み、解決できる。 ・ 社会の幅広い分野において技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として国際的に活躍するため、修得した高度な知識と研究能力を活用できる。 【物理・宇宙物理学専攻】 （博士課程前期課程） 〈理学〉 ・ 物理学の枢要な概念を理解し、自然現象の解析に適用できる。 ・ 物理学の多様な専門分野における基礎的課題に対して、物理学的アプローチと論理的思考方法を駆使し、学術研究に対する高い倫理感をもって主体的に取り組み、それを解決できる。 ・ 専門性の高い職業人として活躍できるだけの基礎研究能力と情報発信能力を有する。 〈国際自然科学〉 ・ 物理学分野の研究を行うために充分な知識と深い理解力を身につけている。 ・ 国際性豊かな職業人として活躍するための英語運用能力を身につけ、研究の成果を英語で公表できる。 ・ 物理学分野の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。 （博士課程後期課程） 〈理学〉 ・ 物理学に関する深い見識に基づき、新たな基礎的・根本的課題を発見する能力を有する。 ・ 物理学の多様な分野における高度で専門的な基礎研究課題に対して、学術研究に対する高い倫理感をもって自立的に取り組み、それを解決できる。 ・ 技術者や研究者をはじめとして専門性の高い職業人として国際的に活躍するために必要な創造力、高度な基礎研究能力、情報発信能力を有する。 〈工学〉 ・ 物理学に関する深い見識に基づき、新たな応用的課題を発見する能力を有する。 ・ 物理学の多様な分野における高度で専門的な応用研究課題に対して、学術研究に対する高い倫理感をもって自立的に取り組み、それを解決できる。 ・ 技術者や研究者をはじめとして専門性の高い職業人として国際的に活躍するために必要な創造力、高度な応用研究能力、情報発信能力を有する。 【化学専攻】 （博士課程前期課程） 〈理学〉 ・ 化学における専門的知識を必要とする基礎的な課題に主体的に取り組み、解決しようとする際に要求される基礎概念を理解し、基本的な手法を修得している。 ・ 選択した化学における基礎的な研究分野においてオリジナルな研究論文を書くのに必要な知識と研究手法を修得している。 ・ 選択したテーマについての化学における基礎的な研究を行い、それを学位論文として纏める事が出来る。 〈国際自然科学〉 ・ 化学分野の研究を行うために充分な知識と深い理解力を身につけている。 ・ 国際性豊かな職業人として活躍するための英語運用能力を身につけ、研究の成果を英語で公表できる。 ・ 化学分野の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。 （博士課程後期課程） 〈理学〉 ・ 化学の基礎的な分野における自立した研究者として必要な基本的な能力を身につけている。 ・ 選択したテーマについて各自の発想に基づいて化学における基礎的な研究を遂行し、自らの力で学術的な新知見を得、それを学位論文として纏めるというプロセスを経験している。 ・ 化学の一つの専門分野を深く研鑽することにより修得した、科学的思考とその精神を生かして国際的に活躍できる。 〈工学〉 ・ 化学の応用的な分野における自立した研究者として必要な基本的な能力を身につけている。 ・ 選択したテーマについて各自の発想に基づいて化学における応用的な研究を遂行し、自らの力で学術的な新知見を得、それを学位論文として纏めるというプロセスを経験している。 ・ 化学の一つの専門分野を深く研鑽することにより修得した、科学的思考とその精神を生かして国際的に活躍できる。 【先進エネルギーナノ工学専攻】 （博士課程前期課程） 〈理学〉 ・ エネルギー科学・工学分野における専門的な知識を修得し、エネルギーに関する理学的・基盤的課題について解決に導くための方法を身につけている。 ・ エネルギーに関する様々な理学的問題に対して、新たな視点から主体的に研究に取り組む能力を有する。 ・ 高度専門職業人として必要な理学的研究能力を持つとともにその成果を社会に還元するための情報発信能力を有する。 〈工学〉 ・ エネルギー科学・工学分野における専門的な知識を修得し、エネルギーに関する工学的・応用的課題について解決に導くための方法を身につけている。 ・ エネルギーに関する様々な工学的問題に対して、新たな視点から主体的に研究に取り組む能力を有する。 ・ 高度専門職業人として必要な工学的研究能力を持つとともにその成果を社会に還元するための情報発信能力を有する。	有・無

〈国際自然科学〉
・ エネルギーに関連したナノ材料を中心として、自然科学の研究を行うために充分な知識と深い理解力を身につけている。
・ 国際性豊かな職業人として活躍するための英語運用能力を身につけ、研究の成果を英語で公表できる。
・ 専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。
（博士課程後期課程）
〈理学〉
・ エネルギー科学・工学分野の研究者として、自立して理学的・根源的な研究を行うことができる能力を身につけている。
・ エネルギーに関する諸問題について自ら研究テーマを設定し、その理学的課題について新たな点から研究を行い、新規な知見を得ることにより問題の解決に結びつけることができる能力を有する。
・ 自身の専門とする理学分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる。
〈工学〉
・ エネルギー科学・工学分野の研究者として、自立して工学的・応用的な研究を行うことができる能力を身につけている。
・ エネルギーに関する諸問題について自ら研究テーマを設定し、その工学的課題について新たな点から研究を行い、新規な知見を得ることにより問題の解決に結びつけることができる能力を有する。
・ 自身の専門とする工学分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる。
【情報工学専攻】
（博士課程前期課程）
〈理学〉
・ 健全な情報化社会の構築に貢献するために、情報工学の理論に関する幅広い知識と深い理解力を身につけている。
・ 幅広い情報工学領域において、専門的知識を必要とする理論的課題に主体的に取り組み、解決できる。
・ 修得した情報工学の理論に関する高度な知識と基礎的研究能力を活用し、専門性の高い職業人として活躍できる。
〈工学〉
・ 健全な情報化社会の構築に貢献するために、情報工学の技術に関する幅広い知識と深い理解力を身につけている。
・ 幅広い情報工学領域において、専門的知識を必要とする技術的課題に主体的に取り組み、解決できる。
・ 修得した情報工学の技術に関する高度な知識と基礎的研究能力を活用し、専門性の高い職業人として活躍できる。
（博士課程後期課程）
〈理学〉
・ 健全な情報化社会の構築をリードするために、情報科学の理論に関する幅広い知識と深い理解力を身につけている。
・ 幅広い情報科学領域において、高度な専門的知識を必要とする理論的研究課題に独立して取り組み、解決できる。
・ 修得した問題解決能力と情報科学の理論に関する高度に専門的な知識・思考力・理解力を活用して、技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として国際的に活躍できる。
〈工学〉
・ 健全な情報化社会の構築をリードするために、情報科学の技術に関する幅広い知識と深い理解力を身につけている。
・ 幅広い情報科学領域において、高度な専門的知識を必要とする技術的研究課題に独立して取り組み、解決できる。

・ 修得した問題解決能力と情報科学の技術に関する高度に専門的な知識・思考力・理解力を活用して、技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として国際的に活躍できる。
【知能・機械工学専攻】
（博士課程前期課程）
〈理学〉
・ 高度で多彩な機械化・知能化技術を開発するための機械工学と人工知能の理論に関する幅広い知識を修得し、深い理解力を身につけている。
・ 機械工学と人工知能の各領域において、専門的知識を必要とする理論的課題に主体的に取り組み、柔軟に解決できる。
・ 修得した機械工学と人工知能の理論に関する高度な知識と基礎的研究能力を活用し、専門性の高い職業人として活躍できる。
〈工学〉
・ 高度で多彩な機械化・知能化技術を開発するための機械工学と人工知能の技術に関する幅広い知識を修得し、深い理解力を身につけている。
・ 機械工学と人工知能の各領域において、専門的知識を必要とする技術的課題に主体的に取り組み、柔軟に解決できる。
・ 修得した機械工学と人工知能の技術に関する高度な知識と基礎的研究能力を活用し、専門性の高い職業人として活躍できる。
（博士課程後期課程）
〈理学〉
・ 人を中心とした新しいシステムを創出し、新たな価値や産業を確立するための人間システム工学の理論に関する高度な専門知識を幅広く修得し、専門的な思考力・理解力を身につけている。
・ 人間システム工学領域において、高度な専門的知識を必要とする理論的研究課題に独立して取り組み、柔軟に解決できる。
・ 修得した問題解決能力と人間システム工学の理論に関する高度に専門的な知識・思考力・理解力を活用して、技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として国際的に活躍できる。
〈工学〉
・ 人を中心とした新しいシステムを創出し、新たな価値や産業を確立するための人間システム工学の技術に関する高度な専門知識を幅広く修得し、専門的な思考力・理解力を身につけている。
・ 人間システム工学領域において、高度な専門的知識を必要とする技術的研究課題に独立して取り組み、柔軟に解決できる。
・ 修得した問題解決能力と人間システム工学の技術に関する高度に専門的な知識・思考力・理解力を活用して、技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として国際的に活躍できる。
【生物科学専攻】
（博士課程前期課程）
〈理学〉
・ 生命科学分野の基礎研究を行うために充分な知識と深い理解力を身につけている。
・ 専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。
・ 国際性豊かな職業人として活躍するため基礎研究の成果を英語で公表できる。
〈工学〉
・ 生命科学分野の応用研究を行うために充分な知識と深い理解力を身につけている。
・ 専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。
・ 国際性豊かな職業人として活躍するため応用研究の成果を英語で公表できる。
〈国際自然科学〉
・ 生命科学分野の研究を行うために充分な知識と深い理解力を身につけている。
・ 国際性豊かな職業人として活躍するための英語運用能力を身につけ、研究の成果を英語で公表できる。
・ 生命科学分野の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。

（博士課程後期課程）
〈理学〉
・ 基礎研究の成果を国際誌に論文発表する能力を身につけている。
・ 幅広い生命科学領域において、高度な専門的知識を必要とする基礎的な研究課題に独立して取り組み、解決できる。
・ 国際的な技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として活躍するための問題解決能力を身につけている。
〈工学〉
・ 応用研究の成果を国際誌に論文を発表する能力を身につけている。
・ 幅広い生命科学領域において、高度な専門的知識を必要とする応用研究の課題に独立して取り組み、解決できる。
・ 国際的な技術者や研究者をはじめとした専門性の高い職業人として活躍するための問題解決能力を身につけている。
【生命医科学専攻】

（博士課程前期課程）
〈理学〉
・ 基礎医学系の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、その解決に要求される生化学や分子生物学などの知識や技能を習得している。
・ 基礎医学系の様々な問題に対して、新たな視点から主体的に研究に取り組む能力を有する。
・ 高度専門職業人として必要な研究能力を持つとともにその成果を社会に還元するための情報発信能力を有する。
〈工学〉
・ 応用医学系の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、その解決に要求される医工学系の知識や技能を習得している。
・ 応用医学系の様々な問題に対して、新たな視点から主体的に研究に取り組む能力を有する。
・ 高度専門職業人として必要な研究能力を持つとともにその成果を社会に還元するための情報発信能力を有する。
〈国際自然科学〉
・ 生命医科学分野の研究を行うために充分な知識と深い理解力を身につけている。
・ 国際性豊かな職業人として活躍するための英語運用能力を身につけ、研究の成果を英語で公表できる。
・ 生命医科学分野の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。
（博士課程後期課程）
〈理学〉
・ 基礎医学系分野の研究者として、自立して研究を行うことができる能力を身に付けている。
・ 少子高齢化社会を健康面から支えるため、自ら研究テーマを設定し、新規な知見を得ることにより基礎医学系分野のライフイノベーションに寄与することができる能力を有する。
・ 自身の専門とする分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる。
〈工学〉
・ 応用医学系分野の研究者として、自立して研究を行うことができる能力を身に付けている。
・ 少子高齢化社会を健康面から支えるため、自ら研究テーマを設定し、新たな工学技術を開発することにより応用医学系分野のライフイノベーションに寄与することができる能力を有する。
・ 自身の専門とする分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる。

【環境応用化学専攻】
（博士課程前期課程）
〈理学〉
・ 環境と応用化学に関する専門的な知識を修得し、地球環境に関する諸問題について応用化学的アプローチから基礎研究に主体的に取り組み、解決に導くための方法を身につけている。
・ 地球環境に関する様々な問題に対して、主体的に基礎研究に取り組む能力を有する。
・ 高度専門職業人として必要な基礎研究能力を持つとともにその成果を社会に還元するための情報発信能力を有する。
〈工学〉
・ 環境と応用化学に関する専門的な知識を修得し、地球環境に関する諸問題について応用化学的アプローチから応用研究に主体的に取り組み、解決に導くための方法を身につけている。
・ 地球環境に関する様々な問題に対して、主体的に応用研究に取り組む能力を有する。
・ 高度専門職業人として必要な応用研究能力を持つとともにその成果を社会に還元するための情報発信能力を有する。
〈国際自然科学〉
・ 環境と応用化学分野の研究を行うために充分な知識と深い理解力を身につけている。
・ 国際性豊かな職業人として活躍するための英語運用能力を身につけ、研究の成果を英語で公表できる。
・ 環境と応用化学分野の専門的知識を必要とする課題に主体的に取り組み、解決できる。
（博士課程後期課程）
〈理学〉
・ 環境と応用化学に関する研究者として、自立して基礎研究を行うことができる能力を身につけている。
・ 地球環境に関する諸問題について自ら研究テーマを設定し、その課題について応用化学的観点から基礎研究を行い、新規な知見を得ることにより問題の解決に結びつけることができる能力を有する。
・ 自身の専門とする基礎研究分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる。
〈工学〉
・ 環境と応用化学に関する研究者として、自立して応用研究を行うことができる能力を身につけている。
・ 地球環境に関する諸問題について自ら研究テーマを設定し、その課題について応用化学的観点から応用研究を行い、新規な知見を得ることにより問題の解決に結びつけることができる能力を有する。
・ 自身の専門とする応用研究分野を深く研鑽し、その結果を論文や学会等を通して公表することにより、国際的に活躍することができる。
【建築学専攻】
（博士課程前期課程）
〈工学〉
建築学専攻は、安全・快適で美しい建築デザイン及び都市等に関する専門的知識と技術を有して、グローバルな視点で建築と都市の未来を創造する国際的人材を養成する。
よって、以下のような知識と能力を有する学生に「修士（工学）」の学位を授与する。
・ 工学的知識と技術をベースにして、魅力的で持続可能な建築や都市空間をつくるための計画デザイン技術及びそれらを運営・管理するためのマネジメント知識。
・ 建築空間、都市空間そして地域社会を連続的・一体的なものとして捉え、相互の関係性について深く理解し提案できる能力。
・ 語学力、コミュニケーション力はもとより日本やアジアの建築及び都市の特徴や文化について誇りをもって解説できる能力。
・ 最先端の建築技術やデザインはもとより地域性や歴史的文脈を踏まえて、人文科学・社会科学等、幅広い側面から取組むことができる能力。
・ 人々の安全や財産に深く関わるとともに公共財としての側面をもつ建築に、専門家としての高度な倫理観をもって携わることができる能力。
・ 建築や都市デザインは多様な専門家及び住民との共同作業であることを理解し、一連のプロセスにおいて謙虚さと協調性を尊重しながらリーダーシップを発揮できる能力。
※後期課程は策定中。

教育課程の編成・実施方針（CP）	変更の有無
理工学研究科ディプロマ・ポリシーに基づき、必修科目と選択科目から構成される授業科目群を配置する。 【数理科学専攻】 〈理学〉 ・ 研究室における指導をカリキュラムの核とする。指導を通じて、自然科学および社会科学への応用までを目指した数学の基本な理論や知識を修得させるため、数理科学基礎研究 12 単位を必修科目 として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方等についての指導を行う。これらに加え、数学分野における幅広い知識ならびに最新の研究についての知識の修得のために、相当数の講義科目を配置する。 【物理・宇宙物理学専攻】 〈理学〉 ・ 研究室における指導をカリキュラムの核とする。先端的な基礎研究に取り組むことを通して、現代物理学の枢要な概念を理解させ、自然現象への物理学的アプロー	有・(無)

チ、論理的思考方法、並びに実践的な基礎研究能力を修得させるため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について指導を行う。これらに加え、物理学の多様な分野に関する専門的知識を修得させるため、相当数の講義科目を配置する。

〈国際自然科学〉

・ 物理学分野の知識、最新の研究手法に関する知識、ならびに科学技術に関する英語運用能力を身につけるため、14 単位の講義科目を配置する。また、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について学ぶため文献演習 4 単位を必修科目として配置する。教育の核として、物理学分野の研究を遂行する能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。

【化学専攻】

〈理学〉

・ 研究室における指導をカリキュラムの核とする。特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置し、化学における基礎的な分野において、研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、センス等を育成する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方等についての指導を行う。これらに加え、高度な化学知識と最新の研究手法を修得させるために、相当数の講義科目を配置する。

〈国際自然科学〉

・ 化学分野の知識、最新の研究手法に関する知識、ならびに科学技術に関する英語運用能力を身につけるため、14 単位の講義科目を配置する。また、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について学ぶため文献演習 4 単位を必修科目として配置する。教育の核として、化学分野の研究を遂行する能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。

【先進エネルギーナノ工学専攻】

〈理学〉

・ 研究室における指導をカリキュラムの核に、専攻分野において必要とされる理学的知識・技能を体系的に修得できるようカリキュラムを構成する。研究室における指導を通じて専攻分野における理学的・基盤的な研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、成果を論理的に説明し得る能力、学術研究における高い倫理性を育成するために特別実験及び演習12 単位を必修科目として配置する。

また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う。加えて、エネルギーを「創る」、「蓄える」、「運ぶ」、
「有効に使う」の 4 つの分野に対応した科目を中心に、基礎から応用までの幅広い知識に基づく深い理学的専門性を体系的かつ横断的に学修させることを目的として、相当数の講義科目を配置する。

〈工学〉

・ 研究室における指導をカリキュラムの核に、専攻分野において必要とされる工学的知識・技能を体系的に修得できるようカリキュラムを構成する。研究室における指導を通じて専攻分野における工学的・応用的な研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、成果を論理的に説明し得る能力、学術研究における高い倫理性を育成するために特別実験及び演習12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方等についての指導を行う。加えて、エネルギーを「創る」、「蓄える」、「運ぶ」、
「有効に使う」の 4つの分野に対応した科目を中心に、基礎から応用までの幅広い知識に基づく深い工学的専門性を体系的かつ横断的に学修させることを目的として、相当数の講義科目を配置する。

〈国際自然科学〉

・ エネルギーに関連したナノ材料を中心として、自然科学の知識、最新の研究手法に関する知識、ならびに科学技術に関する英語運用能力を身につけるため、14 単位の講義科目を配置する。また、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について学ぶため文献演習 4 単位を必修科目として配置する。教育の核として、研究を推進する能力を育成するため、特
別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。

【情報工学専攻】

〈理学〉

・ 研究室における指導をカリキュラムの核とする。指導を通じて、健全な情報化社会の構想の立案に資する情報工学の理論に関連した研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、センス等を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方などについての指導を行う。これらに加え、情報工学分野の理論に関する知識・見識の修得と専門的な思考力の養成を目的として、相当数の講義科目を配置する。

〈工学〉

・ 研究室における指導をカリキュラムの核とする。指導を通じて、健全な情報化社会の構想の立案に資する情報工学の技術に関連した研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、センス等を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方などについての指導を行う。これらに加え、情報工学分野の技術に関する知識・見識の修得と専門的な思考力の養成を目的として、相当数の講義科目を配置する。

【知能・機械工学専攻】

〈理学〉

・ 研究室における指導をカリキュラムの核とする。指導を通じて、高度で多彩な機械化・知能化技術を開発するための機械工学と人工知能の理論に関連した研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、センス等を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文
献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方などについての指導を行う。これらに加え、幅広い機械工学と人工知能分野の理論に関する知識・見識の修得と専門的な思考力の養成を目的として、相当数の講義科目を配置する。

〈工学〉

・ 研究室における指導をカリキュラムの核とする。指導を通じて、高度で多彩な機械化・知能化技術を開発するための機械工学と人工知能の技術に関連した研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、センス等を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文
献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌の投稿論文の書き方などについての指導を行う。これらに加え、幅広い機械工学と人工知能分野の技術に関する知識・見識の修得と専門的な思考力の養成を目的として、相当数の講義科目を配置する。

【生物科学専攻】
〈理学〉
・ 研究室における基礎研究の活動をカリキュラムの核とし、研究を推進するための能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、基礎研究の学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う。これらに加え、高度な生物科学の知識並びに最新の基礎研究の手法に関する知識を修得させるために、相当数の講義科目を配置する。
〈工学〉
・ 研究室における応用研究の活動をカリキュラムの核とし、研究を推進するための能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。また、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、応用研究の学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う。これらに加え、高度な生物科学の知識並びに最新の応用研究の手法に関する知識を修得させるために、相当数の講義科目を配置する。
〈国際自然科学〉
・ 生物科学分野の知識、最新の研究手法に関する知識、ならびに科学技術に関する英語運用能力を身につけるため、14 単位の講義科目を配置する。また、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について学ぶため文献演習 4 単位を必修科目として配置する。教
育の核として、生物科学分野の研究遂行能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。
【生命医科学専攻】
〈理学〉
・ 研究室における指導をカリキュラムの核に、専攻分野において必要とされる基礎医学系の知識・技能を体系的に修得できるようカリキュラムを構成する。研究室における指導を通じて専攻分野における研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、研究成果を論理的に説明し得る能力、学術研究における高い倫理性を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。ま
た、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う。加えて、「基礎医科学」に加え、「応用医科学分野」についても学び、それらを融合させた幅広い知識を体系的かつ横断的に学修させることを目的として、相当数の講義科目を配置する。
〈工学〉
・ 研究室における指導をカリキュラムの核に、専攻分野において必要とされる応用医学系の知識・技能を体系的に修得できるようカリキュラムを構成する。研究室における指導を通じて専攻分野における研究課題の立て方の理解、研究を推進する能力、研究成果を論理的に説明し得る能力、学術研究における高い倫理性を育成するために特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。ま
た、文献演習 4 単位を必修科目として配置し、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う。加えて、「基礎医科学」に加え、「応用医科学分野」についても学び、それらを融合させた幅広い知識を体系的かつ横断的に学修させることを目的として、相当数の講義科目を配置する。
〈国際自然科学〉
・ 生命医科学分野の知識、最新の研究手法に関する知識、ならびに科学技術に関する英語運用能力を身につけるため、14 単位の講義科目を配置する。また、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について学ぶため文献演習4 単位を必修科目として配置する。教
育の核として、生命医科学分野の研究を推進する能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。

【環境応用化学専攻】
〈理学〉
・ 研究室における指導をカリキュラムの核に、専攻分野において必要とされる知識・技能を体系的に修得できるようカリキュラムを構成する。研究室における指導を通じて専攻分野における高度専門職業人として、研究課題の立て方の理解、基礎研究を推進する能力、地球環境に関する様々な問題に対して主体的に基礎研究に取り組む能力を育成するために特別実験及び演習12単位を必修科目として配置する。また、最先端の知見について学術論文から情報を得、また自らの研究を論文としてまとめ、その成果を社会に還元するための情報発信能力を養うため、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う文献演習 4 単位を必修科目として配置する。また、環境と応用化学に関連した最先端の知識を修得し、地球環境に関する諸問題について応用化学的アプローチから基礎研究に主体的に取り組み、解決に導くための方法を身に付けさせるために、選択科目として環境分析・地球化学系、機能探索系、物質創成系の科目を中心とした相当数の講義科目を配置する。
〈工学〉
・ 研究室における指導をカリキュラムの核に、専攻分野において必要とされる知識・技能を体系的に修得できるようカリキュラムを構成する。研究室における指導を通じて専攻分野における高度専門職業人として、研究課題の立て方の理解、応用研究を推進する能力、地球環境に関する様々な問題に対して主体的に応用研究に取り組む能力を育成するために特別実験及び演習12単位を必修科目として配置する。また、最先端の知見について学術論文から情報を得、また自らの研究を論文としてまとめ、その成果を社会に還元するための情報発信能力を養うため、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等についての指導を行う文献演習 4 単位を必修科目として配置する。また、環境と応用化学に関連した最先端の知識を修得し、地球環境に関する諸問題について応用化学的アプローチから応用研究に主体的に取り組み、解決に導くための方法を身に付けさせるために、選択科目として環境分析・地球化学系、機能探索系、物質創成系の科目を中心とした相当数の講義科目を配置する。
〈国際自然科学〉
・ 環境と応用化学分野の知識、最新の研究手法に関する知識、ならびに科学技術に関する英語運用能力を身につけるため、14 単位の講義科目を配置する。また、学術論文の読み方、専門情報の収集法、学術雑誌への投稿論文の書き方等について学ぶため文献演習 4 単位を必修科目として配置する。教育の核として、環境・応用化学分野の研究を推進する能力を育成するため、特別実験及び演習 12 単位を必修科目として配置する。
【建築学専攻】
〈工学〉
安全・快適で美しい建築及び都市空間の計画、設計、運営等に関する専門的知識と技術を有して、グローバルな視点で建築と都市の未来を創造する国際的人材を養成するため、建築・都市デザイン分野の知識・技能を体系的に修得できるよう学部教育と大学院博士課程前期課程教育との連携の強化を図る。
建築学専攻におけるカリキュラム編成方針は以下に示すとおり。
・ 基礎的な表現から高度な建築設計に至るまでのデザイン能力を向上させる、建築学専攻の 2 年間の教育プログラムにより専門性の向上を図るプログラムを構築する。
・ 建築空間と都市空間そして地域社会を連続的・一体的に捉え、相互の関係について深く理解し計画できる能力を育成するため、建築関連科目では建築設計特論／建築意匠特論／アーバンスケープデザイン特論／建築計画特論／建築環境デザイン特論／建築福祉計画特論／建築生産特論／建築構造デザイン特論／耐震構造

特論を、都市・地域関連科目では都市デザイン特論／都市史・建築史特論／住環境・まちづくり特論／コミュニティデザイン特論／都市レジリエンス特論をそれぞれ展開する。さらに建築及び都市空間におけるさまざまな文脈（コンテクスト）を適切なプログラムとして立案する能力を育成するために、建築デザイン演習（A ／ B ／ C ／ D）や建築・都市デザイン演習等をはじめとした演習を体系的に配置する。 ・ 社会の具体的な課題に対して、建築デザインや都市計画、まちづくりを通した改善や解決の手法を学べるよう、多様なフィールドを体験できる PBL 型の授業を充実させる。 ・ 建築の専門的職能に必須の一級建築士免許登録に必要な要件としての建築物の設計または工事監理に係る実践的な能力を培うことを目的とした建築士事務所等で行うインターンシップを建築実務実習（A ／ B ／ C ／ D）として開講する。	
学生の受け入れ方針（AP）	変更の有無
自然科学の基本理念とその応用について先端的研究を行い、自然科学・科学技術の発展と人類の進歩に貢献する理工学研究科の理念の下、次のような学生を求める。 （博士課程前期課程） ・ 自然科学・科学技術の発展を通じて、主体的に人類の進歩に貢献しようとする学生 ・ 各専門分野に関する知識・技能を有し、それぞれの分野の高度な研究能力を主体的に修得しようとする学生 ・ 身につけたコミュニケーション能力を活かし、主体的に国際的な情報発信に努めようとする学生 （博士課程後期課程） ・ 自然科学・科学技術の発展を通じて、自立的な態度をもって人類の進歩に貢献しようとする学生 ・ 各専門分野の十分な知識・技能を有し、それぞれの分野の高度な研究能力を修得し、自立的な態度で新規な知見を得ることにより問題の解決に結びつけようとする学生 ・ 自身の専門とする研究分野を深く研鑽し、その成果を論文や学会等を通して公表することにより、自立的な態度で国際的な情報発信に努めようとする学生	有・(無)
学生支援に関する方針	変更の有無
	有・(無)
教員像	変更の有無
	有・(無)
教員組織の編制方針	変更の有無
国際的に魅力ある研究科として、高い研究レベルを保ち、自然科学・科学技術により持続的に社会貢献できる体制を構築するために、教員組織の編制方針を次の通り定めている。 ①教員の年齢構成が、特定の年齢層に極端にかたよらないようにする。 ②女性教員を積極的に採用し、各専攻の専任教員として少なくとも 1 名の女性教員が在籍するようにする。 ③任期制教員枠を利用して、若手教員を積極的採用して教育・研究の活性化を図るとともに、若手教員をサポートする体制を整備する。 ④教員の研究分野は、多様性を保ちつつ各専攻の特色を出すように配慮する。 ⑤英語のみによる修士コースを伸展させるため、英語で講義できる教員を充実させる。	有・(無)

2. 理工学研究科のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学位授与数 (M・D・P)	修士、博士、修士(専門職)の学位授与数(※乙号除く) 「大学基礎データ」	授与する学位数が多いほど○ (人)	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M D	M D
就職・進路決定率 (M)	就職・進路決定率 「キャリアセンター統計資料」	(就職+起業・自営+就労継続)/(修了者ー進学者)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
博士後期課程への進学者数 (M)	進学者数 「キャリアセンター統計資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
日本学術振興会 特別研究員数(新規) (D)	特別研究員のうち、当該年度の新規採用者 「研究推進社会連携機構資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
研究者輩出数(D) (将来)			現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

(2)研究科独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
前期課程修了生の研究開発職への就職率	前期課程修了生における研究開発職への就職率	目標 2021 年度:30%以上 2024 年度:40%以上 2027 年度:50%以上	―	―	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
国際学会発表数	大学院生(MD 含む)による国際学会の発表数／年	目標 多ければ多いほど良い	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			―	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
修了後の進路の満足度	修了後の進路の満足度 (「とても納得している」～「あまり納得していない」の5段階評価) 修了時調査	5 段階評価のうち、 A「とても納得している」または B「ある程度納得している」 と回答した比率(%)					
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 7 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く7項目対して A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」 と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

(4)認証評価に関するKPI

KPI	定義	基準	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
収容定員充足率	当該年度 5 月 1 日時点の収容定員に対する在籍学生数の割合 大学基礎データ表2	在籍学生数/収容定員(%) ※認証評価上(大学基準協会)は、 (M)0.50 以上 (D)0.33 以上 を適切性の目安としている。		非公表	非公表		

提出日：2025 年12月19日

言語コミュニケーション文化研究科

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜言語コミュニケーション文化研究科＞教学改善シート

研究科における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
研究科の「教育目標および人材育成の目標」に「社会人のためのカリキュラムの提供」を掲げており、梅田キャンパスで6・7時限に授業を開講して社会人学生のニーズを満たしている一方、夜間開講やキャンパス間移動に負担を感じている学生も多い。研究科設立当初とは受験者層も変化していることを踏まえ、現行のニーズを把握し、入試制度およびカリキュラムを実状に即して見直す必要がある。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	
近年、学習や生活に困難を抱える学生が増加しており、教員や事務局による個別面談や丁寧な対応が求められている。また、ケースによっては学内の支援センターや医療機関との連携が必要となるなど、対応の複雑化が進んでいる。さらに、留学生に対しては言語面での支援が不可欠であり、対応可能な教員が限られていることから、十分なサポート体制の整備が課題となっている。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	
本研究科には、言語科学領域、言語文化学領域、言語教育学領域、日本語教育学領域の４領域があるが、前期課程学生の半数が日本語教育学領域に所属している（2024年度5月時点）。一方で、日本語教育学領域の教員数は少なく、需給の均衡がとれていない。同時に、日本語教育学領域以外の3領域の志願者数を増加させる必要がある。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	
・大学院生全体の研究レベルを向上させるべく、共同研究室の資料や設備等を充実するなどして研究環境を整えることで、前期課程から後期課程へ一定数の進学者を確保し、博士学位授与者を安定的に輩出する。 ・海外交流協定に基づくダブルディグリープログラム（受け入れ、送り出し）を推進し、より一層の国際化を目指すと同時に、海外の大学と学術交流協定を締結し、学生や若手研究者を対象とした学術的研鑽の場を設ける。具体的には、まず、現在設定されているスターリング大学ダブルディグリーコースへの入学者を継続的に確保するため、広報活動を推進する。また、現在協定を締結している大学の多くは中国の大学であり、日本学ダブルディグリープログラムを中心に受け入れを主としている。本研究科所属者の選択肢を広げるためにも、他地域において、送り出しを主眼とするダブルディグリー協定大学を検討する必要がある。	

1. 言語コミュニケーション文化研究科の理念、目的、各種方針

言語コミュニケーション文化研究科の理念	変更の有無
本研究科は本学の「人間化の徹底」「実学化への志向」「総合化への努力」「情報化への徹底」「国際化の追求」の5つの基本理念のもとに高度な言語コミュニケーション能力を備え、建学の精神に基づく豊かな人間性と国際的・文化的視野をもった、高度の学問的専門性を備えた人材を輩出し、社会に貢献することを理念として掲げる。	有・(無)
言語コミュニケーション文化研究科の目的	**変更の有無**
前期課程では、高度な言語コミュニケーション能力を養成し、その基盤の上に言語及び言語使用の実態を追求する言語科学、言語と深く結びついた文化学、さらに言語コミュニケーション能力をいかにして効果的に習得させるかという方法論を探究する言語教育学、外国語としての日本語教育の方法を探究する日本語教育学の研究を推進することによって、言語コミュニケーション文化を総合的に研究することを目的とする。後期課程では、前期課程で培った幅広い知識と研究能力を、言語コミュニケーション能力の理論的解明に特化した、高度で先進的な研究へと結実させる。また博士論文作成の指導を通してさらに総合的、専門的に深く研究し、「言語コミュニケーション文化学」の深化、発展に努める。	有・(無)
学位授与方針（DP）	**変更の有無**
言語コミュニケーション文化研究科では、本学の基本理念のもとに高度な言語コミュニケーション能力を備え、建学の精神に基づく豊かな人間性と国際的・文化的視野を持ち、高度の学問的専門性を備えた人材の育成を推進しています。 博士課程前期課程　言語コミュニケーション文化専攻 　博士課程前期課程　言語コミュニケーション文化専攻では、高度な言語コミュニケーション能力を養成し、その基盤の上に、言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学の研究を進める能力、それを実行・実現する力を有する人材として、下記の力を身につけた人物に対して学位を授与します。 修士（言語科学） 1.（知識・技能） 高度な言語運用能力を背景に、言語科学に関する専門領域において文献から幅広い知識を得、必要な実験・調査を計画・遂行する技能を有している。 2.（思考力・判断力・表現力等の能力） 言語科学に関する専門領域において、問題解決のために必要な科学的・論理的分析を行い、その結果を適切に伝える表現力を有している。 3.（主体的な態度） 言語科学に関する専門領域において、先行研究を踏まえつつ未解決かつ有意義な問題を見極め、自ら実験・調査を行い、学術論文を執筆する積極的態度を有している。 修士（言語文化学） 1.（知識・技能） 言語文化学に関する専門領域において、言語と関わる文化についての幅広い知識、文献やデータを収集しそれを読解・分析する技能、高度な言語運用能力を有している。 2.（思考力・判断力・表現力等の能力） 言語文化学に関する専門領域において、専門的知識に基づき、重要な研究テーマを見抜き、研究を論理的に進める思考力、自らの研究の客観的意義を把握する判断力、自らの思考や判断を適切に伝える表現力を有している。 3.（主体的な態度） 言語文化学に関する専門領域において、研究テーマを設定し、先行研究を踏まえつつ、自ら調査・分析を行い、学術論文の執筆を進める積極的態度を有している。 修士（言語教育学） 1.（知識・技能） 言語教育学に関する専門領域において、言語とその教育に関わる諸領域の幅広い知識を身につけ、関連する分野の文献やデータを収集し、それを読解・分析する技能、高度な言語運用能力を有している。 2.（思考力・判断力・表現力等の能力） 言語教育学に関する専門領域において、専門的知識に基づき、重要な研究テーマを見抜き、研究を論理的に進める思考力、自らの研究の客観的意義を把握する判断力、自らの思考や判断を適切に伝える表現力を有している。 3.（主体的な態度） 言語教育学に関する専門領域において、研究テーマを設定し、先行研究を踏まえつつ、自ら調査・分析を行い、学術論文の執筆を進める積極的態度を有している。また、理論に基づき、教育現場で実践する積極的態度を有している。 修士（日本語教育学） 1.（知識・技能） 日本語教育学に関する専門領域において、学際的領域である日本語教育に関わる幅広い知識、文献やデータを収集しそれを読解・分析する技能、日本語教育の実践者としての教授能力を有している。 2.（思考力・判断力・表現力等の能力） 日本語教育学に関する専門領域において、専門的知識に基づき、重要な研究テーマが何であるかを見抜き、研究を論理的に進める思考力、自らの研究の客観的意義を把握する判断力、自らの思考や判断を適切に伝える表現力を有している。 3.（主体的な態度） 日本語教育学に関する専門領域において、研究テーマを設定し、先行研究を踏まえつつ、自ら調査・分析を行い、学術論文の執筆を進める積極的態度を有している。同時に、日本語教育の実践を通して地域社会、国際社会に貢献する意欲を持っている。 博士課程後期課程　言語コミュニケーション文化専攻 　博士課程後期課程　言語コミュニケーション文化専攻では、前期課程で培った幅広い知識と研究能力を、言語コミュニケーション能力の理論的解明に特化した、高度で先進的な研究へと結実させる能力、それを実行・実現する力を有する人材として、下記の力を身につけた人物に対して学位を授与します。 博士（言語コミュニケーション文化） 1.（知識・技能） 言語コミュニケーション文化に関する専門領域において、自立した研究者に求められる、広く深い知識、研究を進める上で必要な技能、高度な言語運用能力を有している。 2.（思考力・判断力・表現力等の能力） 言語コミュニケーション文化に関する専門領域において、急速に国際化や情報化が進む社会に対応できる、専門的かつ学際的な思考力や判断力、研究成果を世界へと発信するに十分な表現力を有している。	有・(無)

3.（主体的な態度） 言語コミュニケーション文化に関する専門領域において、先端的研究テーマを設定し、先行研究を踏まえつつ、自ら調査や実験・分析を行い、独創的研究を進める態度を有している。	
教育課程の編成・実施方針（CP）	変更の有無
博士課程前期課程　言語コミュニケーション文化専攻 博士課程前期課程　言語コミュニケーション文化専攻では、学位授与の方針に掲げる目標を達成するために、以下の点を踏まえて、言語コミュニケーション能力養成科目、領域研究科目、実習科目及び演習科目を体系的に教育課程として編成します。 1. 教育内容 (1)教養教育 ア　豊かな人間性と国際的・文化的視野をもった人材を育成するために、教養教育として、言語コミュニケーション能力養成科目の中に基礎科目を配置し、総合的な言語能力を養う。 イ　外国語文献の読解やプレゼンテーション・論文作成・コミュニケーションのための外国語力を備えた人材を育成するために、教養教育として、言語コミュニケーション能力養成科目の中に運用能力養成科目を配置し、専門的な言語能力を養う。 (2)専門教育 修士（言語科学） 音声・統語・意味等の言語現象を扱う分野、および言語習得論・辞書学等、言語に密接に関連する分野を中心に、横断的かつ専門的に学ぶことができるカリキュラムを提供している。それにより、言語科学の各分野に特有のリサーチクエスチョンの設定、実験・調査等の計画・遂行、学術論文の執筆まで行えるような人材を育成することを目的とする。 ア　幅広い言語科学関連分野の知見を得ることができるよう、オムニバス科目を設置している。 イ　言語現象についての知識および分析法を学ぶため、音声・統語・意味等の各分野に対応した講義科目を設置している。 ウ　言語が関わる学際的・応用的分野に関する知見を深めるため、コーパス言語学・心理言語学・辞書学等の講義科目を設置している。 エ　個別に論文執筆の指導を行うため、研究演習を2年もしくは課題研究を1年（課題研究コースのみ）にわたって配置している。 修士（言語文化学） 言語文化学と関わる、文化学、異文化理解、思想や批評、演劇や映画、各言語圏文化などの分野を中心とし、それらを段階的かつ横断的に学ぶことができるようカリキュラムを提供している。それにより、言語文化学と関わる課題を見出し、専門的かつ学際的な見地から資料を収集・読解・分析し、学術論文を執筆できるような人材を育成することを目的とする。 ア　理論的な枠組みを把握するために、文化学、異文化理解、思想や批評、演劇や映画といった、文化と関わる科目を設置している。 イ　各言語圏の事象を深く理解するため、日本文化、英語圏文化、仏語圏文化、独語圏文化、中国語圏文化といった、言語圏ごとの文化と関わる科目を設置している。 ウ　言語文化学をより広い見地から把握するため、多言語主義・多文化共生の科目を設置している。 エ　個別に論文執筆の指導を行うため、研究演習を2年に渡って配置している。 修士（言語教育学） 言語コミュニケーションをいかにして効果的に習得させるかという方法論を探究するために、言語教育学、第二言語習得、言語学習心理学、カリキュラムデザイン、教育評価、などの分野を中心とし、それらを段階的かつ横断的に学ぶことができるようカリキュラムを提供している。それにより、様々な言語の教育に関する諸課題を見出し、専門的かつ学際的な見地から資料を収集・読解・分析し、学術論文を執筆でき、教育現場で活躍できる人材を育成することを目的とする。 ア　理論的な枠組みを把握するために、言語教育学、第二言語習得、言語学習心理学、早期英語教育理論といった、言語教育理論と関わる科目を設置している。 イ　実践的な言語教育方法を探求できるように、カリキュラムデザイン、授業分析、英語教育法、英語教育教材研究、英語教育実践、英語教授法実践といった科目を設置している。 ウ　言語教育学をより広い見地から把握するため、言語教育と社会、言語教育政策といった、言語と文化、社会との関係を研究する科目を設置している。 エ　個別に論文執筆の指導を行うため、研究演習を2年もしくは課題研究を1年（課題研究コースのみ）に渡って配置している。 修士（日本語教育学） 日本語教育と関わる、言語学、教育学、文化学などの分野を中心とし、それらを段階的かつ横断的に学ぶことができるようカリキュラムを提供している。それによって、日本語教育学と関わる課題を見出し、専門的かつ学際的な見地からデータを収集・分析し、学術論文を執筆し、そして修了後、日本語教育を通じて地域社会・国際社会へ貢献できる人材の育成を目的としている。 ア　日本語教育学に包含する多くの分野を把握するため、言語、文化、社会、教育、政策などに関わる科目を設置している。 イ　日本語教育学と関わる課題を見出し、専門的かつ学際的な研究を行うため、音声・語彙・文法・文字教育、教材開発、教授法、会話分析法、フィールド調査法など、多岐にわたる科目を設置している。 ウ　教材分析、教案作成および模擬授業を行いながら、日本語を教えるために必要な知識やスキルを身につけるための実習科目を設置している。 エ　個別に論文執筆の指導を行うため、研究演習を2年にわたって配置している。 博士課程後期課程　言語コミュニケーション文化専攻 博士課程後期課程　言語コミュニケーション文化専攻では、学位授与の方針に掲げる目標を達成するために、以下の点を踏まえて、個別指導及び集団指導を有機的に教育課程として編成します。 1. 教育内容 博士（言語コミュニケーション文化） 個別指導（個別研究指導）と集団指導（リサーチセミナー）により、博士論文執筆を目指し、自立した研究者を育成することを目的とする。 ア　独創的な知見を基にした優れた博士論文を仕上げるため、研究対象関連分野に対する横断的・総合的視野を持ち、言語コミュニケーション文化の研究者として独り立ちできるよう、個別研究指導を設置している。 イ　言語科学、言語文化学、言語教育学、日本語教育学の4領域を統合した言語コミュニケーション文化の観点から、横断的・総合的に研究を推進できるよう、3名の教員からなるアドバイザリー・コミッティが集団指導を行う、リサーチセミナーを設置している。	有・無
学生の受け入れ方針（AP）	変更の有無
博士課程前期課程 言語コミュニケーション文化研究科は、高度な言語コミュニケーション能力を備え、建学の精神に基づく豊かな人間性と国際的視野をもった、高度の学問的専門性を備えた人材を輩出し、社会に貢献することを理念としています。その理念を実現するために、前期課程では次のような人材を求め、入学試験要項に定める試験科目を設定し、入学者選抜を行います。 ・ 高度なコミュニケーション能力を身に付け、研究やビジネスにおいて国際的に活躍したいと考えている人 ・ 異文化理解をベースとしたグローバルな視野を持ちたいと考えている人 ・ 国際的に活躍できる英語および日本語教員を目指している人	有・無

・言語の実態を研究する言語科学、各言語（英語、フランス語、ドイツ語、中国語など）の背景にある文化を研究する言語文化学、実践的な言語教育方法を探求する言語教育学、外国語としての日本語教育を探求する日本語教育学の研究をしたいと考えている人 博士課程後期課程 言語コミュニケーション文化研究科は、高度な言語コミュニケーション能力を備え、建学の精神に基づく豊かな人間性と国際的視野をもった、高度の学問的専門性を備えた人材を輩出し、社会に貢献することを理念としています。その理念を実現するために、後期課程では次のような人材を求め、入学試験要項に定める試験科目を設定し、入学者選抜を行います。 ・言語コミュニケーション文化に関する専門領域において、広く深い知識、研究を進める上で必要な技能、高度な言語運用能力を身に付け、研究やビジネスにおいて国際的に活躍したいと考えている人 ・言語コミュニケーション文化に関する専門領域において、急速に国際化や情報化が進む社会に対応できる、専門的かつ学際的な思考力や判断力、研究成果を世界へと発信するに十分な表現力を身に付け、国際的に活躍できる英語および日本語教員を目指している人 ・言語コミュニケーション文化に関する専門領域において、先端的研究テーマを設定し、先行研究を踏まえつつ、自ら調査や実験・分析を行い、独創的研究をしたいと考えている人	
学生支援に関する方針	変更の有無
修学、生活および進路にかかわる問題をかかえる大学院生に対して、研究科執行部や各指導教員を中心とした教員および職員が連携して支援を行う。 修学支援 FD研修会において、本研究科のカリキュラム構成、授業内容、教授法、設備、施設、および本研究科で運営する言語コミュニケーション文化学会とその関連行事に関して学生の意見を聴取し、教員との間で議論を交わすことによって、本研究科における教育・研究環境の全般的改善に結びつける。 生活支援 教職員との相談を希望する学生に対し、面談等を通して問題解決のための支援を行う。相談内容によっては、保健館、キャンパス自立支援室、学生支援相談室への橋渡しを行い、それら機関と連携しながら学生対応を行う支援体制を構築している。また、学内外の奨学金制度を学生へ周知し、学生がより多くの経済的支援の機会を得られるよう支援している。 進路支援 希望する学生に対し、指導教員を中心とした教員および職員が相談を受ける等の支援を行っている。特に、後期課程進学希望者に対しては、研究領域や分野などを踏まえた適切なアドバイスできる体制を構築している。また、必要に応じてキャリアセンターの機能や主催イベントを紹介し、学生が幅広い視野で自身の進路を考えられるよう支援している。	有・(無)
教員像	変更の有無
研究の学際性に関心をもち、「言語コミュニケーション文化」研究および教育の実践に寄与できる教員	有・(無)
教員組織の編制方針	変更の有無
・幅広い教育のために教員の研究分野が偏らないこと ・教育研究の活性化を図るために若手教員を任用すること ・男女共同参画の推進のために女性教員を積極的に任用すること	有・(無)

2. 言語コミュニケーション文化研究科のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学位授与数 (M・D・P)	修士、博士、修士(専門職)の学位授与数 (※乙号除く) 「大学基礎データ」	授与する学位数が多いほど○ (人)	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M 非公表 D 非公表	M D	M D
就職・進路決定率 (M)	就職・進路決定率 「キャリアセンター統計資料」	(就職+自営+就労継続)/(修了者ー進学者)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
博士後期課程への進学者数 (M)	進学者数 「キャリアセンター統計資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
日本学術振興会 特別研究員数(新規) (D)	特別研究員のうち、当該年度の新規採用者 「研究推進社会連携機構資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
研究者輩出数(D) (将来)			現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(2)研究科独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
中学校専修免許状(英語科)・高等学校専修免許状(英語科)取得者数	教育職員免許状一括申請による免許状取得者数	取得者数が多いほどよい。	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
スターリング大学ダブルディグリーコース修了者数	スターリング大学との海外交流協定に基づく「スターリング大学ダブルディグリーコース」修了者数	修了者が多いほどよい	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
日本語教師養成課程修了者数	日本語教育学プログラム終了者数	修了者数が多いほどよい。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
日本学ダブルディグリーコース修了者数	中国協定大学4校(北京第二外国語学院、南京大学、湖南大学、西安外国語大学)との海外交流協定に基づく「日本学ダブルディグリープログラム」の修了者数	修了者が多いほどよい	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」～「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5 段階評価のうち「満足」と回答した比率(%)					
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC 年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定7項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く7項目対して A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
				非公表	非公表		

(4)認証評価に関するKPI

KPI	定義	基準	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
収容定員充足率	当該年度 5 月 1 日時点の収容定員に対する在籍学生数の割合 大学基礎データ表2	在籍学生数/収容定員(%) ※認証評価上(大学基準協会)は、 (M)0.50i 以上 (D)0.33 以上 を適切性の目安としている。		非公表	非公表		

提出日：2025 年 12 月 18 日
司法研究科

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜司法研究科＞教学改善シート

研究科における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
2026 年実施の司法試験が CBT 化されることに伴い、学生の PC による回答への「慣れ」を考慮して、本研究科での各種試験も早急に CBT 化する必要がある。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
専門職大学院（法科大学院）としての本研究科のカリキュラムは、大学で普通に学習してきた新入生にとっては適応にやや時間を要する場合も少なくはない。学部との接続性という観点からは、特に 1 年目でつまずくことがない様に、精神面も含め多面的にサポートを進める必要がある。	
3. 学生の受け入れ（学生募集、入学者選抜、定員管理）に関する現状分析・課題	改善状況
2025 年度より法曹養成連携プログラムの新カリキュラムがスタートしており、現法学部 2 年生の受講生の質・モチベーションなどについては評価が高い。本研究科としては、このまま 2027 年度入試にて多くの優秀な入学者を確保するための方策を検討する必要がある。	
4. その他（学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題）	改善状況
キャレルやラウンジなど在学生の学習環境の改善を図るのはもちろんだが、近年では在学生数の増加に伴い、修了後1年を超える研修員にキャレルを割り当てることが難しい状態となりつつある。過去の実績に照らし、司法試験の合格実績を上げるためには、研究科と修了生との連携を強化する必要があるところ、修了後 1 年を超える研修員にも自習環境を確保することが課題となっている。	

1．司法研究科の理念、目的、各種方針

司法研究科の理念	変更の有無
司法研究科は、法曹三者という高度専門職業人の養成に特化した専門職大学院（法科大学院）として、専門的な知識を習得するとともに、豊かな人間性や責任感、高度な倫理観を養い、社会に貢献しうる法曹を養成することにより、21世紀の法曹界を支えていくことを理念とする。	有・(無)

司法研究科の目的	変更の有無
本研究科は、法曹三者という高度専門職業人の養成に特化した専門職大学院(法科大学院)として、Mastery for Service の精神を体現した人権感覚豊かな市民法曹として、現代社会の多様な法的ニーズに応えて、法曹と呼ぶにふさわしい良き仕事(Good Work)を遂行することができる高度の専門性と倫理的資質を備えた法曹を養成することを目的とする。	有・(無)

学位授与方針（DP）	変更の有無
3年（6学期間。なお、法学既修者については、2年・4学期間）以上在学し、「法律基本科目群」「実務基礎科目群」「基礎法学・隣接科目群」「展開・先端科目群」「特別演習科目群」の5つの科目群から、修了に必要な所定の単位を修得し、かつ「法律基本科目群」および「実務基礎科目群」の必修科目・選択必修科目の平均GPAが一定の基準を満たしていることを修了要件としている。なお、1年次から2年次、および2年次から3年次への進級に際しては、「法律基本科目群」および「実務基礎科目群」の必修科目の平均GPAを基準にした進級制度を設けている。これら5つの科目群の学修を通して、厳格な成績評価のもと、法曹に求められる最低限の法に関する専門知識と、それをもとにした体系的な法的思考能力、創造的・批判的な法的思考能力、事例の分析能力を身につけた者に、法務博士の学位を授与する。	有・(無)

教育課程の編成・実施方針（CP）	変更の有無
基礎から応用へ。実定法を中心とした法の基本知識の修得、その理解の深化、実務の基本知識の修得、そして総合的学修、展開･先端科目の学修へ。このような段階的学修のために、独自のカリキュラムを用意し、司法ニーズに的確に対応できる、幅広い教養と人間性を身につけた法曹を養成する。最終年次のカリキュラムは、一人ひとりの自主性を尊重した自由度の高いものとなっており、それぞれの目標に応じた学びを実現することができる。原則としてセメスター制を採用し、集中的に学修する。 まず、1年次では、法律の基本的な知識の修得を目的とした法律基本科目を必修科目として配置するとともに、幅広い教養と豊かな人間性を養うことを目的として基礎法学･隣接科目群を配置している。また、少人数で行う基礎演習を設け、導入教育を行う。次に、2年次では、法律基本科目の他、その発展として、各実定法の演習科目を必修科目の要とし、重要論点を双方向のケースメソッドなどで学修することにより、当該法律についての理解をより深めていく。また、実務基礎科目群は、ロースクール教育の柱の一つである「実務教育の導入部分」を担い、修得した基本的知識をもとに法曹としての責任感･倫理観を涵養する。現実と触れ合う科目を幅広く設置することにより確実な実務基礎の修得を図り、エクスターンシップ、ローヤリング、クリニックなどにより実務的感覚を体得する。さらに、展開･先端科目群は、法曹としてどのようなフィールドに進むのかを発見したり、すでに関心のある専門領域を持っている者の基礎的教育を目的としている。「企業法務科目」「国際関係科目」「現代社会と法関係科目」「政策法務科目」という4つの領域に配置された科目は網羅的であり、現代の各領域における問題点を取り扱う。最後に、3年次では、法律基本科目について総合的な学修を行う。また、少人数で行う特別演習を設け、思考力、論理力、表現力などの養成を行う。	有・(無)

学生の受け入れ方針（AP）	変更の有無
関西学院大学ロースクールは、スクール・モットー“Mastery for Service（奉仕のための練達）”のもとに高度専門職業人の養成に特化した専門職大学院（法科大学院）であって、人権感覚豊かな、かつ、現代社会の多様な法的ニーズに応える市民法曹として、法曹にふさわしい良き仕事（Good Work）を遂行できる人材の養成を目的とする。この目的の達成をめざし、広い専門知識と深い洞察力、豊かな人間性と強い責任感、高度な倫理観を育成し、社会に貢献する法曹を養成するため、次のような人物を求める。 1. ロースクールにおいて必要とされる論理的思考力、分析力および表現力を有する者。 2. 幅広い分野において顕著な活動を行った者や、専門的な能力、資格を有するなどで、将来法曹となった時にその特長を十分に活かし社会に寄与する活動が期待できる者。 3. 出身学部にかかわらず、ロースクールにおいて必要とされる法学の基本的な学識を有する者。	有・(無)
学生支援に関する方針	変更の有無
学生の学修を支援するための人的及び物的支援体制は相当程度整備されている。人的支援体制として、法科大学院事務室職員を中心として、その他教務補佐、資料室職員などによる授業関連業務、教育・研究補助業務、レファレンス業務などについて充実した体制がとられている。 **修学支援** 在学生の学修支援のために、まず各教員の担当（担任）制度が設けられている。また、各教員はオフィスアワーを通じて学生の相談・指導に当たっている。その他、本学修了生がアカデミックアドバイザーとして在学生の学修を支援している。入学予定者については、入学前ガイダンスやオリエンテーションを通じてロースクール生活を円滑にスタートできるよう配慮している。 **生活支援** 経済的な不安や困難を軽減し学生生活を経済的に支援する奨学金制度を充実させている。A日程入試合格者には学費全額相当額を支給し、それ以外の入学生についても全額相当または半額相当の奨学金を支給している。また、標準修業年限内の学生全員に対して、最低でも国立大学法科大学院の学費との差額に相当する奨学金が与えられることになっている。なお、これらの奨学金については返還義務がない。その他、キャンパスハラスメントの相談窓口を設け、精神面でのカウンセリング体制は総合支援センターとの連携により整備・充実を図っている。 **進路支援** 担任教員との相談の他、法科大学院修了後の進路選択・就職についてはキャリアガイダンスを年数回実施し、キャリアについて考える機会と情報を提供している。また民間企業と提携することで、専任コンサルタントが週1日常駐し、ロースクールでの学びを活かしたキャリア形成や就職活動に関するアドバイスを1対1で行う「キャリアコンサルティング」や、主に修了生を対象としたインターンシップ（企業法務部）を実施している。	有・(無)
教員像	変更の有無
法科大学院においては、理論と実務を架橋する高度の法学専門教育を行うために必要な能力があると認められる専任教員像が求められる。そのためには、教育上の経歴・経験及び理論と実務を架橋する教育を行うのに必要な研究業績や実務上の実績をもった教員であることが必要である。	有・(無)
教員組織の編制方針	変更の有無
法科大学院の教育に必要な教育能力を有する教員確保に向けて継続的な編制方針で臨んでいる。具体的には、教員の年齢構成やジェンダーバランスに配慮し、専任教員の退職やみなし専任教員の退職・任期更新に備えて、将来の採用計画を検討し、策定している。	有・(無)

2. 司法研究科のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学位授与数 (M・D・P)	修士、博士、修士(専門職)の学位授与数 (※乙号除く) 「大学基礎データ」	授与する学位数が多いほど○ (人)	P 非公表	P 非公表	P 非公表	P 非公表	P 非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			P 非公表	P 非公表	P 非公表	P	P
就職・進路決定率 (M)	就職・進路決定率 「キャリアセンター統計資料」	(就職+自営+就労継続)/(修了者ー進学者)	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			―	―	―	―	―
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			―	―			
博士後期課程への進学者数 (M)	進学者数 「キャリアセンター統計資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			―	―	―	―	―
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			―	―			
日本学術振興会 特別研究員数(新規) (D)	特別研究員のうち、当該年度の新規採用者 「研究推進社会連携機構資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			―	―	―	―	―
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			―	―			
研究者輩出数(D) (将来)			現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			―	―	―	―	―
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			―	―			

(2)研究科独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
司法試験合格率	修了後1年以内での司法試験合格率。 以下の数式で算出される。 ※2018 年度実績(2018 年9月現在) A:受験者数(16 名) …2017 年度修了者のうち、 2018 年司法試験受験者数 ※2017 年度修了者(16 名) (2017 年9月修了者+2018 年3月修了者) B:合格者数(4名) …Aのうち 2018 年司法試験合格者数 【 B ÷ A ＝ 25% 】	合格率が高いほど良い。	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
標準修業年限修了率	標準修業年限で修了した者の割合。 以下の数式で算出される。 ※2018 年度実績(2019 年3月現在) 2017 年度入学者のうち A:法学既修者入学者数(11 名) B:Aのうち標準修業年限修了者数(5名) 2016 年度入学者のうち C:法学未修者入学者数(12 名) D:Cのうち標準修業年限修了者数(4名) 【〔 B+D 〕÷〔 A+C 〕＝ 39% 】 ※司法研究科における標準修業年限 法学未修者:3年間 法学既修者:2年間	修了率が高いほど良い。	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

(3)学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 (「満足」～「不満」の5段階評価) 卒業時調査	5 段階評価のうち「満足」と回答した比率(%)	―	―	―	―	―
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			―	―			
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC 年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境(特定 7 項目)に対して、あなたはどのように思いますか。 (「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価) IR 卒業生調査	「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く7項目対して A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」 と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			―	―	―	―	―
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			―	―			

(4)認証評価に関するKPI

KPI	定義	基準	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
収容定員充足率	当該年度 5 月 1 日時点の収容定員に対する在籍学生数の割合 大学基礎データ表2	在籍学生数/収容定員(%) ※認証評価上(大学基準協会)は、 (M)0.50i 以上 (D)0.33 以上 を適切性の目安としている。		非公表	非公表		

提出日：2025 年 12 月 10 日

経営戦略研究科（博士課程後期課程、専門職学位課程）

2025 年度 大学内部質保証会議 ＜経営戦略研究科（博士課程後期課程、専門職学位課程）＞教学改善シート

研究科における課題の整理（2026 年 3 月時点）	左記に挙げた課題の改善状況（2027 年 3 月時点）
1. 教育課程、教育方法、学生の学習成果に関する現状分析・課題	改善状況
【博士課程後期課程】 2024 年度より取り組んでいる博士学位申請論文作成・提出プロセスの適正化のため、2026 年度提出者より履歴書・研究業績書の事前提出を課すとともに、研究業績の評価基準の整理・定義づけを行うとともに、「博士（先端マネジメント）に関する内規」の一部改正を行った。今後これらを学生、博士学位申請論文提出者、指導教員が着実に履行できるよう学位申請論文提出までのガイドラインを作成し、安定的に質の高い学位授与者輩出を目指す。 **【専門職学位課程】** **［経営戦略専攻］** ・2026 年度より、企業経営戦略コースにおいて、カリキュラムを改正する。その教育効果を授業評価アンケート結果及び「課題研究」の指導の中で検証する。また、この改正の学生募集への影響について検証する。 ・2024 年度に受審した分野別認証評価において、「成績評価の分布がＡ評価以上（素点において 85 点以上）に偏りがある」との指摘を受けている。 **［会計専門職専攻］** ・「税理士試験税法科目２科目免除」を実現するため、2026 年度よりカリキュラムを改編し、「企業法」分野を、「企業法」分野と「租税法」分野に分け、租税法分野のコア科目を整理するとともに、コア科目とベーシック科目にそれぞれ科目を新設し、同分野の充実を図る。 ・修了生の質を担保するため、科目群の偏りなく、かつ順序立てて履修することにより学修効果をあげることができるよう次のとおり 2026 年度より教育課程を整備する。 ①現行のベーシック科目群・アドバンスト科目群の修了要件（単位数）は２つの科目群一体で 24 単位となっているが、ベーシック科目群は相対評価、アドバンスト科目群は絶対評価であり、科目群で成績評価方法が異なるため 2026 年度よりベーシック科目群 10 単位、アドバンスト科目群 14 単位とする。 ②財務会計分野の「簿記原理」について、会計について専門的な学習を行う前段階の内容であることから、2026 年度よりこれを修了単位外とし、新たに設けた導入科目群に配置する。また、コア科目群の科目名称・レベルを整理する。 ・2026 年度より税理士試験科目免除の論文指導科目は「財務会計論文指導」「租税法論文指導」の２科目となる。「財務会計論文指導Ⅰ～Ⅳ」は従来２名の教員が担当してきたが、うち１名が 2026 年度末で退職となるため、2026 年度は「財務会計論文指導Ⅰ・Ⅱ」の担当者は１名となる。新設の「租税法論文指導」については、2026 年度より新任教員１名が担当する。	
2. 学生支援（修学支援、生活支援、進路支援）に関する現状分析・課題	改善状況
博士課程後期課程、専門職学位課程ともに、後述の「学生支援に関する方針」に記載のとおり、適切に研究科としての支援を行っている。また必要に応じて、関係部局との連携を取っている。	

3. 学生の受け入れ(学生募集、入学者選抜、定員管理)に関する現状分析・課題	改善状況

【博士課程後期課程】

2019～2021 年度のピーク時を境に、2022 年度以降志願者数・合格者数が減少傾向にあり、2027 年度より入学定員を６名から４名に変更する。

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
入学定員	4	4	4	6	6	6	6
志願者数	23	24	16	10	6	4	2
合格者数	11	11	9	5	4	3	0
入学者数	10	10	9	4	4	3	0

【専門職学位課程】

［経営戦略専攻・企業経営戦略コース］

経営戦略専攻企業経営戦略コースは、いわゆるビジネススクールの既存６つのプログラムと中小企業診断士養成プログラム（中小企業診断士登録養成課程・募集人員 16 名）から成る。既存６つのプログラムと中小企業診断士養成プログラムを合わせて考えた場合、募集人員充足率は、2023 年度は 108.6%、2024 年度は 118.6%、2025 年度は 111.2%であった。ただし、既存６つのプログラムと中小企業診断士養成プログラムを分けて考えた時、中小企業診断士養成プログラムは 2023・2024・2025 年度の募集人員充足率が 100.0%であるのに対し、既存６プログラムの充足率は 2023 年度が 85.7%、2024 年度が 95.7%、2025 年度が 90.0%である。既存６プログラムの充足率向上を目指す。

［経営戦略専攻・国際経営コース］

2024 年度に受審した分野別認証評価において、入学試験実施プロセス全般において、評価・採点基準の客観性の担保が不十分であるとの指摘を受けた。これを受け、書類審査・面接審査における評価・採点基準、及び「経営戦略研究科入学試験　選考（「書類審査」・「面接」・「筆記試験」）実施要領」を改定し、2025 年度秋学期実施入試から適用している。また、学修に必要な能力の保持を客観的に確認できるよう、①各入試方式の試験科目を見直し、2027 年度春学期入学試験よりＢ方式においてオンライン面接を実施、②2027 年度春学期入学試験以降全ての受験生に対し Language Proficiency の出願要件化、③②に伴い 2027 年度入学生よりアドミッション・ポリシーを変更することを決定した。なお、①のオンライン面接については、本コース入試に合わせてカスタマイズしたシステムを導入し実施する。

［会計専門職専攻］

会計専門職専攻の入学定員充足率は 2023 年度が 122.0%、2024 年度が 152.0%、2025 年度 142.0%である。2026 年度より税理士試験税法２科目免除の申請に必要となる論文指導科目の新設と税法科目の増設を行うが、このことが志願動向にどのように影響するか注視していく必要がある。2026 年度の入試結果を分析し、2027 年度以降の入学試験実施日程及び「『財務会計論文指導』、『租税法論文指導』の履修に係る学力考査［論述試験］」の実施日程を検討する。また、論文指導科目履修の可否判断の要件についても検討する。

4. その他(学生の学習環境、教員の教育研究環境、国際化、社会連携/社会貢献等に関する現状分析・課題)	改善状況

【博士課程後期課程】

特になし

【専門職学課程】

引き続き、受託研修やセミナーの実施、履修証明プログラムの実施に取り組み、本研究科のプレゼンスの向上に努める。

1. 経営戦略研究科(博士課程後期課程)の理念、目的、各種方針

経営戦略研究科(博士課程後期課程)の理念	変更の有無
経営戦略研究科博士課程後期課程先端マネジメント専攻は、先端的なビジネスの問題を解決することに注力しながら、理論的な研究と実践性のある応用研究の双方を推進することを理念とする。これを実現するために、企業や行政機関との連携を重要視し、理論的研究の水準を高めると共に、実証性の高い研究が可能になる基盤を確立する。その結果として、実践的課題と理論的課題を融合させることで高い研究成果を生み出す。	有・~~無~~
経営戦略研究科(博士課程後期課程)の目的	変更の有無
経営戦略研究科博士課程後期課程先端マネジメント専攻は、社会との関係を重要視しながら、応用性の高い研究に積極的に取り組む。研究分野の中心は経営学である。企業や地方自治体などの行政機関も含めたマネジメントに関わる問題を幅広く扱い、実践の中から得られる様々な知見を理論的に解明するとともにそれらの応用性を高めることに力点を置く。	有・~~無~~
学位授与方針(DP)	変更の有無
先端マネジメントに関わる諸領域において、先行研究や実社会での事象を十分に踏まえつつ、高度な分析手法と優れた考察、並びに独創的な知見に基づき、博士学位申請論文を作成・提出し、その審査に合格した者に対し、「博士(先端マネジメント)」の学位を与えます。	有・~~無~~
教育課程の編成・実施方針(CP)	変更の有無
3年以上在学し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び総合学力認定試験に合格することを修了要件としています。また、研究指導教員の判断と学生の研究計画に応じて、授業科目の「先端マネジメント特殊研究」を受講することとしています。以下にその研究指導の過程を示します。 (1)1年次 「博士論文研究準備計画書」の作成、該当分野の基礎文献研究、主題に関わる研究分野の指導を受けます。また、関係分野の優れた内外の学術文献を多量に講読します。 (2)2年次 博士論文の準備を推進するため、研究の目的・対象・方法論を明確にする指導を受け、学問的な研究の指導と共に、マネジメントの実際の理解を深め、実証的な研究を通じてそれを理論化する研究指導を受けます。「博士論文研究中間報告書」を提出し、2年次の終了時には、「総合学力認定試験」を受験します。 (3)3年次 博士論文の完成に向けて、論文の構成・体系等枠組みの検討、実証性の確認、導かれる結論の検証など、最終的に論文を完成させるための研究指導を受け、研究成果を公開形式で報告し、博士論文を提出します。	有・~~無~~
学生の受け入れ方針(AP)	変更の有無
経営戦略研究科博士課程後期課程先端マネジメント専攻は、研究者の養成のみに主眼を置かず、応用性の高い研究にも積極的に取り組み、実社会との関係及び実社会への貢献を重視しています。研究分野の中心は経営学です。企業や公的機関も含めたマネジメントに関わる問題を幅広く扱い、実践の中から得られる様々な知見を理論的に解明するとともに、それらの応用性を高めることに力点を置いています。 入学試験では、学力並びに精緻なリサーチ及び優れた分析に基づき実社会に資する研究を行う意欲を総合的に審査します。	有・~~無~~
学生支援に関する方針	変更の有無
学生が博士学位取得に向けて研究に専念できるよう、指導教員を中心に学生の就学支援、生活支援、進路支援に関する相談・助言を行う。 修学支援 教学・研究面については、主に指導教員が相談対応を行う。指導教員以外の教員についてもメールアドレスを公開してメール相談しやすい体制を整備している。博士学位申請論文提出プロセス・諸手続については、指導教員による指導とともに、事務室スタッフがカウンターでの直接対応やメールでの対応を行っている。休学・退学等については、事務室学籍担当者から適宜学生本人に連絡・確認を行うとともに、必要に応じて教員による個別面談も実施している。 また、英語による博士学位申請論文の審査も積極的に行っており、意欲ある外国人留学生に広く門戸を開いている。さらに、研究発表を行う場合の学会参加の旅費補助、コピー代補助、研究科発行紀要への投稿権付与、大学図書館購入図書の選書、アンケート調査実施時の封筒補助などの、個々の研究活動に対する支援を行っている。 生活支援 事務室に外国人留学生のサポートを主たる業務とする職員を配置するとともに、国際連携機構と連携を取りながら、入学前(受験段階)から、外国人留学生の支援を行っている。 進路支援 学位取得プロセスを明示するとともに、指導教員を中心に論文提出の要件を早く満たせるよう指導している。 また、研究科研究員(博士学位取得後本務に就いていない者)や大学院研究員(満期退学者)への本研究科施設の利用許可や研究指導を行っている。	~~有~~・無
教員像	変更の有無
専門分野における自らの研究課題に真摯に取り組むことにより学術研究並びに社会の発展に寄与するとともに、研究者あるいは専門家の育成にも真摯に取り組む姿勢を持つ。同時に組織の継続・発展のために、研究科の運営にも積極的に関わり、また多くの教職員と協働・連携して課題に取り組む姿勢を持つ。	有・~~無~~
教員組織の編制方針	変更の有無
「博士課程後期課程指導教員・補助教員への任用手続き」「経営戦略研究科博士課程後期課程指導教員・補助教員への推薦基準」に則り、学生や社会のニーズに対応できる教育課程・研究成果を保証できるよう、専門分野・教育研究業績や学位取得状況などを勘案して、教員の編成を行う。また、ジェンダーバランスも含めてダイバーシティにも配慮する。	有・~~無~~

2. 経営戦略研究科（博士課程後期課程）のKPI

（1） 学修成果に関するKPI

（1）学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学位授与数 （M・D・P）	修士、博士、修士（専門職）の学位授与数（※乙号除く） 「大学基礎データ」	授与する学位数が多いほど○ （人）	M ー D 非公表	M ー D 非公表	M ー D 非公表	M ー D 非公表	M ー D 非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			M ー D 非公表	M ー D 非公表	M ー D 非公表	M ー D	M ー D
就職・進路決定率 （M）	就職・進路決定率 「キャリアセンター統計資料」	（就職+自営+就労継続）/（修了者ー進学者）	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			ー	ー	ー	ー	ー
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			ー	ー	ー	ー	ー
博士後期課程への進学者数 （M）	進学者数 「キャリアセンター統計資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			ー	ー	ー	ー	ー
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			ー	ー	ー	ー	ー
日本学術振興会 特別研究員数（新規） （D）	特別研究員のうち、当該年度の新規採用者 「研究推進社会連携機構資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			0 人	ー	ー	ー	ー
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			0 人				
研究者輩出数（D） （将来）			現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

（2）研究科独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
在学生の一人当たりの国際学会での発表回数	在学生 1 人当たりの国際学会での当該年度発表数	当該年度の国際学会発表数／在学生数	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
在学生一人当たりの査読付論文の採択数	在学生1人当たりの当該年度に採択された査読付き論文数	当該年度に採択された査読付論文数／在学生数	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

（3）学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 （「満足」～「不満」の5段階評価） 卒業時調査	5 段階評価のうち「満足」と回答した比率（%）					
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC 年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境（特定 7 項目）に対して、あなたはどのように思いますか。 （「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価） IR 卒業生調査	「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く7項目対して A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」 と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

（4）認証評価に関するKPI

KPI	定義	基準	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
収容定員充足率	当該年度 5 月 1 日時点の収容定員に対する在籍学生数の割合 大学基礎データ表2	在籍学生数/収容定員（%） ※認証評価上（大学基準協会）は、 （M）0.50i 以上 （D）0.33 以上 を適切性の目安としている。		非公表	非公表		

3. 経営戦略研究科（専門職課程）の理念、目的、各種方針

経営戦略研究科（専門職課程）の理念	変更の有無
経営戦略専攻 　欧米では高度な専門職種としての経営に携わる人材を養成するためにビジネススクールが設置されており、アジアにおいても多数設置されている。我が国においても日本版ビジネススクールに対する期待は大きく、日本企業のグローバル化と人材のグローバル化を背景に、ビジネスを科学的、客観的に研究し専門的な知見をもとにして教育する大学院への期待はますます高まっている。こうした要請に応えるために、経営戦略専攻は、「日本型のマネジメントとグローバルな視点からのマネジメントの高度な専門性の水準での融合」を設立の理念としている。 会計専門職専攻 経済活動の高度化、複雑化、グローバル化が進み、会計の社会的重要性が高まっている現在、職業会計人は、量的な拡大と質的な向上が求められている監査証明業務の担い手として、あるいは、多様化の一途をたどる会計業務や租税業務の担い手として、経済社会における重要な役割を担うことが強く求められている。また、会計と監査に対する社会的な期待は、民間部門のみならず政府や地方自治体などの公的部門からも大きくなっており、これらに対応できる職業会計人の養成が、重要な課題になっている。会計専門職専攻では、「グローバルスタンダードな視野と高度な理論に基づく、実践的実務家教育」を理念に、こうした社会的要請に応える職業会計人を養成する。	有・�無

経営戦略研究科（専門職課程）の目的	変更の有無
経営戦略専攻 　企業経営戦略コースは、現在企業で働いている職業人を対象に、主に夜間と週末でのコースワークと「課題研究」等の演習によって、グローバル化した日本のビジネス環境に合致した高度職業人の育成を目指す。一方、国際経営コースは、活躍するフィールドを日本以外にも求めるビジネスパーソンのために、ビジネスの知識に加えて外国語、特に英語でビジネスを遂行する能力を高めることを目指している。 　したがって、本専攻に設置される「企業経営戦略コース」、「国際経営コース」では、国際社会に通用する MBA教育を行い、ケーススタディ、グループワークなどを通じて、学生の意思決定能力を高めることを目的とする。 会計専門職専攻 本学の会計教育・研究の中心は、1912 年（明治 45 年）の高等学部商科開設以来、一貫して米国型の会計を基礎とするものであり、その伝統と教育・研究水準の高さは、広く知られている。これまで財務会計、国際会計、管理会計、監査、環境会計、公会計の領域で多くの教育・研究者を世に送り出してきた。今後は、国際会計士連盟（International Federation of Accountants: IFAC）の国際教育基準 （International Education Standards: IES）が要求する内容を尊重して、グローバルな視野をもって世界に貢献し得る職業会計人を育成することが使命であり、「国際的なレベルで世界に貢献し得る職業会計人を養成する」ことを目的とする。	有・�無

学位授与方針（DP）	変更の有無
経営戦略専攻 MBA教育を行う「経営戦略専攻（ビジネススクール）」では、以下の資質・能力を持った学生に「経営管理修士（専門職）」の学位を与えます。 　①スクールモットーであるMastery for Service（奉仕のための練達）のスピリットを体現する高い職業倫理観を持ち、グローバルに活躍できる能力 　②科学的な視点をもって専門知識を駆使する能力 　③企業経営戦略コースの場合には、自らの業務に結びついた問題を発見・解決する能力［企業経営戦略コースのみ］ 　④グローバルなビジネスシーンで活躍できる英語能力［国際経営コースのみ］ 会計専門職専攻 職業会計人を養成する「会計専門職専攻（アカウンティングスクール）」では以下の資質・能力を持った学生に「会計修士（専門職）」の学位を与えます。 　①スクールモットーである Mastery for Service（奉仕のための練達）のスピリット 　②国際経済社会の健全な発展に寄与する高い会計倫理観 　③会計に関する国際的な教育基準に従った知識およびグローバルな視野を持ち、世界に貢献し得る能力 　④会計専門職専攻が育成する職業会計人には、企業や官公庁において専門家として会計実務に携わる人たちをも包含しています。	有・�無

教育課程の編成・実施方針（CP）	変更の有無
経営戦略専攻（ビジネススクール） ［2025年度以前入学生］ 　経営戦略専攻では、グローバル化する経済活動に適切に対応できる多様な知識と分析能力を備えたビジネスパーソンの養成を目指しています。本専攻には2つのコースを設置しています。1つは、企業、および公共事業体で働く社会人を対象に高度なビジネス教育を行う企業経営戦略コースです。そしてもう1つは、主に大学新卒者と外国人留学生を対象に英語でMBA教育を行う国際経営コースです。いずれも非営利組織も含めたグローバルなビジネスシーンで必要となる知識・スキルを基礎から段階的に修得できるカリキュラムを採用しています。更に、両方のコースの学生が共に意見を英語で交換し、議論するハイブリッド科目も提供しています。 　企業経営戦略コースでは、以下の7つのプログラム（主専攻）を提供しており、ジェネラリストキャリア（経営全般の知識・スキルを持つ者）として経営プログラム、テクノロジー・マネジメントプログラム、アントレプレナー・事業承継プログラム、自治体・医療・大学経営プログラム、中小企業診断士養成プログラムが、スペシャリストキャリア（特定の経営領域に特化した知識・スキルを持つ者）として、マーケティングプログラムとファイナンスプログラムがあります。 　国際経営コースでは、国際ビジネスで必要とされるマネジメントプログラム、マーケティングプログラム、ファイナンスプログラム、グローバル・パブリック・マネジメントプログラム、ファミリー・ビジネス・マネジメントプログラムの5つのプログラム（主専攻）を提供しています。学生の実務経験が不十分であることを考慮し、具体的なテーマを取り上げたケーススタディやグループワーク、インターンシップなど、実践的な授業を通し、ビジネスの現場で不可欠な意思決定の能力を養成します。 　いずれのコースも科目体系は、コア科目群（経営学の学習のインフラ部分となる科目）、ベーシック科目群（各プログラムの入り口科目とすべてのプログラムの基本となる科目群であり、主として経営分野の内容を学習する科目と内容を学習するための思考ツール的な科目から構成）、そして各プログラムの専門的な内容を学習するアドバンスト科目群から構成されています。 　本学のスクールモットーである“Mastery for Service”（奉仕のための練達）を理解するために企業倫理・Business Ethics（コア科目）が必修科目となっています。また課題研究・Individual Research（アドバンスト科目）は2年間の学習の集大成として「現場と理論」を架橋するテーマのもとで深い研究が行われます。	㊔・無

［2026年度以降入学生］
経営戦略専攻では、グローバル化する経済活動に適切に対応できる多様な知識と分析能力を備えたビジネスパーソンの養成を目指しています。本専攻には2つのコースを設置しています。1つは、企業、および公共事業体で働く社会人を対象に高度なビジネス教育を行う企業経営戦略コースです。そしてもう1つは、主に大学新卒者と外国人留学生を対象に英語でMBA教育を行う国際経営コースです。いずれも非営利組織も含めたグローバルなビジネスシーンで必要となる知識・スキルを基礎から段階的に修得できるカリキュラムを採用しています。更に、両方のコースの学生が共に意見を英語で交換し、議論するハイブリッド科目も提供しています。
企業経営戦略コースでは、以下の7つのプログラム（主専攻）を提供しており、ジェネラリストキャリア（経営全般の知識・スキルを持つ者）として経営プログラム、テクノロジー・マネジメントプログラム、アントレプレナー・事業承継プログラム、公共・医療経営プログラム、中小企業診断士養成プログラムが、スペシャリストキャリア（特定の経営領域に特化した知識・スキルを持つ者）として、マーケティングプログラムとファイナンスプログラムがあります。
国際経営コースでは、国際ビジネスで必要とされるマネジメントプログラム、マーケティングプログラム、ファイナンスプログラム、ファミリー・ビジネス・マネジメントプログラムの4つのプログラム（主専攻）を提供しています。学生の実務経験が不十分であることを考慮し、具体的なテーマを取り上げたケーススタディやグループワーク、インターンシップなど、実践的な授業を通し、ビジネスの現場で不可欠な意思決定の能力を養成します。
いずれのコースも科目体系は、コア科目群（経営学の学習のインフラ部分となる科目）、ベーシック科目群（各プログラムの入り口科目とすべてのプログラムの基本となる科目群であり、主として経営分野の内容を学習する科目と内容を学習するための思考ツール的な科目から構成）、そして各プログラムの専門的な内容を学習するアドバンスト科目群から構成されています。
本学のスクールモットーである“Mastery for Service”（奉仕のための練達）を理解するために企業倫理・Business Ethics（コア科目）が必修科目となっています。また課題研究・Individual Research（アドバンスト科目）は2年間の学習の集大成として「現場と理論」を架橋するテーマのもとで深い研究が行われます。

会計専門職専攻（アカウンティングスクール）
複雑化・多様化・国際化する経済環境のもと、企業や地方自治体における会計の専門的な担い手として、職業会計人が果たす役割と責任はますます増大しています。会計専門職専攻では、このような環境に対応できる高度な専門性、国際性と高い倫理観を持った職業会計人の育成を目指しています。
会計専門職専攻のカリキュラムは、広い分野について基本的な事項からより高度な知識と実務対応能力を身につけることができるように、専門分野の広がりの観点から横糸として財務会計、管理会計、監査、経営・経済、企業法の分野別科目群を置き、これらに深度の観点から縦糸として、コア科目群、ベーシック科目群、アドバンスト科目群を置いて、全体として100を超える科目を配置しています。このように広がりと深みを持って体系的に配置された科目には、国際性と倫理観を涵養するための科目が含まれています。
多くの公認会計士や税理士などの職業会計人を輩出してきた関西学院大学の伝統と実績に基づき、また、スクールモットーである“Mastery for Service”（奉仕のための練達）のスピリットに則って、最高水準の会計教育を提供することが会計専門職専攻の使命と考えています。なお、会計専門職専攻が育成する職業会計人には、企業や官公庁において専門家として会計実務に携わる人たちをも包含しています。

学生の受け入れ方針（AP）	変更の有無
経営戦略専攻 ［2026年度入学生まで］ 経営戦略専攻（ビジネススクール）は、その目標を「グローバルな視点から経営を科学するビジネスパーソンの養成」、「国際的な水準で、世界に通用するビジネスパーソンの養成」、「建学の精神に基づく高い職業倫理観を持ったビジネスパーソンの養成」としています。 企業経営戦略コースでは、原則として3年以上の実務経験を持つ社会人等を対象に、経営のプロフェッショナルの養成を目指しています。入学試験では、社会での実務経験を重視し、現場での様々な経験を通じてビジネスの諸問題・課題を理論的に解明しようとする強い意欲を持つ者を受け入れたいと考えています。こうした目標等に共感し、適合する者を選抜するために、基礎学力や意欲を総合的に審査します。 なお、企業経営戦略コースの「中小企業診断士養成プログラム」については、現場と理論の両方に精通するプロフェッショナリティーの高い経営コンサルタントの養成を目指し、中小企業診断士の第1次試験に合格し、本プログラムにおいて中小企業診断士資格の取得を目指す者を受け入れ対象としています。 国際経営コースでは、国際的に通用するビジネスパーソンの養成を狙いとし、入学試験では、国際社会に有為な人材を育成して送り出すため、その素質や基礎学力、意欲等を総合的に審査します。すべて英語により授業が行われるため、特に英語能力を重視します。大学院レベルの英語のみの授業に十分対応できる能力を持つことが必要です。入学試験においては、総合的な英語力が問われます（TOEFL-iBT：85 点以上・PBT：570 点以上・TOEIC：780 点以上・IELTS：6.0以上が一つの目安です）。 ［2027年度以降入学生］ 経営戦略専攻（ビジネススクール）は、その目標を「グローバルな視点から経営を科学するビジネスパーソンの養成」、「国際的な水準で、世界に通用するビジネスパーソンの養成」、「建学の精神に基づく高い職業倫理観を持ったビジネスパーソンの養成」としています。 企業経営戦略コースでは、原則として3年以上の実務経験を持つ社会人等を対象に、経営のプロフェッショナルの養成を目指しています。入学試験では、社会での実務経験を重視し、現場での様々な経験を通じてビジネスの諸問題・課題を理論的に解明しようとする強い意欲を持つ者を受け入れたいと考えています。こうした目標等に共感し、適合する者を選抜するために、基礎学力や意欲を総合的に審査します。 なお、企業経営戦略コースの「中小企業診断士養成プログラム」については、現場と理論の両方に精通するプロフェッショナリティーの高い経営コンサルタントの養成を目指し、中小企業診断士の第1次試験に合格し、本プログラムにおいて中小企業診断士資格の取得を目指す者を受け入れ対象としています。 国際経営コースでは、国際的に通用するビジネスパーソンの養成を狙いとし、入学試験では、国際社会に有為な人材を育成して送り出すため、その素質や基礎学力、意欲等を総合的に審査します。すべて英語により授業が行われるため、特に英語能力を重視します。 大学院レベルの英語のみの授業に十分対応できる能力を持つことが必要です。入学試験においては、入試要項に定める英語能力検定試験の基準点を満たす総合的な英語力が問われます。 会計専門職専攻 会計専門職専攻（アカウンティングスクール）は、その目標を「建学の精神に基づく高い職業倫理観を持った職業会計人の養成」、「国際的な水準で、世界に貢献し得る職業会計人の養成」としています。こうした目標とともに、国際会計士連盟（International Federation of Accountants：IFAC） の国際教育基準（International Education Standards：IES）が要求する内容を尊重して、グローバルな視野をもって世界に貢献し得る公認会計士等の職業会計人を育成することを使命としています。この目標や使命を達成するために、入学試験では、十分な基礎学力や意欲を備えた者を選抜します。	有・無

学生支援に関する方針	変更の有無
学生が勉学に専念できるよう、相談受付・助言などの支援体制の整備に努める。また、経営戦略専攻国際経営コースにおいては、留学生の支援体制を強化する。 修学支援 ・研究科の正式な授業実施形態を、完全対面授業、フルオンライン授業、ハイフレックス授業の3種としている。ハイフレックス授業の実施により、急な出張などにより授業に出席できなくなった履修者や要配慮学生の授業参加が可となっている。また、全ての科目において授業の録画を履修者に復習教材として引き続き提供する。 ・専任・任期制教員がオフィスアワーで相談対応を行うとともに、メールアドレスの公開も行っており、学生が相談しやすい体制を整備している。 ・履修については、事務室スタッフがカウンターでの直接対応やメールでの対応を行っている。 ・休学・退学等については、事務室学籍担当者から適宜学生本人に連絡・確認を行うとともに、必要に応じて副研究科長や研究科長補佐による個別面談を実施している。	有・無

経営戦略専攻 企業経営戦略コース：東京への転勤があっても勉学を続けることができるよう提携大学院との連携を図っている。 国際経営コース：英語運用能力のある教務補佐・教学補佐が外国人留学生のサポートに当たっている。 会計専門職専攻 教学上の諸問題に対応するため、担当教員制度を導入している。 生活支援 事務室に外国人留学生のサポートを主たる業務とする職員を配置するとともに、国際連携機構と連携を取りながら、入学前（受験段階）から、外国人留学生の支援を行っている。 進路支援 　キャリアセンターの利用を推進している。また、会計専門職専攻では、監査法人でのキャリア教育、及び企業等からの要請に応じて企業説明会を実施している。また、修了後5年を限度として、公認会計士試験を受験するための勉学のため、関西学院大学の教育研究施設を継続して利用できる「専門職大学院研修員」の制度を設けている。	
教員像	変更の有無
経営戦略専攻 企業経営戦略コース： 高い倫理観と、理論と実践の融合に基づき、グローバル化した社会で活かせる高度な専門教育と、実社会に資する研究に取り組む。 国際経営コース： 英語による実践的なMBA教育を行うとともに、海外の教育・研究者とのネットワークの強化に積極的に取り組む。 会計専門職専攻 理論と実務を架橋する高度専門的な教育を行えるよう、担当する専門分野について直近5年間における教育上または研究上・実務上の業績等を有する。	有・無
教員組織の編制方針	変更の有無
研究者教員と実務家教員の人数のバランス、各専攻・コースの核となる科目担当者を意識し、研究科の理念・目的、人材の養成に関する目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに照らして、専門分野、教育研究業績または実務家としての業績を厳正に審査し、ジェンダー・バランスも含めたダイバーシティにも配慮しながら、教員を各専攻・コースに適切に配置する。	有・無

4. 経営戦略研究科（専門職課程）のKPI

(1)学修成果に関するKPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
学位授与数 （M・D・P）	修士、博士、修士（専門職）の学位授与数 （※乙号除く） 「大学基礎データ」	授与する学位数が多いほど○ （人）	P 非公表	P 非公表	P 非公表	P 非公表	P 非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			P 非公表	P 非公表	P 非公表	P	P
就職・進路決定率 （M）	就職・進路決定率 「キャリアセンター統計資料」	（就職+自営+就労継続）/（修了者ー進学者）	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			－	－	－	－	－
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			－				
博士後期課程への進学者数 （M）	進学者数 「キャリアセンター統計資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			－	－	－	－	－
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			－				
日本学術振興会 特別研究員数（新規） （D）	特別研究員のうち、当該年度の新規採用者 「研究推進社会連携機構資料」		現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
研究者輩出数（D） （将来）			現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

(2)研究科独自KPI

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
〔経営戦略専攻企業経営戦略コース〕 収容定員充足率	募集人員の合計 140 名に対する在籍者数の割合 （毎年 5 月 1 日現在）	100%以上	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
〔経営戦略専攻企業経営戦略コース〕 出願率 【旧 C 票】	募集人員に対する志願者数	1.3 倍以上	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
〔経営戦略専攻企業経営戦略コース〕 授業満足度	授業評価アンケート項目 13「この授業は全般的に満足のいくものでしたか」のスコア（コースの全科目における平均値）	4.5 以上	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
〔経営戦略専攻国際経営コース〕 関西学院大学学部または他研究科出身者の数 【旧 C 票】	志願者のうち、関西学院大学学部または他研究科出身者数と総数	30%	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
〔経営戦略専攻国際経営コース〕 授業満足度	授業評価アンケート項目 13「この授業は全般的に満足のいくものでしたか」のスコア（コースの科目における平均値）	4.5 以上	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
〔会計専門職専攻〕 公認会計士試験合格者数	会計専門職大学院内での合格者数ランキング（会計大学院協会調べ）	5位以内	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
〔会計専門職専攻〕 入学者にしめる社会人の割合	入学者に占める社会人学生（元社会人を含む）の割合	30% 以上	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

〔会計専門職専攻〕 授業満足度	授業評価アンケート項目 13「この授業は全般的に満足のいくものでしたか」のスコア（コースの科目における平均値）	4.5 以上	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
〔研究科全体〕 実務家教員の割合	任期の定めのない教員＋任期制実務家教員の合計数にしめる実務家教員の割合 （設置基準：30%以上） （毎年度5月1日現在）	50%前後	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
〔研究科全体〕 学位取得者	任期の定めのない教員における博士学位取得者の割合	60%以上	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		

（3）学院全体のKPIに関する指標

KPI	定義	基準	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
卒業後の進路の満足度	卒業後の進路の満足度 （「満足」～「不満」の5段階評価） 卒業時調査	5 段階評価のうち「満足」と回答した比率（%）					
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
外国人留学者数	外国人留学生 CIEC 年次報告書	詳細は SGU の定義に準拠	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
			非公表	非公表	非公表		
Well-being 度	現在の自分を取り巻く環境（特定７項目）に対して、あなたはどのように思いますか。 （「そう思う」～「そう思わない」の 4 段階評価） IR 卒業生調査	「E 時折、収入面が不安になることがある」を除く7項目対して A「そう思う」、 B「どちらかといえばそう思う」 と回答した割合の平均値	現在値(2018 年度)	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
			2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度

（4）認証評価に関するKPI

KPI	定義	基準	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度
収容定員充足率	当該年度 5 月 1 日時点の収容定員に対する在籍学生数の割合 大学基礎データ表2	在籍学生数/収容定員（%） ※認証評価上（大学基準協会）は、 （M）0.50i 以上 （D）0.33 以上 を適切性の目安としている。		非公表	非公表		